# 荒迫遺跡

宮崎フリーウェイ工業団地造成に伴う発掘調査報告書

1998年3月 宮崎県埋蔵文化財センター

# 正誤表

修正個所	誤	正
5頁第2図中	B5地区白地	B5地区アミかけ(別添(A)参照)
6頁第3図中	<u></u>	畝状遺構
25頁下から9行目	址4棟とが	址4棟が
35頁下から1行目	(S=1/3)	(S=1/60)
39頁第31図中	208.900	208.400
63頁第48図中SC2	<u>B</u>	B <sup>209</sup> .100
63頁第48図中SC12	<u>A</u>	A <sup>209</sup> .300
84頁第57図中SA1	<u>A</u>	A208.200
187頁下から15行目	第132図 D地区 Ⅳ P y出土遺物実測図	第132図 D地区 IV 層出土遺物実測図
226頁2号住居址	写真	写真別添(B)に差し換え

**(B)** (226頁)



2号住居址



第2図 荒迫遺跡調査範囲図(1/5,000)

# 荒迫遗跡

宮崎フリーウェイ工業団地造成に伴う発掘調査報告書

1998年3月

宮崎県埋蔵文化財センター

## 序文

埋蔵文化財の保護・活用に対しまして、日頃より深い御理解をい ただき厚く御礼申し上げます。

このたび宮崎県教育委員会では、宮崎フリーウェイ工業団地造成 事業に伴い、荒迫遺跡の発掘調査を行いました。本書はその報告書 です。

荒迫遺跡が所在する高原町大字広原は、中世においては高原城を めぐる島津氏と伊東氏の激戦の地として著名であり、また、近辺に は立切や日守などの地下式横穴墓群が分布することも知られていま す。

しかしながら、集落や生産関係の遺跡が発掘された例はほとんどなく、また、それらのものが文献に現れることもありません。その意味で今回の調査で古代の畠跡が広大な面積から検出できたことは、この地域の人々の当時の生活を知る貴重な資料となるでしょう。

本書が学術資料としてだけではなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助になることを期待します。

調査にあった手御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・ 御助言をいただいた先生方、並びに地元の方々に心から謝意を表し ます。

平成10年3月

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 藤 本 健 一

### 例 言

- 1 本書は、宮崎フリーウェイ工業団地造成事業に伴い宮崎県教育委員会 が行った荒迫遺跡の発掘調査 報告書である。
- 2 本遺跡は調査当初より「広原地区遺跡」と呼称し、関連諸文書でもそのように扱ってきたが、調査 区の全てが「大字広原字荒迫」に含まれることが確認できたので、今後は統一して「荒迫遺跡」と呼称する。
- 3 発掘調査は、宮崎土地開発公社の依頼を受けた宮崎県教育委員会が主体となり、平成6年度および平成7年度は宮崎県文化課が、平成8年度は宮崎県埋蔵文化財センターが行った。
- 4 発掘調査は平成7年1月17日から平成9年3月29日まで行った。
- 5 現地での実測・写真撮影は久木田浩子、和田理啓、平原英樹が行い、 空中写真は業者に委託した。
- 6 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行い、図面の作成・実測・トレースは主として和田理啓と久木田浩子が行い、一部整理作業員の協力を得た。またトレースにおいて、宮崎県埋蔵文化財センターの米久田慎二氏、高橋誠氏に多大な協力を得た。
- 7 本書で使用した位置図は国土地理院発行の1/50,000図を基に作成し、 調査範囲図は高原町作成の1/2,500都市計画図を基に作成した。
- 8 土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局ほか監修の「新版標準土色帳」に拠った。
- 9 本書で使用した方位は全て磁北である。
- 10 本書の執筆は第 I 章・第 II 章第 1 節および第 2 節の 7 、第 4 節・第 III 章は和田が、第 II 章第 2 節および第 3 節は久木田が行った。
- 11 本遺跡では自然科学分析を古環境研究所に委託して行った。その結果は附編として本書に掲載している。
- 12 荒迫遺跡に関する遺物および図面は宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

# 本 文 目 次

第1章 序	說 ·	
第1節	調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2節	調査の組織	1
第3節	遺跡の位置と歴史的環境	2
第4節	調査の概要	3
第Ⅱ章 調	査の成果	
第1節	A地区の調査	6
1.	基本層序	6
2.	調査の概要	6
3.	縄文時代の遺物	8
4.	弥生時代および古墳時代の遺構	. 9
5.	弥生時代および古墳時代の遺物	8
6.	古代の遺構	20
7.	古代の遺物	20
8.	その他の遺構と遺物	22
9.	小結	25
第2節	B地区の調査	29
1.	基本層序	29
2.	調査の概要	29
3.	B 1 地区	30
	1)縄文時代の遺構と遺物	30
	2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物	30
(	3) 古代の遺構と遺物	41
	4) その他の遺構と遺物	58
	5) 小結	
	B 2 地区 ·····	
(	1)縄文時代の遺構と遺物	81
	2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物	
	3) 古代の遺構と遺物	
	4) その他の遺構と遺物	
	5) 小結	
	B 3 地区	
(	1)縄文時代の遺構と遺物	114
. (	2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物	114
(	3) 古代の遺構と遺物	116

(4) その他の遺構と遺物	116
(5) 小結	122
6. B 4 地区 ······	125
(1)縄文時代の遺構と遺物	125
(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物	125
(3) 古代の遺構と遺物	125
(4) その他の遺構と遺物	130
(5) 小結	138
7. B 5 地区 ······	143
(1)縄文時代の遺物	143
(2)弥生時代から古墳時代にかけての遺構	143
(3)弥生時代から古墳時代にかけての遺物	151
(4) 古代の遺構	156
(5) 古代の遺物	157
(6) その他の遺構	157
(7)その他の遺物	158
(9) 小結	158
第3節 C地区の調査	163
1. 基本層序	163
2. 調査の概要	163
(1)縄文時代の遺構と遺物	163
(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物	
(3) 古代の遺構と遺物	165
(4) その他の遺構と遺物	
(5)小結	169
第4節 D地区の調査	
1. 基本層序	170
2. 調査の概要	
(1)縄文時代の遺構と遺物	
(2) 弥生時代および古墳時代の遺構	173
(3)弥生時代および古墳時代の遺物	
(4) 古代の遺構	
(5) 古代の遺物	
(6)その他の遺物	
(7) 小結	191

第Ⅲ章	まとめ		
	第1節	高原スコリアについて	197
	第2節	<b>畠跡について</b>	197
	第3節	出土した古代の坏について	198
	第4節	結語	200
附編	自然科	学分析調査報告書	201
		挿 図 目 次	
	第1図	遺跡位置図及び周辺地形図	4
	第2図	広原地区遺跡調査範囲図	5
	第3図	A 地区基本土層図	6
	第4図	A 地区遺構分布図	7
	第5図	A地区IV層出土縄文時代遺物実測図	8
	第6図	A 地区 1 号住居址実測図	10
	第7図	A地区 2 号住居址実測図 ······	11
	第8図	A地区3号住居址実測図 ······	12
	第9図	A地区 4 号住居址実測図 ······	13
	第10図	A地区1号住居址出土遺物実測図	14
	第11図	A地区 2 号住居址出土遺物実測図	14
	第12図	A地区 3 号および 4 号住居址出土遺物実測図	15
	第13図	A地区Ⅳ層出土遺物実測図(弥生時代~古墳時代①)	18
	第14図	A地区IV層出土遺物実測図(弥生時代~古墳時代②)	19
	第15図	A地区IV層出土遺物実測図(弥生時代~古墳時代③)	20
	第16図	A地区 3 号土壙実測図 ····································	• 21
	第17図	A地区出土遺物実測図(古代)	• 22
	第18図	A地区IV層上面出土遺物実測図	22
	第19図	A地区1号土壙実測図及び出土遺物	23
	第20図	A地区 2 号土壙実測図 ······	23
	第21図	A 地区溝状遺構及び出土遺物実測図	24
	第22図	A地区IV層上面出土遺物実測図	25
	第23図	B 1 地区基本土層図	29
	第24図	B 1 地区遺構分布図	31
	第25図	B 1 地区出土縄文土器実測図	33
	第26図	B 1 地区出土石器実測図 ······	34
	第27図	B 1 地区 1 号竪穴住居(S A 1)実測図	35
	第28図	B 1 地区 1 号竪穴住居(S A 1)出土遺物実測図 ·······	36

第29図	B 1 地区 2 号竪穴住居(S A 2 )実測図 ······	37
第30図	B 1 地区 2 号竪穴住居(S A 2)出土遺物実測図	38
第31図	B 1 地区 3 • 19号土壙(S C 3 • 19)実測図 ····································	39
第32図	B 1 地区 3 号 (115~120) • 19号 (121~123) 土壙出土遺物実測図 ·············	40
第33図	B 1 地区出土弥生土器 • 土師器実測図 ······	42
第34図	B 1 地区出土土師器実測図	43
第35図	B 1 地区出土土師器実測図	44
第36図	B 1 地区出土土師器実測図	45
第37図	B 1 地区出土土師器実測図	46
第38図	B 1 地区出土土師器実測図	47
第39図	B 1 地区出土土師器 • 須恵器実測図 ······	48
第40図	B 1 地区 3 号竪穴状遺構及び 2 号溝状遺構(SE 2 )実測図	50
第41図	B1地区2号溝状遺構(SE2)及び4号竪穴状遺構(SZ4)出土遺物実測図 …	50
第42図	B 1 地区出土土師器実測図	53
第43図	B 1 地区出土土師器実測図	54
第44図	B 1 地区出土土師器実測図	55
第45図	B 1 地区出土土師器実測図 ······	56
第46図	B 1 地区出土土師器 • 須恵器実測図 ······	57
第47図	B 1 地区 1 • 2 • 3 号掘立柱建物跡 (SB 1 • 2 • 3) 実測図	60
第48図	B 1 地区 2 • 12号土壙(S C 2 • 12)実測図 ······	63
第49図	B 1 地区 1 • 2 号炉跡 (S R 1 • 2) 実測図 ······	64
第50図	B 1 地区 3 号炉跡(S R 3)実測図	65
第51図	B 1 地区 1 号 • 2 号陥し穴状遺構(S T 1 • 2)実測図 ····································	66
第52図	B 1 地区出土鉄器 • 石器実測図 ·······	67
第53図	B 1 地区出土石器実測図 ······	68
第54図	B 1 地区出土石器実測図 ······	69
第55図	B 2 地区遺構分布図 ·····	82
第56図	B 2 地区出土縄文土器 • 石器実測図 ······	83
第57図	B 2 地区 1 号竪穴住居(SA1)実測図及び出土遺物実測図	84
第58図	B 2 地区 1 号土壙(SC1)実測図及び出土遺物実測図	85
第59図	B 2 地区出土弥生土器 • 土師器実測図 ·····	86
第60図	B 2 地区出土土師器実測図 ······	87
第61図	B 2 地区出土土師器実測図	88
第62図	B 2 地区出土土師器実測図 ······	89
第63図	B 2 地区出土土師器実測図 ······	90
第64図	B 2 地区土出土師器実測図 ······	91
第65図	B 2 地区 2 · 2 ' 号土壙 (S C 2 · 2 ' ) 実測図及び出土遺物実測 ···············	93

第66図	B 2 地区 1 号溝状遺構 (S E 1) • 土層実測図 ····································	94
第67図	B 2 地区出土土師器実測図 ······	96
第68図	B 2 地区出土土師器 • 須恵器実測図 ······	97
第69図	B 2 地区出土土師器実測図 ······	98
第70図	B 2 地区出土土師器 • 土製紡錘車実測図 ······	99
第71図	B 2 地区 1 ~ 7 号掘立柱建物跡 (SB1~7) 実測図	100
第72図	B 2 地区 3 号土壙 (S C 3) 実測図	101
第73図	B 2 地区 1 • 2 • 3 • 4 号炉跡 (SR 1 • 2 • 3 • 4) 実測図	102
第74図	B 2 地区 5 · 6 号炉跡 (S R 5 · 6) 実測図	103
第75図	B 2 地区出土鉄器・鞴の羽口・石器実測図	104
第76図	B 2 地区出土石器実測図	105
第77図	B 3 地区遺構分布図	115
第78図	B 3 地区出土石器実測図	
第79図	B 3 地区 1 号土壙 (S C 1) • 土層実測図 ······	117
第80図	B 3 地区 1 号壙出土遺物実測図	
第81図	B 3 地区土出土師器実測図	119
第82図	B 3 地区土出土師器 • 石器実測図 ·······	120
第83図	B 3 地区 1 • 2 • 3 • 4 • 5 号掘立柱建物跡(S B 1 • 2 • 3 • 4 • 5)実測図	
第84図	B 4 地区遺構分布図 ·····	126
第85図	B 4 地区出土縄文土器 • 石器実測図 ······	
第86図	B 4 地区出土土師器実測図	
第87図	B 4 地区出土須恵器実測図	
第88図	B 4 地区 1 号溝状遺構 (S E 1) • 土層実測図 ······	131
第89図	B 4 地区出土土師器実測図 ·······	
第90図	B 4 地区出土土師器実測図 ····································	
第91図	B 4 地区土出土師器・土製紡錘車実測図 ······	
第92図	B 4 地区 1 • 2 • 3 号掘立柱建物跡 (SB 1 • 2 • 3) 実測図	
第93図	B 4 地区出土鉄器•石器実測図	
第94図	B 4 地区 1 • 2 • 3 号土壙 (S C 1 • 2 • 3) 実測図	136
第95図	B 4 地区 1 • 2 号炉跡 (S R 1 • 2) 実測図	
第96図	B 5 地区IV層出土縄文時代遺物実測図	143
第97図	B 5 地区遺構分布図 ······	
第98図	B 5 地区 1 号住居址実測図 ······	
第99図		
第100図	B 5 地区 8 ~13号堀立柱建物跡実測図② ······	149
第101図	B 5 地区14~18号堀立柱建物跡実測図③ ······	150
第102図	B 5 地区Ⅳ層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代①) ····································	152

第103図	B 5 地区IV層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代②)	153
	B 5 地区IV層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代③)	
	B 5 地区IV層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代④)	
第106図	B 5 地区IV層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代⑤)	156
第107図	B 5 地区 1 号溝状遺構実測図	157
第108図	B 5 地区IV層出土古代遺物実測図	158
第109図	B 5 地区IV層出土砥石実測図	158
第110図	C地区基本土層図	163
第111図	C地区遺構分布図	164
第112図	C地区出土遺物実測図	166
第113図	C地区1 • 2 • 3 号掘立柱建物跡(SB1 • 2 • 3) 実測図	167
第114図	C地区1・2・3・4号土壙 (SC1・2・3・4) 実測図	168
第115図	D地区基本土層図	170
第116図	D地区遺構分布図	171
第117図	D地区IV層出土縄文時代石器実測図	173
第118図	D地区出土縄文土器実測図	174
第119図	D地区1号土壙実測図	175
第120図	D地区 2 号土壙実測図 ······	176
第121図	D地区 3 号土壙実測図 ······	176
第122図	D地区 4 号土壙実測図 ·····	177
第123図	D地区 5 号土壙実測図 ·····	177
第124図	D地区土壙内出土遺物実測図	178
第125図	D地区IV層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代①)	180
第126図	D地区IV層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代②)	181
第127図	D地区Ⅳ層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代③)	182
第128図	D地区IV層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代④)	183
第129図	D地区Ⅳ層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代⑤)	184
第130図	D地区Ⅳ層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代⑥)	185
第131図	D地区Ⅳ層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代⑦)	186
第132図	D地区Ⅳ層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代®)	187
第133図	D地区屋外竈実測図	188
第134図	D地区Ⅳ層出土遺物実測図(古代および時期不明遺物)	189
第135図	D地区IV層出土遺物実測図(時期不明遺物)	190
	表目次	
第1表	A地区出土石器計測表	26
	A地区出土鉄器計測表	26

第3表	A地区出土土器観察表(1) ·······	26
第4表	A地区出土土器観察表(2) ·····	27
第5表	A地区出土土器観察表(3) ·····	28
第6表	古代の土器分類基準表	49
第7表	B 1 地区土壙計測表	59
第8表	B 1 地区出土遺物観察表(1)	71
第9表	B 1 地区出土遺物観察表(2)	72
第10表	B 1 地区出土遺物観察表(3)	73
第11表	B 1 地区出土遺物観察表(4)	74
第12表	B 1 地区出土遺物観察表(5)	75
第13表	B 1 地区出土遺物観察表(6)	76
第14表	B 1 地区出土遺物観察表(7)	77
第15表	B 1 地区出土遺物観察表(8)	78
第16表	B 1 地区出土遺物観察表(9) ······	79
第17表	B 1 地区出土石器計測表	80
第18表	B 2 地区出土遺物観察表(1) ······	107
第19表	B 2 地区出土遺物観察表(2) ······	108
第20表	B 2 地区出土遺物観察表(3) ······	109
第21表	B 2 地区出土遺物観察表(4) ·····	110
第22表	B 2 地区出土遺物観察表 (5)	111
第23表	B 2 地区出土遺物観察表(6)	112
第24表	B 2 地区出土遺物観察表 (7)	113
第25表	B 2 地区出土石器計測表 ·····	113
第26表	B 3 地区出土遺物観察表(1) ······	123
第27表	B 3 地区出土遺物観察表(2) ·····	124
第28表	B 3 地区出土石器計測表	124
第29表	B 4 地区出土遺物観察表(1) ·····	139
第30表	B 4 地区出土遺物観察表(2)	140
第31表	B 4 地区出土遺物観察表(3) ·····	141
第32表	B 4 地区出土遺物観察表(4) ·····	142
第33表	B 4 地区出土石器計測表 ·····	142
第34表	B 5 地区出土土器観察表(1) ·····	159
第35表	B 5 地区出土土器観察表(2) ·····	160
第36表	B 5 地区出土土器観察表(3) ·····	161
第37表	B 5 地区出土石器計測表	162
第38表	B 5 地区土壙計測表 ·····	162
第39表	C地区出土遺物観察表	169

第40表 C地区出土石器計測表 1	l <b>6</b> 9
第41表 D地区出土土器観察表(1) · · · · · · · 1	192
第42表 D地区出土土器観察表 (2)	193
第43表 D地区出土土器観察表(3) ······ 1	94
第44表 D地区出土土器観察表(4) ····· 1	195
第45表 D地区出土土器観察表 (5)	196
第46表 D地区出土土器計測表 ····· 1	96
第47表 D地区出土鉄器計測表 ····· 1	96
図 版 目 次	
A地区 ······· 2	225
B 1 地区 2	230
B1 • 2 • 4地区 ······· 2	238
B 2 地区 ····· 2	239
B 2 • 3 地区 ······ 2	242
B 3 地区	243
B 4 地区	44
B4•5地区	246
B 5 地区	47
C地区 ······· 2	48
D地区	49

## 第1章 序 説

#### 第1節 調査に至る経緯

宮崎土地開発公社は平成3年度より企業誘致に伴う宮崎フリーウェイ工業団地開発事業の検討を始めている。開発予定地内は過去調査が行われた経歴はなかったが、国道を挟んですぐ北側には高原城跡、また近辺には、1977年に文化庁が発行した全国遺跡地図に散布地として紹介されている広原、荒迫、立山の各遺跡が分布しており遺跡の存在が確実視された。このため宮崎県文化課は平成5年10月12日から20日までの間で開発予定地内の確認調査を行い、その結果遺構の確認はできなかったが、158,000㎡の広範囲に弥生時代から古代にかけての遺物の分布がみられた。これを受け宮崎県文化課では関係各機関と調整を行い、平成7年1月4日に宮崎土地開発公社と発掘調査委託契約を締結し、平成7年1月17日より発掘調査を行うこととなった。発掘調査は平成6年度および7年度は、宮崎県文化課主体で和田理啓を調査員として行い、平成8年度は宮崎県埋蔵文化財センター主体で久木田浩子を調査員として引き継いだ。調査は平成9年3月29日に終了している。

#### 第2節 調査の組織

荒迫遺跡の発掘調査は平成6年度から7年度にかけては宮崎県文化課が行い、平成8年度は宮崎県埋蔵文化財センターが行った。また整理作業は平成9年度に宮崎県埋蔵文化財センターが行った。調査組織は以下のとおりである。

#### 調査主体 宮崎県教育委員会

教育長

田原直廣(平成6~8年度)

教育次長

八木 洋 中田 忠 (平成6~7年度)

川崎浩康 河野聚 (平成8年度)

文化課長

副参事

江崎富治(平成6~8年度)

------

木幡文夫(平成8年度)

同課長補佐

田中雅文(平成6~7年度)

稲田憲男(平成8年度)

庶務係長

高山惠元(平成6~8年度)

同 主査

宮越 尊(平成6~7年度)

青木英子(平成8年度)

主幹兼埋蔵文化財

岩永哲夫(平成6~7年度)

第一係長

埋蔵文化財係長

面高哲郎(平成8年度)

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 藤本健一(平成8~9年度)

副所長 岩永哲夫 (平成8~9年度)

庶務係長 三石泰博(平成8~9年度)

調査第二係長 北郷泰道(平成8年度)

調査担当

文化課埋蔵文化財第一係主事 和田理啓(平成6~7年度)

(現;埋蔵文化財センター調査第二係主事)

同調查員 平原英樹(平成7年度)

宮崎県埋蔵文化財センター 久木田浩子(平成8年度)

調查第二係主事

同調査員 平原英樹(平成8年度)

#### 第3節 遺跡の位置と歴史的環境

荒迫遺跡は、岩瀬川の支流である辻ノ堂川の南西約1.5 kmに広がる標高約200mの丘陵上に位置する。 国道沿いの路頭を見ると、この丘陵は約2万2千年前の入戸火砕流(シラス)によって形成されている ことが確認できる。その上部には約6,300年前に降下した牛のすね上下層(御鉢起源)、アカホヤ火山灰 (鬼界カルデラ起源)、11世紀から13世紀に降下したと考えられる高原スコリア(御鉢起源)、1717年 降下の新燃岳スコリア等多くの火山性噴出物が堆積している。遺跡周辺には、平成6年度の調査で古墳 時代の住居址を30軒近く検出した立山遺跡(第1図2)が宮崎自動車道路を挟んですぐ南側に、南西約 4 kmには縄文後期の包含層が広がる大谷遺跡(第1図9)、南東約1 kmには中世における伊東氏と島津 氏の激戦の地として著名な高原城跡(第1図3)等が知られている。

高原町内の遺跡は、今まで面的な調査が行われたものが少なく、遺跡の分布調査も進んではいないので断片的な情報しかないのが現状である。特に縄文前期以前の遺跡は厚い火山灰に遮断され、ほとんど確認できていない。弥生時代の遺跡は、1969年に行われた九州縦貫自動車道関連の分布調査<sup>®</sup>で7遺跡が紹介されており生活の痕跡は各所で認められるが詳細は不明であり、高原畜産高校遺跡で弥生時代中期の土器を含む包含層が調査<sup>®</sup>されている以外は一般に知られるものは皆無である<sup>®</sup>。古墳時代の遺跡では日守、立切等の地下式横穴墓群がよく知られるが、集落や生産関係の遺跡は前述した立山遺跡以外には確認できていない。

古代から中世においては島津庄真幸院に属する荘園が広がっていたと思われるが、文献、考古のどちらにも明確な資料はない。中世において著名な遺跡には高原城がある。高原城は永禄年間に島津家家臣の梅北掃部により築城され、後に伊東四十八城に数えられている。高原周辺は、中世において島津氏と伊東氏の激戦の地であり、天正4(1576)年の島津氏の高原城攻めの慎重さを見ても解るように軍略上重要な位置を占めていたようである<sup>④⑤</sup>。(高原城については1996年に高原町教育委員会によって縄張図が作成されている。)

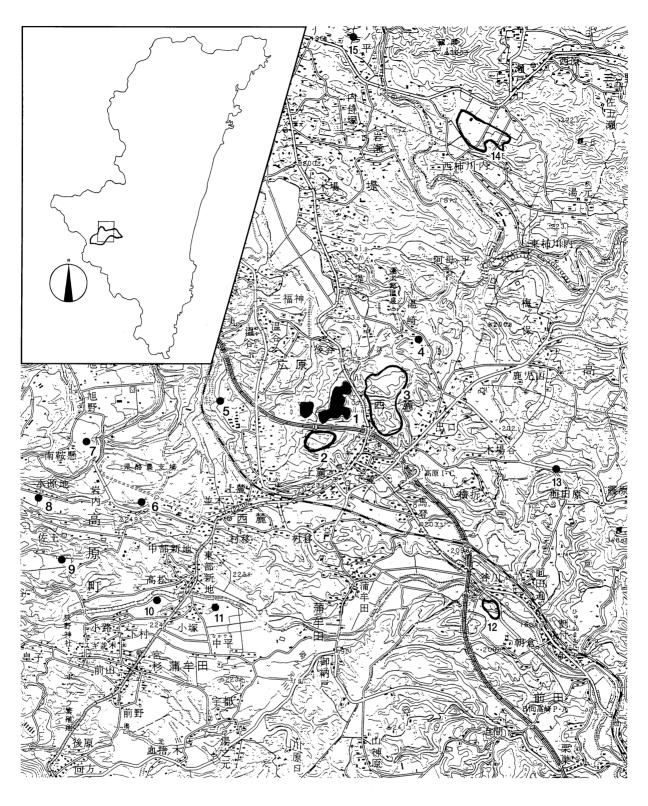
以上のように高原周辺の歴史的環境は不明な点が多い。最大の理由は、この地域において大規模開発

があまり行われず、遺跡の発掘調査自体が少なかったことである。早急な遺跡詳細分布調査が望まれる 地域の一つである。

荒迫遺跡においては弥生時代後期以降の遺物が顕著である。古代のものでは、調査区のほぼ全面に古代の畠の畝と思われる遺構が検出できた。また、従来延暦7(788)年といわれていた高原スコリアの年代をその下層から出土した土器により大幅に引き下げる考古学的な根拠を提示できたのも大きな成果であったといえよう。<sup>®</sup>

#### 第4節 調査の概要

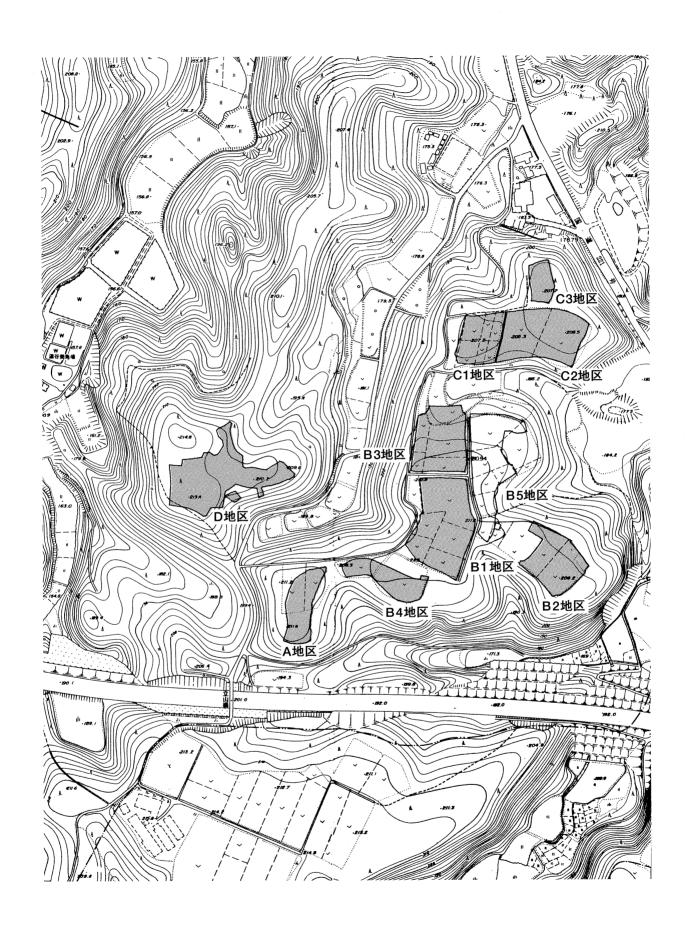
荒迫遺跡は、谷等の地形により調査区をA地区からD地区の4地区に分け、このうちB地区は範囲が広いため調査順に5区に分けて調査を行った。グリッドは、国土座標に平行する形で10m四方で組み、図面の作成は平板測量と簡易遺形測量を併用して行った。調査の結果、高原スコリア下約20~30cmで調査区のほぼ全面に古代の畠跡が検出できた。また、畠跡を検出した面から下に10~15cmで弥生時代から古墳時代にかけての遺構が検出できた。A地区では畠跡の下から住居址4棟、土壙3基、溝状遺構1条、B地区では高原スコリア上面から彫り込まれた陥穴状遺構1基、畠跡の下面から住居址4棟、堀立柱建物20数棟のほか、時期や性格のはっきりしない土壙、溝状遺構等が確認できている。C地区では堀立柱建物が3棟、D地区は土壙5基に軽石で組まれた屋外竈1基の他ピット群が検出できた。



- 1. 荒迫遺跡
- 2. 立山遺跡
- 3. 高原城(松ヶ城)跡
- 4. 湯ノ崎地下式横穴墓群
- 5. 高原畜産高校遺跡
- 6. 常磐台遺跡
- 7. 旭台地下式横穴墓群
- 8. 高原水源池遺跡
- 9. 大谷遺跡
- 10. 花堂遺跡

- 11. 小塚古墳
- 12. 高崎城
- 13. 日守地下式横穴墓群
- 14. 立切地下式横穴墓群
- 15. 下ノ平地下式横穴墓群

第1図 遺跡位置図及び周辺遺跡分布図(1:50,000)



第2図 荒迫遺跡調査範囲図(1/5,000)

## 第Ⅱ章 調査の成果

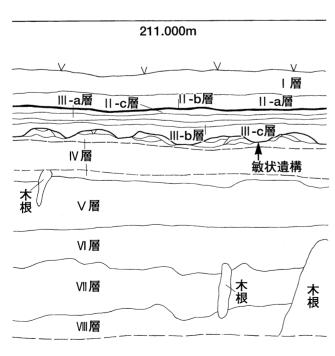
#### 第1節 A地区の調査

#### 1. 基本層序

A地区は以前畑地として開墾されていたが、後に杉の植林が行われ調査直前まで林地であったため、表層には腐葉土が堆積していた。その直下からかつて畑であった頃の耕作土(I層)が20㎝前後の厚さで層を成している。耕作土の下には高原スコリアとよばれる焼けボラの層(Ⅱ-a,c層)が炭化物の間層(Ⅱ-b層)をはさんで25㎝から30㎝の厚さで、その下には灰白色火山灰層(Ⅲ-b層)を含んだ30㎝から40㎝の黒褐色土層(Ⅲ-a,b,c層)が堆積している。遺構の検出はⅢ層の直下からの黄褐色土層(Ⅳ層)中で行った。Ⅳ層の下層には、鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰(Ⅵ層)の層が牛ノ脛上層(V層)、下層(Ⅷ層)に挟み込まれるように存在する。遺物は主にⅢ層最下部からⅣ層にかけて出土し、Ⅲ層最下部では古代の土器が、Ⅳ層中では縄文後期から古墳時代初頭までの土器が混在していた。

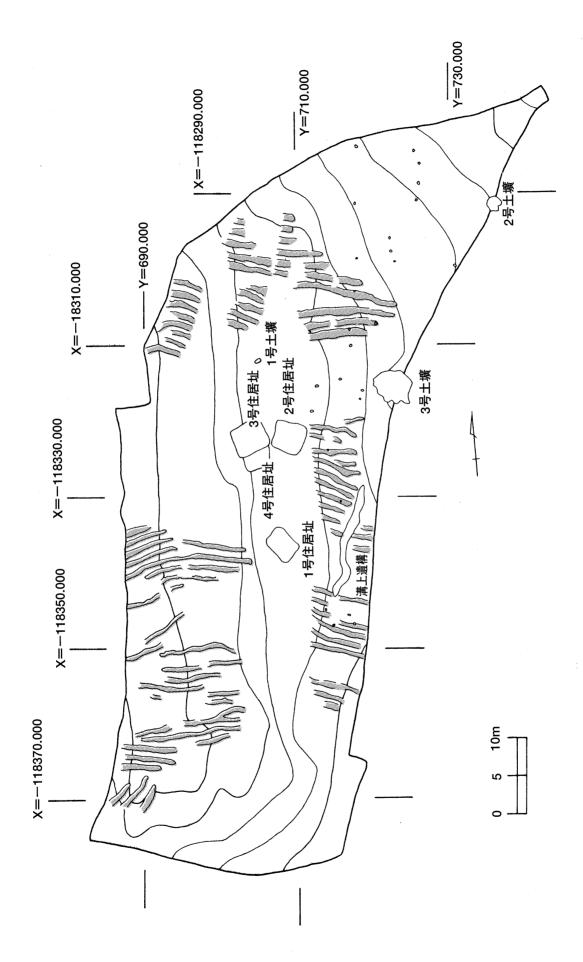
#### 2. 調査の概要

A地区では、土地買収の関係から、まず調査区中央部を重機によってⅡ層上面まで掘削し、そこから人力でⅢ層上面で遺構検出を行ったが、遺構、遺物とも検出できなかったため、重機でⅣ層上面まで掘削し遺構検出を行うこととした。重機の借上げとの関係から、第二次掘削は重機でⅢ-b層上面まで行い、そこからⅢ-c層下面まで掘削、精査したところ、すじ状に平行に走る畝状遺構が確認できた。以上のように畝状遺構が確認できたのは全くの偶然によってであり、調査区中央部には畝状遺構は検出できていないものの、全面に分布していたと予想される。



第3図 A地区基本土層図(S=1/40)

Ⅲ-a層上面では時期、性格ともに不明の ピット群が、Ⅲ-c層上面では、土壙 2 基と 畝状遺構、Ⅳ層では弥生時代末から古墳時 代にかけての住居址 4 棟、時期不明の土壙 1 基が検出できている。



第4図 A地区遺構分布図 (S=1/500)

#### 3. 縄文時代の遺物

確実に縄文時代といえる遺構はA地区では確認できなかったが、IV層中で縄文後期以降の遺物が若干ではあるが確認できている。

第5図の1はIV層包含層中出土の縄文土器である。横約9 cm、縦約4 cm程度の小片であり、器形、径等は不明である。外面は器表貝殻条痕を施した後に、ヘラ状の工具で沈線を施している。内面は器表の風化が激しく調整ははっきりしない。指宿式であると思われる。

第5図の2はIV層包含層中より出土した磨消縄文土器の3cm $\times 3$ cm程度の小片である。撚糸文が確認できる。西平式であると思われるが、小片のためはっきりとしたことは確認できない。

第5図の3は北久根山式の深鉢である。口縁部の直下までが残存しており、その部分に単沈線文を施してある。復元径は、残存部上端で約21.2cm、下端で約23.6cmを測る。

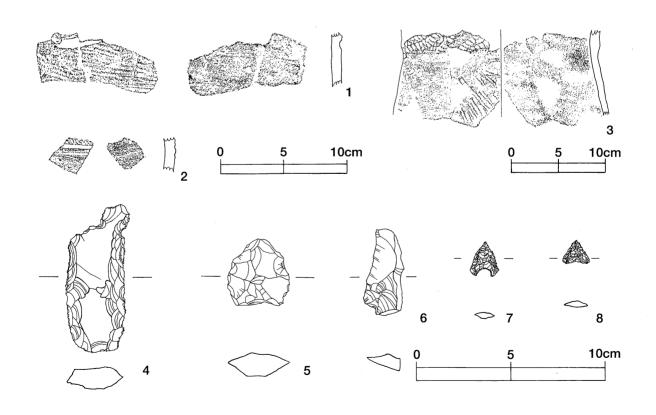
第5図の4はチャート製の石匙である。縦7.9cm、幅3.4cmの縦型で、最大厚1.15cmである。

第5図の5はチャート製の楔形石器である。長さ3.6cm、最大幅3.25cm、最大厚1.15cmを測る。

第 5 図の 6 はチャートの剥片である。長さ $4.6 \, \mathrm{cm}$ 、最大幅 $2.2 \, \mathrm{cm}$ 、厚さ $0.7 \, \mathrm{cm}$ である。側縁に微細な使用痕が確認できる。

第5図の7はチャート製の石鏃である。鏃長1.57cm、鏃身幅1.92cm、最大厚0.33cmを測り、抉りを有す。

第 5 図の 8 は黒曜石製の石鏃である。鏃長1.13cm、鏃身幅1.43cm、最大厚0.33cmである。明確な抉りはなく平面形は三角形である。



第5図 A地区IV層出土縄文時代遺物実測図

#### 4. 弥生時代および古墳時代の遺構

#### 竪穴住居址

#### 。 1 号住居址 (第 6 図)

南北約4.0m、東西約3.3mのやや歪な長方形プランの竪穴住居址である。遺存状況が悪く、検出面から5cmから10cmほどの掘り込みしか確認できなかった。主柱穴は4本で、径20cm前後、深さは床面から25cmから35cm、柱間は南北約2.3m、東西約1.7mから1.8mをはかる。壁帯溝や貼床、炉跡等は確認できなかった。住居址のほぼ中央部からは弥生末から古墳時代初頭と思われる甕(第10図の9)が出土している。

#### 。 2 号住居址 (第7図)

南北約3.4mから3.8m、東西約4.0mから4.2mのやや東西に長い方形の竪穴住居址である。A地区の住居址の中では住居址の中央南西よりには土壙が一基確認できている。土壙の規模は南北約80cm、東西約50cmで埋土には炭化物が多く含まれていた。住居址の出土遺物は弥生末から古墳時代初頭にかけてのものと思われる土器片が数点出土している。主柱穴は4本で、径25cmから30cm、深さは床面から20cm強、柱間は1.7mから1.8mをはかる。壁帯溝、貼床等は確認できていない。

#### 。 3 号および 4 号住居址 (第8 • 9 図)

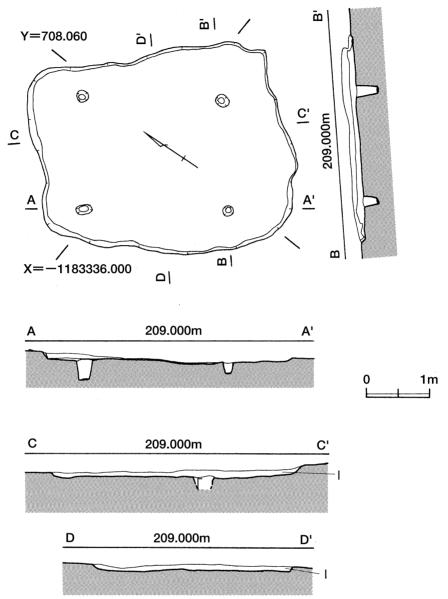
2棟の住居址の切りあいである。北のものを3号、南のものを4号住居址とした。埋土の状態から4号住居址よりも3号住居址の方が新しいことが確認できた。3号住居址からは土師器片が十数点、4号住居址のほぼ中央からは古墳時代の脚台付鉢(第12図の25)が出土している。3号住居址は一辺約4.4mの方形の住居址である。主柱穴は4本で柱穴の径は20cm前後と小さく、深さは床面から40cm弱である。柱間は約2mである。壁帯溝、貼床等は確認できなかった。炉跡は確認できなかったが北西側の壁面に焼土の分布が確認できた。4号住居址は3号住居址に切られており、明確な規模は確認できなかったが、復元すると、一辺約3.5mの方形の住居址になる。主柱穴は4本確認でき、床面より30cm前後掘り込んである。柱穴の径は25cmから30cmで柱間は1.5mから2.4mである。貼床、壁帯溝、炉跡などの施設は確認できなかった。

#### 5. 弥生時代および古墳時代の遺物

#### 1号住居址出土遺物(第10図)

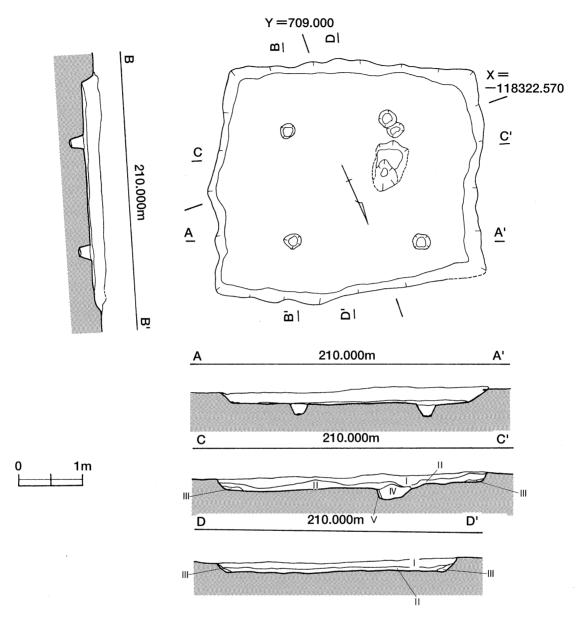
第10図の9はA地区のほぼ中央で、床面直上からつぶれた状態で出土した甕である。復元すると、口縁部はほぼ全周したが、体部の一部を欠く。口径は約22.9cmで器高は約30cmを測る。外面は赤褐色で表面の体部は粗い刷毛目調整のあと縦方向のナデを施している。口縁部から体部最大幅の部分にかけて全面に煤が付着しているが、そこから脚部にかけては付着していない。内面は荒い刷毛目調整を施し、頸部に指押さえ痕が確認できる。脚部は指押さえにより造り出されている。全体に歪な作りで、左右で体部の膨らみが違い、脚部も歪んでいるため、そのままでは立たない。煤の付着のしかたなどからみて、炉内に埋め据えるなどして使ったと思われるが、住居址内には炉跡などは確認できていない。

第10図の10は甕である。口縁部は3/5を欠損しており頸部より下は確認できていない。復元径は



| …黄褐色土。ボラ等 火山噴出物を全く含まず、炭化物をわずかに含む。 || …黄褐色土。 | 層よりやや暗く、しまりがない。木根と思われる。

第6図 A地区1号住居址実測図(S=1/60)



I ……やや暗い黄褐色土。ボラを含まない。

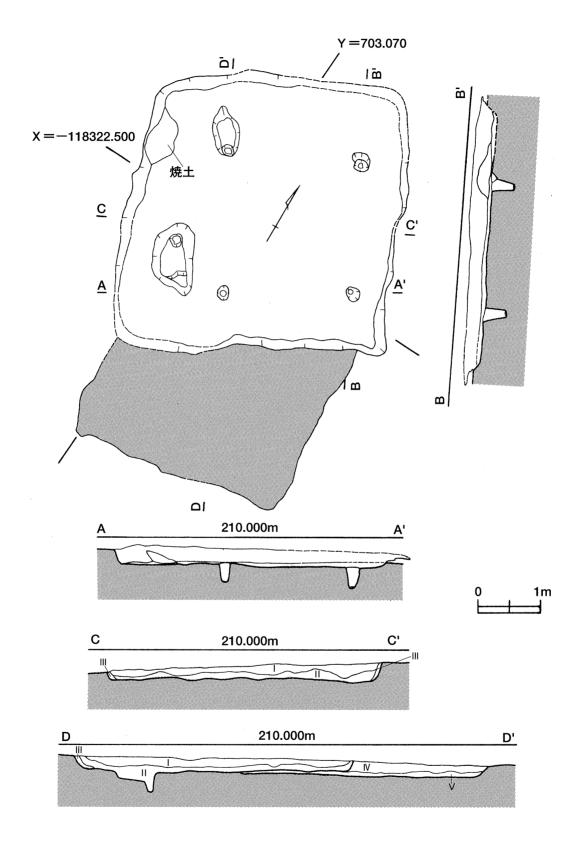
Ⅱ……やや暗い黄褐色土。ボラの細かい粒を含む。 Ⅰ 層に比べやや硬い。

Ⅲ……やや明るい黄褐色土。風化による埋土と思われる。

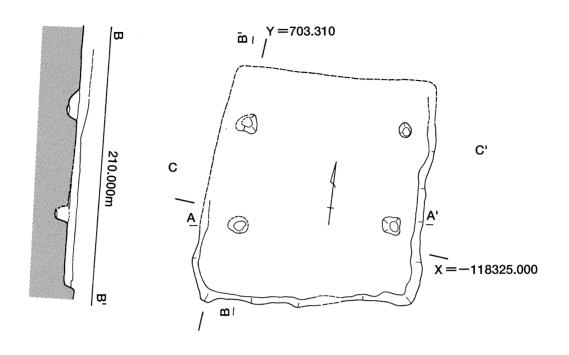
Ⅳ……やや明るい黄褐色土。ボラを含まない。かなり軟い。

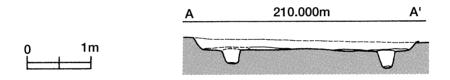
V……やや暗い黄褐色土。1cm以下のボラを含む。炭化物を多く含み、非常に軟い。

第7図 A地区2号住居址実測図(1/60)



第8図 A地区3号住居址実測図(S=1/60)





| ……やや暗い黄褐色土。炭化物の細粒を含む。3号住居址埋土。

||·····| よりやや明るい黄褐色土。1 cm足らずのボラの細粒を含む。3 号住居址埋土。

|||·····||よりやや暗く、|よりやや明るい黄褐色土。|、||に比べやや硬く、5mm以のボラをわずかに含む。3号住居址埋土。

Ⅳ……やや明るい黄褐色土。ボラを含まない。かなり軟い。

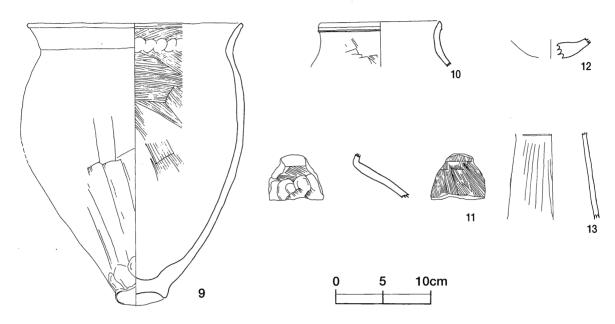
V……、に比べやや明るく、やや軟い黄褐色土。1cm以下の炭化物の細粒を含む。 4 号 住居址埋土。

第9図 A地区4号住居址実測図(S=1/60)

12.7cmとなる。頸部から体部にかけては細かい刷毛目調整を施しているが表面の風化が激しくはっきりとは確認できない。残存部の器表には煤が全面に付着している。

第10図の11は壺である。頸部から肩部にかけての一部が出土している。器表の色調はにぶい黄橙を成し、内面は黒褐色である。器表の調整には刷毛目が施され、内面は指ナデが確認できる。

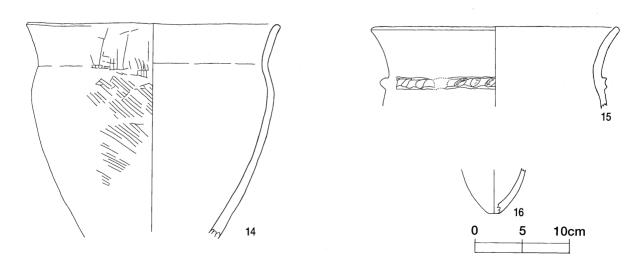
第10図の12は壺の底部である。外面はにぶい黄橙で、内面は黒褐色を呈す。底部付近は磨きが施され



第10図 A地区1号住居址出土遺物実測図(S=1/4)

ているが原体の幅等は確認できない。

第10図の13は高坏の脚部である。脚部全体の1/4ほどのみで、坏部などは確認できていない。内面は器表が剥落しており調整は定かではない。外面はにぶい黄橙をなし、全面にへら磨きを施す。へう磨きの原体の幅は 5 mm前後である。器壁の厚さは 5 mm前後であり、焼きは堅緻である。復元径は現存部上端で7.6cm、下端で9.7cmとなる。 3 号住居址出土の高坏脚部と同一個体である。



第11図 A地区 2号住居址出土遺物実測図 (S=1/4)

#### 2号住居址出土遺物(第11図)

第11図の14は甕である。口縁部の1/4程度が検出できた。内外面とも、鈍い赤褐色を呈し、外面には 煤が付着している。外面に斜め方向の刷毛目を施した後、内外面ともに丁寧にナデを施している。二次 焼成を受け赤変した箇所が所々確認できる。復元口縁径は26.4cmになり、胴部最大幅は25.7cm.となる。

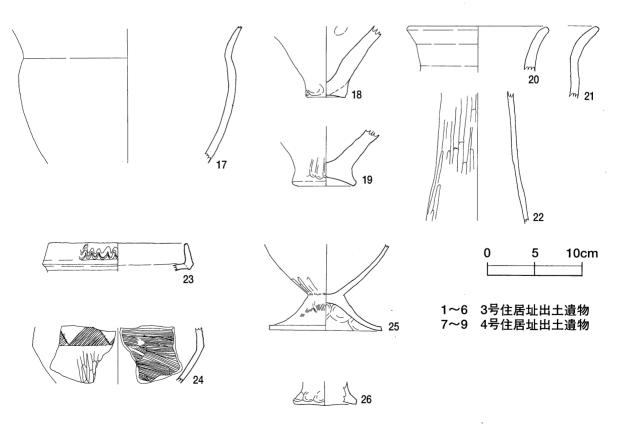
第11図の15は甕である。口縁部の 1/4程が出土している。内外面ともに風化が激しく、表面調整ははっきりしないが、口縁部付近は横ナデが施されているのがわかる。頸部には刻目突帯が張り付けてあり、刻目の表面には布痕が確認できる。器表の色は内外面ともに淡黄色で、外面には煤が付着する。復元径は25.6㎝である。

第11図の16は小型尖底の鉢の底部である。残存部分は底部の1/3程である。内外面ともに淡黄色で、 丁寧なナデが施されている。

#### 3号住居址出土遺物(第12図)

第12図の17は甕である。口縁部の1/8程度が出土している。復元径は、現存部上端で24.4㎝、器高は現存で14.4㎝を測る。器表外面は淡赤褐色を呈し、体部中位あたりから上端にかけて煤が付着している。内面は淡黄色で、黒斑がかなりの部分で確認できる。

第12図の18は甕の底部である。復元径は底部で4.4cm、器高は現存で7.6cmである。器表の色調は内外面ともに淡黄色を呈し、底部の脚台は張り付けによるもので、指押さえが確認できる。底面はわずかに上げ底となっている。器面は内外ともにナデを施してあり、内面には指ナデが確認できるが風化が激しく細かい点は不明である。



第12図 A地区3号および4号住居址出土遺物実測図(S=1/4)

第12図の19は甕の底部である。底部の径は約6.5cm、器高は現存で4.6cmである。器表外面は淡黄色で縦方向の指ナデが確認できる。内面は淡赤褐色で、器表の剥落が激しく細かい調整は確認できない。

第12図の20は短頸壺の口縁部であると思われる。口縁部の1/8程度出土している。復元径は14.4cmを測る。内外面ともにに淡黄色であり、外面には煤が付着している。内面は器表の剥落が激しく調整は確認できないが、外面は口縁部から1cm程度まで横ナデが施され、それ以下にミガキが確認できるが、原体の単位はわからない。

第12図の21は甕の口縁部の一部である。径の復元は行えなかった。内外面ともに橙色を成し、ナデが施されているが器表の剥落が激しく、細かい調整は確認できない。。外面には煤が一面に付着している。第12図の22は高坏の脚部である。1号住居址のものと同一個体であり、接合するとほぼ全周する。径は現存最上端で約7.6cm、最下端で約11cmである。外面は丁寧なヘラ磨きが施され、内部はナデ調整が行われている。

#### 4号住居址出土遺物(第12図)

第12図の23は、複合口縁壺の口縁部である。体部の最大径の部分でで1/9程度が出土している。器表の色調は外面は淡黄色で、内面は灰褐色である。復元径は14.5cmである。口縁部には櫛描波状文が施され、一次口縁の部分には刷毛目が、内面はヨコナデが確認できるが摩耗が激しく細かい部分は不明である。

第12図の24は重弧文土器である。内外面ともに黄灰色を成し、外面はヘラ状の工具で丁寧にミガキが施された後に、体部に鋸歯文を巡らしている。内面は刷毛目調整が施されている。復元径は、体部の最大径の部分で18cmとなる。

第12図の25は脚台付の鉢である。全体の1/2程を欠損している。復元径は底部で約12cm、現存上端で13.2cm、脚部と坏部との接合部で約4cmである。色調は内外面ともに淡黄色で、外面調整には刷毛目の後へラ磨きが施されているが、器表の摩耗が激しくはっきりしない。坏部内面は外面以上に摩耗が激しく調整の痕跡はほとんど確認できない。脚部内面は比較的良好な依存状態で、指押さえ後のヨコナデが確認できる。

第12図の26は甕の脚部である。底部円周の1/4程が残存している。底部の復元径は6.5㎝である。色調は内外面ともに淡黄色で、内面は黒斑が確認できる。外面には指押さえが施されている。

#### A地区IV層包含層中出土遺(第13図・14図・15図)

27は甕である。口縁部の1/8程度が出土している。復元径は25.5cmになる。外面は刷毛目調整を行っており、内面はナデが施されている。口縁部から体部中位あたりまで煤が付着している。

28から31は甕の口縁部である。28は口縁部が大きく外反するが、体部の張り出しはほとんどない。内面は指押さえ後のヨコナデが確認できる。外面にはヨコナデが施されている。29は、口縁部と体部の最大径がほぼ同一となる。内外面ともに丁寧にナデを施している。30は口縁部から体部へどのようにつながるのか小片のため確認できない。ヨコナデが施されており、器壁の厚さが5mm以下のかなり薄手の土器である。31は口縁部の1/8程度が出土している。口縁部の径が体部の最大径を若干上回るようである。口縁部分に縦方向の刷毛目を施した後に、ヨコナデを行っている。復元径は20cmになる。

32から35は甕の体部である。32、33は体部が大きく張り出し半球状をなす。32は刻目突帯文が確認でき、内外面は荒い刷毛目の後ナデが施されている。34と35は体部の張り出しはそれほど大きくないく、やや直線的に底部につながるようである。34は残存部下端に指押さえが確認できるほかは全面にナデが施されている。35は内外面ともに荒い刷毛目の後、荒いナデが施されている。調整が甘く、粘土の接合痕がはっきりと残る。

36は小型の甕である。内面はナデが施され、外面は指ナデが確認できる。底部は指押さえにより脚台が造り出されている。

37と38は甕の底部である。37は外面は削りを施した後、丁寧になでている。内面には指押さえと工具による横方向のナデが確認できる。底部は底径6.6cmから6.9cmの楕円である。38は底径9.6cmで、深い上げ底の脚台を作る。外面は指押さえ後ナデを施している。

39から43は高坏である。39は口縁部の1/6程度が出土している。復元径は約30cmになる。内外面ともに丁寧なミガキが施されている。40は内外面ともに器表の摩耗が激しく調整が確認できない。頸部の1/8程が出土しており、復元径は現存最上端で27cmとなる。41は高坏の脚部であるが、摩耗が激しく、小片のため細部は不明である。42は高坏の脚部である。1/5程が出土している。外面はミガキが施され、円形の穿孔が二つ確認できる。内面は荒いナデが施される。43は高坏の脚部である。ハの字に直線的に開く。内面は指ナデが確認できるが、外面は摩耗が激しく調整は確認できない。

44は器台の脚部である。2/3程度が出土している。外面は縦方向の刷毛目が確認でき、内面はナデが施されている。

45は高坏の脚裾部である。底部の1/4程が出土している。復元底径は18.4cmである。円形の穿孔が二っ確認できるが内外面ともに摩耗が激しく調整は確認できない。46は脚台付の鉢である。底部径は8.4cmで、内外面ともに丁寧なミガキが施されている。

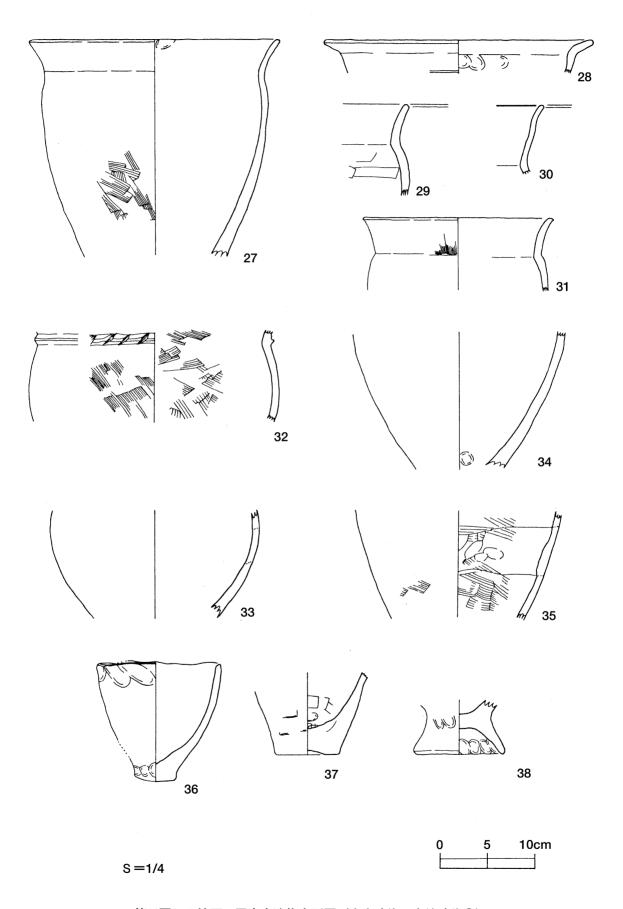
47から49は鉢である。47は口縁部の1/2程度出土しており、復元径は10.9cmとなる。器壁が 5 m以下と薄く、焼きも非常に堅緻である。底部はわずかに上げ底状になっている。外面は緻密な刷毛目の後、口縁部にヨコナデを施している。内面は丁寧ナデを施している。48は鉢の底部である。内外面ともにナデが施されてるが、器表の摩耗が激しく細かい点は不明である。底部は円形の平底がつく。49は口縁部の1/5程度が出土しており、復元径は21.3cmになる。体部が外方にのび口縁部付近でやや内湾する。器表外面には煤が付着し、内外面ともにナデが施されている。

50と51は複合口縁壺である。50は口縁部の1/6ほど出土しており、復元径は14cmになる。一次口縁直下まで刷毛目調整が施してあり、二次口縁には櫛描波状文が巡る。内面はヨコナデが確認できる。51は口縁部の1/8程が出土しており、復元径は11cmになる。一次口縁直下まで刷毛目調整がされた後ヨコナデが施されているようであるが内外面ともに摩耗が激しく、細かい調整は確認できない。

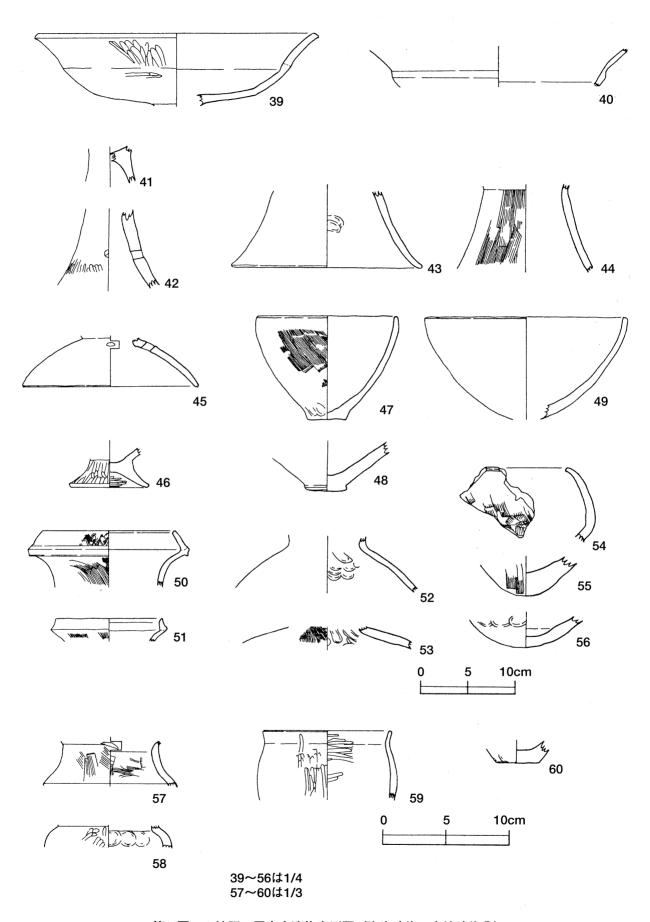
52と53は壺の肩部である。52は内外面とも刷毛目調整を施し、内面はその後指ナデを施しているが器表の剥落が激しく内外面ともに調整は明瞭ではない。外面には煤が付着している。53は外面に刷毛目、内面に指ナデが確認できる。

54は壺の口縁部である。口縁部の一部分しか出土しておらず、径の復元は不可能であった。外面に刷毛目が確認できるが器表の摩耗が激しく細かい調整は不明である。

55と56は壺の底部である。どちらも丸底である。55は底部先端まで刷毛目が確認でき、内面はナデを



第13図 A地区IV層出土遺物実測図(弥生時代~古墳時代①)



第14図 A地区IV層出土遺物実測図(弥生時代~古墳時代②)

施す。56は底部端に指ナデの痕跡が確認できるが、摩耗が激しく細かい調整は確認できない。

57から59は壺である。57は壺の頸部である。1/7ほど出土しており、復元径は現存上端で11cmとなる。 内外面ともに刷毛目調整を行っているが器表の摩耗が激しく、他の調整は確認できない。58は壺の肩部 である。1/6程が出土しており、復元径は現存部上端で11cmである。外面は丁寧なヘラ磨きが施してあ り、内面には指押さえが確認得きる。59は小型の短頸壺の口縁部である。1/9程出土しており、復元径 は10.4cmである。内外面ともに丁寧なヘラ磨きが施してある。

60は機種不明の底部である。外面 には指押さえが確認できる。壺かま たは鉢と思われる。

61と62は石庖丁である。61は両側に刳りを持ち、ほぼ完形である。刃部に使用痕が確認できる。62は石庖丁の穿孔の部分で、穿孔部に紐を通した痕が確認できる。

# 61 61 62

#### 6. 古代の遺構

#### 畝状遺構(第3図、4図参照)

第2次掘削以降のほぼ全面から畝

第15図 A地区IV層出土遺物実測図(弥生時代~古墳時代③)

状遺構が検出できた。畝間の方向、および検出状況から調査区のほぼ全面に広がっていたと思われる。 畝幅は60cmから80cmとかなり広い。畝高はセクションで確認したところ約10cmから約15cmであった。プラントオパールの分析では、ススキと若干のキビ・粟類が確認できたにすぎず、陸稲の可能性は薄い。また、検出できた畝状遺構に重複が少ないことから、この土地で長期間継続されて畠の耕作が行われたとは考えにくく、短期間で放棄された可能性高い $^{\circ}$ 。遺構の直上の黒色土の14C年代測定法では9世紀末葉の年代が与えられている。

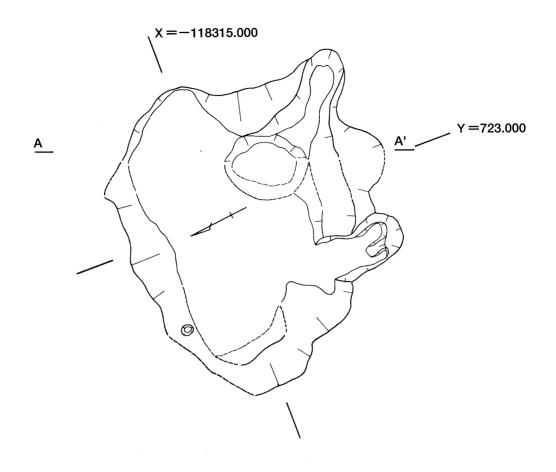
#### 3号土壙 (第16図)

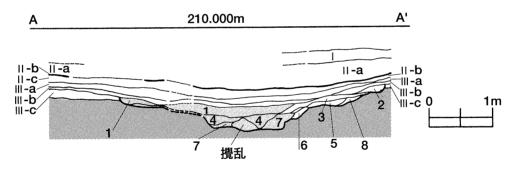
高原スコリア下の黒褐色土層から掘り込まれた不正型の土壙である。埋土中に多量の炭化物と焼土が確認できた。性格は不明である。土壙中には高原スコリアがレンズ状に堆積しており、この土壙の埋没過程でスコリアの降灰があったことがわかる。この土壙中から出土した土師器(第17図の63)は9世紀後半から10世紀のものと考えられ、高原スコリアがこれまでいわれていたように788年の霧島の噴火によるものでないことが確認できた。

#### 7. 古代の遺物

63は3号土壙出土の高台付の坏である。全体の1/2程出土しており、復元径は13.3cmとなる。外面は回転へラ削りを施し、内面は丁寧にナデている。

64と65は内黒の高台付の坏の底部である。64は底部円周の1/9程出土している。高台の復元径は8.4cmとなる。65は底部円周の1/7程出土している。高台の復元径は5.9cmである。底部にはヘラ切り痕





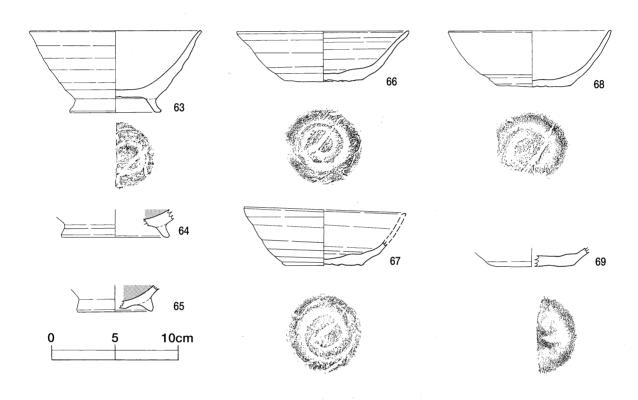
|~Ⅲ-cは基本上層図に準拠する。

部分には焼土が混じる

- 1 暗褐色土、褐色土ブロック及び赤変した焼土を含む。
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色砂質土。2よりやや暗く、しまりがない。
- 4 暗褐色砂質土、焼土炭化物を多く含み、しまりがない。
- 5 褐色土、黒褐色ブロックをわずかに含む。
- 6 褐色土。しまりが非常に強い。
- 7 暗褐色土。焼土、炭化物を多量に含む。4に比べややしまりが強い。
- 8 暗褐色土。しまりが非常に強い。

第16図 A地区3号土壙実測図(S=1/60)

が確認できるが小片のため単位等は不明である。 66から69は土師器の坏である。66から68には板状圧痕が確認できる。66は口縁部が1/6ほど残存する。復元口縁は13.5cm、器高約4cmとなる。内面にナデを施す。口縁端部がやや外反する。67は口縁部が1/4程残存しており、復元径は5.7cm、器高は4.7cmである。内面はナデを施す。口縁端部は直線的に立ち上がる。68はほぼ完形で、径は12.9cm、器高は4.5cmである。内外面ともにナデを施し、ヘラ削りの痕跡を消している。底部のヘラ切り痕も明瞭ではない。口縁端部はやや内湾する。69は坏の底部であるある。底部の1/2程度が出土している。内外面ともに丁寧にナデてあり、切り離しの痕跡は確認できない。



第17図 A地区出土遺物実測図(古代)

70は甕の口縁部である。口縁部の1/8程が出土している。復元径は21.6cmとなる。口縁部は肉厚で、 体部内面には板状工具による荒い削りが確認できるが小片のため細部は不明である。

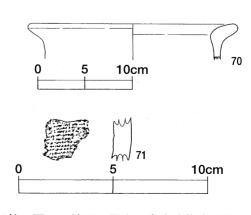
71は内面に布目痕が残る土器である。  $2 \text{ cm} \times 2 \text{ cm}$ 程度の小片であり、詳細は不明である。器壁の厚さは 8 mm程度である。

#### 8. その他の遺構と遺物

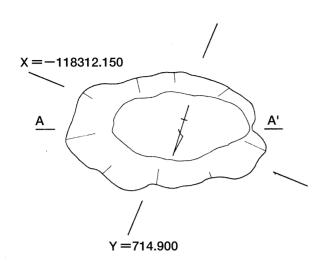
#### 土壙

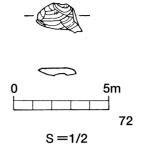
#### 。 1 号土壙 (第19図)

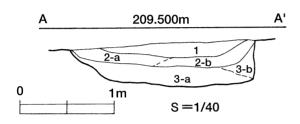
調査区の中央やや北寄りで検出できた土壙である。 東西約2 m、南北約1.25mの楕円形をなす。深さは検 出面から約50cmである。黒曜石の二次加工剥片(第19 図の72)と土師器の小片が1点出土しているが、出土 状況から見ると流れ込みの可能性が高く、時期や性格



第18図 A地区IV層上面出土遺物実測図







1……暗褐色土。御池ボラをわずかに含む。

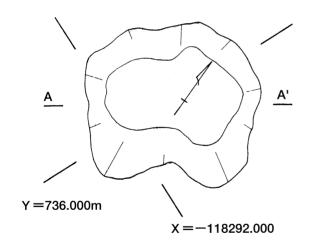
2-a …暗褐色土。1よりややしまりがある。

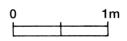
2-b…2-aとほぼ同じ。明確に分離はできない。

3-a…暗褐色土。炭化物の細粒を含み、しまりが強い。

3-b…3-aとほぼ同じ。明確に分離はできない。

第19図 A地区1号土壙実測図及び出土遺物





1……暗黒褐色土。黄褐色土ブロックをわずかに含む。

2……暗黒褐色土。1よりやや明るい。黄褐色土ブロックを含む。

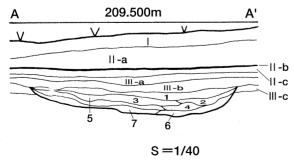
3……暗褐色土。黄褐色土ブロックを含む。

4……暗褐色土。2よりやや暗い。黄褐色土ブロックを含む。

5……暗黒褐色土。黄褐色土ブロックを含む。

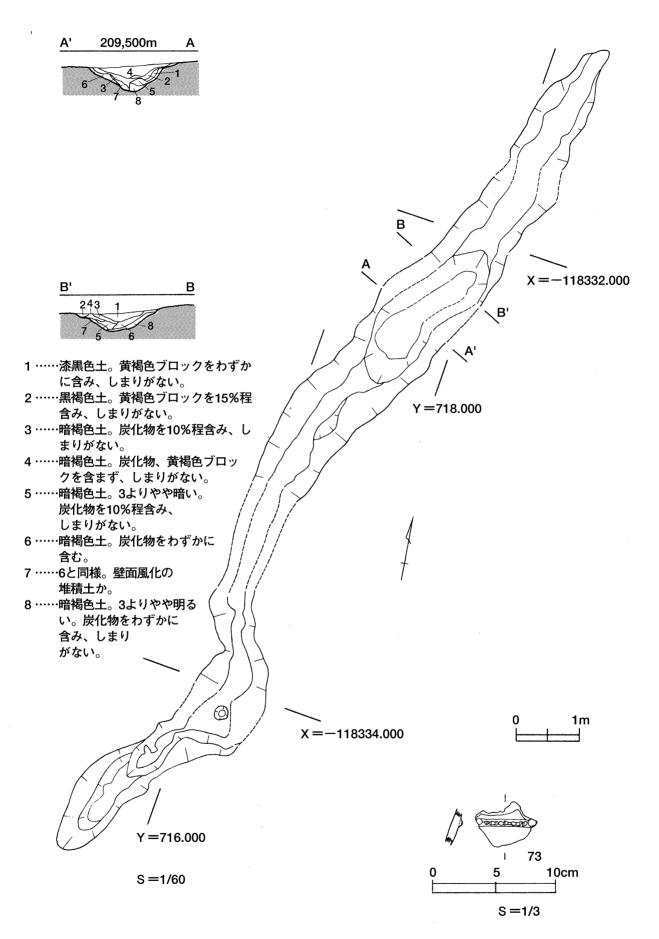
6……暗褐色土。黄褐色土ブロックをかなり含む。

7……暗褐色土。黄褐色土ブロックを多く含む。



Ⅰ~Ⅲ-cは基本土層図に準拠する。

第20図 A地区2号土壙実測図



第21図 A地区溝状遺構及び出土遺物実測図

の決定の決め手とはならない。

### 。 2 号土壙 (第20図)

調査区の北東で検出できた土壙である。東西1.8m、南北1.6~1.5mの不整形ををなす。遺物は1点も出土していない。検出面からの掘り込みは15cmから20cmと浅く、時期、性格とも不明である。埋土は畝間のものに似ており、時期は近いと考えられる。

### 溝状遺構 (第21図)

調査区の東側中央を南北に走る短い溝で全長約15.8mである。幅は0.6~1.4mで深さは最深部で検出面から45cm程である。土器片が1点出土しているが、どれも時期を決定するものではない。埋土の質が畝間のものと近似しており、時期的には近いものであると思われる。畝状遺構がこの溝の周囲で途切れていることから畑を区画する溝である可能性も考えられる。出土した土器片(第21図の73)はミニチュアの甕であると思われ、刻目突帯文を巡らしている。小片のため径などの復元は困難である。出土状況から流れ込みの可能性が高い。

# ピット群(第4図参照)

時期不明のピット群が27基検出できた。径20cm足らずの小さなもので規則性はない。すべて高原スコリアより上面から掘り込まれており、遺物はなにも出土していない。

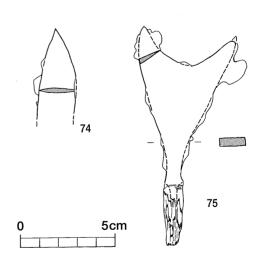
#### 鉄器 (第22図)

74はIV層上面出土の鋒である。残存部が少なく、もとの器形は判断しがたい。残存部長は4.9㎝で、重さは5.3gである。75はIV層上面出土の雁股鏃である。ほぼ完形であり、茎部には篦被が残存する。軟 X線照射器で確認したところ、関部は台形関であると思われる。鏃身最大幅5.1㎝、重さは38.8gを測る。 鏃身断面は平造である。

# 9. 小結

A地区では弥生時代から古墳時代にかけての住居 址4棟とが検出できているが、同時存在性は薄く該 期の集落が広がっていたというようなイメージは持 てない。また、古代のものも畠跡が調査区の全面で 検出できた他は生活の痕跡を確認できるような遺構 はない。小丘陵上の狭い平坦地の上なので当然のこ とだが、非常に生活臭の薄い感は否めない。

尚、遺構から出土した遺物については流れ込みの可能性が強く、確実に伴うものは9の1号住居址の 甕と25の4号住居址の脚台付鉢だけである。



第22図 A地区IV層上面出土遺物

# 第1表 A地区出土石器計測表

遺物番号	出土地点	品 種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	石 柞	<b>x</b> t	備考
4	IV 層 中	石匙	7.9	3.4	1.15	31.3	チャート		
5	IV 層 中	楔形石器	3.6	3.25	1.15	16.3	チャート		
6	IV 層 中	剥片	4.6	2.2	0.7	7.0	チャート		
7	IV 層 中	石鏃	1.43	1.13	0.3	0.3	黒曜石		
8	IV 層 中	石鏃	1.57	1.92	0.3	0.7	チャート		
61	IV 層 中	石庖丁	4.15	8.2	0.85	39.8	結晶片岩		
62	IV 層中	石庖丁					結晶片岩		穿孔部の小片
72	1号土壙	二次加工剥片	1.8	2.3	0.45	1.3	黒曜石		

# 第2表 A地区出土鉄器計測表

遺物番号	出土地点	品 種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	備考
74	IV層上面	刀子 (?)				5.3	鋒の一部
75	IV層上面	雁股鏃	11.4	5.0	0.5	38.8	ほぼ完形で箆被が残る

# 第3表 A地区出土土器観察表(1)

遺物	種別	器種 出土		法 量 (cm)		n)	手 法 · 調 整	• 文様ほか	色 調		胎土の特徴	備考
番号	惟別	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特像 	畑 考
1	縄文土器 (指宿式?)	胴部片	IV層中				沈線·貝殼条痕	ナデ	にぶい黄橙 色(10YR6 /4)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	3.0mm以下の褐色・黒色・淡黄橙色 の砂粒を含む。	
2	縄文土器 (擦消縄文)	胴部片	Ⅳ層中				沈線・ナデ	ナデ	暗灰黄色 (2.5YR5/ 2)	暗黄褐色 (10YR4/2)	1.5mm以下の半透明光沢、淡黄色、 黒色光沢砂粒を含む。	
3	縄文土 器(北 久根山	胴部片	Ⅳ層中				短沈線•貝殼条痕	ナデ	にぶい褐色 (7.5YR5/ 4)	にぶい褐色 (7.5YR5/ 4)	2.0mm程度の暗褐色、乳白色、淡黄 色の砂粒を含む。	
9	<u>勃生(?)</u> 土 器	甕	1号 住居址	22.0	5.65	29.0	刷毛目後ナデ	刷毛目・ナデ	橙色(7.5Y R6/6)	明 赤 褐 色 (5YR5/8)	2.0mm程度の灰色、茶褐色の砂粒、 2.0mm以下の灰色、茶褐色、乳白色 の砂粒を含む。	ほぼ完形
10	弥生(?) 土 器	甕	1号 住居址	12.6 (推定)			刷毛目後ナデ	ナデ	にぶい黄褐 色 (10YR7 /4)	浅黄橙色 (10YR8/4)	2.0mm以下の灰色、褐色の砂粒を含 む。	口縁部の2 /5程度残 存
11	弥生(?) 土 器	壺• 頸部片	1号 住居址				刷毛目	刷毛目	にぶい黄褐 色 (10YR7 /4)	黒 (N21)	0.5mm~1.0mm程度の褐色の砂粒、 0.3mm程度の透明光沢粒を含む。	
12	弥生(?) 土 器	壺	1号 住居址		4.25 (推定)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR6 /4)	オリーブ黒 (5Y3/1)	0.5mm~2.0mm程度の乳白色の砂粒、 0.1mm以下の光沢粒を含む。	底部の1/ 2程度残存
13• 22	弥生(?) 土 器	高坏• 脚部	1号・ 3号住 居址				ミガキ	ナデ	にぶい黄褐 色 (10YR4 /3)	にぶい黄橙 色 (10YR6 /4)	0.5mm~1.0mm程度の褐色、黒色の砂粒、3.0mm程度の褐色の砂粒を含む。	
14	土師器	整・口縁部 から体部	2号 住居址	26.4 (推定)			刷毛目後ナデ	ナデ	にぶい褐色 (7.5YR5/ 4)	にぶい褐色 (7.5YR5/ 4)	3.0mm以下の淡黄橙色・黒色光沢の 砂粒を含む。	口縁部の1 /4程度残 存
15	土師器	甕•□緑部	2 号 住居址	26.3 (推定)			ナデ	ナデ	浅黄色(2. 5Y7/4)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	0.1mm~0.4mm程度の灰褐色、黒色 の砂粒を含む。	口縁部の1 /4程度残 存
16	<u>势生(?)</u> 土 器	鉢・底部	2号 住居址				ナデ	ナデ	浅黄色 (2. 5Y7/4)	淡黄色(2. 5Y8/4)	0.1mm 以下の黒色、灰褐色、赤褐 色の砂粒を含む。	底部の1/ 3程度残存
17	土師器	甕・□縁 ~体部	3号 住居址	24.4			ナデ	ナデ	明赤褐色 (5YR3/1)	橙色(7.5Y R2/3)	5.0mm以下の灰色、褐色の砂粒を含む。	口縁部の1 /8程度残 存
18	弥生土 器	甕・底部	3号 住居址		4.4 (推定)		ナデ	ナデ	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	浅黄色(2. 5Y7/4)	1.0mm~2.0mm程度の黒色、灰色、 乳白色の含む。	底部の2/5 程度残存
19	弥生(?) 土 器	甕・底部	3号 住居址		6.5 (推定)		ナデ	ナデ	明 黄 褐 色 (10YR7/6)	明 黄 褐 色 (10YR5/8)	2.0mm以下の茶褐色、白色の砂粒を 含む。	

# 第4表 A地区出土土器観察表(2)

遺物		器種	出土	法	量(cr	n)	手法・調整	<ul><li>文様ほか</li></ul>	色	調		
番号	種別	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	備考
20	弥生(?) 土 器	壺・口縁部	3号 住居址	14.4 (推定)			ナデ	ナデ	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	浅黄色 (2. 5Y7/3)	3.0mm以下の褐色・黒色・灰色の砂 粒を含む。	口縁部の1 /8程度残 存
21	弥生(?) 土 器	豊・口縁部	3号 住居址				ナデ	ナデ	橙色(7.5Y R6/6)	橙色 (7.5Y R6/6)	3.0mm以下の灰色、褐色、灰白色の 砂粒を含む。	
23	弥生土器	複合口縁壺	3号 住居址	14.5 (推定)			刷毛目•櫛描波状 文	ヨコナデ	にぶい黄橙 色 (10YR 7/4)	灰色 (5Y4 /1)	1.0mm以下の透明光沢、黒色光沢、 淡黄色の砂粒を含む。	口縁部の1 /9程度残 存
24	弥生土器	重弧文土器 • 胴部片	4 号 住居址	-			ミガキ・三角鋸歯 文	刷毛目	暗灰黄色 (2.5YR5/ 2)	黄灰色(2. 5Y4/1)	1.0mm以下の乳白色、透明光沢の砂 粒を含む。	
25	土師器	台付鉢	4号 住居址		11.8 (推定)		ミガキ・刷毛目	ナデ	明 黄 褐 色 (10YR7/6)	にぶい黄橙 色(10YR6 /4)	0.5mm~2.0mm程度の乳白色、透明 光沢の砂粒を含む。	3/5程度残 存。
26	弥生(?) 土 器	甕・底部	4号 住居址		6.5 (推定)		指オサエ	ナデ	にぶい橙色 (7.5YR6/ 4)	黄灰色(2. 5Y4/1)	2.5mm程度の暗灰色、灰色、乳白色 の砂粒を含む。	底部の1/4 程度残存
27	<u>弥生(?)</u> 土 器	蹇・口縁部	IV層中	25.5 (推定)			刷毛目	ナデ	灰黄色 (2. 5Y7/2)	黄灰色(2. 5Y7/2)	3.0mm以下の灰褐色の砂粒を含む。	口縁部の1 /8程度残 存
28	弥生(?) 土 器	費・□縁部	IV層中	28.4 (推定)			ヨコナデ	ヨコナデ	明 黄 褐 色 (10YR7/6)	橙色(7.5Y R6/6)	0.15mm程度の褐色、灰色砂粒を含 む。	口縁部の1 /6程度残 存
29	弥生(?) 土 器	獥・□縁部	IV層中				ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色(10YR7 /3)	浅黄色(2. 5Y7/3)	2.5mm以下の黒色光沢の砂粒、2.0m m以下の褐色、透明光沢の砂粒を含 む。	口縁部の1 /8程度残 存
30	弥生(?) 土 器	機・口縁部	Ⅳ層中				ヨコナデ	ヨコナデ	橙色(7.5Y R6/6)	橙色(7.5Y R6/6)	0.5mm~1.0mm程度の乳白色、灰色 の砂粒を含む。	口縁部の1 /14程度残 存
31	弥生(?) 土 器	甕・□縁部	IV層中	20.0 (推定)			ナデ	ナデ	淡黄色 (2. 5Y8/3)	浅黄色(2. 5Y7/3)	2.0mm程度の黒色、暗褐色、茶色、 乳白色の砂粒を含む。	口縁部の1 /6程度残 存
32	弥生(?) 土 器	饔•体部	Ⅳ層中				刷毛目	刷毛目	にぶい褐色 (7.5YR5/ 3)	にぶい赤褐 色 (5YR5 /4)	1.5mm以下の透明光沢、乳白色の砂 粒を含む。	体部の1/8 程度残存
33	弥生(?) 土 器	甕・体部	Ⅳ層中				ナデ	ナデ	橙色(7.5Y R6/6)	明赤褐色 (5YR5/8)	2.0mm以下の灰色、褐灰色、黒色光 沢の砂粒を含む。	体部の1/4 程度残存
34	弥生(?) 土 器	甕・体部	IV層中				ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR7 /4)	黄灰色 (2. 5Y4/1)	4.0mm以下の褐色の砂粒、2.0mm以 下の黒色光沢の砂粒を含む。	
35	弥生(?) 土 器	甕•体部	IV層中				ナデ	刷毛目	橙色(7.5Y R6/8)	橙色(7.5Y R6/8)	3.0mm以下の灰白色、褐色の砂粒を含む。	
36	<u> 弥生(?)</u> 土 器	甕(?)	IV層中				ナデ	ナデ	にぶい橙色 (7.5YR7/ 4)	にぶい褐色 (10YR5/3)	2.0mm以下の黒色、褐色の砂粒を含む。	ほぼ完形
37	<b>弥生</b> (?) 土 器	甕・底部	IV層中		6.6~ 6.9		ケズリ後ナデ	ナデ	にぶい橙色 (7.5YR6/ 4)	明 赤 褐 色 (5YR5/4)	4.0mm以下の灰白色、乳白色の砂粒、 1.0mm以下の透明光沢の砂粒を含む。	
38	<b>弥生</b> (?) 土 器	甕・底部	Ⅳ層中				ナデ	ナデ	にぶい黄褐 色 (10YR6 /4)	黄褐色 (2. 5Y5/3)	2.0mm程度の淡黄色、灰色の砂粒、 1.0mm程度の透明光沢、黒色光沢の 砂粒を含む。	(7 b)
39	弥生(?) 土 器	高坏・坏部	IV·層 中	30 (推定)			ミガキ	ミガキ	浅黄色 (2. 5Y7/4)	浅黄色(2. 5Y7/4)	0.2mm以下の灰褐色、灰色の砂粒を 含む。	口縁部の1 /6程度残 存
40	土穌(?) 器	高坏・坏部	Ⅳ層中				ナデ	ナデ	橙色(10Y R6/4)	橙色 (10Y R6/4)	0.5mm~1.0mm程度の乳白色、褐色 の砂粒を含む。	
41	出颠(?) 器	高坏・胸部	Ⅳ層中				ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR6 /4)	にぶい黄橙 色 (10YR7 /4)	3.0mm以下の灰白色、半透明の砂粒、 1.0mm以下の透明光沢の砂粒を含む。	
42	土師器	高坏・胸部	Ⅳ層中				ミガキ	ナデ	黄橙色(10 YR8/6)	にぶい黄橙 色 (10YR7 /4)	3.0mm以下の赤褐色、褐灰色の砂粒 を含む。	
43	出献(?) 器	高坏・胸部	IV層中		20 (推定)		刷毛目	ナデ	明 黄 褐 色 (10YR7/6)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	2.0mm以下の透明光沢、黒色光沢、 赤褐色、灰色、淡黄色の砂粒を含む。	
44	土穌(?) 器	高坏・胸部	IV層中				刷毛目	ナデ	明 黄 褐 色 (10YR7/6)	明黄褐色 (10YR7/6)	0.1mm程度の透明光沢、茶褐色、黒 色、灰褐色の砂粒を含む。	脚部の1/5 程度残存
45	土師器	高坏・裾部	IV層中		18.4 (推定)		ナデ	ナデ	明 黄 褐 色 (10YR7/6)	にぶい黄橙 色 (10YR7 /4)	0.5mm以下の黒褐色の砂粒を含む。	裾部の2/5 程度残存
46	弥生(?) 土 器	鉢・底部	IV層中		8.35		ミガキ	ミガキ	にぶい橙色 (5YR6/4)	にぶい橙色 (5YR6/4)	1.0mm以下の透明光沢、浅黄色の砂 粒を含む。	底部は全周
47	弥生(?) 土 器	鉢	IV層中	10.9	2.9	8.15	刷毛目	ナデ	にぶい橙色 (7.5YR6/ 4)	にぶい黄橙 色 (10YR6 /3)	微細な透明光沢の砂粒を含む。	ほぼ完形
48	弥生(?) 土 器	鉢・底部	IV層中		2.6~ 3.1		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR7 /3)	浅黄橙色 (10YR8/3)	2.0mm程度の暗褐色、乳白色、灰色 の砂粒を含む。	- 67 t-
49	弥生(?) 土 器	鉢	IV層中	21.3 (推定)			ナデ	ナデ	浅黄色 (2. 5Y7/4)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	2.0mm以下の灰色、褐色の砂粒を含む。	口縁部の1 /5程度残 存
50	弥生土器	複合口縁壺	IV層中	14.0 (推定)			刷毛目 • 櫛描波状 文	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR7 /4)	灰黄色(2. 5YR2/6)	微細な透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /6程度残 存

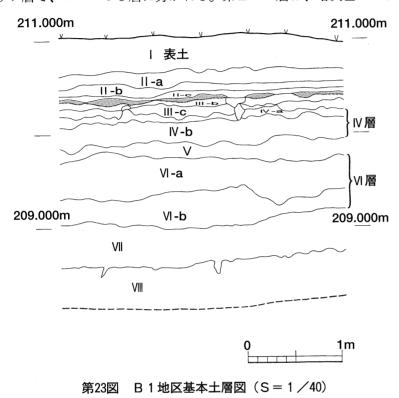
第5表 A地区出土土器観察表(3)

遺物	se nd	器種	種出土	泔	· 量(ci	m)	手法・調整	色 調				
番号	種別	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	備考
51	弥生土器	複合□縁壺	Ⅳ層中	11.0 (推定)			刷毛目	ナデ	淡黄色 (2. 5Y8/4)	淡黄色(2. 5Y8/4)	2.0mm程度の透明光沢の砂粒、1.0m m以下の黒色光沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /9程度残 存
52	弥生(?) 土 器	壺・頸部片	IV層中				ナデ	指ナデ	橙色(7.5Y R7/6)	浅黄色 (2. 5Y7/4)	0.1mm以下の灰白色の砂粒を含む。	
53	弥生(?) 土 器	壺・頸部片	₩層中				刷毛目	指ナデ	橙色(7.5Y R7/6)	浅黄色(2. 5Y7/4)	1.0mm以下の半透明光沢、黒色光沢 砂粒を含む。	
54	弥生(?) 土 器	壺・ 口縁部片	Ⅳ層中				刷毛目	ナデ	明 黄 褐 色 (10YR7/6)	橙色(7.5Y R7/6)	2.0mm以下の淡黄色、灰色、茶色、 黒色光沢、透明光沢の砂粒を含む。	
55	弥生(?) 土 器	壺・底部	IV層中				刷毛目	ナデ	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	4.0mm以下の灰白色、橙色の砂粒、 3.0mm以下の黒色光沢の砂粒、2.0m m以下の透明光沢の砂粒を含む。	
56	弥生(?) 土 器	壺・底部	Ⅳ層中				指ナデ	ナデ	明 黄 橙 色 (10YR7/6)	明 黄 橙 色 (10YR7/6)	0.2mm以下の透明、灰白色、灰色の 砂粒を含む。	
57	土師(?) 器	壺・頸部片	Ⅳ層中				ミガキ	指オサエ	橙色(7.5Y R6/6)	橙色(7.5Y R6/6)	1.0mm以下の淡黄橙色、灰白色の砂 粒を含む。	
58	土師(?) 器	壺・頸部片	Ⅳ層中				刷毛目	刷毛目	明 黄 褐 色 (10YR6/6)	明 黄 褐 色 (10YR6/6)	2.0mm以下の灰白色、褐灰色、光沢 黒色の砂粒を含む。	
59	出師(?) 器	小型壺・口 緑部〜体部	IV層中	10.0 (推定)			ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐 色(10YR5 /3)	にぶい黄橙 色(10YR6 /4)	2.0mm以下の半透明、透明光沢の砂 粒を含む。	口縁部の1 /6程度残 存
60	出脈(?) 器	底部	IV層中		3.5		指ナデ	ナデ	暗灰黄色 (2.5YR5/ 2)	赤褐色 (5 YR4/6)	2.0っm以下の褐色の砂粒、1.5mm 以下の乳白色の砂粒を含む。	
63	土師器	高台付坏	3号土壙	13.3	7.0		ナデ・ヘラケズリ	ナデ	浅黄橙色 (2.5Y8/4)	浅黄橙色 (7.5YR8/ 6)	1.0mm以下の褐色の砂粒を含む。	口縁部の1 /4程度残 存
64	黒色土器	高台付坏 •底部	IV層上面		8.4 (推定)		ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 色(10YR6 /4)	オリーブ黒 (5Y3/1)	0.5mm~1.0mm程度の茶色の砂粒を含む。	底部の1/4 程度残存
65	黒色土器	高台付坏 • 底部	IV層上面		5.9 (推定)		ナデ	ミガキ	淡黄色 (2. 5Y8/3)	オリーブ黒 (5Y3/1)	0.5mm~1.0mm程度の茶色の砂粒を 含む。	底部の1/4 程度残存
66	土師器	坏	IV層上面	13.4 (推定)	6.2	4.0cm	ナデ・ヘラケズリ	ナデ	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	橙色(7.5Y R7/6)	1.0mm以下の黒色、褐色の砂粒を含 む。	口縁部の1 /6程度残 存
67	土師器	坏	IV層上面	13.6 (推定)	6.3	4.4cm	ナデ・ヘラケズリ	ナデ	浅黄橙色 (2.5Y8/4)	黄灰色 (2. 5Y6/1)	2.0mm以下の黒色、灰白色、灰色の 砂粒を含む。	口縁部の1 /6程度残 存
68	土師器	坏	IV層上面	13.0	5.8	4.4cm	ナデ・ヘラケズリ	ナデ	浅黄橙色 (10YR8/4)	明 黄 褐 色 (10YR7/6)	0.5mm~1.0mm程度の黒色の砂粒を 含む。	ほぼ完形
69	土師器	坏	IV層上面		6.6 (推定)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	にぶい橙色 (5YR6/4)	0.5mm以下の褐色の砂粒を含む。	底部の1/2 程度残存
70	土師器	甕	IV層上面	21.4 (推定)			ナデ	ヘラケズリ	にぶい褐色 (7.5YR5/ 4)	にぶい褐色 (7.5YR5/ 4)	0.3mm~0.6mm程度の乳白色、褐灰 色の砂粒を含む。	口縁部の1 /8程度残 存
71	土師器	布痕土器	IV層上面				ナデ	布痕	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	にぶい橙色 (7.5YR7/ 4)	きわめて細かで、砂粒などは確認で きない。	
73	弥生(?) 土 器	ミニチュ ア土器	1号溝 状遺構				ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	橙色(7.5Y R6/6)	2.0mm以下の乳白色、黒色光沢、透 明光沢の砂粒を含む。	

# 第2節 B地区の調査

# 1. 基本層序

第 I は表土である。第 II 層は $11\sim12$ 世紀に降下したとされる霧島御鉢延暦テフラに由来する高原スコリア層で、 $a\sim c$  の 3 層に分かれる。第 II-a 層は、暗灰色スコリアを含む大粒の褐色スコリア層であ



る。第Ⅱ-b層は、1㎝前後の粒 子の暗灰色細粒スコリア層である。 第Ⅱ-c層は、3㎜程の粒子の暗 褐色細粒スコリア層である。aと b層、bとc層のそれぞれの間に は3㎜程の黒色の有機物層が堆積 しており、ススキの炭化物が見ら れる。第Ⅲ層はa~cの3層に分 かれる。第Ⅲ-a層は、高原スコ リアの細粒を多少含む黒褐色土層 である。第Ⅲ−b層は暗灰褐色火 山灰層で、降下年代は不明である。 第Ⅲ - c 層は火山性の噴出物を多 少含む暗褐色土層で、古代の遺物 を包含する。第Ⅳ層は2層に分か れているが、第Ⅳ-a層は第Ⅲ-

c層のにじみ部で、第Ⅳ-b層と同一層である。第Ⅳ層は縄文時代後・晩期の土器、弥生後期~古代の土器を包含する褐色土層である。第V層は $2\sim3$  mm程の大きめの御池ボラを含む黄褐色土層で、無遺物層である。第VI-a、b 層は高千穂ノ峰起源の牛の脛火山灰の上層で、およそ6,400年前に降下したとされている。a 層が若干b 層 よりも軟質である。第VII 層は鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰層である。第VII 層は牛の脛火山灰の下層である。

### 2. 調査の概要

B地区は標高約205~211mの丘陵地に位置し、総面積約27,600㎡である。調査対象地は丘陵地全域であるため、耕作地の境を目安に1~5地区に便宜的に分けて発掘調査を行なった。また、谷合いの斜面部についてはトレンチを数箇所に設置し、確認調査を行なった結果、遺構・遺物の検出はなかった。

調査は、基本的に試掘調査で確認された結果をもとに、第 $\Pi$ 層の高原スコリアまでを重機によって表土剥ぎを行い、第 $\Pi$ 層の褐色土と第 $\Pi$ 0 層の牛の脛上層ブロックが混在する褐色土の  $\Pi$ 2 面で遺構検出を行なった。丘陵上は、調査前は畑地として利用されていたが、高原スコリアの堆積が厚かったこともあり、遺跡の状態はほぼ良好であった。若干B  $\Pi$ 2 地区の西側で土の天地返しが行なわれており、B  $\Pi$ 5 地区の北側については第 $\Pi$ 1 層の遺物包含層が一部掘削されていた。

遺構は第Ⅳ層上で畝状遺構、溝状遺構、土壙、炉跡、陥し穴状遺構など、第V層上で、古墳時代の竪

穴住居、土壙、掘立柱建物跡、柱穴群などが確認されている。遺物は、縄文後期・晩期の土器片や石器、 弥生時代から古墳時代、古代の遺物が第IV層中から一括した状態で出土している。

## 3. B1地区

B1地区は、B地区の中央西側に位置する。調査面積約8,390㎡である。検出された遺構は、古墳時代の竪穴住居2軒、土壙2基、古代の遺構と思われる畝状遺構、竪穴状遺構5基、溝状遺構7条、時期不明の掘立柱建物跡3棟、柱穴群、土壙18基、炉跡3基、陥し穴状遺構2基である。遺物は縄文後期・晩期の土器、石器、弥生・古墳時代の壺、甕、高坏、古代の甕、坏、高台付坏、黒色土器、布痕土器、石器、鉄製品などが調査区の全体から出土している。調査区は、中央部が微高地になっていて、北、西、南に向かって傾斜している。遺構・遺物は微高地に多く分布する特徴がみられ、畝状遺構は全面に検出されているが、中央部では若干地山が削平されているため、確認されていない。

## (1)縄文時代の遺構と遺物

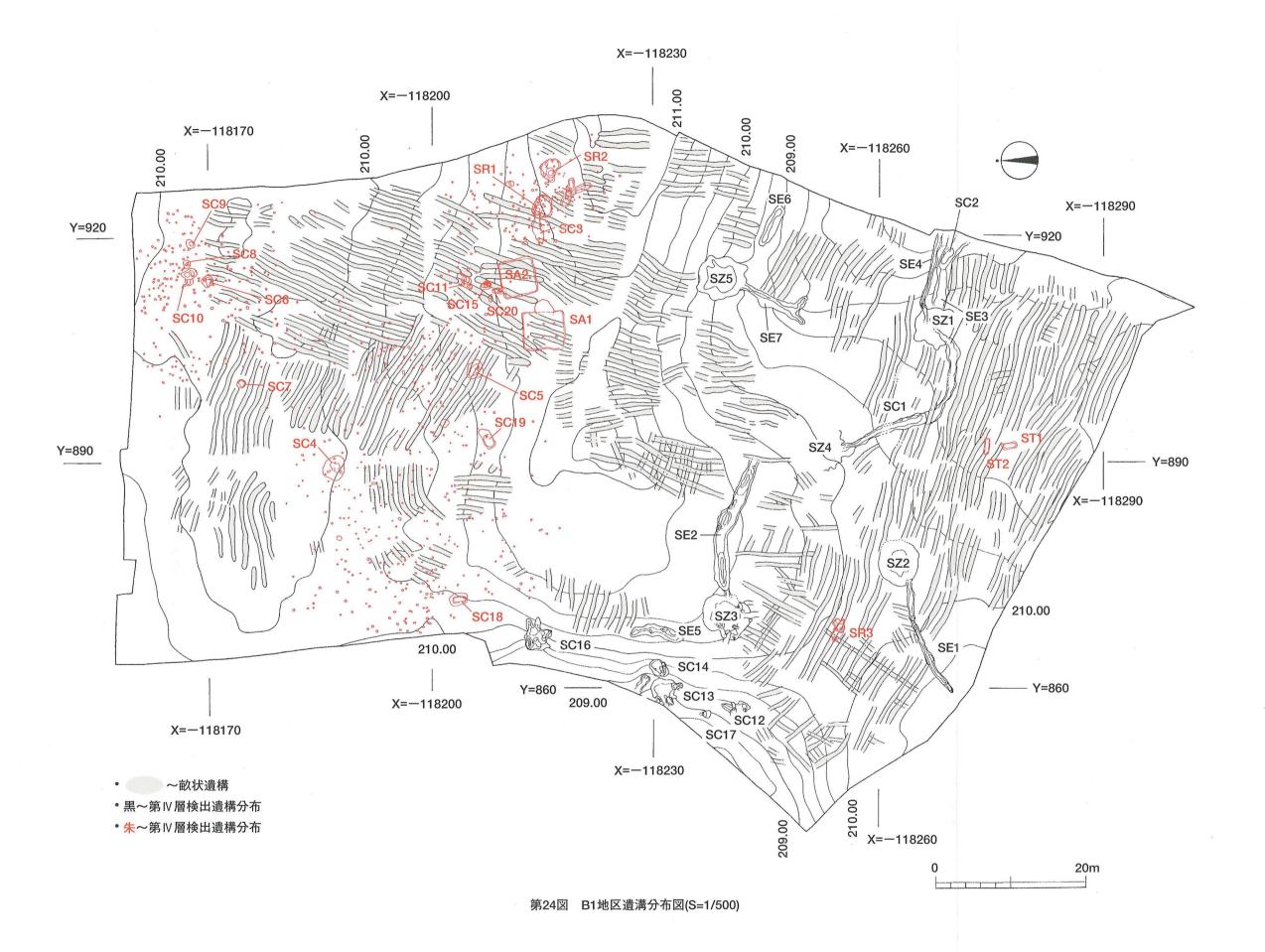
縄文時代の遺構は確認されていないが、第IV層中に縄文時代後期の土器が数点出土している。出土した遺物は第25・26図に示している。76・77は深鉢で、同一固体である。口縁部に棒状工具による斜位の押線文と口唇部に粘土紐を貼り付け、押圧刻み目を施している。器面調整は内外器面ともヘラナデである。78は深鉢の口縁部である。79は波状口縁を呈する深鉢である。口縁の下に突帯を貼り付け、口縁部には弧状に沈線文を施している。外器面は貝殻条痕調整で、ススが付着している。80は深鉢の胴部で、内外器面とも貝殻条痕調整である。外器面に円形貼付文状の突起がみられる。81~83は深鉢の口縁付近である。81は刻み目を持つ貼り付け突帯と沈線が施されている。82は波状口縁になると思われる。口縁に工具による連続刺突が施されている。83は突帯を貼り付けた後、指による刻みを施している。84・85は胴部片である。外器面に弧状の沈線文が施されている。86は胴部片で、外器面に交差する斜方向の沈線が施されている。87・88は深鉢の底部である。89~97は打製石鏃である。89・90は頁岩製、91~93、95~97はチャート製、94は黒曜石製である。98はチャート製の石匙である。99はチャートを用いた使用痕剥片である。

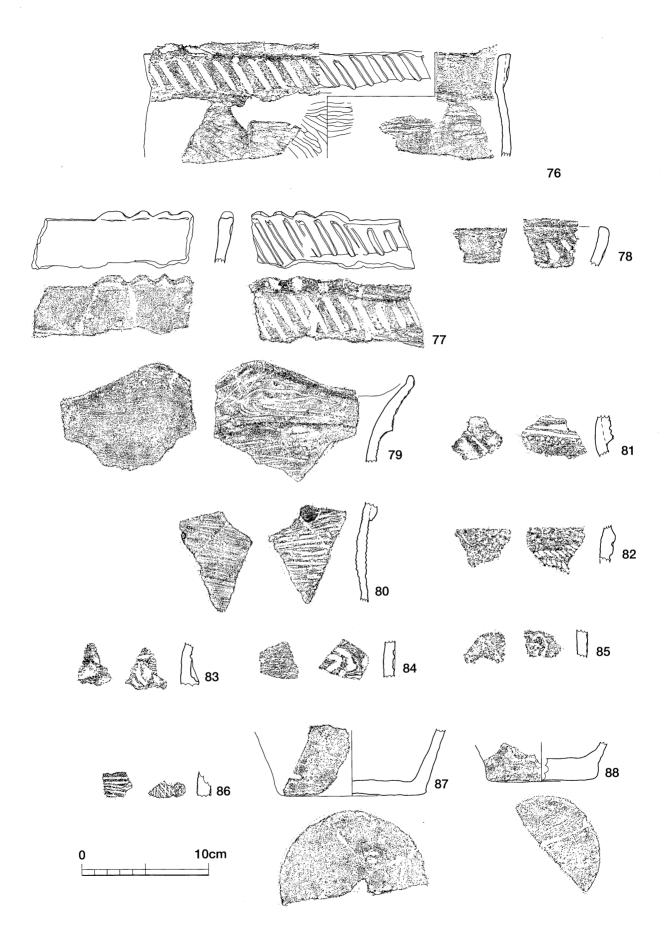
#### (2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物

#### 竪穴住居

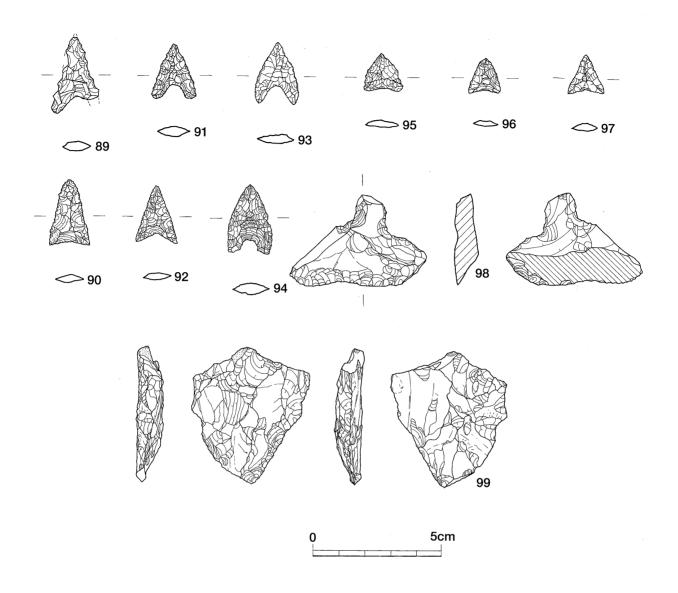
# 。 1 号竪穴住居(SA1、第27図)

B1地区の東側中央微高地に位置する。長軸5.55m、短軸5m、検出面からの深さ約0.3mの方形プランである。遺構に伴う遺物は少ないが、北側中央壁際に土壙状の落ち込みが検出され、多くの炭化材や焼土が堆積していた。主柱穴は6本で、東側壁は別の遺構に切られている。出土遺物は第28図に示している。100・101は長胴形の壺で、外器面に縦ハケ目が施されている。丸味を持つ底部で、口唇部は平らに仕上げられている。102は壺の口縁部である。緩やかに頸部がくびれ、口唇部に向かって若干外反しながら立ち上がる。103・104は甕である。103は胴部最大径と口径がほぼ同じで、くびれ部に刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。104は小さい平底の底部から逆ハの字状に胴部が延びている。105は高杯の脚部である。裾が広がる脚柱部の短いものと思われる。





第25図 B 1地区出土縄文土器実測図(S=1/3)



第26図 B 1 地区出土石器実測図(S=2/3)

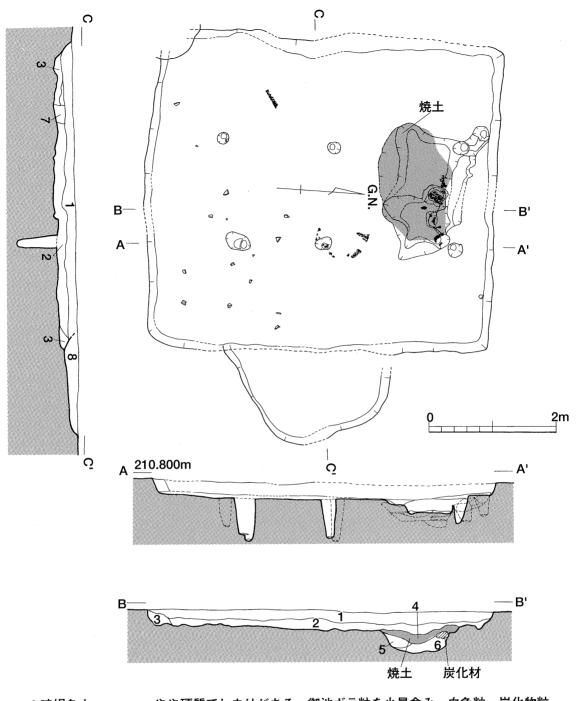
### 。 2 号竪穴住居(SA2、第29図)

1号竪穴住居の東隣に位置する。 $5\times 5$  mの方形プランを呈し、検出面からの深さは約0.35mである。主柱穴は直径が $15\sim 20$  cm程で、床面からの深さ約65 cmの2 本柱である。出土した遺物は第30図に示している。 $106 \cdot 107$ は壺である。丸味を帯びた平底と球形の胴部を呈する。 $108\sim 112$ は甕である。 $108 \cdot 109$ は同一固体と思われる。頸部が緩やかに「く」の字に屈曲し、底部は上げ底を呈する。外器面には平行タタキが施される。110は平底を呈し、バケツ状に胴部が延びるが、口縁部下に若干のくびれを持つ。口縁に最大径を持つ。外器面は丁寧にハケ目が施されている。 $111 \cdot 112$ は若干上げ底の底部である。 $113 \cdot 114$ は鉢である。

# 土壙

# 。 3 号土壙 (SC3、第31図)

調査区中央東側、2号竪穴住居址の東側に位置する。長軸3.3m、短軸1m、深さ0.95mの不整形な



1 暗褐色土 ………やや硬質でしまりがある。御池ボラ粒を少量含み、白色粒、炭化物粒

等を若干含む。

2 暗褐色土 ………粒子が粗く、やや軟質。御池ボラ粒、白色粒、炭化材および炭化物粒

等を多く含む。

3 褐色土…………粒子が粗く、やや軟質。御池ボラ粒、炭化物粒を若干含む。

4にぶい赤褐色土……焼土。

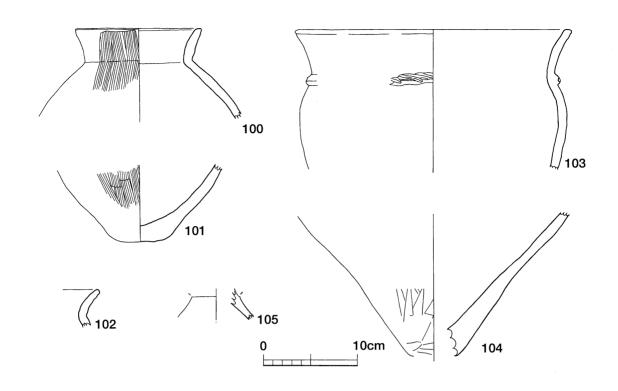
5にぶい黄褐色土……焼土粒を若干含む。

6 褐色土……やや軟質。御池ボラ粒、炭化物粒を若干含む。

7褐色土………焼土粒多く含み、御池ボラ粒、白色粒、炭化物粒等を若干含む。

8 暗褐色土………1 層に似るが、色調がやや暗い。別遺構の埋土。

第27図 B 1地区 1号堅穴住居(SA1)実測図(S=1/3)



第28図 B 1地区1号堅穴住居(SA1)出土遺物実測図(S=1/4)

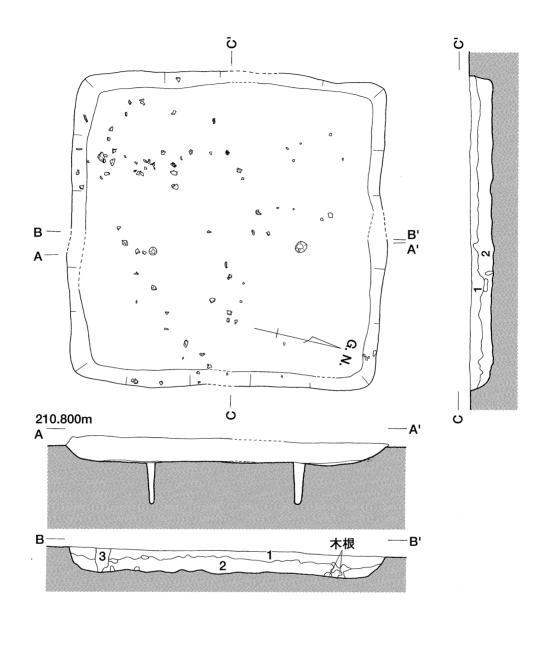
楕円形プランを呈する。土壙の東隣りには1号炉があり、その周辺のにじみ部とつながるかたちで確認された。埋土中からは古墳時代の土師器片が多く出土している。出土遺物については第32図に示している。115は壺の底部である。小さい平底を呈し、球形の胴部をもつものと思われる。116~119は甕である。116・117は同一個体である。頸部で緩やかに屈曲し、口縁に最大径を持つものである。外器面にススが付着している。118は上げ底を呈する小型の甕である。内外器面に丁寧なハケ目が施されている。119は刻み目を持つ貼り付け突帯を持つ甕である。120は高杯の裾部である。

#### 。19号土壙(SC19、第31図)

調査区の中央部、やや北寄りに位置する。長軸2.9m、短軸1.38m、検出面からの深さ約0.26mの楕円形プランを呈する。土壙中央には二個体の土器(壺と甕)が圧し潰されたように重なっていた。土器周辺の土壙中央部の埋土には、炭化物が多く混在しており、甕は頸部にススが付着していた。また、土壙中央には土器下部に柱穴状の落ち込みがある。土壙に伴うものではないと思われる。出土遺物については第32図に示している。121は丸みを帯びた平底と球形の胴部を持ち、頸部が「く」の字に屈曲する壺である。調整は、外器面にハケ目と一部ミガキ、内器面は口縁部にミガキと胴部にハケ目がみられる。122は脚台付き甕である。口縁部に最大径を持ち、くびれ部だけにススが付着している。123は張った胴部上位から緩やかに頸部がくびれ、口縁に最大径を持つ甕である。口唇部は平らに仕上げている。

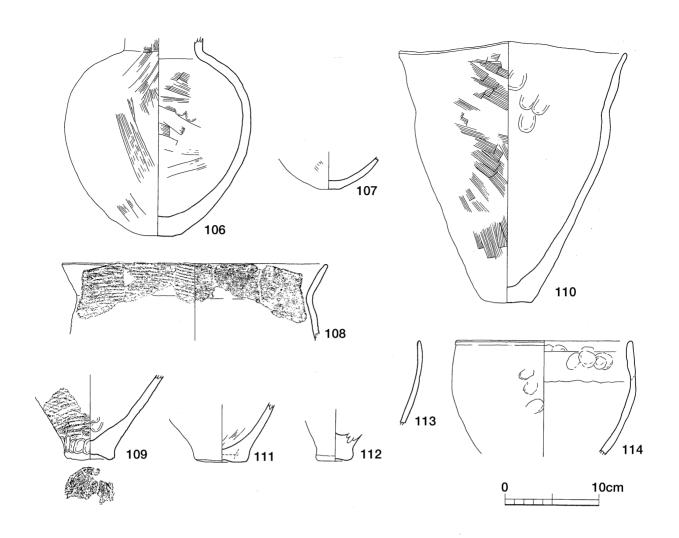
# 遺構外出土の遺物(第33~39図)

124~126は複合口縁壺である。125は口縁部にヘラ状工具による斜方向の刻み目がみられる。127・12 8は長頸壺である。127は丸底に球形の胴部を呈する。外器面はミガキ調整である。129は小型壺か。130



- 0 2m
- 1 褐色 土…粒子が細かく、ややしまりがある。御池ボラ粒、白色粒を若干含む。
- 2 褐 色 土…粒子が粗く、やや軟質でしまりがある。御池ボラ粒、白色粒を多く含み、牛の 脛上層ブロックを含む。
- 3 暗褐色土…軟質。白色粒および炭化物粒を若干含む。上からの柱穴。

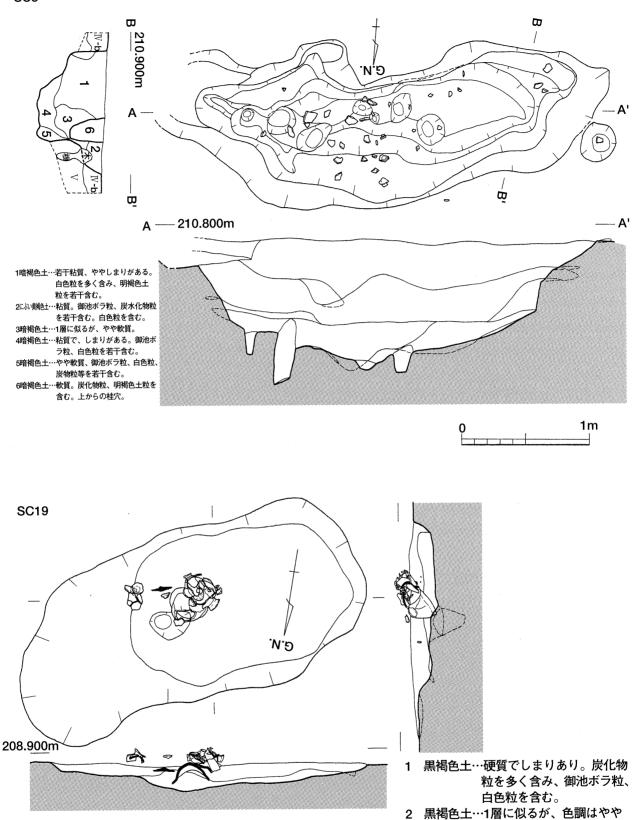
第29図 B 1 地区 2 号堅穴住居(SA2)実測図(S=1/60)



第30図 B 1地区 2 号堅穴住居(S A 2 )出土遺物実測図(S = 1 / 4 )

は小型壺で、胴部が球形になると思われる。短い口縁には櫛描波状文が施されている。131・132は重弧文土器である。133~135は頸部がくびれ、口唇部に向かって口縁が広がるタイプの壺である。136は球形の胴部を持つと思われる壺である。137~139は肩が張った半球形の胴部を呈すると思われる広口の壺である。140は胴部中位が張った半球形の壺で、小さい平底を呈する。141は肩の張った長胴形の壺か。142・143は同一固体で、長胴の壺と思われる。144は丸みを帯びた平底と長胴形の球形を呈する。145~148は長胴形の壺の底部である。146は丸底、147は小さい平底、148は尖底を呈する。149・150は同一個体である。肩の張った半球形の壺か。151は若干長胴気味の球形を呈する壺と思われる。152は器壁が薄く、布留系の壺と思われる。153は粘土をつまみ出してつくった突帯に、刻み目を施した壺の胴部と思われる。154~162は壺の底部である。154・155は長胴形の壺か。154は平底、155は丸底を呈する。156は平底の小さい平底の底部から逆への字状に胴部が延びるものと思われる。157は長胴形で丸底の小型壺である。163・166・167は頸部が「く」の字に屈曲する甕である。163は胴部上位と口縁に最大径を持ち、口唇部を平らに仕上げている。164・165は平行タタキが施された甕である。168・169は同一固体で、緩やかに頸部がくびれ、口縁が外反しながら延びる甕である。170は胴部中位に最大径を持つ球形の胴部を呈する甕である。171の甕はいびつな器形を呈する。丸みを帯びた胴部から底部にかけて外に広がるように胴部が延びている。172~183は、刻み目のある貼り付け突帯を有する甕である。172~174は

208.400m



第31図 B 1 地区 3 • 19号土壙 (S C 3 • 19) 実測図 (S = 1 /60)

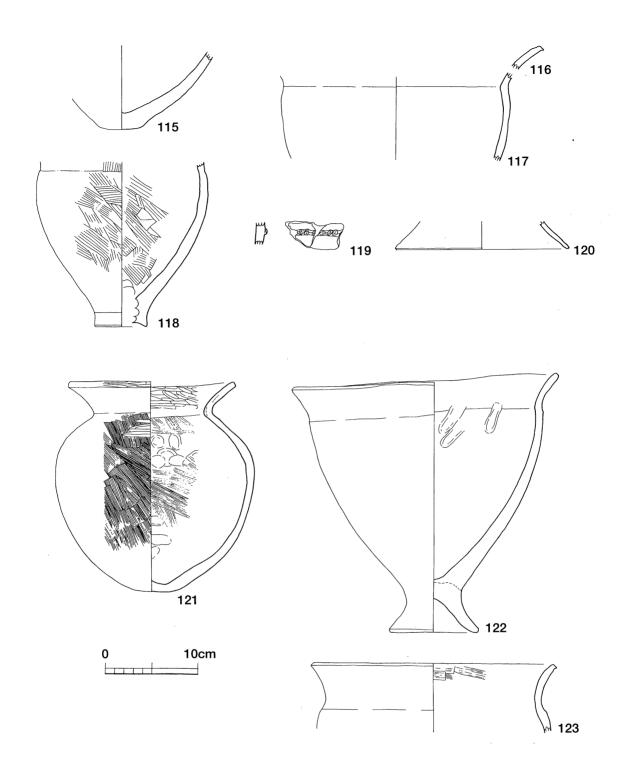
3

明るい。

を含む。

3 暗褐色土…やや軟質。炭化物粒を多く

含み、御池ボラ粒、白色粒



第32図 B 1 地区 3 号 (115~120) • 19号 (121~123) 土壙出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

「く」の字に屈曲する頸部に貼り付け刻み目突帯を有している。 $175\sim179$ は緩やかにくびれる頸部に貼り付け刻み目突帯を有している。180は底部から胴部にかけて内湾しながら延び、若干くびれを持って口縁がわずかに外反する器形の甕である。くびれの下に貼り付け刻み目突帯を有する。 $181\sim183$ はくびれを持たない甕に貼り付け刻み目突帯を有するものである。 $185\sim186$ は口唇部に刻み目を持つものである。貼り付け刻み目突帯を持つ甕の口唇部になると思われる。 $187\sim204$ は甕の底部である。 $187\circ188$ は上げ底で底部が外反している。 $189\sim196$ は平底である。 $189\circ192\circ193$ は底部が若干外反する。 $195\circ196$ は底部から胴部にかけて膨らみを持って立ち上がる器形を呈している。 $197\circ198\circ204$ は平底の底部で、

底部から立ち上がった部分にくびれを持ち、膨らみのある胴部を呈する。199は上げ底である。200は甕の脚台部である。201は平底で、底部から胴部が真っすぐ立ち上がる。202は底部にくびれを持つ平底である。203は底部がわずかに外反し、中央に凹がある。205~213は高杯の杯部である。205は外器面、2066は内外器面に底部の明瞭な稜線がみられる。207~210は大きく開く口縁部を有する。211・212は同一個体で、外器面に丹塗りが施されている。214~221は高杯の脚部である。214はラッパ状に脚柱部から裾にかけて開き、穿孔を持つ。216は直線的な脚柱部に丁寧なミガキが施され、穿孔を持つ。222~224は小杯か。225は浅鉢か。226・227は椀か。228~230は小型の鉢である。231~235は脚台付きの鉢か甕の脚台部である。236~241は小型の壺である。239は尖底気味の丸底、240・241小さい平底を持つ。242・243は外器面に丹塗りの施された小型の壺である。244・245は小型の甕である。246刻み目を持つ貼り付け突帯を有する小型の甕である。247は手づくねの小坏である。248・249は須恵器である。同一固体の可能性があり、俵壺か。外器面は格子目タタキで内器面は放射状の当て具痕がみられる。

# (3) 古代の遺構と遺物

# 畝状遺構(第24図)

古代の畠跡と思われる畝状遺構を第IV層上で検出した。畝状遺構は、畝の盛土の明確な確認はできず、平面的に平行して走る黒褐色土の溝として捉えた。畝状遺構は調査区の全体に分布している。遺存状況が良好でないため畠の区画は明瞭でないが、切り合い、重なり合いながらいくつかの区画がみられる。①調査区の北から東側に、北北東-南南西方向に平行して走る畝状遺構が3区画ほど切り合っている。②調査区の北から西側に、南東-北西方向と東-西方向に平行して走る畝状遺構が5区画ほどみられる。③調査区南側に、南東-北西方向に平行して走る畝状遺構がある。いくつかが重なっていると思われるが区画は明瞭でない。いずれも畝状遺構の溝の長さは15~20m、20m以上と比較的長く、溝幅は0.7~0.8mを測る。畝状遺構は等高線に直交するものがほとんどで、微地形にあわせて溝の走行方向が変化している。栽培作物は確認できなかった。

### 竪穴状遺構

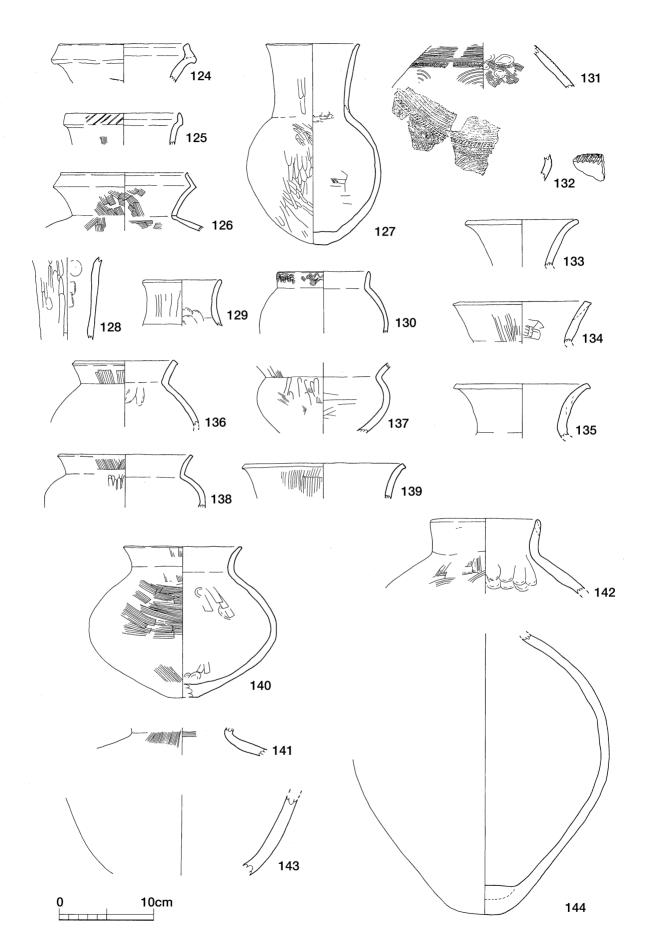
# 1~5号竪穴状遺構(SZ1~5)

調査区の南側に分布がみられ、畝状遺構と同じ第IV層上で検出されている。いずれも直径約6m、検出面からの深さ約0.4mの不定円形プランを呈する。埋土は黒色土と焼土で、埋土を除去すると木根状の横方向に延びる穴が無数に確認される。遺物は出土していない。ここでは3号竪穴状遺構のみ図示している(第40図)。遺構の性格については定かではないが、焼土について自然科学分析を行なった結果、クスノキと分析されていることから、立ち枯れした木の木根跡の可能性が考えられる。しかし、これらの竪穴状遺構は溝状遺構と連結した状態で確認されているため、このセットで考えると遺構の性格は不明である。時期については埋土状況からみて古代と推測する。

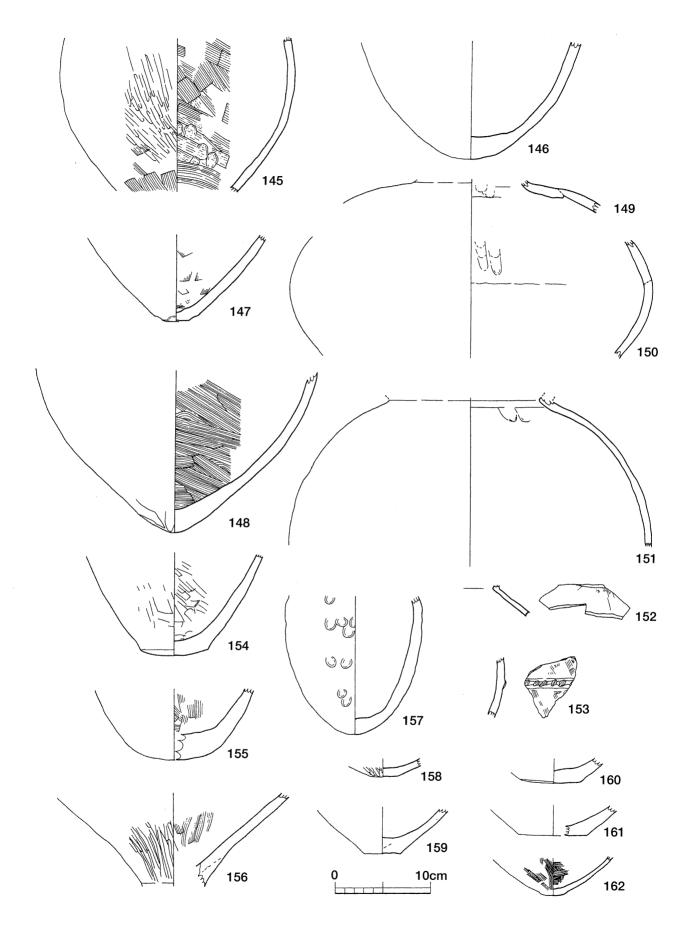
#### 溝状遺構

# 1~7号溝状遺構(SE1~7)

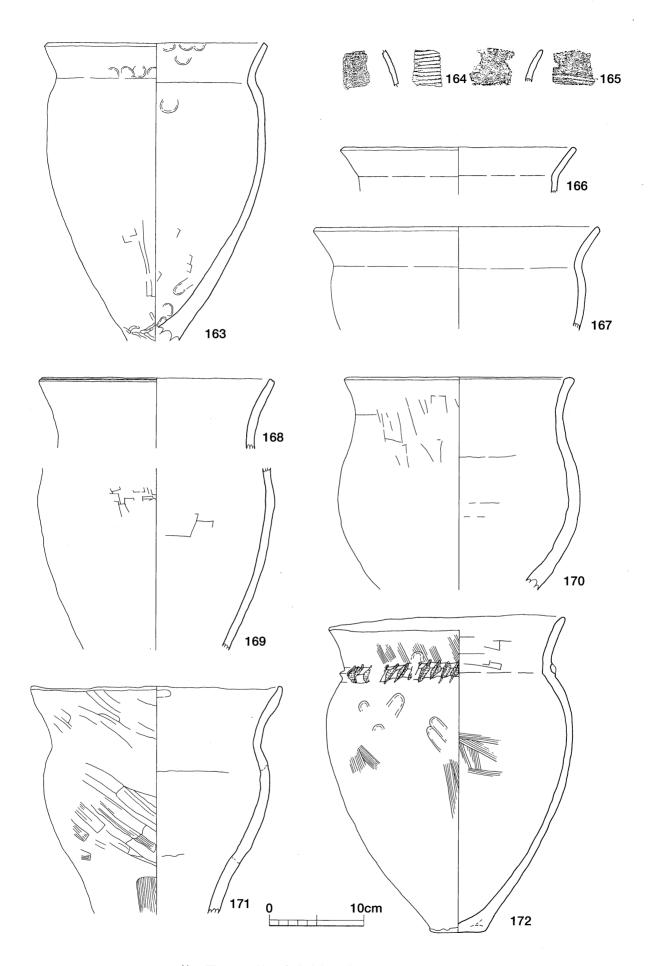
溝状遺構は第Ⅳ層上で検出している。1号溝状遺構は南西から北東に流れる長さ約16m、幅約0.8m 、



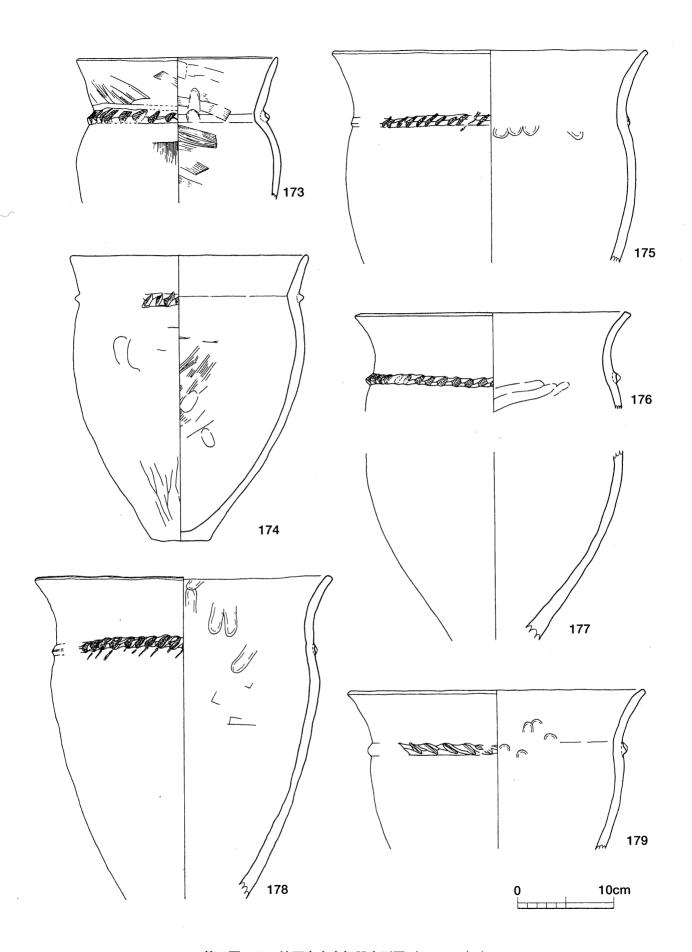
第33図 B 1 地区出土弥生土器・土師器実測図(S=1/4)



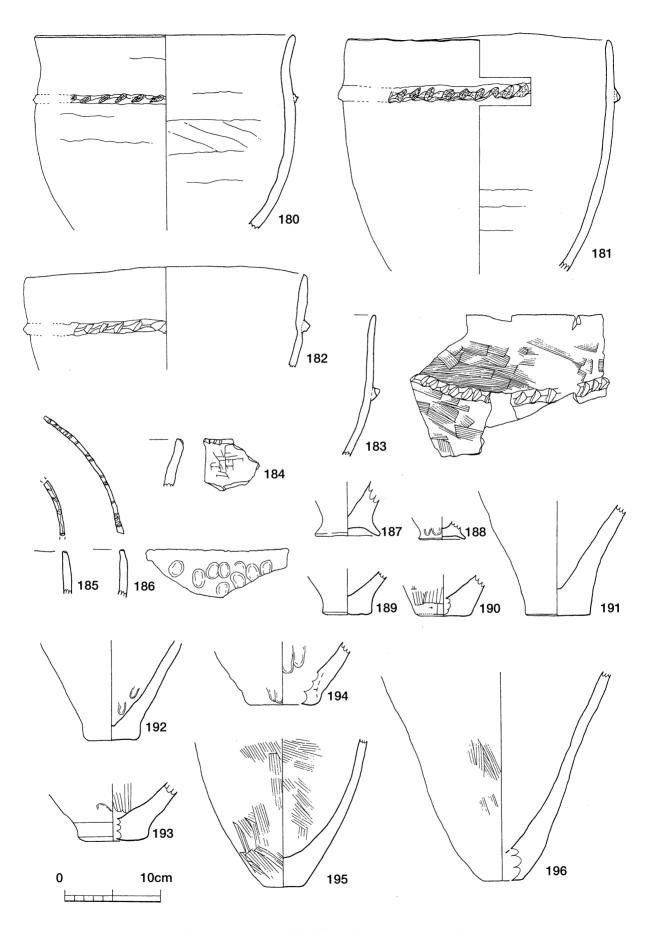
第34図 B 1 地区出土土師器実測図(S = 1 / 4)



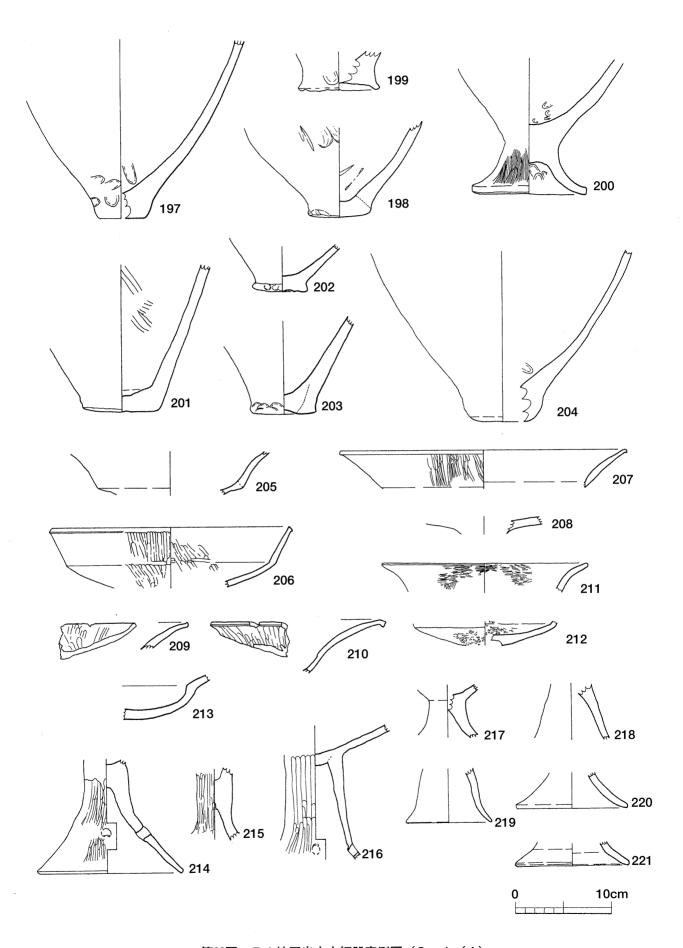
第35図 B1地区出土土師器実測図(S=1/4)



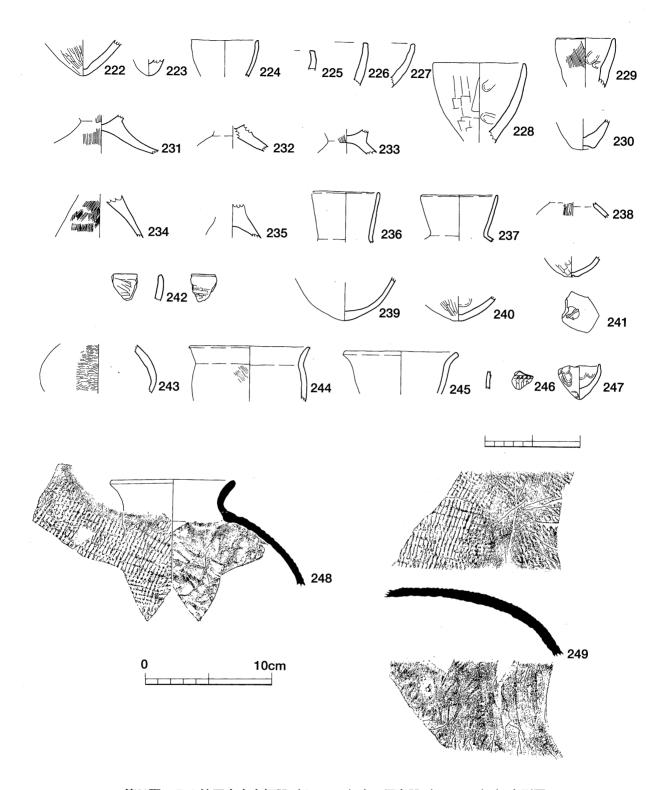
第36図 B 1 地区出土土師器実測図(S = 1 / 4)



第37図 B 1 地区出土土師器実測図(S = 1 / 4)



第38図 B1地区出土土師器実測図(S=1/4)



第39図 B1地区出土土師器(S=1/4)・須恵器(S=1/3)実測図

検出面からの深さ約0.1mを測り、2号竪穴状遺構につながる。2号溝状遺構(第40図)は東西に走り、長さ約19m前後、幅2m前後、検出面からの深さ約0.2~0.3mを測る。若干西側が低くなり、3号竪穴状遺構につながる。出土遺物は第41図に示している。250・251は内面へラケズリの甕である。252は高台付坏、253は土師器の坏部である。3号溝状遺構は東西方向に蛇行しながら走る溝で、1号・4号竪穴状遺構と連結する。検出面からの深さ約0.1~0.2m程と浅い。4号溝状遺構は1号竪穴状遺構から流れ出す溝である。5号溝状遺構は調査区の西側に位置する。等高線と平行して走り、長さ約7m、幅約

1.2m、検出面からの深さ約0.2mを測る。6 号溝状遺構は調査区の東側に位置する。等高線に平行して走り、長さ約6 m、幅約1.4mを測る。7 号溝状遺構は5 号竪穴状遺構につながる。遺物によって時期が判別できるものは2 号溝状遺構のみであるが、埋土状況はすべて同じであるため、古代の遺構として捉えている。

# 遺構外出土の遺物

出土遺物は、甕、鉢、坏、高台付坏、黒色土器、須恵器、布痕土器などである。古代の遺物は、第IV 層の遺物包含層中から多量に出土しており、特に1・2・3号炉跡周辺に集中している。

古代の遺物(甕・坏・高台付坏・黒色土器)に関しては、B1・2・4地区全体を通して形態及び調整技法から分類を行なうので、分類基準をここに示す。

### 第6表 古代の土器分類基準表

#### 甕

A類 口縁端部をわずかにつまみ出し、外反するもの。

- 1 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 2 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 3 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 4 内器面ヘラケズリ、外器面タタキで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。

B類 口縁端部を大きくつまみ出し、外反するもの。

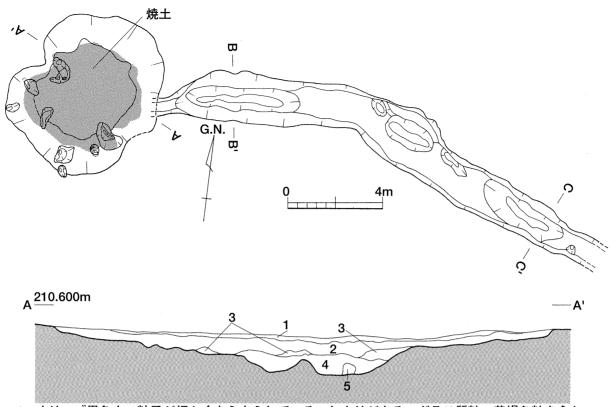
- 1 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 2 内器面へラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 3 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。

### C類 口縁部が直線的に延びるもの。

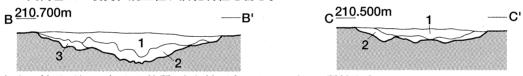
- 1 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 2 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 3 内器面へラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 4 内器面ナデ、外器面ナデ

#### D類 口縁部が外反もしくは直線的に外方に開くもの。

- 1 内器面へラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 2 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 3 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 4 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 5 内器面ヘラケズリ、外器面タタキで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 6 内器面ヘラケズリ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 7 内器面ヘラケズリ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 8 内器面ナデ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 9 内器面ナデ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。

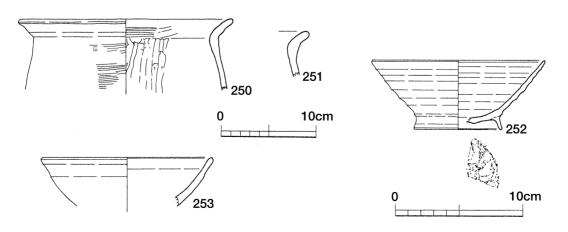


- 1 オリーブ黒色土…粒子が細かくさらさらしている。しまりがある。ガラス質粒、黄褐色粒を含む。
- 2 オリーブ黒色土…粒子が細かくさらさらしている。しまりがある。白色粒、黄褐色粒を多く含む。
- 3 暗オリーブ褐色土…やや軟質でしまりがある。黄褐色粒を多量に含み、炭化物粒、焼土粒を若干含む。
- 4 暗褐色土…やや軟質。焼土および焼土粒、炭化材を多く含む。
- 5 にぶい黄褐色土…硬質。焼土粒、炭化物粒を含む。



- 1 黒色土…粒子が細かく、やや軟質。白色粒が含まれる。ガラス質粒を含む。 2 黒色土…粒子が粗く、ややしまりがある。暗オリーブ褐色土が混ざる。 1<sub>m</sub> 白色粒を含む。
- 3 暗オリーブ褐色土…粒子が細かく、軟質でしまりがない。フカフカして いる。黒褐色土が若干混ざる。

B1地区3号竪穴状遺構(SZ3)及び2号溝状遺構(SE2)実測図 (S=1/160、土層S=1/4)



第41図 B1地区2号溝状遺構(SE2)及び4号竪穴状遺構(SZ4)出土遺物実測図  $(250 \cdot 251, S = 1 / 4, 252 \cdot 253, S = 1 / 3)$ 

### E類 口縁部が大きく外方に開くもの。

- 1 内器面へラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 2 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 3 内器面へラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 4 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 5 内器面へラケズリ、外器面タタキで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 6 内器面ヘラケズリ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 7 内器面ナデ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 8 内器面ナデとヘラケズリ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。

# 坏

坏の底部は全てヘラ切りである。

A類 体部から口縁にかけて内湾気味に延びる。

- 1 口縁部が直行するもの。
- 2 口縁部が内湾するもの。
- 3 口縁部が外反するもの。

B類 体部から口縁にかけて直線的に延びる。

- 1 口縁が直行するもの。
- 2 口縁が外反するもの。

C類 体部から口縁にかけてやや外反気味に延びる。

#### 高台付坏

A類 円盤状高台

# B類 高台

- 1 外方に延び、断面台形状になるもの。
- 2 外方に延び、先端が平坦気味に近いもの。
- 3 外方に延び、先端が丸味をもつもの。
- 4 外方に延び、先端が尖り気味になるもの。
- 5 外方に延び、先端が外反するもの。
- 6 外方に開き、先端が尖り気味になるもの。
- 7 外方に開き、先端が平坦気味になるもの。
- 8 外方に開き、先端が丸味をもつもの。
- 9 高台の高さが低く、断面台形状になるもの。
- 10 ほぼ直立し、断面台形状になるもの。
- 11 ほぼ直立し、先端が尖り気味になるもの。

# 黒色土器

坏部A類 体部から口縁にかけて内湾気味に延びる。

- 1 口縁部が直行するもの。
- 2 口縁部が内湾するもの。
- 3 口縁部が外反するもの。

坏部B類 体部から口縁にかけて直線的に延びる。

底部A類 高台なし

底部B類 高台付坏

高台1 外方に延び、先端が丸味をもつもの。

- 2 外方に延び、先端が平坦になるもの。
- 3 ほぼ直立し、断面三角形状になるもの。
- 4 ほぼ直立し、断面方形状になるもの。
- 5 内湾し、先端が丸味をもつもの。

B1地区出土の古代の土器について分類する。

# 甕 (第42~44図)

A類-1:254 D類-1:269~273 E類-1:287、288

A類-2:256、258、259 D類-2:276~280 E類-2:289、290

A類-4:255 D類-3:274、275 E類-4:291

B類-1:260 D類-4:281 E類-7:293、294

B類-2:264、265 D類-5:282~284 E類-8:295、296

B類-3:262、263 D類-8:285

C類-1:266 D類-9:286

C類−4:268

297~299は鉢である。297は口縁部が外方に開き、内外器面ともナデ調整である。298・299は口縁部をつまみ出して外反させ、内面屈曲部に明瞭な両を持つ。外器面には格子目タタキが施されている。

## 坏 (第44~45図)

A類-1:300、301、304~314 B類-1:315

A類-2:302 C類:316

A類-3:303

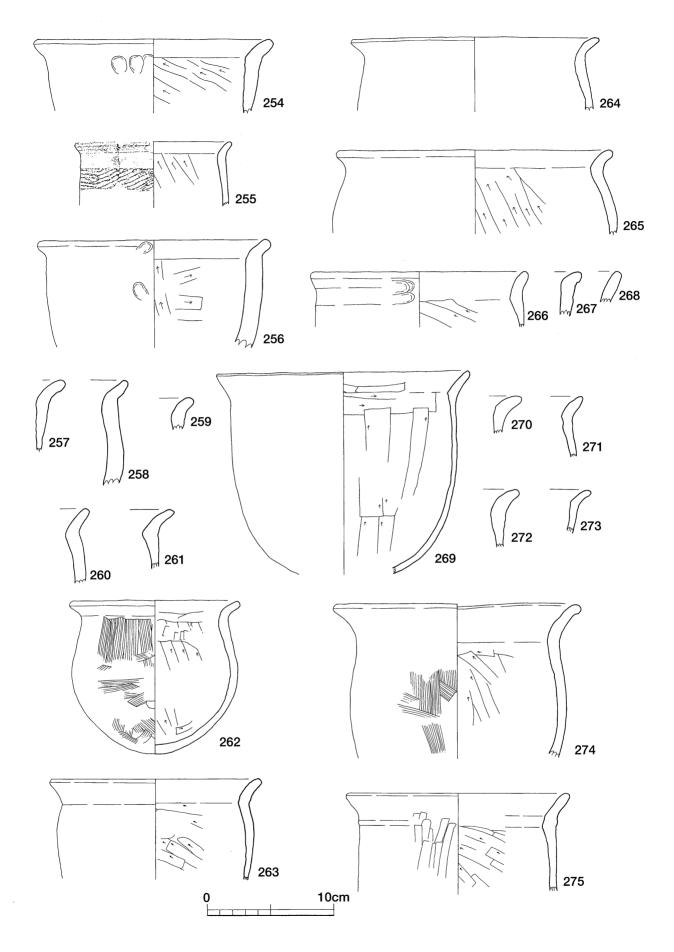
# 高台付坏(第45~46図)

A類: 322 B類-6:327、328、338

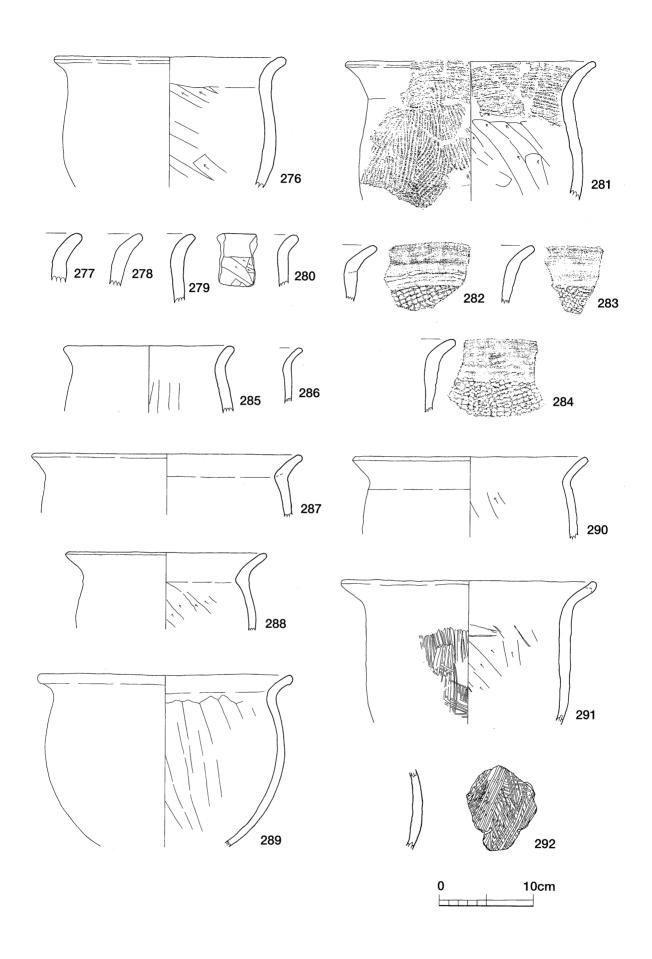
B類-1:323 B類-7:336

B類-2:326 B類-9:324、325

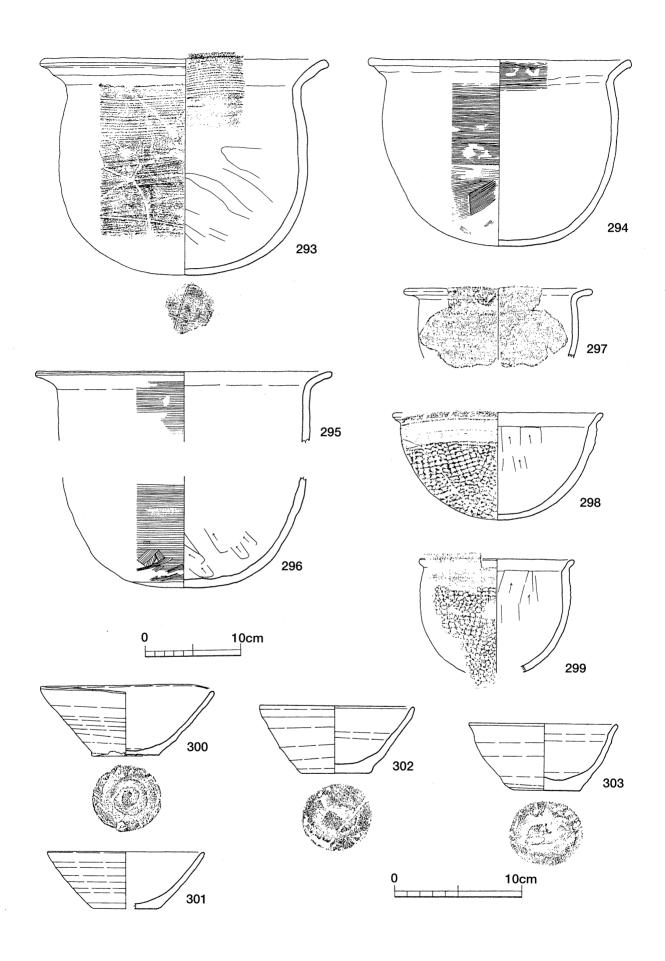
B類-3:339 B類-10:337



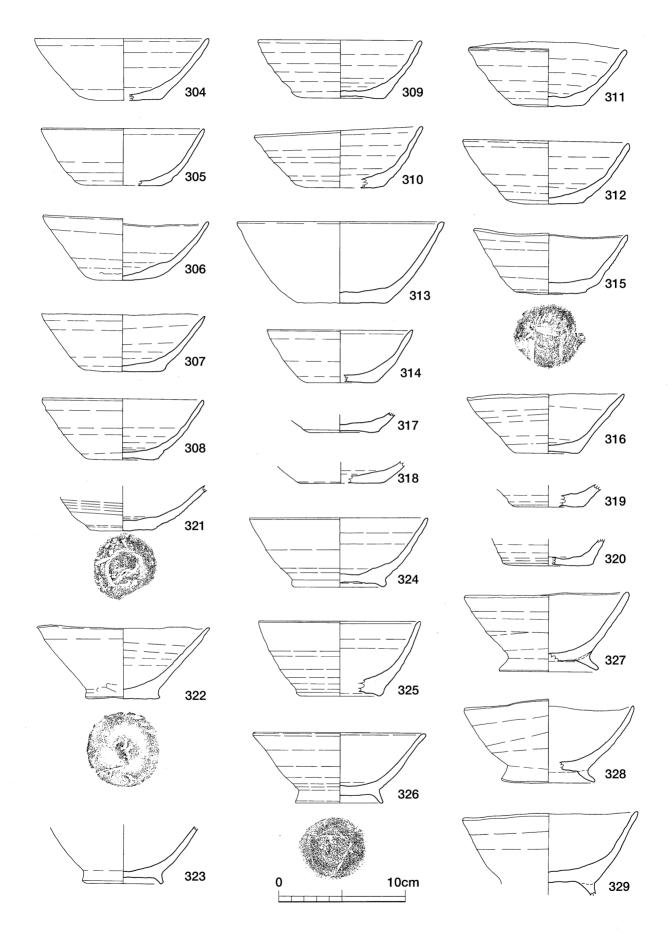
第42図 B 1地区出土土師器実測図(S = 1 / 4)



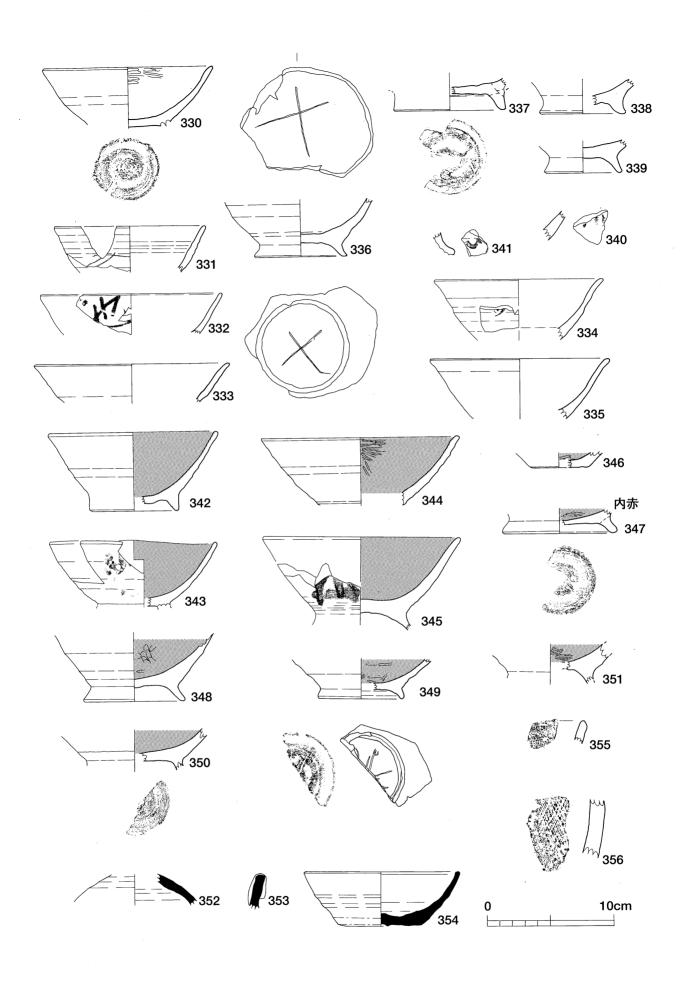
第43図 B 1地区出土土師器実測図(S=1/4)



第44図 B 1 地区出土土師器実測図 (293~299、S = 1 / 4,300~303、S = 1 / 3)



第45図 B 1地区出土土師器実測図(S = 1 / 3)



第46図 B1地区出土土師器・須恵器実測図(S=1/3)

331は体部に線刻がみられる。 $332 \cdot 340 \cdot 341 \cdot 344$ は墨書土器である。332は「他」か。341は器種、部位が不明であるが、ここでは、高台として捉えている。336は内面底部と高台内にヘラ記号「+」が記されている。

### 黒色土器 (第46図)

底部 A 類:346

底部 B 類 - 1:347、348

底部B類-3:342

底部B類-5:349

343・345は墨書土器である。347は内赤土器である。349は高台内に線刻がみられる。

### 須恵器 (第46図)

352は小型壺の頸部付近である。353は甕の口縁部である。354は坏で、底部ヘラ切りである。

### 布痕土器 (第46図)

355と356は内面に布目圧痕を持つ坏であると思われる。

### (4) その他の遺構と遺物

### 掘立柱建物跡(SB1~3、第47図)

掘立柱建物跡は、3棟検出された。当遺跡では、柱穴の検出にかなり困難を要し、さらに柱穴が検出されても、建物の確認は容易でなかった。今回確認された建物は、1間×2間、2間×3間のものである。柱穴から出土した遺物は古墳時代や古代の土師器片、砥石、磨石などである。柱穴間の距離については図に示している。

#### 1号掘立柱建物跡(SB1)

調査区の東側中央に検出された。主軸を $N-41^\circ-E$ にとる1間×2間の建物である。梁 $3\sim3.2$ m、桁行4mを測る。柱穴径は $20\sim30$ cmで、深さは $40\sim80$ cmである。

#### 。 2 号掘立柱建物跡 (SB2)

調査区の東側中央、 3 棟並ぶ掘立柱建物跡の一番北側に位置する。主軸を $N-85^{\circ}$  -Wにとる 2 間× 3 間の建物である。梁5.5m、桁行5.2mを測る。柱穴径は $15\sim40$ cmと格差があり、底レベルも一様ではない。

#### 。 3 号掘立柱建物跡(SB3)

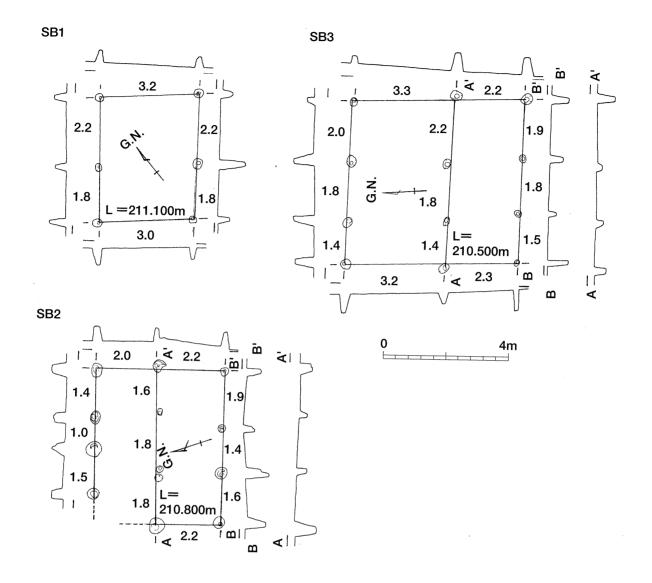
調査区の東側中央、1 号と 2 号掘立柱建物跡の間に位置する。主軸を $N-70^\circ$  30' - Wにとる 2 間× 3 間の建物である。梁4.2m、桁行4.9mを測る。柱穴径は15~40cmと格差があり、底レベルも一様ではない。北西側の柱穴は確認できなかった。

# 土壙

検出された土壙は総数20基である。出土遺物などから時期が判別出来るものは2基(古墳時代:SC3・SC19)だけである。埋土の状況から見て、畝状遺構の時期に伴うものとそれ以前の時期のものとに大きく分けることができると思われるが、ここでは時期不明の土壙として分類している。紙面の都合上遺構図を示すことが出来ないので、2号土壙と12号土壙についてのみ記述し、その他については第7表土壙計測表にまとめる。

第7表 B1地区土壙計測表

土 壙番 号	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	備考
S C 1	隅丸長方形	(5.0)	1.4	0.3	炭化材を多く含む	
S C 2	隅丸長方形	2.2	1.0	0.8	炭化材:クスノキ出土	
S C 3	不定楕円形	3.3	1.0	1.0		
S C 4	不定円形	3.15	2.75	0.3		
S C 5	不定楕円形	2.6	2.1	0.26		
SC6	不定円形	1.6	1.45	0.3		
S C 7	円 形	1.0	1.0	0.16		
S C 8	楕 円 形	1.15	0.8	0.26		中央に 深さ0.74mのピット
S C 9	円 形	1.15	1.05	0.21		
S C 10	不 定 形	2.35	2.1	0.38		
S C 11	不 定 形	2.5	1.5	0.38		
S C 12	不 定 形	4	0.5	0.25	炭化材:クスノキ出土	長軸両端に 深さ0.55mのピット
S C13	不 定 形	4.2	4.0	0.1		竪穴状遺構(S Z) と同じ性格か
S C 14	楕 円 形	1.4	1.0	0.19		
S C 15	不定楕円形	1.55	1.08	1.33		
S C 16	不 定 型	4.4	3.6	0.2		竪穴状遺構(S Z) と同じ性格か
S C17	円 形	1.1	1.0	1.4		
S C 18	楕 円 形	2.45	1.6	1.85		
S C 19	長楕円形	2.85	1.35	0.2	古墳時代:壺、甕	
S C 20	長楕円形	(1.8)	0.75	0.25		



第47図 B 1 地区 1 • 2 • 3 号掘立柱建物跡 (SB 1 • 2 • 3) 実測図 (S = 1 / 120)

### 。 2 号土壙 (SC2、第48図)

調査区の南東側、第IV層上で検出した。土壙の落ち込み本体は長軸約2.3m、短軸約0.8m、深さ約0.75 mの隅丸長方形を呈する。地形が西から東に緩傾斜しているため、土壙に向かって水の流れ込みがあったのか、検出時には幅1.6m程の溝状のにじみであった。土壙埋土には、焼土や炭化材がみられ、炭化材は土壙の壁面に薄く張りついていた。炭化材について自然科学分析を行なった結果、クスノキの炭化材であることがわかった。土壙壁面は硬化しており、水の浸透によって鉄分が沈着している。性格不明の土壙である。

### 土層註記

- 1 黒色土……軟質でサラサラしている。ガラス質細粒子含む。(基本層序第Ⅲ—b層か)
- 2 黒褐色土……第1層より粒子が粗で、しまりあり。ガラス質粒子多く含む。(基本層序第Ⅲ—c層か)
- 3 黒色土……しまりあり。ガラス質粒子。御池ボラ粒含む。
- 4 にぶい黄褐色土……ややしまりあり。黒褐色土が混在する。

- 5 オリーブ黒色土……しまりあり。小石粒を若干含む。
- 6 暗赤褐色土……非常に硬く、しまりあり。細粒子土。
- 7 黒色土+褐色土 (焼土) ……やや軟質。
- 8 オリーブ褐色土……軟質でやや粘性あり。
- 9 黒褐色土……軟質。第7層土、御池ボラ粒を若干含む。やや粘性あり。
- 10 黒色土……第9層より粘性あり。軟質。炭化物粒含む。
- 11 灰色土……非常に硬い。壁面側には鉄分の沈着がみられる。
- 12 黒褐色十……ややしまりあり。
- 13 黒褐色土……ややしまりあり。御池ボラ粒をわずかに含む。
- 14 暗褐色土……軟質でもろい。炭化材を含む。
- 15 黒色土……第9層とほぼ同じ。若干御池ボラ粒を多く含む。
- 16 黒色土……もろく崩れやすい。炭化材が入っている。
- 17 黒色土……第10層とほぼ同じ。若干しまりあり。
- 18 黒褐色土……硬質。御池ボラ粒、炭化物粒を小量含む。
- 19 暗オリーブ褐色土……やや軟質。炭化物粒を若干含む。
- 20 暗褐色土……やや軟質。
- 21 暗オリーブ褐色土……ややしまりあり。

#### 。12号土壙(SC12、第48図)

調査区の南西部、東から西に傾斜する斜面に位置する。長軸4m、短軸1.8m、検出面からの深さ約0.5mの不整形プランを呈する。底には2本の柱穴痕があり、その内の1本には炭化材が残っていた。自然科学分析によると炭化材はクスノキである。性格不明の遺構である。

#### 土層註記

- 1 黒色土……軟質で粘性あり。炭化物粒を多く含む。赤褐色土(焼土か)を若干混在する。
- 2 黒褐色土……軟質で粘性あり。炭化物粒を含む。
- 3 黒褐色土……軟質。炭化物を非常に多く含む。

### 炉跡

B1地区では、レンズ状に堆積する焼土が第IV層上で3基検出された。平面プランで観察すると、焼土が中央にあり、その周りには地山よりにぶい色の暗褐色土が広がっていた。上面には古代の土器片が多く集中しており、10㎝~大きいもので30㎝程の安山岩や軽石などの礫が配石されているものもある。3基とも建物に伴うものではなく、屋外の炉としての利用が考えられる。炉の構造については2つの考えがある。掘り型を持つか持たないかであるが、幾つかの疑問は残るが、前者の掘り型を持つ炉として捉えたい。畝状遺構との前後関係については、畝状遺構が炉跡を切っており、畝状遺構が遺物や礫石を散乱させたものと思われる。

### 。1号炉(SR1、第49図)

調査区東側中央に位置する。掘り型は、長軸1.4m、短軸1.1m、検出面からの深さ約0.3mの楕円形プランである。その中に長軸1.1m、短軸0.8m、深さ約0.1mの楕円形プランに焼土が堆積している。炉跡の南東側には、焼土と掘り型に埋められた土との境に、30cm程の大きさの軽石2つと、安山岩1つが配石されていた。礫の内側は赤変している。炉の使用面は、焼土を取り除いた部分の凹み部であると考えられるが、壁面や底が焼け付いた様子は見られない。掘り型に埋められた土が若干シルト質でしまりのある黒褐色土になっている。炉の埋土や周辺には炭化物や灰などが見られる。熱による影響の為か、炉の周辺直径約3mに暗褐色土のにじみがある。遺物は焼土内を中心に掘り型の埋土からも出土している。

### 。 2 号炉(SR2、第49図)

1号炉跡の東側に位置する。掘り型は、長軸1.3m、短軸1.04m、検出面からの深さ約0.34mの楕円形プランを呈する。中央には長軸1.06m、短軸0.82m、深さ0.22mに楕円形プランに焼土が堆積している。1号炉と同じ特徴を持つ炉であるが、配石は無い。熱の影響からか、炉の周辺は直径3m程が暗褐色土のにじみが見られる。遺物は焼土内からわずかに出土している。

### 。 3 号炉(SR3、第50図)

調査区南西側の平担地に位置する。掘り型は、直径約1.24m、検出面からの深さ約0.3mの円形プランを呈する。中央には長軸0.9m、短軸0.75m、深さ約0.2mの隅丸長方形プランに焼土が堆積している。1m程西には焼土がわずかに堆積する凹みがあり、炉の北側の凹みからは、鉱滓(銀銅製?図版 P.238②)が出土している。炉の周辺は炭化物や灰が混在する暗褐色土のにじみが広がり、鉱滓出土付近には銀銅の砕片が散らばっていた。炉の形態は1・2号炉と同じである。炉の底にある柱穴は炉に伴うものでは無いと思われる。遺物は焼土上にわずかに出土している。

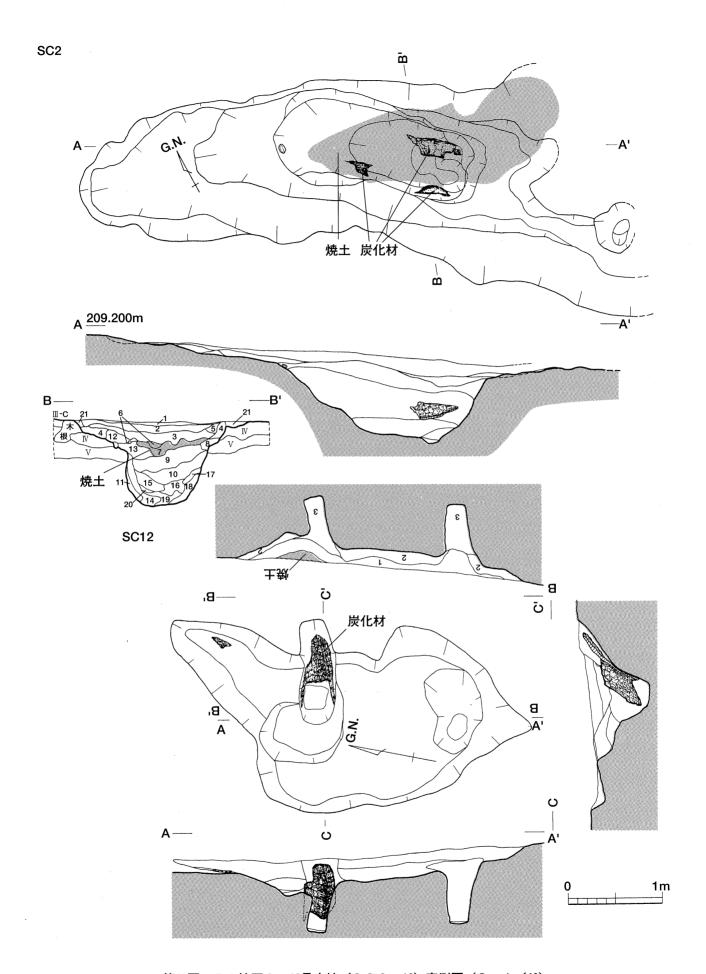
### 陥し穴状遺構

#### 1号陥し穴状遺構(ST1、第51図)

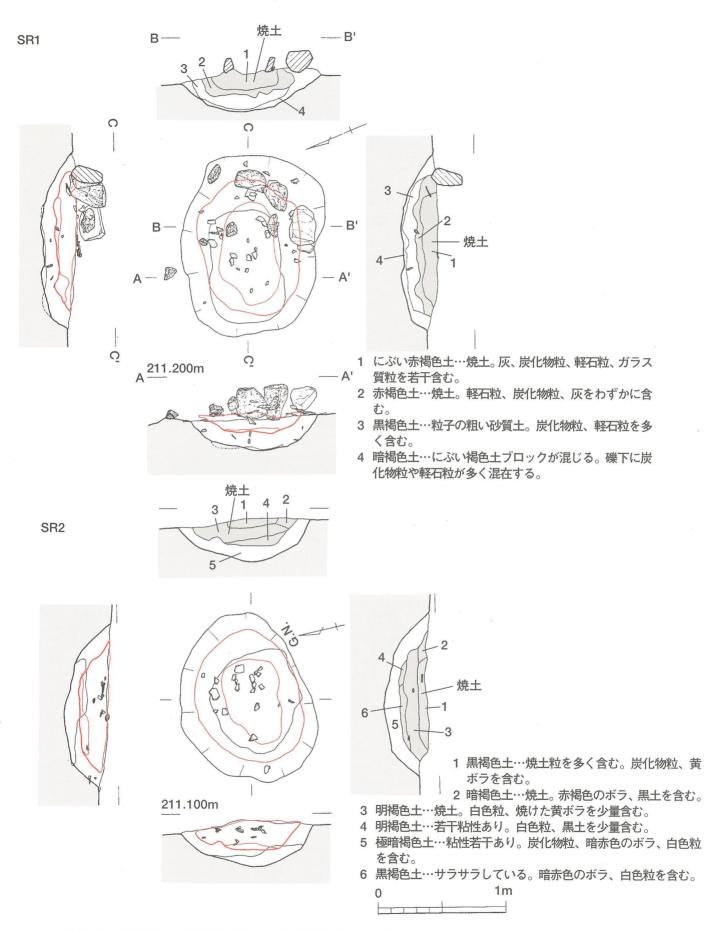
調査区南側の若干東寄り、第IV層上で検出した。東に傾斜する地形の平担面に、等高線とほぼ平行する方向(北北西-南南東)に長軸を持つように作られている。長軸2.1m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.1mの隅丸長方形プランである。底中央一列に直径  $8 \sim 10$ cm、深さ30cm程の小ピットが6本(平面では7本確認できるが1本は浅い)検出された。埋土堆積状況から見ると、高原スコリアが小ピット内に堆積していることから、中世以降に作られたものと推測される。遺物は出土していない。

#### 。 2 号陥し穴状遺構(ST2、第51図)

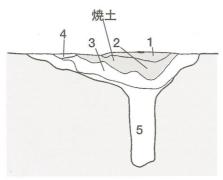
1号陥し穴状遺構の北側、第IV層上で検出した。等高線とほぼ直行する方向(東-西)に長軸を持つ。 長軸2.1m、短軸0.7m、検出面からの深さ約1.06mの長方形プランを呈する。底には直径6 cm、深さ24 ~30cm程の6本の小ピットが検出された。小ピットの配列状況は1号陥し穴状遺構と異なるが、遺構プランと埋土堆積の状況から見て、同時期に存在したものと推定される。遺物は出土していない。

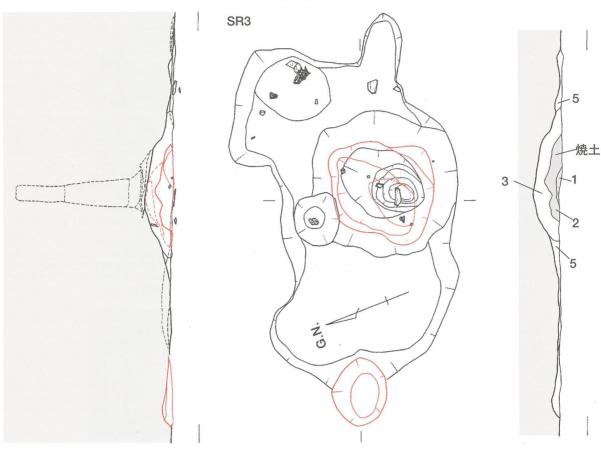


第48図 B 1 地区 2 • 12号土壙 (S C 2 • 12) 実測図 (S = 1 / 40)



第49回 B1地区1·2号炉跡(SR1·2) 実測図(S=1/30)



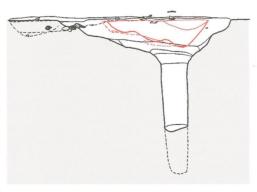


210.000m

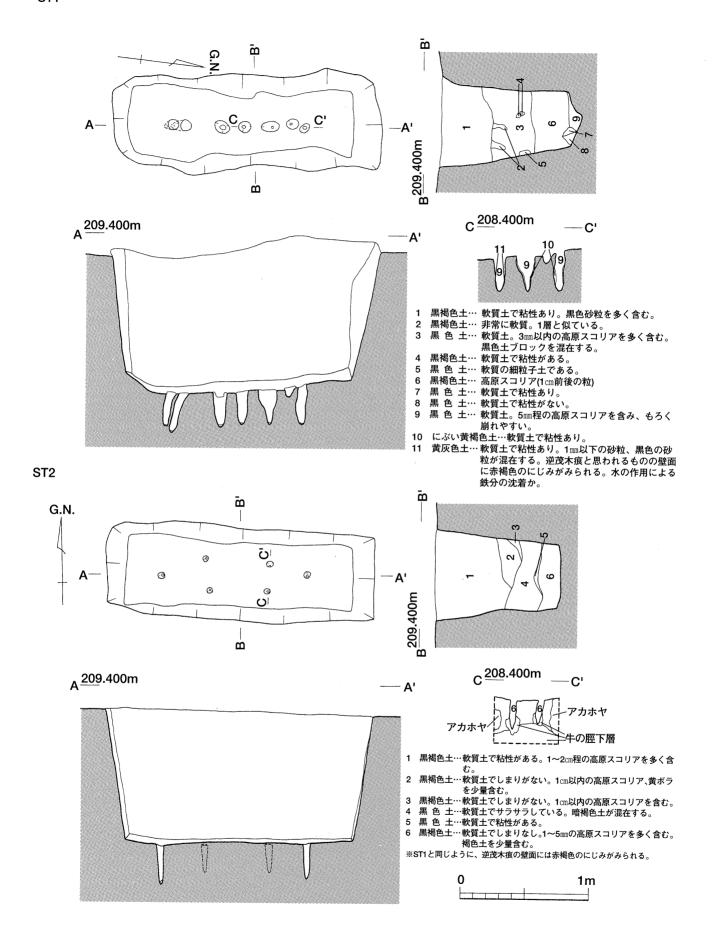
1 暗褐色土…焼土、白色粒、炭化物粒、乳白 色粘性土が含まれる。

1m

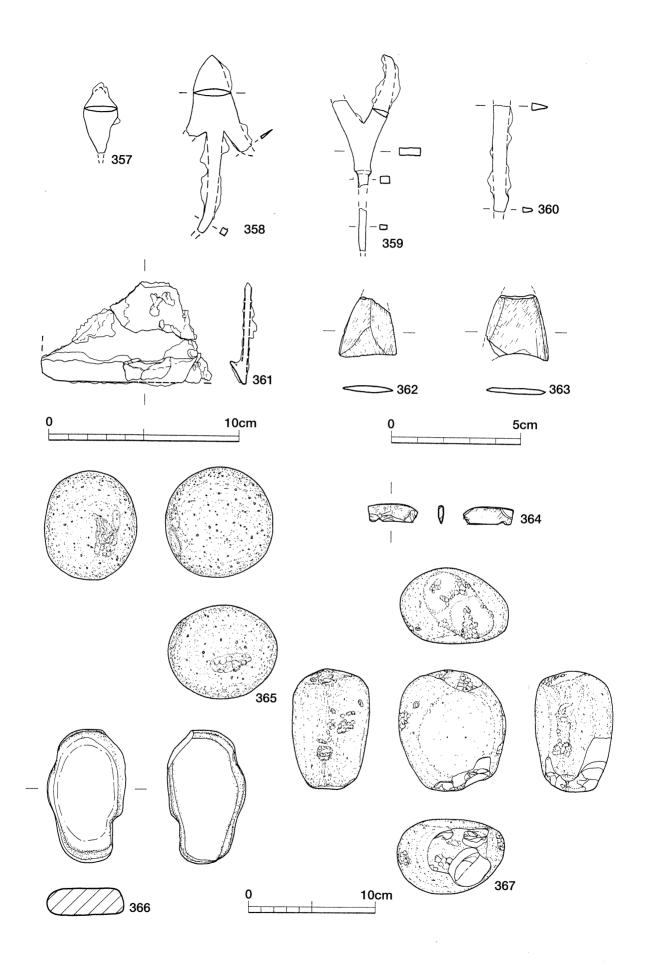
- 2 明赤褐色土…焼土層。粒子が粗く、ザラザラしている。御池ボラ粒、白色粒、赤褐色土、炭化物粒を若干含む。
- 3 黒褐色土…砂質でサクサクしている。白色 粒を多く含み、御池ボラ粒、ガラス質粒を 含む。
- 4 黒褐色土…やや軟質。粒子が細かい。ガラス粒を含む。
- 5 暗褐色土…若干粘性あり、白色粒、乳白色 粘性土が混ざる。青銅の小片が部分的に混 ざる。



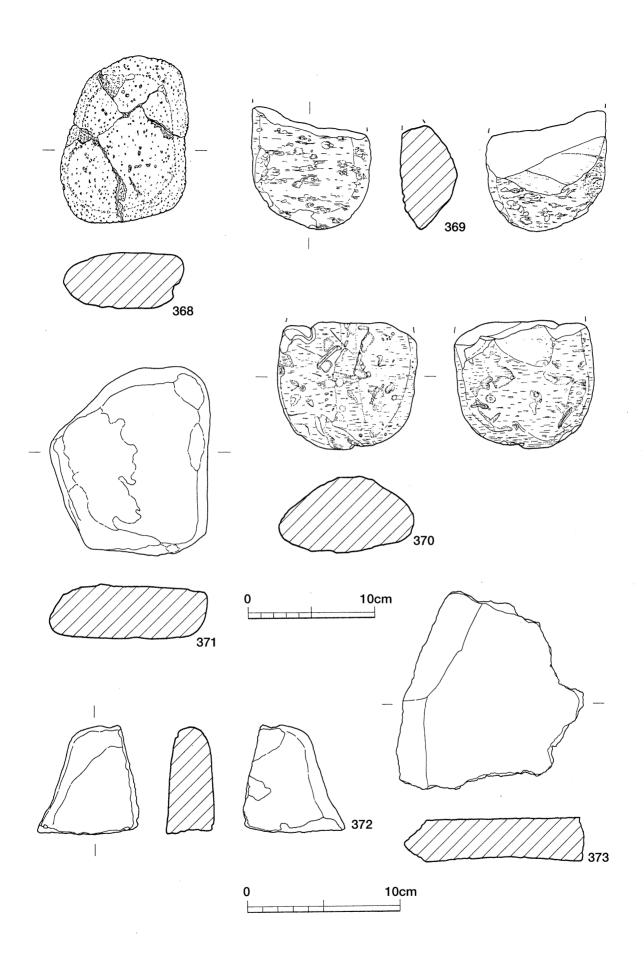
第50図 B1地区3号炉跡(SR3) 実測図(S=1/30)



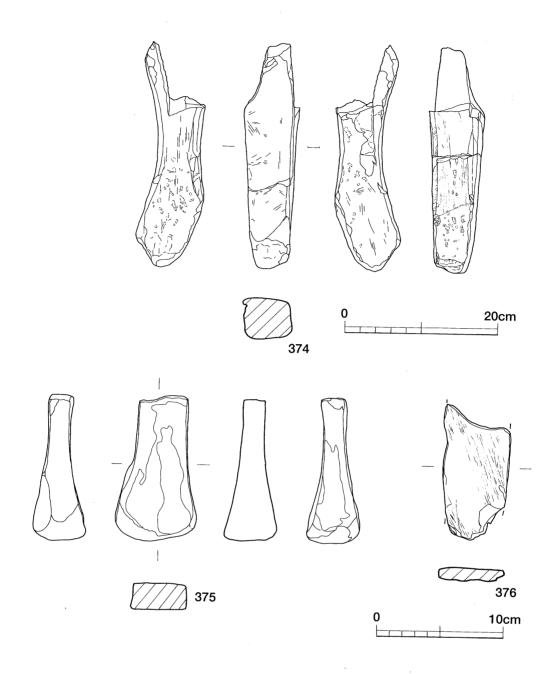
第51図 B1地区1号・2号陥し穴状遺構(ST1・2)実測図(S=1/30)



第52図 B 1 地区出土鉄器 (S = 1 / 2)・石器実測図 (362・363、S = 2 / 3、364~367、S = 1 / 3)



第53図 B 1 地区出土石器実測図(368~371、S = 1 / 3,372·373、S = 2 / 5)



第54図 B 1 地区出土石器実測図(374、S = 2 / 5, 375 • 376、S = 1 / 3)

# 包含層の遺物

357~359は鉄鏃である。357は残存長約3.2㎝を測る。弥生時代のものか。358は残存長約10㎝前後を測る。古墳時代のものか。359は雁股鏃である。残存長11㎝前後を測る。古代のものか。360は刀子の基部か。残存長は5.8㎝で、時期は不明である。361は鉄製品であるが、器種不明である。鋤先などの道具か。362・363は磨製石鏃である。362は頁岩製で、363は凝灰岩製か。364は頁岩製の石庖丁の剥片か。365は尾鈴山酸性凝灰岩製の磨石である。366は安山岩製の磨石、367は安山岩製の敵石である。368は凝灰岩製の磨石である。369・370は軽石製品である。371~373は安山岩製の台石である。374~376は安山岩製の砥石である。

# (5) 小結

遺構密度に比べて、遺物の密度が高いことがいえる。古代の遺物が集中しているのは炉跡周辺であるが、炉跡以外に関連遺構が確認されていない。遺構についても、遺物を伴うものは少なく、焼土や炭化材を出土する性格不明の遺構が多くみられる。このような状況から生産遺跡と生活遺構の在り方について多くの疑問点が残されている。

# 第8表 B1地区出土遺物観察表(1)

Sets Advan		器種	出土	法	量(cn		手法・調整	<ul><li>文様ほか</li></ul>	—————————————————————————————————————	調		
遺物	種別	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	備考
76	縄文	深鉢口縁	B1地区 SA2	(28.6)			口縁部は棒状工具 による斜位の押線 文、ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	暗褐、黒褐	にぶい黄褐、 赤褐	1㎜以下の乳白・白色の粒	
77	縄文	深鉢口線	B1地区 SA2				口唇部は押圧刻み目、 口縁部は棒状工具に よる斜位の押線文	ナデ	暗褐、黒褐	にぶい黄褐、 赤褐	1㎜以下の乳白・白色の粒	同一個体
78	縄文	深 鉢	B1地区 IV層				ナデ、押線文、 スス付着	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	2㎜以下の灰白の粒	波状□縁
79	縄文	深鉢口線	B1地区 IV層				弧状に沈線文、ナ デ、横方向に貝殻 条痕、スス付着	ナデ、黒変	にぶい褐	にぶい褐	2mm以下の浅黄・橙色の粒、4mm以下の褐色粒、1mm以下の透明光沢粒	
80	縄文	深鉢胴部	B1地区 IV層				ナデ、円形貼付文、 貝殻条痕、スス付 着	ナデ、貝殻条痕、 黒斑	にぶい赤褐	黄灰	3mm以下の淡黄色の粒、7mm以下の灰 白色の粒	
81	縄文	深 鉢 口縁付近	B1地区 IV層				沈線文、突帯にそっ て刻み目、ナデ、 スス付着	ナデ、指頭痕	灰褐 <b>、</b> にぶ い褐	黒	3mm以下の褐灰色の粒、1mm以下の透明光沢粒	
82	縄文	深 鉢 口縁付近	B1地区 IV層				ヘラ状工具による 連続刺突文	風化著しく調整不 明	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の浅黄橙・灰白色の粒、0.5 mm以下の透明光沢粒	波状口縁
83	縄文	深 鉢 口縁付近	B1地区 IV層				沈線、貼り付け突 帯に指押圧	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の白色の粒、0.5mm以下の透明光沢粒	
84	縄文	深鉢胴部	B1地区 IV層				弧状の沈線文、ナ	粗なナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の淡黄色の粒、 1mm以下の透明光沢粒	
85	縄文	深鉢胴部	B1地区 IV層				弧状の沈線文	風化著しく調整不明	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の淡黄・灰白色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
86	縄文	深鉢胴部	B1地区 Ⅲ層				斜方向に4条の沈線 が交差しあってい る	条痕後ナデ	にぶい褐	にぶい橙	2mm以下の灰白色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
87	縄文	深鉢底部	B1地区 IV層		11.7		ナデ、粗なナデ	ナデ、指頭痕、炭 化物付着	にぶい橙	明赤褐	4mm以下の褐・赤褐・灰白色の粒、 2mm以下の透明光沢粒	
88	縄文	深鉢底部	B1地区 IV層		(8.7)		ナデ	ナデ、指頭痕、貝 殻状痕	にぶい橙	にぶい褐	3mm以下の赤褐・淡黄色の粒、 透明光沢粒	
100	土師器	壺 口級~胴部	BI地区 SA1	12.95			縦ハケ目、 ナデ	横ハケ目	橙	橙、にぶい 黄橙	3mm以下の黒・茶・灰・黒褐・茶褐・ 淡黄色の粒	
101	土師器	虚 部	B1地区 SA1		(5.0)		工具ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	5mm以下の黒・灰・褐色の粒	
102	土師器	壺 口 縁	B1地区 SA1				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙、浅黄橙	4mm以下の黒・灰色・橙・乳白色の 粒	
103	土師器	整 □録~胴部	B1地区 SA1	(28.2)			ナデ、 貼付刻み目突帯	ナデ	にぶい <b>橙、</b> にぶい褐	にぶい橙 <b>、</b> 灰褐	1mm以下の黒・乳白色の粒、透明光 沢粒、3mmの赤褐色の粒	
104	土師器	底部	B1地区		(4.4)		ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい橙 <b>、</b> にぶい黄橙	灰褐、にぶ い黄橙	3mm以下の乳白・赤褐色の粒、透明・ 黒色光沢粒	J
105	土師器	高坏 基部~胸部	B1地区 SÀ1				ナデ	ナデ、ハケ目、指	にぶい橙	黄灰	2㎜以下の茶褐・黒褐色の粒	
106	土師器	壺 頸部~底部	B1地区 SA2		(4.6)		ハケ目、ナデ、 スス付着、風化気味	頭痕、黒斑、風化気味	にぶい橙 <b>、</b> 赤橙	橙	4㎜以下の茶・褐・黒色の粒	
107	土師器	整 体部~底部	B1地区 SA2		(2.1)		工具痕、ナデ、風 化気味	ナデ	淡黄	淡黄	2mm以下の灰白・灰褐・灰黄色の粒、 透明・黒色光沢粒	
108	土師器	整 □縁~体部	B1地区 SA2	(27.7)			タタキ	工具ナデ、指頭痕、   ナデ	橙、浅黄橙	橙、浅黄橙	3mm以下の茶・灰・暗灰色の粒、 2mm以下の茶・灰・乳白色の粒	- } 同一個体
109	土師器	甕 体部~底部	B1地区 SA2		4.7		タタキ、タタキ後 指頭痕、指頭痕	ナデ、指頭痕、黒 変 粘土のつなぎ目、	にぶい黄橙	明黄褐	3mm以下の乳白・褐・灰色の粒	<u> </u>
110	土師器	要 口縁~底部	B1地区 SA2	(23.7)	5.3	27.7	ハケ目、ナデ	指頭痕、ハケ目の 後ナデ	にぶい黄橙 明赤褐、に	褐灰、黄灰	2mm以下の乳白色の粒、   1mmの灰・透明光沢粒	
111	土師器	甕 体部~底部	B1地区 SA2		5.45		工具痕、風化気味、ナデ	ナデ、ハケ目、黒 斑	がい橙、明 灰黄	にぶい黄、 暗灰黄	3mm以下の灰白・灰色の粒、 2mm以下の透明・黒色光沢粒 3mm以下の赤褐色の粒、	
112	土師器	甕 体部~底部	B1地区 SA2		(3.75)		工具痕、風化気味、ナデ	ナデ、風化気味	にぶい黄橙	にぶい黄、 暗灰黄	2mm以下の褐灰・灰褐・黒色の粒、 1mm以下の黒色光沢粒	
113	土師器	鉢 口縁~体部	B1地区 SA2				ナデ、指頭痕、 黒斑	ナデ、黒変	にぶい黄橙、 黄灰 にぶい褐、	にぶい黄橙、 褐灰	2mm以下の灰・灰褐・にぶい褐、 黒色の粒、透明・黒色光沢粒 3mm以下のにぶい褐色の粒、	
114	土師器	鉢 □縁~体部	B1地区 SA2	18.2			ナデ、指頭痕、 スス付着	ナデ、指頭痕、粘 土のつなぎ目	橙、にぶい 黄橙、褐灰	にぶい褐、 褐灰	2mm以下の灰白・灰黄色の粒、 透明・黒色光沢粒	
115	土師器	虚 部	B1地区 SC3		4.0		ナデ	ナデ、工具痕、指 頭痕	橙 にぶい橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰色の粒、 3mm以下の橙色の粒	
116	土師器	型 □ 緑	B1地区 SC3				ナデ、スス付着	ナデ	暗灰黄	にぶい黄橙	3mm以下の褐・灰褐・黒褐・茶褐色 の粒	117と 同一個体

第9表 B1地区出土遺物観察表(2)

	702						<b>示权(2)</b>			am		
遺物 番号	種別	器種 部位	出土地点	口径	量(cr 底経	器高	手法・調整	・ 又様はか 内 面	外 面	内面	胎土の特徴	備考
117	土師器	整 類部~胴部	B1地区 SC3	,	MENN TELL	pel nu	ナデ、スス付着	ナデ	ーグ「 Bi	にぶい黄橙	4mm以下の掲・黒褐・黄褐・灰褐・ 茶褐・白灰色の粒	116と 同一個体
118	土師器	型 類部~底部	B1地区 SC3		(5.4)		縦斜ハケ目、黒変	斜ハケ目、工具痕、 黒変	橙	橙	1mm以下の黒色・透明光沢粒、 2mm以下の黒・灰・乳白色の粒	
119	土師器	型 胴 部	B1地区 .SC3				ナデ、スス付着、 貼付刻み目突帯	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	1mm以下の透明光沢粒、 2mm以下の乳白色の粒、 2.5mm以下の橙色の粒	
120	土師器	高坏網部	B1地区 SC3		(18.0)		ナデ	ナデ、黒斑	橙	明黄褐、暗 灰	1㎜以下の黒色・半透明光沢粒	
121	土師器	壺 完 形	B1地区 SC19	17.0			ナデ、横ミガキ、 斜ハケ目、黒斑	工具ナデ、横・斜 ミガキ、指頭痕、 粘土のつなぎ目、	<b>橙、</b> にぶい 褐	にぶい褐、 明赤褐	3mm以下の淡黄・赤褐色の粒、 透明光沢粒	
122	土師器	<b>甕</b> 完 形	B1地区 SC19	27.55	(8.9)		ナデ、指頭痕、ス ス付着	ナデ、指頭痕、炭 化物付着	浅黄、にぶ い黄橙	浅黄橙、浅 黄	1~3mmの淡黄・乳白色の粒、 黒色・透明光沢粒	-
123	土師器	選 □縁~頸部	B1地区 SC19	(26.0)			ナデ、工具ナデ、 スス付着	斜ハケ目	橙、褐	褐、橙	1~2mmの白色の粒、 透明光沢粒	
124	土師器	壺口 縁	B1地区 IV層	(13.6)			ナデ、工具痕	ナデ、粘土のつな ぎ目、炭化物付着	橙	橙	0.5~3㎜以下の茶・褐・灰色の粒	複合口縁
125	土師器	壺 口 縁、	B1地区 IV層	(11.9)			口縁部刻み目、 ナデ、ハケ目の後 ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	2㎜以下の透明光沢粒	"
126	土師器	壺 口縁~胴部	B1地区 IV層	(13.4)			ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	橙	浅黄	1㎜以下の黒・灰の粒	,,
127	土師器	壺 完 形	B1地区 IV層	9.5	-	21.4	ナデ、ナデの後丁 寧なミガキ、風化 気味、スス付着	ミガキ、ナデ、工 具痕、指頭痕	橙、にぶい 黄橙	浅黄、橙	3mm以下のにぶい赤褐の粒、2mm以下の黒色・褐灰の粒	長頸壺
128	土師器		B1地区 IV層				ナデ	横ケズリ、指頭痕	浅黄	浅黄橙	2.5㎜以下の乳白色の粒	"
129	土師器	壺口 緑	B1地区 IV層	(7.0)			ナデ	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐色粒、1mm以下の透明光 沢粒	"
130	土師器	壺 口縁~胴部	B1地区 IV層	(9.45)			櫛描波状文、ナデ、 ミガキ、風化気味	ナデ	橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒色及び透明の光沢粒、 2mm以下の黒・灰・茶の粒	短頸壺
131	弥生土器	扇部	B1地区 IV層			-	横方向の凹線文、 ハケ目、刻み、重 弧文、黒変	ハケ目、指頭痕、 黒変	浅黄	灰	1.5mm以下の茶・乳白色・透明光沢 粒、黒色光沢粒	重弧文
132	弥生土器	扇部	B1地区 IV層				ナデ、刻み	ナデ	オリーブ黒	灰	きめ細か	重弧文
133	土師器	壺口 緑	B1地区 IV層	(11.5)			ナデ、ハケ目	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の透明光沢粒、褐色・灰色 粒、2mm以下の浅黄色・黒色光沢粒	
134	土師器	量□縁	B1地区 IV層	(13.2)			ナデ、ハケ目の後ナデ	ハケ目の後ナデ	浅黄、黄灰	浅黄、オリー ブ黒	1~2㎜の褐色の粒、1㎜の灰白の粒	
135	土師器	壺 口縁~頸部	B1地区 IV層	(14.0)			口唇部ハケ目、風 化気味、ナデ	ナデ	淡黄、灰	淡黄	3㎜以下の褐色・灰色・黒色の粒	
136	土師器	壺 口縁~胴部	B1地区 IV層	(10.5)			縦ハケ目の後ナデ、 ナデ	ナデ、指頭痕	橙	橙	1mm以下の透明光沢粒と黒・灰・茶 の粒	
137	土師器	壺 頸部~胴部	B1地区 IV層				ハケ目の後ナデ <b>、</b> ハケ目の後ミガキ	工具ナデ	にぶい <b>黄橙、</b> 灰オリーブ	明黄褐	1mm以下の灰褐・黒色光沢・灰白の 粒	
138	土師器	壺 口縁~胴部	B1地区 II層IV層	(13.8)			ハケ目の後ナデ、 刷毛目、ミガキ、 黒斑	ナデ	黄橙、灰黄	にぶい <b>黄橙、</b> 灰オリーブ	1mm以下の褐色・黒色光沢、灰白の 粒	
139	土師器	量□線	B1地区 IV層	(16.6)			ハケ目	ナデ	橙	橙	1.5mm以下の黒・灰白色の粒、3mm以 下の褐色の粒	
140	土師器	壺 口縁~底部	B1地区 IV層	(11.9)			ハケ目、工具ナデ、 黒変	工具ナデ、指頭痕、 ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の黒色光沢・透明光沢な粒、 2mm以下の黒・灰・茶の粒	
141	土師器	壺 頸部~胴部	B1地区 IV層				ハケ目	ハケ目	にぶい黄橙	にぶい橙	2.5mm以下の淡黄・茶・黒の粒	
142	土師器	壺 □縁~胴部	B1地区 IV層	(11.1)			ナデ、ハケ目の後 ナデ、粘土のつな ぎ目、黒変	ナデ、指頭痕、粘 土のしぼり	淡黄、オリー ブ黒	淡黄	1.5mm以下の赤褐色・灰白・灰褐・ 黒色の粒	
143	土師器	壺、胴部~ 底部付近	B1地区 IV層				ナデ	ナデ	浅黄橙、灰	淡黄、灰	3mm以下の褐色・灰・黒色の粒	J
144	土師器	壺 類部~底部	B1地区 II層IV層		(5.8)		丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒	
145	土師器		B1地区 IV層				斜ミガキ、斜ハケ 目、スス付着	横・斜ハケ目、炭 化物付着	浅黄	浅黄	1~4㎜以下の茶・褐・灰色の粒	
146	土師器	壶 胴部~底部	B1地区 IV層				風化著しい	ナデ、炭化物付着、 黒変	にぶい橙	にぶい黄橙	2mm以下の白色の粒、3mm以下の赤褐・ 灰黄・淡黄色の粒、黒色光沢粒	

第10表 B 1 地区出土遺物観察表 (3)

遺物	種別	器種	出土	法	量 (cn	n)	手法・調整	• 文様ほか	色	調	胎土の特徴	備考
番号	(性 )列	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	加工の小師	PHI ~5
147	土師器	壺 胴部~底部	B1地区 IV層		(3.0)		工具痕、指頭痕	縦ハケ目	にぶい <b>橙、</b> 橙	にぶい黄橙、 褐灰	4mm以下の黒褐・褐・灰褐・白灰色 の粒、透明光沢粒	
148	土師器	壺 胴部~底部	B1地区 IV層				斜ミガキ、黒変	横・斜ハケ目	橙、 暗灰黄	橙	4㎜以下の茶・黒・白・茶褐色の粒	
149	土師器	壺 頸部付近	B1地区 IV層				ナデ、風化気味	ナデ、粘土のつな ぎ目、指頭痕	橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒色光沢粒、 1.5mm以下の半透明粒、 4mm以下の灰・橙色の粒	同一個体
150	土師器	壺 胴 部	B1地区 Ⅲ層IV層				風化により調整不 明	工具ナデ、粘土の つなぎ目、指頭痕	橙	暗灰黄	2mm以下の灰色の粒、半透明粒、 7mm以下の橙色の粒	
151	上師器	壺 類部~胴部	B1地区 IV層				ナデ	ナデ、指頭痕、黒変	にぶい黄橙、 灰白	にぶい黄橙	2mm以下の無色透明光沢粒、 4mm以下の黒・茶・茶褐・黒褐・淡 黄色の粒	
152	土師器	壺 頸部~胴部	B1地区 IV層				ハケ目	ナデ、ハケ目、指 頭痕	橙	にぶい橙	1mm以下の乳白色の粒、 2mm以下の白灰・灰褐・褐色の粒、 透明光沢粒	布留系
153	土師器	壺 胴 部	B1地区 IV層				斜ハケ目、刻み目 突帯	ハケ目	明黄褐	黄橙	2mm以下の透明粒、 4mm以下の茶色の粒	
154	土師器	壺 底 部	B1地区 IV層		(7.2)		工具ナデ、スス付 着	工具ナデ、指頭痕	浅黄橙、 褐灰	にぶい黄橙	2mm以下の灰褐・にぶい橙・黒褐・ 黒色の粒、透明光沢粒、 5~6mmの灰褐色の粒	
155	土師器	壺 底 部	B1地区 IV層				ナデ、スス付着	<b>縦・</b> 斜ハケ目	浅黄	浅黄	1~3㎜の暗褐・灰・茶色の粒、 黒色・透明光沢粒	
156	土師器	壺 底部付近	B1地区 IV層				縦ミガキ、黒変	ナデ、縦ハケ目、 工具ナデ	にぶい <b>褐、</b> 黒	にぶい赤褐、 黒	3~4㎜の乳白・褐色の粒	
157	土師器	壺 胴部~底部	B1地区 IV層				ナデ、指頭痕	工具ナデ	にぶい黄橙 <b>、</b> 橙	にぶい黄橙	3mm以下の茶・黒・茶褐・乳白色の 粒	
158	土師器	壺 底 部	B1地区 IV層		(2.8)		丁寧なナデ、 縦ミガキ、黒斑	丁寧なナデ	浅黄、黒	明黄褐、 黄灰	1㎜以下の黄灰色の粒	
159	土師器	壺 底 部	B1地区 IV層		(3.8)		ナデ、粘土のつな ぎ目	ナデ	橙	にぶい黄褐	2mm以下の橙・灰黄・灰白色の粒、 透明・黒色光沢粒	
160	土師器		B1地区 IV層		6.1		ナデ、工具ナデ	ナデ、黒斑	にぶい黄橙	黄灰	1㎜以下のにぶい黄橙色の粒	
161	土師器	虚 部	B1地区 IV層		(7.2)		ナデ	ナデ、黒斑	にぶい黄橙、 橙	黄灰、 にぶい黄橙	3㎜以下の黄灰・黒・黄褐色の粒	
162	土師器	虚 部	B1地区 IV層		(2.9)		縦・斜ハケ目	縦・横・斜ハケ目	橙	にぶい <b>黄橙、</b> オリーブ黒	1mm以下の灰白光沢粒、 2mm以下の灰白・褐灰色の粒	
163	土師器	養、口縁~ 底部付近	B1地区 IV層	(22.7)			工具ナデ、ミガキ、 スス付着	工具ナデ、指頭痕、 炭化物付着	にぶい黄褐、 橙	橙	4.5mm以下の乳白・茶・灰・褐黒色 の粒、2mmの透明光沢粒	
164	土師器	題 胴 部	B1地区				平行タタキ、スス 付着	縦ケズリ	にぶい <b>橙、</b> 黒	浅黄	2mm以下の透明光沢粒	
165	土師器	型口線	B1地区 IV層				タタキ、黒斑	丁寧なナデ、 黒斑	明黄褐	浅黄	3㎜以下の乳白・茶・白色の粒	
166	土師器	整 口縁~頸部	B1地区 IV層	(24.2)			ナデ、スス付着	工具ナデ	浅黄橙、 褐灰	浅黄橙	3mm以下の橙・黒・灰色の粒	
167	土師器	要 □縁~胴部	B1地区 IV層	(29.3)			ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙	2㎜以下の透明光沢、黒色光沢粒	
168	土師器	<b>要</b> □ 縁	B1地区 IV層	(24.0)			ナデ	ナデ	にぶい橙	灰黄褐、 灰黄	2mm以下の浅黄・灰白・褐色の粒、 黒色光沢粒、 1mmの透明光沢粒	
169	土師器	<b>整</b> 胴 部	B1地区 IV層				丁寧なナデ、 工具痕	丁寧なナデ、 工具痕	にぶい橙	灰黄褐、 灰黄	2mm以下の浅黄・灰白・褐色の粒、 黒色光沢粒、 1mmの透明光沢粒	101-1014
170	土師器	整. □縁~胴部	B1地区 IV層	(23.6)			ナデ、 工具痕	ナデ <b>、</b> 粘土のつなぎ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙、 灰黄褐	2mm以下の乳白・褐・灰色の粒、 黒色光沢粒	
171	土師器	甕、口線~ 底部付近	B1地区 IV層	(26.0)			工具ナデ、 ハナ目、ナデ	ナデ、粘土のつな ぎ目	橙、明黄褐	にぶい黄、 明赤褐	3mm以下の黒・白・灰色の粒、 2mm以下の黒・透明光沢粒	
172	土師器	<b>遊</b> □縁~底部	B1地区 Ⅲ層	(24.6)	5.75	33.7	ナデ、ハケ目、 指頭痕、貼付刻み 目突帯	ナデ、ハケ目、 工具痕	にぶい赤褐、 灰黄褐	赤褐、黒褐	2mm以下の浅黄・褐色の粒、 1mm以下の灰・黒透明光沢粒	
173	土師器	雅 口線~胴部	B1地区 IV層	20.75			斜ハケ目の後ナデ、 貼付刻み目突帯	ナデ、斜ハケ目、 黒斑、指頭痕	明赤褐、に ぶい黄褐	明赤褐、に ぶい黄褐	2mm以下の灰白・褐・黒色の粒、 灰白・黒色光沢粒	
174	土師器	整 □縁~底部	B1地区 IV層	24.3	6.3	30.2	ナデ、貼付刻み目 突帯、工具痕、ス ス付着	ナデ、斜ハケ目、 指頭痕	橙	明黄褐	2.5mm以下の茶・黒・乳白色の粒、 透明光沢粒	
175	土師器	型 口縁~胴部	B1地区 IV層	(32.6)			ナデ、貼付刻み目 突帯、黒変	ナデ、指頭痕、黒変	橙、黒	にぶい黄橙、 黒褐	1mm以下の灰・灰白の粒、 黒色・透明光沢粒	
176	土師器	型線~胴部	B1地区 IV層	(27.6)			ナデ、貼付刻み目 突帯、スス付着	ナデ、指頭痕、黒 変	橙	灰オリーブ、 浅黄	1.5mm以下の黄白・白・茶・黒色の 粒、透明・黒色光沢粒	177と 同一個体

第11表 B 1 地区出土遺物観察表(4)

	I	uu se		34	- B (	- \	千	- 女 <del>体</del> ほ ふ	#	調		
遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	口径	量(cr 底経	器高	手法 · 調整	内 面	色 ———— 外面	内面	胎土の特徴	備考
177	土師器	型、胴部~ 底部付近	B1地区 IV層	口性	瓜莊	谷同	ナデ、スス付着	ナデ	にぶい黄橙	灰	2mm以下の黄白・灰白・茶・褐・黒 色の粒、1mm以下の透明・黒色光沢 粒	176と 同一個体
178	土師器	甕、胴部~ 底部付近	B1地区	30.15			ナデ、指頭痕、 貼付刻み目突帯、黒変	ナデ、指頭痕、黒 変	にぶい黄橙	にぶい黄 <b>橙、</b> 灰	4mm以下の暗褐・黒色の粒、 2.5mm以下の透明・黒色光沢粒	
179	土師器	整 口縁~胴部	B1地区 IV層	(30.7)			ナデ、貼付刻み目突帯	ナデ、指頭痕	橙、褐灰	にぶい黄橙、 暗灰黄	4mm以下の淡黄・黒褐・灰色の粒	
180	土師器	整 □縁~胴部	B1地区 IV層	(26.9)			ナデ、貼付刻み目 突帯、粘土のつな ぎ目、黒斑	ナデ、工具痕、黒 変、粘土のつなぎ 目	にぶい黄橙	浅黄、にぶ い黄橙	1~2mmの乳白・褐・黒・茶・灰色の 粒、透明・半透明粒	
181	土師器	變 □縁~胴部	B1地区 II層IV層	(27.2)			ナデ、貼付刻み目 突帯	ナデ、黒変	にぶい褐	黒褐、にぶ い褐	2㎜以下の黒色・透明光沢粒	
182	土師器	整 □縁~胴部	B1地区 II層IV層	(29.2)			ナデ、貼付刻み目 突帯	ナデ	赤褐	にぶい黄褐	2㎜以下の灰白色の粒	
183	土師器	要 □録~胴部	B1地区 IV層			-	横・斜ハケ目、ス ス付着、貼付刻み 目突帯	縦・横ハケ目	にぶい赤褐、 にぶい褐	にぶい黄橙 <b>、</b> にぶい褐	2mm以下の灰・にぶい黄橙、褐色の 粒	
184	土師器	夏 口 緑	B1地区 IV層				ナデ、工具ナデ	工具ナデ、指頭痕	暗灰褐	灰黄褐	1㎜以下の灰白・橙・黒色の粒、透明光沢粒	
185	土師器	型 日 緑	B1地区 IV層				工具ナデ、口唇部 刻み目	工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黄白・灰白・褐・黒色の 粒、透明光沢粒	
186	土師器	型。日禄	B1地区 II層IV層				ナデ、指頭痕、口 唇部刻み目	ナデ、指頭痕	明赤褐	にぶい赤褐	2㎜以下の白色の粒、透明粒	
187	土師器	底部	B1地区 IV層		(6.6)		ナデ、黒斑	ナデ	明黄褐、に ぶい橙	にぶい黄橙、 暗灰黄	2mm以下の黒・灰白色の粒、半透明 光沢粒	
188	土師器	底部	B1地区 IV層		(4.65)		ナデ、指頭痕	ナデ	灰	にぶい黄橙	3mm以下の乳白・灰・茶褐色の粒	
189	土師器	底 部	B1地区		(5.2)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	2mm以下の透明・乳白色の粒、黒色 光沢粒	
190	土師器	度 部	B1地区 IV層		(5.8)		縦ハケ目、工具ナデ	ナデ、黒斑	にぶい黄橙	灰	3mm以下の茶・白色の粒、黒色・透明光沢粒	
191	土師器	<b>甕</b> 胴部~底部	B1地区 IV層		(6.75)		ナデ	ナデ	明褐灰	灰黄	1mmの灰褐色の粒、黒色光沢粒、 1.5mm以下の無色透明光沢粒	
192	土師器	要 胴部~底部	B1地区 IV層		(5.0)		ナデ	ナデ、指頭痕	黄灰	橙	2㎜以下の黒・灰・乳白色の粒	
193	土師器	底部	B1地区 IV層		(7.3)		ナデ	工具ナデ	灰	灰白	1㎜の乳白・黒色の粒、無色透明粒	
194	土師器	底部	B1地区 IV層		(6.5)		丁寧なナデ、指頭 痕	ナデ、指頭痕	灰	にぶい黄橙、 にぶい橙	2㎜以下の乳白・灰・黒色の粒	
195	土師器	要 胴部~底部	B1地区 II層IV層		(4.0)		縦・斜ハケ目、ナ デ、スス付着	ナデ、斜ハケ目	にぶい <b>黄橙、</b> にぶい褐	機、にぶい黄褐	1~3mmの黒・乳白・褐・茶色の粒、 黒色光沢粒 3mm以下の透明・乳白色の粒、黒色	
196	土師器		B1地区 IV層		(4.1)		縦ハケ目、ナデ、 黒変	ナデ、指頭痕、黒変	橙	灰黄褐	光沢粒、4mm以下の黒・灰・茶・黄 灰・乳白色の粒	
197	土師器	撥 胴部~底部	B1地区 IV層		(4.9)		丁寧なナデ、指頭 痕	丁寧なナデ、指頭 痕 	にぶい黄橙	灰黄、にぶ い黄橙	1mm以下の褐色の粒、黒色光沢粒、 2mm以下の透明光沢粒	
198	土師器	類 胴部~底部	B1地区 II層IV層		6.4		ナデ	ナデ、黒変	にぶい黄橙	にぶい <b>黄橙、</b> 灰オリーブ	4mm以下の明褐色の粒、1mm以下の褐色・黒色の粒、透明光沢粒	
199	土師器	底部	B1地区 IV層		(8.6)		ナデ、工具痕、指頭痕	ナデ、黒斑	にぶい黄橙、	黒	2mm以下の灰黄・褐・灰色の粒、 1mm以下の半透明光沢粒	
200	土師器	要 胴部~底部	B1地区 IV層		12.05		ハケ目の後ナデ	丁寧なナデ、指頭 痕、黒斑 	にぶい黄橙、 黄灰	にぶい黄、 黄灰	3㎜以下の乳白・黒・茶・褐色の粒	
201	土師器	要 胴部~底部	B1地区 IV層		(8.0)		ナデ	ナデ、工具痕	にぶい黄橙	灰黄	1mm以下の褐・浅黄・黒・乳白色の粒、2mm以下の透明光沢粒	
202	土師器	底部	B1地区 IV層		(5.3)		ナデ、指頭痕	工具痕、指頭痕	にぶい褐	にぶい赤褐	1mm以下の浅黄色の粒、2mm以下の透明光沢粒	
203	土師器	型 胴部~底部	B1地区 IV層 B1地区		(6.85)		ナデ、指頭痕	ナデ 塩面痕 エ	にぶい赤褐にぶい橙、	にぶい赤褐、褐灰	1mm以下の乳白・褐・浅黄色の粒、透明光沢粒 3mm以下の暗褐・淡黄・灰色の粒、	
204	土師器	製 胴部~底部 三 坛	BI地区 II層IV層 BI地区		(6.8)		ナデ、指頭痕、スス付着	ナデ、指頭痕、工 具痕、黒変	明赤褐	にぶい黄橙、 灰黄	1㎜以下の透明・黒色光沢粒	
205	土師器	高坏部	IV層				丁寧なナデ	丁寧なナデ	橙	にぶい黄橙	1㎜以下の黒・乳白・灰色の粒	
206	土師器	高坏部	B1地区 IV層	(25.0)			縦ミガキ、スス付 着	縦ミガキ	橙	浅黄橙	精良	

# 第12表 B 1 地区出土遺物観察表(5)

	5 I Z 350		_				<b>奈衣(3)</b> ─────── 手法・調整	• 文様ほか	色	調		
遺物  番号	種別	器種 部位	出土地点	口径	量(cr 底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	備考
207	土師器	高坏坏部	B1地区 II層IV層	(29.8)			ナデ、縦ミガキ、 工具痕	ナデ	浅黄橙	黒、 淡黄	1mm以下の黄白・灰白・灰・褐色の 粒、0.5mm以下の透明光沢粒	
208	土師器	高坏部	B1地区 II層IV層				ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	黒	1.5mm以下の黄白・灰白・褐色の粒、 1mm以下の透明光沢粒	
209	土師器	高坏部	B1地区 IV層				縦ミガキ	縦ミガキ、スス付 着	浅黄橙、灰黄	にぶい黄橙	2mm以下の暗褐・茶色の粒、透明光 沢粒	
210	土師器	高坏部	B1地区 IV層				ナデ、ハケ目の後 ナデ	横ミガキ	淡黄	浅黄	1㎜以下の乳白色の粒、黒色光沢粒	
211	土師器	高坏纸部	B1地区 IV層	(21.4)			横・斜ミガキ、丹 塗り	横・斜ミガキ	赤	明褐	1mm以下の淡黄・茶色の粒、透明光 沢粒	同一個体
212	土師器	高坏邪	B1地区 IV層				横・斜ミガキ、丹 塗り	横・斜ミガキ	赤	明褐	1㎜以下の透明・黒色光沢粒	]
213	土師器	高 坏 部	B1地区 IV層				ミガキ、風化気味	ナデ、縦ミガキ、 指頭痕	橙、にぶい 黄橙	橙	2mm以下の灰・褐・茶・乳白色の粒、 透明光沢粒	
214	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層		(14.85)		ナデ、縦ミガキ、 穿孔	絞り、ナデ	浅黄	浅黄橙	2mm以下の灰白・褐色の粒、1mm以下 の透明光沢粒	
215	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層				縦ミガキ、スス付 着、風化気味	ナデ	橙	橙	1mm以下の茶・灰白色の粒、黒色光 沢粒	
216	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層				丁寧なナデ、ミガ キ、穿孔、黒変	丁寧なナデ	にぶい橙	黄灰	1㎜以下の黒・乳白色の粒、透明光沢粒	
217	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層				ハケ目、ナデ	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の茶・黒・淡黄色の粒、 1mm以下の透明光沢粒	
218	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層				粗いナデ	ナデ、工具痕	にぶい黄	浅黄	2mm以下の乳白・褐色の粒、透明光 沢粒	
219	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層		(8.8)		ナデ	ナデ	灰白	灰白	3.5mm以下の灰白・浅黄色の粒、 1mm以下の透明光沢粒	
220	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層		(11.5)		丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒・褐色の粒、 1.5mm以下の透明光沢粒	
221	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層		(11.9)		ナデ	ナデ	黒褐、暗褐	褐	1.5㎜以下の乳白・暗褐色の粒	
222	土師器	小 坏 胴部~底部	B1地区 IV層				縦ミガキ、ナデ	ナデ、指頭痕	浅黄橙	淡黄	2㎜以下の黒・赤褐・灰褐色の粒	
223	土師器	小 坏 胴部~底部	B1地区 Ⅲ層				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙	3mm以下の褐色の粒、1mm以下の黒褐・ 赤褐・黒色光沢の粒	
224	土師器	小 坏□緑~胴部	B1地区 II層IV層	(7.1)			ナデ	ナデ	橙	黄灰	1㎜以下の灰白色の粒	
225	土師器	浅 鉢 口 縁	B1地区 IV層				丁寧なナデ、スス 付着	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の茶褐色・灰色・乳白色の砂粒	
226	土師器	椀 口 縁	B1地区 IV層				丁寧なナデ、 ナデ	ナデ	浅黄	にぶい橙	3mm以下の茶褐色・灰色・乳白色の 粒	
227	土師器	椀 口緑~胴部	B1地区 IV層				丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の赤褐色・乳白色・灰色の 粒	
228	土師器	小型鉢、口線 ~底部付近		(9.5)			工具ナデ、ナデ	ナデ	にぶい橙 <b>、</b> 橙	にぶい黄橙	2㎜以下の褐・灰色の粒	
229	土師器	小型鉢、口線 ~底部付近		(5.9)			ハケ目の <b>後</b> ナデ、 ナデ	ナデ、指頭痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	精良	
230	土師器	小型鉢 胴部~底部	B1地区 II層IV層		2.35		ナデ、工具痕、黒 斑	ナデ	明黄褐、灰ォリーブ	橙、暗灰黄	2mm以下の褐灰・灰黄褐・黄褐・黒 色光沢、灰白色の粒	
231	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層				縦ハケ目	ナデ	にぶい褐、 橙	灰褐、にぶ い橙	2㎜以下の白・灰白・褐色の粒	
232	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層				風化により調整不 明	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の茶・黒色の粒、3mm以下の透明粒	
233	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層				ナデ、ハケ目	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙	灰	4mの茶褐色の粒、1.5mm以下の黒褐色・茶褐色・淡黄色・黒色透明な粒	
234	土師器	高坏脚部	B1地区 II層IV層				縦ハケ目、 ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	1㎜以下の透明・黒色光沢粒	
235	土師器	高坏脚部	B1地区 IV層				ナデ、 粘土のつなぎ目	工具ナデ	浅黄	にぶい黄	2.5mm以下の灰白・灰褐色の粒、黒 色光沢粒	
236	土師器	壺口 緑	B1地区 IV層	(6.8)			ナデ	ナデ	橙	橙	1㎜以下の乳白・淡黄色の粒	

第13表 B 1 地区出土遺物観察表 (6)

遺物		器種	出土		· 量(ci		手法・調整	<ul><li>文様ほか</li></ul>	色	調		
番号	種別	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	備考
237	土師器	壺口 緑	B1地区 IV層	(8.0)			ハケ目の後ナデ <b>、</b> ナデ	ナデ、 粘土のたるみ	橙	橙、灰、 にぶい黄橙	精良	
238	土師器	壺 頸 部	B1地区 IV層				縦ミガキ	ナデ	橙、黒	にぶい橙	精良	
239	土師器	壺底 部	B1地区 Ⅲ層				ナデ、風化気味	ナデ、風化気味	橙、 明赤褐	灰、明黄褐	2mm以下の灰白・褐灰・灰黄褐・暗 赤褐色の粒	
240	土師器	小型壺 胴部~底部	B1地区 IV層				ナデ、斜ミガキ	ナデ、指頭痕	明黄褐、黒	にぶい黄橙	精良	
241	土師器	小型壺 胴部~底部	B1地区		(1.4)		ケズリ、工具痕	ナデ、指頭痕	橙	にぶい黄	1㎜以下の透明、茶色の粒	
242	土師器	壺口 縁	B1地区 IV層				横ミガキ、ナデ、 丹塗	ナデ、横ミガキ	にぶい赤褐	にぶい褐	2mm以下の褐色の粒、 2mm以下の黒色・透明光沢粒	同一個体
243	土師器		B1地区 IV層				横ミガキ、丹塗、 スス付着	ナデ <b>、</b> 粘土のつな ぎ目	にぶい赤褐	にぶい褐	2mm以下の透明・褐色の粒、 2mm以下の黒色・透明光沢粒	
244	土師器	小型整 □縁~胴部	B1地区 IV層	(12.3)			ハケ目の後ナデ	風化により調整不 明	橙	橙	4mm以下の灰・褐・赤褐色・黒褐色 の粒	
245	土師器	小型甕 口縁	B1地区 IV層	(11.8)			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄	1.5mm以下の灰白・褐・黒褐色の粒、 透明・黒色光沢粒	
246	土師器	小型壺 胴部	B1地区 IV層				ナデ、貼付刻み目 突帯、工具痕、縦 ミガキ	ハケ目	にぶい橙	にぶい黄褐	精良	
247	土師器	小 坏 完 形	B1地区 IV層	4.5		3.75	手づくね	手づくね	灰、 オリーブ黒	灰、 オリーブ黒	1㎜以下の乳白色の粒	
248	須恵器	整 □緑~胴部	B1地区 Ⅲ層	9.5			ナデ、平行タタキ	丁寧なナデ、放射 状当て具痕の後ナ デ	黄灰	灰黄	1㎜以下の茶・黒・乳白色の粒	
249	須恵器	俵 壺 胴 部	B1地区 IV層				格子目タタキ、格 子目タタキの後ナ デ	丁寧なナデ、放射 状当て具痕の後ナ デ	灰白	灰白	2㎜以下の乳白色・灰色の粒	
250	土師器	甕 □緑~胴部	B1地区 Ⅲ層IV層	(21.8)			ナデ、横ハケ目	横ハケ目、 縦ケズリの後ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の透明光沢粒、 2.5mm以下の灰色の粒、 5mm以下の橙色の粒	
251	土師器	<b>甕</b> □ 縁	B1地区				ナデ、指頭痕	斜ケズリの後ナデ	灰黄	浅黄	1mm以下の褐色の粒、 2mmの無色透明光沢粒	
252	土師器	高台付坏 口線~底部	B1地区	(13.5)	(6.8)	(5.4)	回転ナデ、粘土の つなぎ目	回転ナデ	にぶい橙	にぶい橙	精良	
253	土師器	坏 □縁~体部	B1地区	(13.55)			回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	精良	
254	土師器	整 口線~胴部	B1地区	(24.4)			ナデ、指頭痕	斜ケズリの後ナデ	にぶい褐	にぶい褐	3.5mm以下の褐色の粒、 2mm以下の透明光沢粒	
255	土師器	鉢 □線~胴部	B1地区	(16.0)			ナデ、格子目タタ キ、平行タタキ、 スス付着	ナデ、粘土のつな ぎ目、斜ケズリ、 黒変	にぶい黄橙	浅黄橙、褐 灰	2mm以下の灰褐・灰白色の粒、 透明・黒色光沢粒	
256	土師器	数 □縁~胴部	B1地区	(23.6)			ナデ、指頭痕	縦・斜ケズリの後 ナデ	橙、にぶい 黄橙	明赤褐	4mm以下の淡黄・灰色の粒、 1.5mm以下の透明・黒色光沢粒	
257	土師器	型 日 禄	B1地区				ナデ	斜ケズリの後ナデ	にぶい褐	褐灰	1mm以下の褐・灰白・黒色の粒、 透明光沢粒	
258	土師器	<b>翌</b> □縁~胴部	B1地区				ナデ、指頭痕	斜ケズリの後ナデ	にぶい橙	にぶい橙	7mm以下の灰色の粒、 3mm以下の乳白・灰色の粒	
259	土師器	型 日 緑	B1地区				ナデ	横ケズリの後ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2㎜以下の乳白・灰白の粒	
260	土師器	整 □緑~胴部	BI地区				ナデ、工具痕	斜ケズリの後ナデ	にぶい橙 <b>、</b> にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の淡黄色の粒、透明・黒色 光沢粒	
261	土師器	<b>班</b> 口 緑	B1地区				ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	3.5mm以下の乳白色の粒、 3mm以下の褐色の粒、 2.5mm以下の透明・黒色光沢粒	
262	土師器	<b>甕</b> □縁~底部	B1地区	(17.35)		16.25	ナデ、横・縦・斜 ハケ目	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄橙	浅黄	3㎜以下の灰褐・灰白色の粒	
263	土師器	要 □縁~胴部	B1地区	(21.8)			ナデ、風化気味	斜ケズリの後ナデ、 風化気味	浅黄橙	浅黄	4.5mm以下の白色の粒、 1.5mm以下の茶・淡黄色の粒、 透明・黒色光沢粒	
264	土師器	要 □縁~胴部	B1地区	(25.8)			ナデ、黒変	粘土のつなぎ目、 ナデ、黒変	にぶい黄橙	にぶい黄橙	9mm以下の粒、 3mm以下の黒褐色の粒	
265	土師器	整 □縁~胴部	B1地区	(28.35)			ナデ、ハケ目、黒 変	斜ケズリの後ナデ	橙、黒	にぶい黄橙	1㎜以下の灰白色の粒、透明光沢粒	
266	土師器	整 □縁~胴部	B1地区	(22.5)			ナデ	斜ケズリの後ナデ <b>、</b> 黒変	灰黄	灰黄、灰	2㎜以下の灰白・黒色の粒	

第14表 B 1 地区出土遺物観察表 (7)

遺物	AF Pol	器種	出土	法	量(cr	n)	手法・調整	<ul><li>文様ほか</li></ul>	色	調	14. 上 の 性 44.	<b>農 孝</b>
番号	種別	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	備考
267	土師器	整□ 禄	B1地区				ナデ、工具痕、指 頭痕、粘土のつな ぎ目	斜ケズリの後ナデ	橙	にぶい黄褐	4.5mm以下の灰白・褐灰色の粒、 2mm以下の透明・黒色光沢粒	
268	土師器	要 □ 縁	B1地区				ナデ、横ハケ目	ナデ、斜ハケ目	浅黄	浅黄、暗灰 黄	1.5mm以下の灰黄褐・黒・灰白色の 粒	
269	土師器	蹇、口禄~ 底部付近	B1地区	26.3			丁寧なナデ、黒変	縦・横ケズリの後 ナデ	にぶい褐	褐	5㎜以下の黄灰・褐・黒灰色の粒	
270	土師器	<b>要</b> □ 縁	B1地区				ナデ、黒変	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄	にぶい橙	1.5mm以下の黒・灰白・乳白色の粒、 0.5mm以下の黒色光沢粒	
271	土師器	變 □縁~胴部	B1地区				ナデ、黒変	斜ケズリの後ナデ、 黒変	橙	橙	2mm以下の乳白・灰白の粒、 1mm以下の透明光沢粒	
272	土師器	整 □ 縁	B1地区				ナデ	斜ケズリの後ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	1mm以下の乳白・褐色の粒、透明光 沢粒	
273	土師器	要口縁	B1地区				ナデ、工具痕	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	4.5mm以下の灰白色の粒、 2mm以下の褐色の粒、透明光沢粒、 1mm以下の黒色光沢粒	
274	土師器	變 □縁~胴部	B1地区	(25.2)			ナデ、スス付着、 横・縦・斜ハケ目	横・斜ハケ目、斜 ケズリの後ナデ	にぶい褐、 にぶい橙、 灰褐	橙、にぶい 赤褐	3mm以下の黒・黒褐・白灰・黄褐・ 茶褐・灰褐色の粒、5mm以下の褐・ 灰褐の粒、8.5mm以下の茶褐色の粒	
275	土師器	整 □縁~胴部	B1地区	(22.7)			ナデ、スス付着	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄 <b>、</b> 橙	3mm以下の淡黄・灰色の粒、透明・ 黒色光沢粒	
276	土師器	整 □縁~胴部	B1地区 IV層	(23.6)			ナデ、スス付着	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	1~2.5mmの淡黄・灰色の粒、透明光 沢粒、黒色光沢粒	
277	土師器	豊口 緑	B1地区 IV層				ナデ	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰白・灰・褐・黒褐色の 粒、1.5mm以下の透明光沢粒	
278	土師器	<b>费</b> □ 縁	B1地区 IV層				ナデ、斜ナデ	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄橙、 橙	にぶい黄橙、 橙	3mmの灰白粒、2mm以下の黄白・灰白・ 褐色の粒、透明光沢粒	
279	土師器	要 □ 緑	B1地区 IV層				ナデ	斜ケズリの後ナデ	淡黄、黄灰	灰黄	2mm以下の黒・灰黄色の粒	
280	土師器	整口 緑	B1地区 IV層				ナデ	斜ケズリの後ナデ	褐灰	にぶい黄橙、 褐灰	1.5㎜以下の黒・褐色の粒	
281	土師器	整 口縁~胴部	B1地区 Ⅲ層	(25.8)			櫛状工具痕、ナデ	櫛状工具痕、斜ケ ズリの後ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、 にぶい黄橙	1~3mmの茶・灰・褐・乳白色・黒光 沢粒	
282	土師器	型日禄	B1地区 IV層				ナデ、格子目タタキ	縦ケズリの後ナデ	浅黄橙	浅黄橙	4mmの黄褐・灰黄色の粒、 2mm以下の灰黄・橙・黒光沢粒	
283	土師器	変 日 緑	B1地区 IV層				ナデ、格子目タタ キ	ケズリの後ナデ	灰白	灰白	2mm以下のにぶい橙・灰白色の粒、 透明・黒光沢粒	
284	土師器	整口 緑	B1地区				ナデ、格子目タタキ	縦ケズリの後ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰黄褐・橙・灰白色の粒、 透明黒光沢粒	
285	土師器	整 □縁~胴部	B1地区 Ⅲ層	(17)			ナデ	縦ケズリの後ナデ	にぶい赤褐、 にぶい褐	橙、にぶい 褐	1.5mm以下の黒い光沢粒、 1mm以下の黒・灰黄・褐色の粒	
286	土師器	整 □録~胴部	B1地区 Ⅲ層	(20.4)			ナデ	斜ケズリの後ナデ	橙、にぶい 黄褐	にぶい黄褐、 橙	2mm以下の黒・褐・灰黄色の粒	
287	土師器	<b>甕</b> □ 縁	B1地区 IV層	(27.95)			ナデ、黒変	ナデ	橙	橙	2mm以下の灰白・褐色の粒、 2mm以下の透明光沢粒	
288	土師器	整 □緑~胴部	B1地区 Ⅲ層	(20.4)			ナデ	斜ケズリの後ナデ	橙、にぶい 黄褐	にぶい黄褐、 橙	2mm以下の黒・褐・灰黄色の粒	
289	土師器	蹇、口禄~ 底部付近	B1地区 Ⅲ層	(26.4)			ナデ、丁寧なナデ、 スス付着	縦ケズリの後ナデ、 炭化物付着	にぶい黄橙	灰黄褐、に ぶい黄橙	3mm以下の灰白・褐・黄灰・茶・褐・ 黒褐色・透明光沢粒	
290	土師器	甕 □縁~胴部	B1地区 Ⅲ層	(24.3)			ナデ	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄橙	褐灰	2mm以下の赤褐色の粒、 1mm以下の透明・黒光沢粒	
291	土師器	甕 口縁~胴部	B1地区 IV層	(26.7)			ナデ、縦ハケ目、 スス付着	斜ケズリの後ナデ	赤褐、にぶ い褐	明赤褐、灰 黄褐	5~8mmの灰黄色の粒、 2mm以下の黄灰・灰白の粒	
292	土師器	蹇 胴 部	B1地区				斜ハケ目	ナデ	明褐、にぶい褐	橙、にぶい 褐	5mmの黄灰・暗灰黄色の粒、 2mm以下の透明・黒光沢粒	
293	土師器	整 完 形	B1地区	(29.3)		23.0	タタキの後ハケ目、 ハケ目の後ナデ、 ヘラ記号	ハケ目、ケズリ、 ナデ	浅黄、にぶ い橙	にぶい黄橙	6mm以下の赤褐色の粒、 1.5mm以下の黒色・透明光沢粒、 乳白色の粒	
294	土師器	<b>甕</b> 完 形	BI地区	26.9		20.0	ナデ、スス付着	ナデ	橙、にぶい 黄橙	橙	10mm以下の茶・灰色の粒、 4mm以下の黄白・灰白・灰・茶色の粒、 1mm以下の透明光沢粒	
295	土師器	変 口縁~胴部	B1地区	(30.5)			ナデ、ハケ目	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、 灰黄褐	2mm以下の褐・灰白色の粒	]
296	土師器	整 胴部~底部	B1地区		(10.9)		ハケ目	ケズリの後ナデ	<b>橙、</b> にぶい 黄橙	にぶい黄橙、 灰黄褐	3mm以下の褐・灰白色の粒、 黒色光沢粒	同一個体

第15表 B 1 地区出土遺物観察表(8)

	1102					17J EJU.							$\overline{}$
遺物 番号	種別	器種	出土地点		量(cr		手法・調整		色	調力を	胎土の特徴	備者	垮
金亏		部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	5mm以下の乳白色の粒、0.5mm以下の		$\dashv$
297	土師器	口線~胴部	B1地区	(18.8)			ナデ、ハケ目	ハケ目 <b>、</b> ナデ	にぶい黄	灰黄	透明光沢粒		
298	土師器	<b>鉢</b> 完 形	B1地区	21.5		11.4	ナデ、タタキ、ス ス付着	ケズリの後ナデ <b>、</b> 黒変	にぶい <b>橙、</b> 暗灰黄	にぶい橙、 灰褐	3mm以下の黒褐・橙・灰白色の粒、 黒色・透明光沢粒		
299	土師器	甕、□縁 ~底部付近	B1地区	15.7			ナデ、タタキ、 ス ス付着	ケズリの後ナデ <b>、</b> 黒斑	にぶい <b>橙、</b> にぶい黄橙	にぶい黄橙、 褐灰、にぶ い橙	2mm以下の灰黄・灰白・黒褐・橙色 の粒、黒色・透明光沢粒		
300	土師器	坏 完 形	B1地区	13.35	5.3	5.6	ケズリの後ナデ、 粘土のかえり、へ ラ切り	黒斑、ナデ	橙	橙	2㎜以下の白・黄白・褐色の粒		
301	土師器	坏 □縁~底部	B1地区	(12.2)	(5.2)	4.5	ナデ、風化気味	ナデ	橙	橙	0.5㎜以下の黄白・褐・黒褐色の粒		
302	土師器	坏 完 形	B1地区	11.95	5.7	5.3	ナデ、ヘラ切りの 後ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	2㎜以下の黒・灰・赤色の粒		
303	土師器	坏 完 形	B1地区	11.45	6.8	5.2	ナデ、ケズリ、へ ラ切りの後ナデ、 黒変	ナデ、黒変	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の透明光沢粒、黒・灰色の 粒		
304	土師器	坏 □縁~底部	B1地区 Ⅲ層IV層	(13.7)	(6.0)	4.9	ナデ、粘土のかえ り、板状圧痕、 へ ラ切り	ナデ	明黄褐、橙	橙	3mm以下の灰褐色・灰色の粒、透明 光沢粒		
305	土師器	坏 口縁~底部	B1地区 Ⅲ層IV層	(12.7)	(6.2)	4.5	ナデ、ヘラ切り後 ナデ	ナデ	橙	橙	精良		
306	土師器	坏 □縁~底部	B1地区 Ⅲ層IV層	13.05	5.45	5.1	ナデ、粘土のかえ り、板状圧痕	ナデ	橙	橙	2㎜以下のうす茶・茶・灰色の粒		
307	土師器	坏 口縁~底部	B1地区 IV層	(12.9)	6.1	4.5	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ	回転ナデ	橙	にぶい橙	2.5㎜以下の赤褐・褐灰の粒	-	ļ
308	土師器	坏 口縁~底部	B1地区 IV層	(12.6)	5.7	4.8	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ	回転ナデ、黒変	浅黄橙	にぶい橙	2mm以下の黒・灰・茶・乳白色の粒、 透明光沢粒		
309	土師器	坏 □縁~底部	B1地区 IV層	(12.75)	7.05	4.6	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ	回転ナデ	浅黄橙	橙	2mm以下の黒・灰・茶色の粒、透明 光沢粒		
310	土師器	坏 口縁~底部	B1地区 IV層	(13.25)	(6.85)	4.95	回転ナデ、風化気 味、ヘラ切り後ナ デ	回転ナデ	橙	橙	1m以下の灰白・赤褐の粒、透明光 沢粒		-
311	土師器	坏 口縁~底部	B1地区 IV層	(12.35)	(5.75)	5.15	回転ナデ、黒変、 ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、黒変	橙	にぶい黄橙	精良		
312	土師器	坏 口縁~底部	B1地区 IV層	(13.15)	6.1	5.0	回転ナデ、ケズリ、 ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	橙	橙	1mm以下の黒色光沢粒、 2mm以下の黒・灰・乳白・茶色の粒		
313	土師器	坏 □縁~底部	B1地区 IV層	(16.15)	7.0	6.45	ナデ、風化気味	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	精良		
314	土師器	坏 □縁~底部	B1地区 亚層	(11.5)	(5.9)	4.2	回転ナデ	回転ナデ	橙	橙	0.5㎜以下の褐・白色の粒		
315	土師器	坏 □縁~底部	B1地区 Ⅲ層IV層	12.3	5.25	5.2	回転ナデ、工具痕、 黒変	ナデ、風化気味	にぶい橙	橙	1㎜以下の灰・茶色の粒	·	
316	土師器	坏 口縁~底部	B1地区 IV層	12.3	5.1	4.65	ナデ、ヘラ切り	ナデ	橙、浅黄橙	橙、浅黄橙	3㎜以下の灰白・にぶい褐色の粒	-	
317	土師器	坏底 部	B1地区 IV層		5.95		ナデ、ヘラ切り後 ナデ	ナデ	にぶい橙	明褐灰	3mm以下の浅黄色の粒、透明光沢粒		-
318	土師器	坏底 部	B1地区		(7.0)		ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	橙	橙	3㎜以下の茶色の粒		
319	土師器	坏底 部	B1地区 IV層		(5.8)		ナデ、ヘラ切り後 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	精良		
320	土師器	坏 体部~底部	B1地区 IV層		(7.15)		ナデ、ヘラ切り	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	1.5mm以下の灰・褐・赤褐色の粒、 0.5mm以下の黒色光沢粒		
321	土師器	坏 体部~底部	B1地区		5.0		ナデ、板状圧痕	ナデ	浅黄橙	にぶい橙	2㎜程の茶褐色の粒		
322	土師器	坏 □縁~底部	B1地区 IV層	13.6	5.85	5.7	ナデ、指頭痕、へ ラ切り	回転ナデ	橙、にぶい 黄橙	橙、にぶい 黄橙	精良		
323	土師器	坏 体部~底部	B1地区 IV層		5.9		ナデ、ヘラ切り後 ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	2㎜以下の赤茶・褐色の粒、透明光 沢粒		
324	土師器	高台付坏、 口縁~底部	B1地区 II層IV層	(14.05)			回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ	回転ナデ	橙	浅黄橙	2㎜以下の茶・灰・黒・乳白色の粒、透明光沢粒		
325	土師器	坏 □縁~底部	B1地区 II層IV層	(12.7)	6.2	5.9	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ、粘土の つなぎ目	回転ナデ	にぶい橙、 橙	橙	1㎜以下の橙・灰・灰黄色の粒		
326	土師器	高台付坏、 口縁~底部	B1地区 Ⅲ層IV層	(13.4)	(6.9)	5.55	回転ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、 にぶい黄褐	2㎜以下の茶色の粒		

第16表 B 1 地区出土遺物観察表 (9)

	51020					-	宗仪(3)					
遺物	種別	器種	出土	-	量 (cn	_	手法・調整		色	調	胎土の特徴	備考
番号 327	土師器	部位高台付坏	地点 B1地区	12.8	底経 (7.8)	器高	外 面回転ナデ	内 面 	外面にぶい黄橙	内面 にぶい黄橙	2mm以下の茶褐、褐、黒褐色の粒	
328		□縁~底部 高台付坏 □縁~底部	II層IV層 B1地区	13.3	7.4	6.6	回転ナデ	ナデ	にぶい橙にぶい橙	橙	3mm以下の茶、褐、灰褐、白色の粒	
		高台付坏	II層IV層 B1地区		7.4	0.0	粘土のつなぎ目 ナデ、風化気味	ナデ	橙  にぶい黄橙	灰白	精良	
329		口線~底部 付近 高台付坏	II層IV層 B1地区	(13.6)						にぶい黄橙 にぶい橙、		
330	土師器	口縁~底部 付近	II層IV層	(13.25)			ナデ	横ミガキ	浅黄橙	にぶい黄	精良	
331	土師器	坏□縁~体部	B1地区 Ⅲ層	(12.8)		_	回転ナデ、刻書	回転ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の赤褐色の粒	
332	土師器	坏 □縁~体部	B1地区 II層IV層	(14.2)			ナデ、墨書	ナデ	橙	浅黄橙	精良	
333	土師器	坏 口縁~体部	B1地区	(15.0)			ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	精良	
334	土師器	坏 □縁~体部	B1地区 IV層	(13.2)			回転ナデ、墨書	回転ナデ、黒斑	橙、灰黄褐	橙、灰黄褐	2㎜以下の茶褐色の粒	
335	土師器	坏 □縁~体部	B1地区 Ⅲ層IV層	(14.0)			ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	精良	
336	土師器	高台付坏 体部~底部	B1地区 IV層		7.4		ナデ、ヘラ記号、 黒変	ナデ、ヘラ記号	にぶい黄橙	にぶい黄橙、 黒褐	精良	
337	土師器	高台付坏 底 部	B1地区 Ⅲ層IV層		(8.6)		ナデ、粘土のつな ぎ目	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	精良	
338	土師器	高台付坏 底 部	B1地区 IV層		(6.75)		ナデ	ナデ	淡黄	にぶい黄褐	精良	
339	土師器	高台付坏 底 部	B1地区 IV層		(6.1)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	2㎜以下の灰白・赤褐色の粒	
340	土師器	坏 体 部	B1地区 IV層				ナデ、墨書	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	精良	
341	土師器	高台付坏 高台部?	B1地区 IV層				ナデ、墨書	剥離	にぶい橙	灰黄褐	1㎜以下の灰褐・白灰色の粒	
342	黒色土器	高台付坏口級~底部	B1地区 IV層	(7.0)	(13.4)	6.2	回転ナデ、黒変	内黒、横・斜ミガキ	にぶい黄橙、 黒褐	黒褐	2mm以下の黒・橙色の粒、4mmの橙色 の粒	
343	黒色土器	高台付坏 口縁~底部 付近	B1地区 Ⅲ層IV層	12.95			回転ナデ、墨書、 黒変	内黒、縦・横ミガキ	にぶい橙	黒、にぶい 黄褐	精良	
344	黒色土器	高台付坏 口縁~底部 付近	B1地区 Ⅲ層IV層	15.3			回転ナデ	内黒、横・斜ミガキ	にぶい黄橙	黒	1mm以下の黒・灰・乳白色の粒、透明光沢粒	
345	黒色土器	高台付坏	B1地区 IV層	(15.3)			ナデ、墨書、黒変	内黒、横ミガキ	にぶい黄橙、 黒	にぶい黄橙	2㎜以下の灰黄色の粒	
346	黒色土器	+T	B1地区		(6.1)		ナデ	内黒、横ミガキ	浅黄、黄灰	灰黄、オリー ブ黒	2mm以下の黒褐・灰褐・茶褐・白灰 色の粒、光沢粒	
347	内赤土器	高台付坏底部	B1地区 Ⅲ層IV層		(9.0)		ナデ、黒変、粘土 のつなぎ目	内赤、横ミガキ	にぶい黄橙、 橙	にぶい赤橙、 黒褐	1㎜以下の橙・黒・灰黄色の粒	
348	黒色土器	高台付坏 体部~底部	B1地区 Ⅲ層		(7.7)		回転ナデ	内黒、斜ミガキ	浅黄橙	暗灰	2mm以下の黒・灰・茶色の粒、透明 光沢粒	
349	黒色土器	高台付坏 体部~底部	B1地区 Ⅲ層		(6.5)		ナデ、刻書	内黒、横ミガキ	浅黄橙	黒	精良	
350	黒色土器	高台付坏 体部~底部	B1地区 IV層				回転ナデ、工具痕	内黒、ミガキ	明黄褐、黄褐	暗灰黄	精良	
351	黒色土器	付近 高台付坏 底部付近	B1地区 Ⅲ層				ナデ	内黒、横ミガキ	にぶい橙	暗灰	1㎜の淡黄・茶色の粒、黒色光沢粒	
352	須恵器	壺屑部	B1地区 IV層				ナデ	ナデ	灰	黄灰	堅致	
353	須恵器	整 □ 縁	B1地区 IV層				ナデ	ナデ	灰	灰	精良	
354	須恵器	坏 口級~底部	B1地区 IV層	(12.0)	(6.6)	(4.3)	ナデ	ナデ	灰	灰	精良	
355	布痕土器	鉢口緑	B1地区 II層				風化	布目痕	橙	橙	1㎜の茶色の粒	
356	布痕土器	鉢	B1地区				ナデ	布目痕	明赤褐	明赤褐	   2~8mmの赤褐色の粒	
L	Tract Life	胴部	IV層			<u></u>	<u> </u>					

第17表 B 1 地区出土石器計測表

レイアウト 番 号	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	石 材	備考
89	B地区Ⅲ層	石 鏃	3.05	1.9	0.38	0.4	頁 岩	
90	B1地区IV層	石 鏃	2.55	1.6	3.0	1.2	頁 岩	,,,
91	B1地区IV層	石 鏃	2.19	1.8	0.45	0.9	チャート	
92	B1地区IV層	石 鏃	2.25	1.65	0.32	0.9	チャート	
93	B1地区	石 鏃	2.45	1.64	0.34	1.0	チャート	
. 94	B1地区IV層	石鏃	2.73	1.75	0.45	1.7	黒曜石	
95	B1地区IV層	石 鏃	1.6	1.6	0.3	0.5	チャート	
96	B1地区IV層	石 鏃	1.4	1.25	0.2	0.4	チャート	
97	B1地区	石 鏃	1.55	1.45	0.3	0.4	チャート	
98	B1地区IV層	石 匙	3.6	5.4	0.9	13.0	チャート	
99	B1地区 <b>IV層</b>	剥片石器	5.4	4.55	1.1	26.5	チャート	
362	B1地区	磨製石鏃	2.4	2.3	0.28	1.6	頁 岩	
363	B1地区 <b>IV</b> 層	磨製石鏃	2.7	2.5	0.2	2.1	凝灰岩	
364	B1地区IV層	石庖丁	1.45	3.85	0.31	2.9	頁 岩	
365	B1地区	磨 石	8.7	8.5	7.25	750	尾鈴酸性岩	
366	B1地区IV層	磨石	11.05	6.1	2.15	230	安山岩	
367	B1地区 <b>IV</b> 層	敲 石	9.5	8.4	6.14	720	安山岩	
368	B1地区IV層	磨石	13.2	10	4.35	610	凝灰岩	
369	B1地区 <b>IV</b> 層	軽石製品	9.7	9.45	4.5	90.1	軽 石	
370	B1 <b>地区IV層</b>	軽石製品	10.95	10.15	5.1	17.5	軽 石	
371	B1地区IV層	台 石	14.95	12.6	4.4	1320	安山岩	
372	B1地区	台 石	14.3	13.4	6.4	1710	安山岩	
373	B1地区IV層	台 石	26.3	24.65	6.9	5000	安山岩	
374	B1地区IV層	砥石	31	7.3	7.3	1950	安山岩	
375	B1地区	砥 石	11.5	6.4	4.2	330	安山岩	
376	B1地区IV層	砥 石	10.7	5.1	1.95	78.9	安山岩	

### 4. B 2 地区

B 2 地区は、南東側に突き出た丘陵先端部に位置する。調査面積は約4,600㎡である。調査区は北西側が微高地となり、北、東、南側の谷に向かって、緩やかに傾斜している。北西側の微高地は、土の天地返しの為、撹乱されていた。第IV層上を精査すると、B 1 地区同様、古代の畠跡と思われる畝状遺構が確認された。その他、溝状遺構 2 条、竪穴状遺構 1 基、土壙 1 基、時期不明の土壙 1 基、炉跡 6 基、第 V 層上で古墳時代の竪穴住居 1 軒、土壙 1 基、時期不明の掘立柱建物跡 7 棟、柱穴群などを検出している。遺物は、縄文時代後期・晩期の土器、石器、弥生から古墳時代の壺、甕、高坏、須恵器、古代の甕、土師器坏、高台付坏、黒色土器、布痕土器、土製紡錘車、鉄鏃、鉄製品などが第IV層土中から出土している。

# (1)縄文時代の遺構と遺物

遺構は検出されなかったが、第IV層の遺物包含層から縄文後期の土器が出土している。出土遺物は第56図に示している。377~387は深鉢と思われる。377は平口縁で、口唇部に刻み目を施している。378は「く」の字形口縁を呈し、口唇部と内外器面に斜方向の沈線がみられる。379は外器面口縁部に貝殻刺突がみられる。380胴部で、外器面に交差する斜方向の沈線が施されている。381は胴部で、内器面は貝殻条痕、外器面はナデ調整である。382は胴部で、外器面に沈線、内器面は貝殻条痕調整である。383・384は内外器面とも貝殻条痕調整のある胴部である。385は内外器面ともナデである。386・387は底部で、386は網代底である。388~392はチャート製、393は頁岩製の打製石鏃である。

### (2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物

#### 竪穴住居跡

## 1号竪穴住居(SA1、第57図)

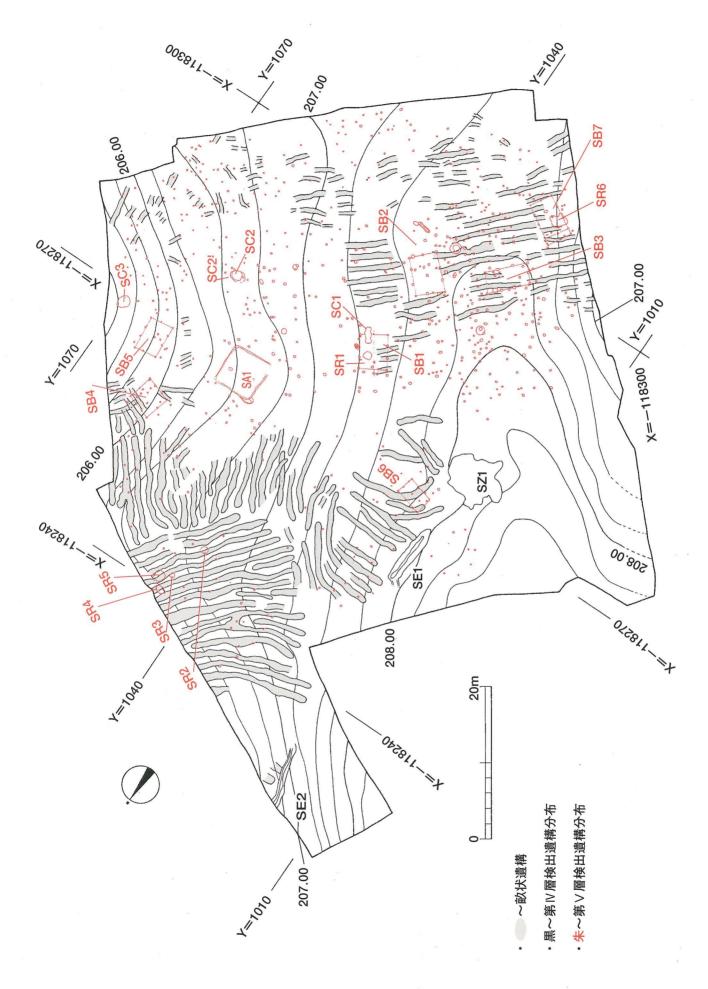
調査区の中央やや東寄り第V層上で検出した。住居径5.6m、検出面からの深さ約0.3mの方形プランを呈する。主柱穴は0.7~0.85mの深さを持つ2本柱である。南側中央には長軸1.7m、短軸1.5m、床面からの深さ約0.2mの隅丸方形プランの土壙を持つ。土壙内からは5世紀前半のものと思われる高坏が出土している。出土遺物については第57図に示している。394は住居内の土壙から出土した高杯である。杯部下位に明瞭な稜を持ち、体部から口縁にかけてやや内湾しながら立ち上がる。脚柱部は、外方に直線的に延び、明瞭な稜を持って裾が広がる。395は刻み目のある貼り付け突帯を持つ甕である。396は平底を呈する甕の底部である。

### 土壙

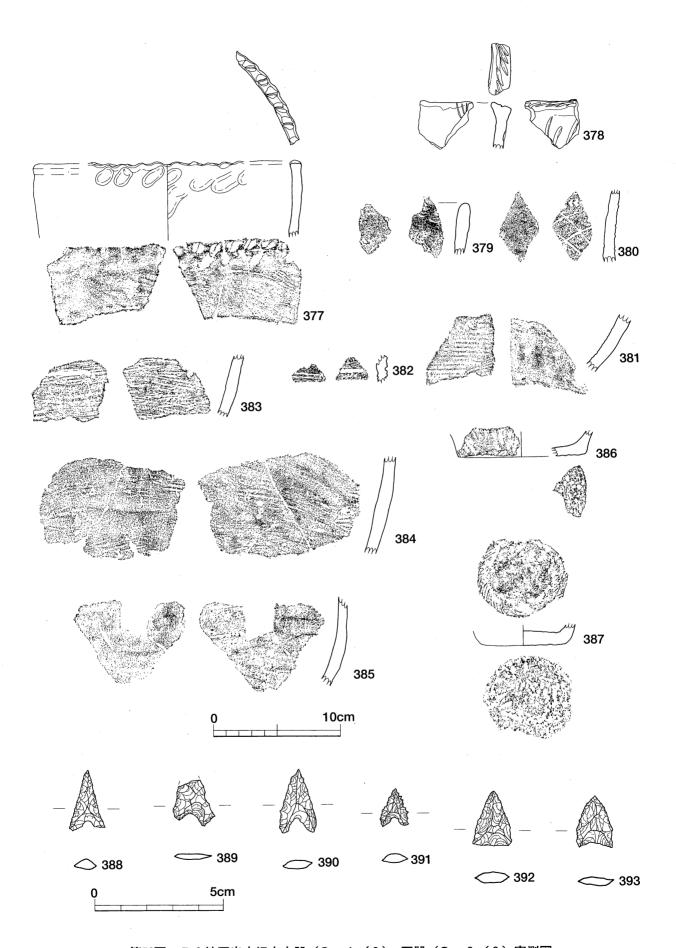
#### 1号土壙(第58図)

調査区のほぼ中央に位置し、1号掘立柱建物跡と切り合っている。長軸約1.9m、短軸0.8m、検出面からの深さ約0.5m前後、北北西-南南東に主軸をもつ不定長楕円形を呈する。埋土は暗オリーブ土で、上層部から外器面にミガキのある広口の壺(第58図、397)が出土している。

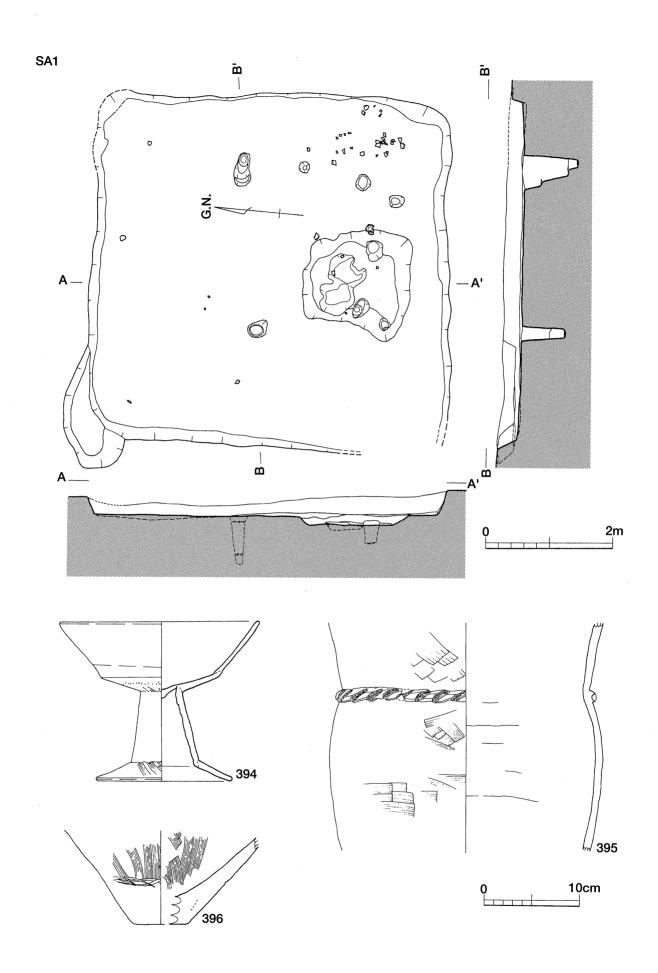
#### 遺構外出土の遺物(第59~64図)



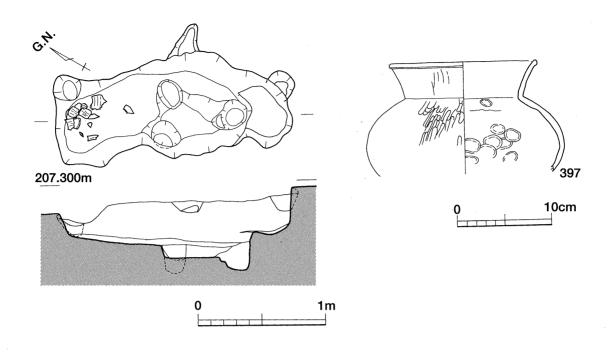
第55図 B2地区遺構分布図 (S=1/500)



第56図 B 2 地区出土縄文土器 (S=1/3)・石器 (S=2/3) 実測図

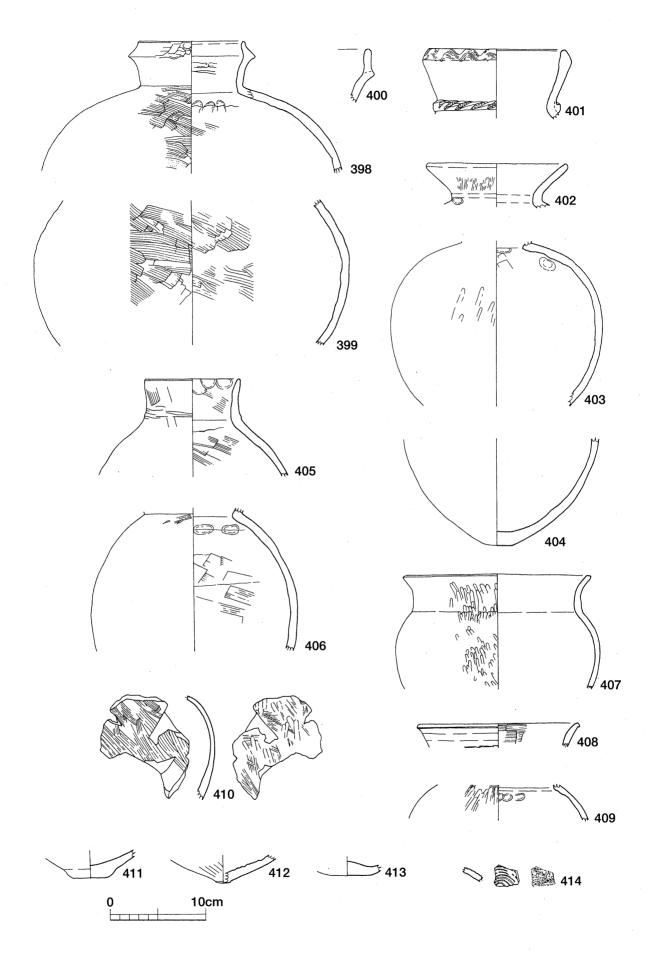


第57図 B 2 地区 1 号竪穴住居(S A 1)実測図(S = 1  $\angle$  60)及び出土遺物実測図(S = 1  $\angle$  4)

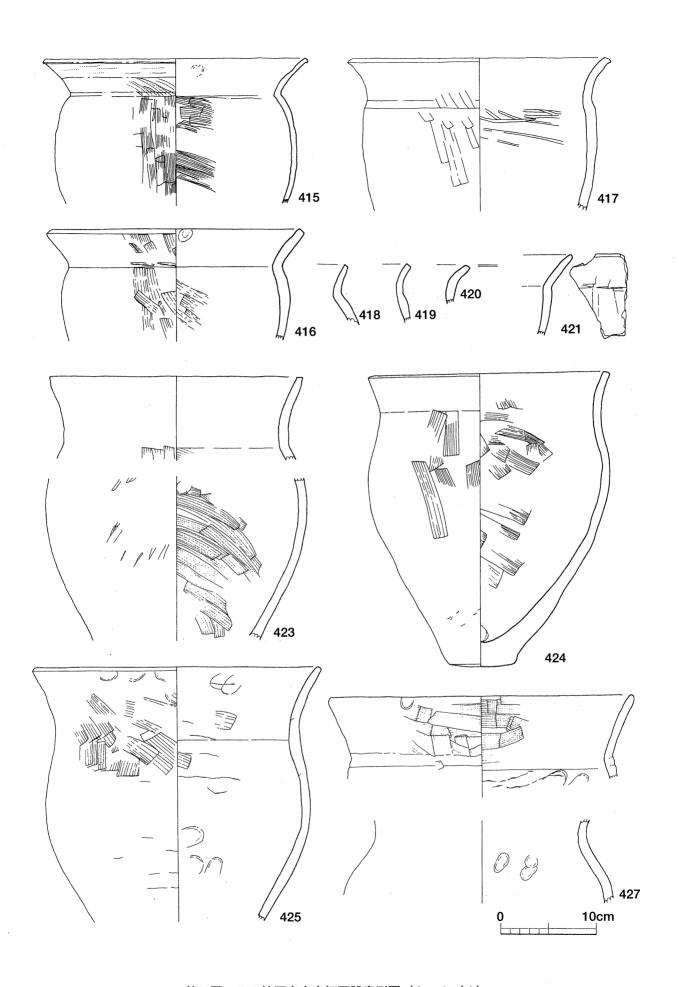


第58図 B2地区1号土壙(SC1)実測図(S=1/30)及び出土遺物実測図(S=1/4)

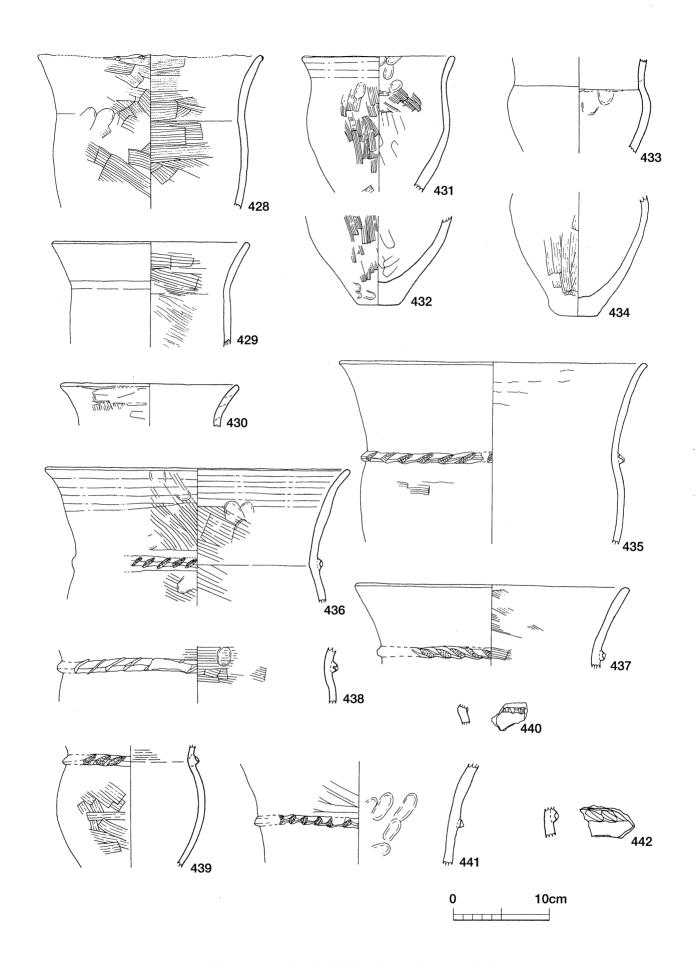
398~414は壺である。398・399は同一個体で、球形の胴部を持つ複合口縁壺である。400は複合口縁 壺の口縁部である。401は複合口縁を呈し、口縁部に櫛描波状と頸部に刻み目のついた貼り付け突帯を 有する。402は頸部屈曲部から口縁にかけて逆ハの字型に開く口縁を呈する。403・404は球形の胴部を 持ち、404は小さい平底を呈する。405・406は長胴形になると思われる。407~409は胴部上位が比較的 張る、口縁部の短い広口の壺になると思われる。411~413は底部で、411は平底、412は乳頭状底部、41 3は丸底的平底である。414は重弧文土器である。415~481は甕である。415は頸部が「く」の字に屈曲 し、口唇部は平坦に仕上げてある。416~421は頸部が若干「く」の字に屈曲し、口唇部は平坦に仕上げ てある。いずれの甕も内外器面はハケ目調整で、ススの付着がみられる。422~425は緩やかに頸部がく びれ、口径と胴部上位最大径がほぼ同じを測る。口唇部は平坦な仕上げである。426は若干頸部が「く」 の字にくびれ、外方に延びる口縁を呈する。口唇部は丸く仕上げてある。427は緩やかに頸部がくびれ ると思われる。428は緩やかに頸部がくびれ、外反しながら口縁が延びる。口唇部には刻み目が施され ている。429は胴部が張らずに頸部くびれから外方に口縁がまっすぐ延びる。口径に最大形を持つ。430 は甕の口縁部である。431~434は小型の甕である。435~440は緩やかにくびれた頸部に刻み目のある貼 り付け突帯を有する甕である。口縁は外方に延びる。441は胴部から口縁にかけてくびれを持たずに外 反しながら延びる甕で、刻み目のある貼り付け突帯を有するものである。443~449は胴部から口縁にか けてくびれを持たずに直行及び内湾しながら延び、刻み目のある貼り付け突帯を持つ甕である。 450~453は口唇部に刻み目を持つ甕の口縁部で、刻み目貼り付け突帯のある甕に伴うものであると思わ れる。454~458は刻み目貼り付け突帯を持つ甕の胴部片である。459~481は甕の底部である。459は脚 台を持つ甕か。460・461は上げ底を呈する。462・463は底部に円盤状の粘土の貼り付けがみられる。46 4~470は平底で、外器面でみると底部に緩やかなくびれを持ち、外反気味に立ち上がる特徴がみられる。 471は平底で、底部にくびれを持たずに直線的に胴部が延びる。472~474は平底で、底部にくびれを持



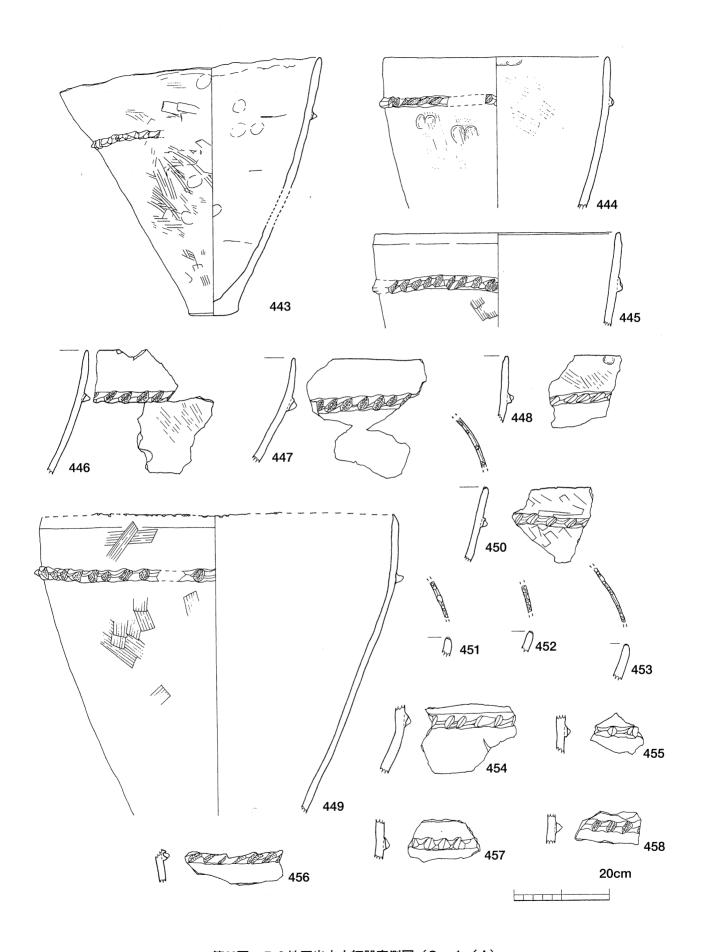
第59図 B 2 地区出土弥生土器・土師器実測図(S = 1 / 4)



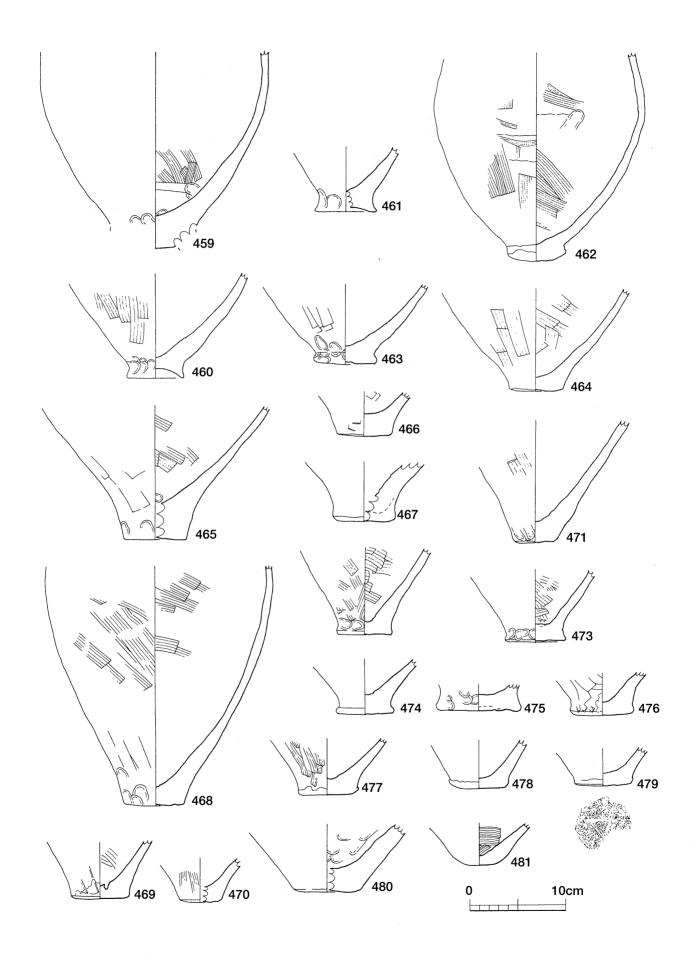
第60図 B 2 地区出土土師石器実測図(S = 1 / 4)



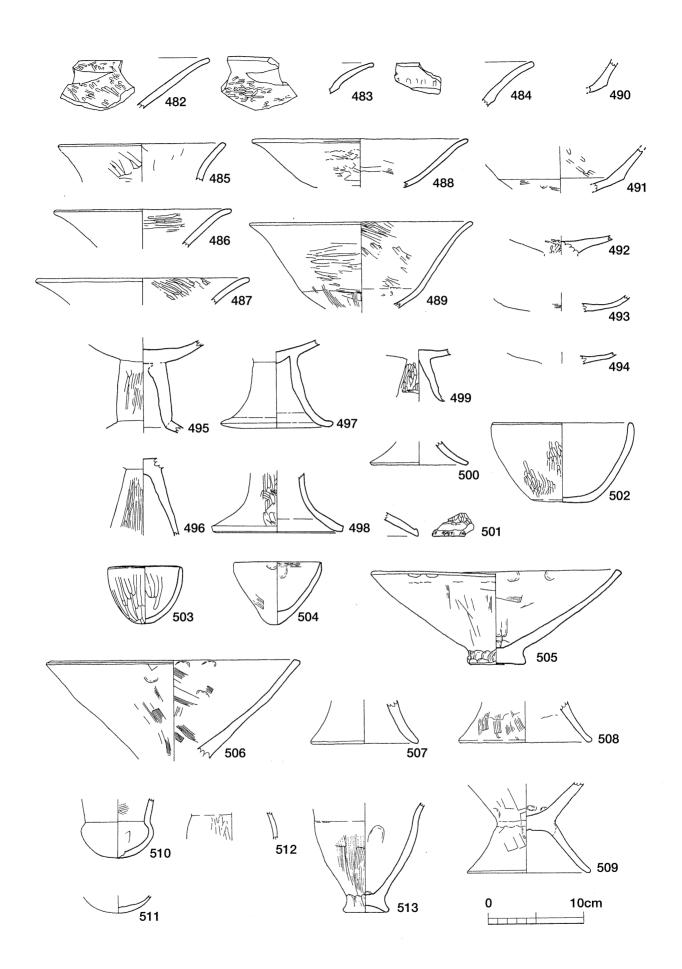
第61図 B 2 地区出土土師器実測図(S = 1 / 4)



第62図 B 2 地区出土土師器実測図(S = 1 / 4)



第63図 B 2 地区出土土師器実測図(S = 1 / 4)



第64図 B 2地区出土土師器実測図(S=1/4)

ち、若干底部裾が外方に開き気味になっている。 $475\sim479$ は平底で、底部に若干くびれを持ち、わずかに底部裾が外方に広がる。480は平底、481は丸底的平底を呈する。 $482\sim494$ は高杯の杯部である。483・484は、屈折する体部外面のみに明瞭な稜がみられる。488・489は屈折はみられず、緩やかに外反している。 $495\sim501$ は高杯の脚部である。495はやや膨らみを持ち、496は外方に直線的に延びる脚柱部を呈する。497・498は外反しながら延び、裾部が開く。499は器高が低く、脚柱部が外反すると思われる。500・501は裾部である。502は椀である。503 • 504は坏である。505 • 506は浅鉢か。506は外器面にススが付着している。 $507\sim509$ は脚台付き鉢などの脚台部か。510 • 511は小型丸底壺である。512は小型の壺の胴部か。513は小型の甕である。

#### (3) 古代の遺構と遺物

### 畝状遺構(第55図)

畝状遺構は第IV層上で検出した。遺構の捉え方はB1地区と同じである。畝状遺構は大きく4区画程に分けられる。①調査区北側に、北東-南西方向に平行して走る15条。②①の南側に、北西-南東方向に平行して走る20条前後。③調査区西側に、東-西方向に平行して走る12条前後。④調査区南側に、北東-南西方向に平行して走る15条前後。

畝状遺構の溝の長さは約15m、20~30m、溝幅0.8~1 m前後を測る。等高線に直交して走行するものがほとんどであるが、斜方向に交わるものもみられる。溝の埋土を除去すると、古代の甕、土師器坏、土製紡錘車などが多く出土した。栽培作物は不明である。

#### 土壙

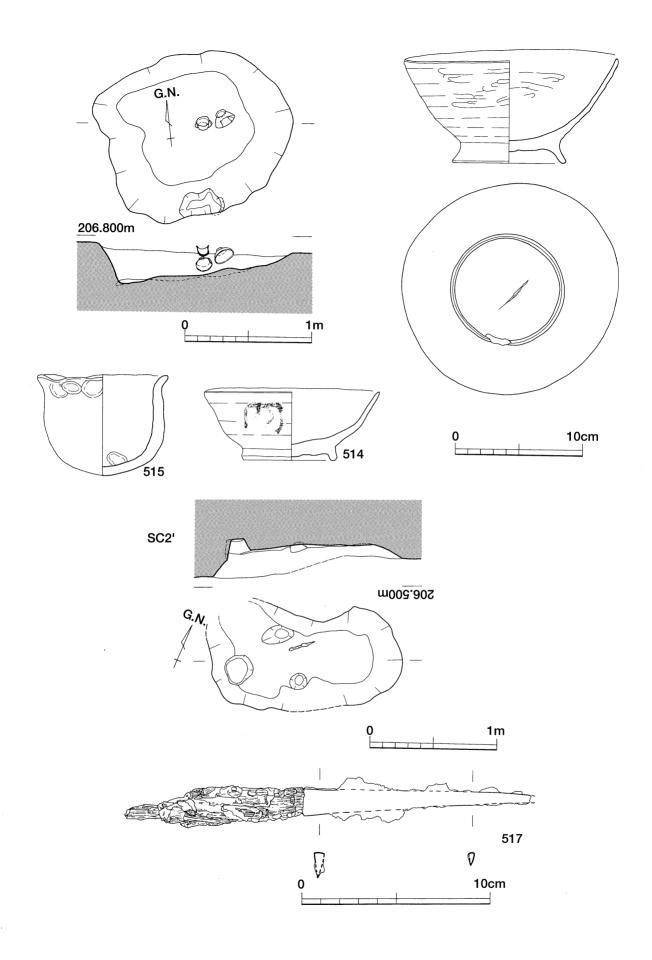
#### 2号·2′号土壙(SC2·2′、第65図)

調査区の東側中央に位置する。2号土壙と2、号土壙は重なる遺構である。遺構検出が困難であったこともあるが、第IV層上で2号土壙を検出し、調査終了後、包含層掘り下げ中に小刀が出土し、第V層上で2、号土壙の落ち込みを確認することになった。2号土壙は長軸約1.6m、短軸約1.3m、検出面からの深さ約0.3mの不定円形プランを呈する。2、号土壙は長軸約1.5m、短軸約0.8m、検出面からの深さ約0.2mの長楕円形プランを呈する。ここでは別遺構として図面を作成しているが、同一遺構であると思われる。また、2号土壙から完形で出土した土師器3つと2、号土壙から出土した小刀1本のセットからみると、土壙墓の可能性が考えられる。埋土は暗オリーブ色土である。

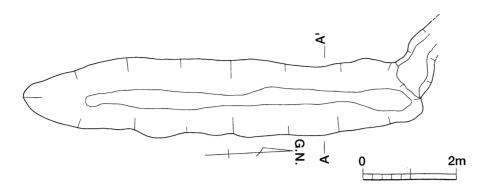
出土遺物は第65図に示してある。514は高台付椀である。体部は内湾して口縁は直立する。高台は使用による摩擦がみられ、断面方形を呈する。体部の正位方向に墨書が記されている。文字は「門」か。515は土師器の坩である。底部は丸底で、内外器面に指頭痕が多くみられる手づくね的な作りである。516は高台付椀である。体部は内湾し、口縁は直立する。高台は外方に開き、高台端部は丸く仕上げてある。高台内にヘラ記号「一」か。517は小刀か。茎端部をわずかに欠き、刃部には鞘の木繊維が残る。現存長22㎝、断面計測の刃の身幅1.4㎝、棟厚 6㎜、茎部の身幅 7㎜、棟厚 3㎜を測る。

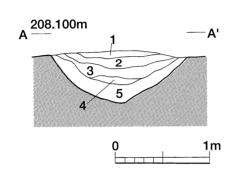
#### 溝状遺構

1号溝状遺構(SE1、第66図)



第65図 B 2 地区 2 ・ 2 ′号土壙 (S C 2 ・ 2 ′) 実測図 (S = 1 / 30) 及び出土遺物 (514~516、S = 1 / 3,517、S = 1 / 2) 実測図





- 1 黒 色 土…粒子が細かくサラサラしている。やや硬質で しまりがある。
- 2 オリーブ黒色土…粒子が粗い。暗灰色火山灰(基本層 序・III-b)が混入する。
- 3 黒 色 土…基本層序・Ⅳ層がブロック状に入り、明黄褐 色粒、白色粒、炭化物粒を若干含む。
- 4 黒褐色土…やや軟質。部分的に明赤褐色および暗灰色火 山灰粒を含み、明黄褐色土粒を若干含む。
- 5 黒褐色土…やや軟質で粒子が粗い。明黄褐色粒を若干含 み、底面には鉄分が沈着する。

第66図 B 2 地区 1 号溝状遺構 (S E 1) • 土層実測図 (S = 1 / 80、土層 S = 1 / 40)

調査区の西側、第IV層上で検出した。溝の長さ約8.45m、溝幅約1.63m、検出面からの深さ約0.58m を測る。出土遺物は無いが、埋土状況からみて畝状遺構と同時期に存在した溝と思われる。溝の使用目 的、性格については不明である。

調査区の北西側に2号溝状遺構(SE2)が確認されている。浅い溝で、畝状遺構と直行していることから、区画的な溝としての機能が考えられる。

### 遺構外出土の遺物

出土遺物は甕、鉢、坏、高台付坏、黒色土器、墨書土器、布痕土器、須恵器、土製紡錘車などがある。 第IV層の遺物包含層と炉跡(SR1~7)周辺、畝状遺構の溝底部分などから出土している。第6表の 古代の土器分類基準表に従って分類を行なう。

#### 甕 (第67・68図)

A類-1:518、519

D類-1:526~530

E類-1:534

A類-2:520

D類-3:531

E類-2:536

B類-1:521、522

D類-4:532

E類-5:535

B類-2:523

D類-7:533

E類-6:537、538

C類-1:524

C類-3:525

541は鉢である。内外器面ともナデで、外器面にはススが付着している。

### 須恵器(第68図)

541は甕の口縁部である。542は甕の胴部で、外器面に格子目タタキ、内器面に平行当て具痕がみられる。

### 坏 (第69図)

A類-1:544

B類-1:545

A 類 - 3:547、548、550、552

B類-2:546、551

### 高台付坏(第69図)

A類:556、557

557は体部外面に縦3条の線刻と底部外面にヘラ記号「-」及び線刻「×」がある。

B類-1:562

B類-6:565

B類-2:559

B類-9:563

B類-3:560

B類-11:564

B類-4:558

563の高台部は、使用による摩擦で高さが低くなっている。

# 黒色土器 (第70図)

底部B類-1:566、568、570

底部B類-3:559

底部 B 類 - 4:567

いずれの坏部も、体部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がり、口縁が直線的及び若干外反気味に 延びるものである。

布痕土器 (第70図:576·577)

土製紡錘車(第70図:578、579)

### (4) その他の遺構と遺物

#### 掘立柱建物跡(SB1~7、第71図)

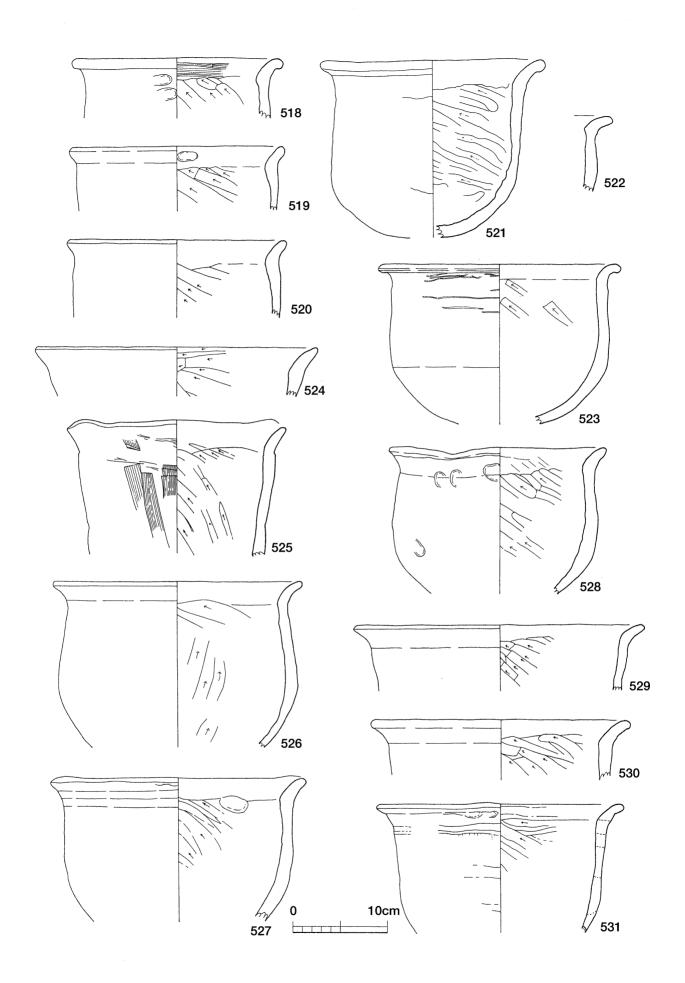
検出された建物は7棟である。今回確認された建物は、1間 $\times$  3間、2間 $\times$  3間、1間 $\times$  2間のものがあり、廂を有するものもある。柱穴の埋土は暗オリーブ土で、畝状遺構が作られる以前の遺構と推測するが、はっきりとした時期決定はできない。柱穴間の距離については図に示した。

#### 1号掘立柱建物跡(SB1)

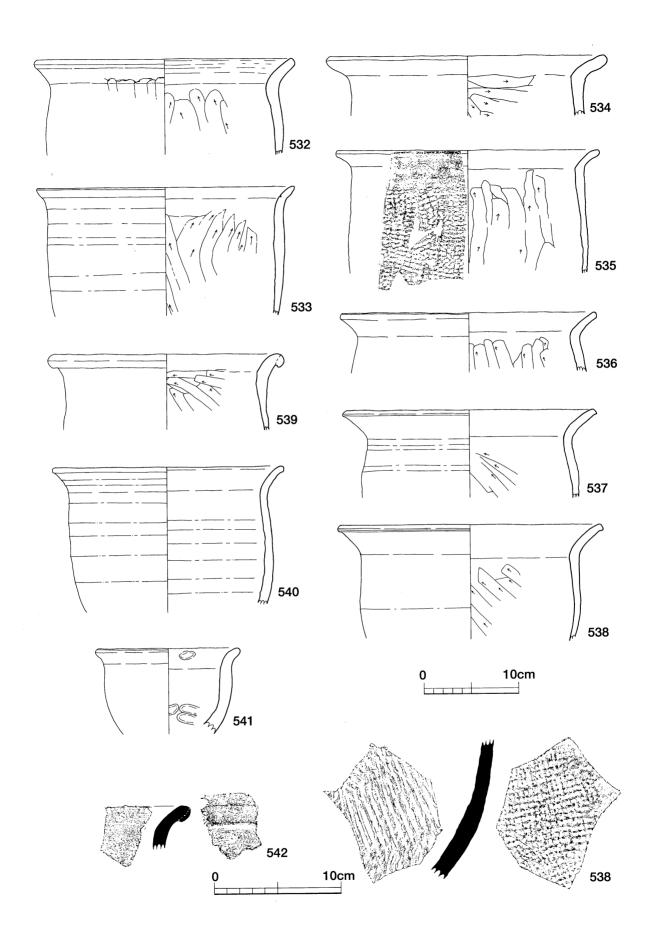
調査区の中央に検出された。主軸を $N-34^\circ$  -Wにとる 2 間 $\times$  3 間の建物で、建物の北西側壁際のほぼ中央に炉(1 号炉)をもつものである。梁 $3.6\sim3.7$ m、桁行 $4.6\sim4.7$ mを測る。柱穴径は30 cm 前後で、深さは $40\sim70$  cm である。古墳時代の土師器を出土するS C 1 と切り合っている。

#### 。 2 号掘立柱建物跡 (SB2)

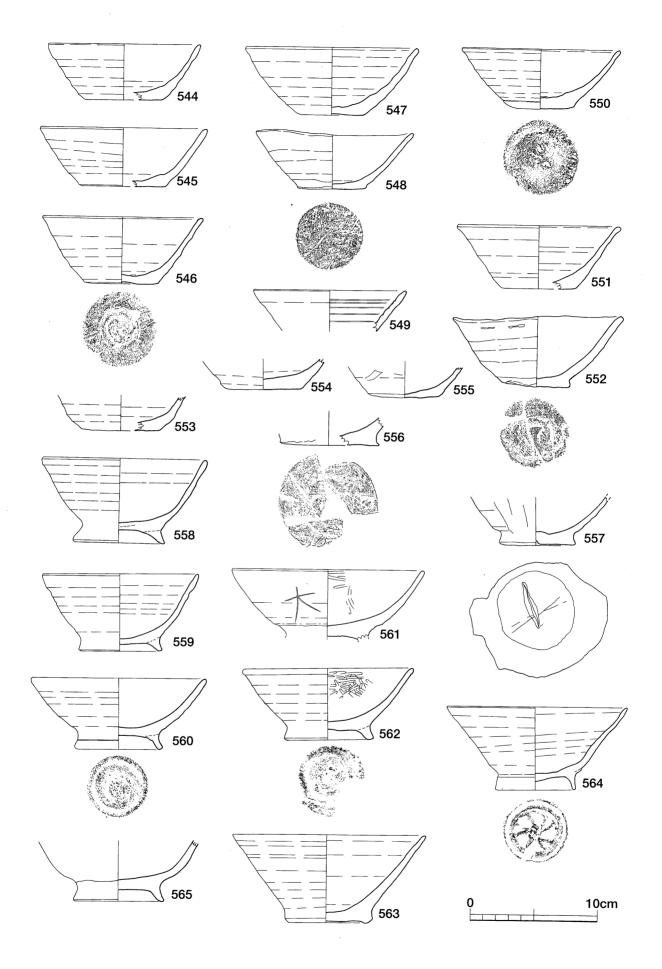
調査区の中央やや南寄りに位置する。主軸を $N-44^\circ$  30′ -Wにとる 2 間× 3 間の建物である。梁3. 8 m、桁行 $4.9\sim5.4$ mを測る。北西側の梁は中央に 2 本の柱が並び、門状になっている。柱穴径は $20\sim40$  cmで、底レベルも一様ではない。



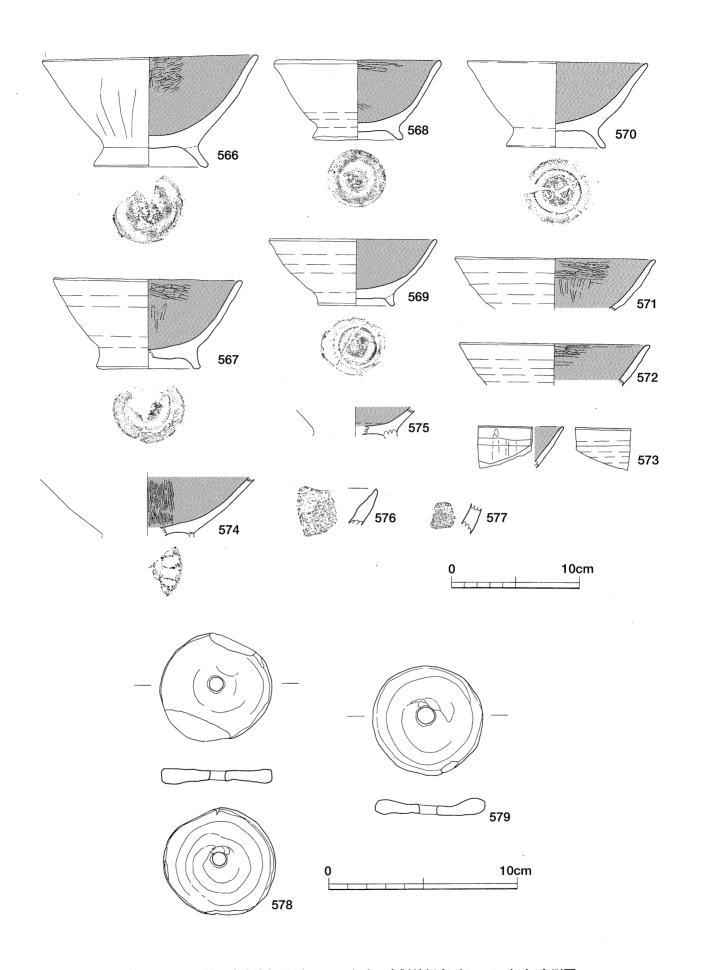
第67図 B 2 地区出土土師器実測図(S = 1 / 4)



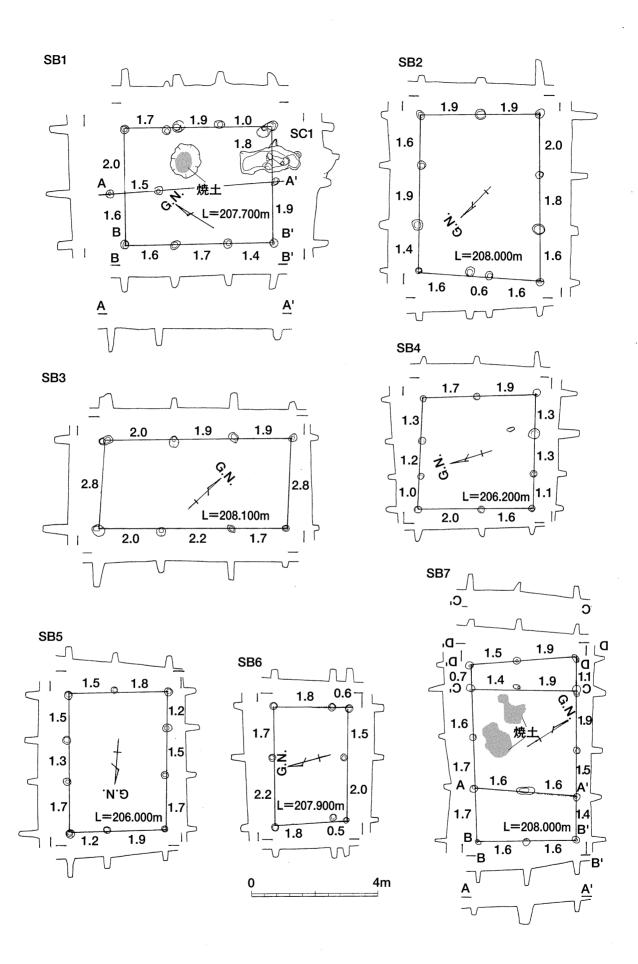
第68図 B 2 地区土出土師器 (S = 1 / 4)・須恵器 (S = 1 / 3) 実測図



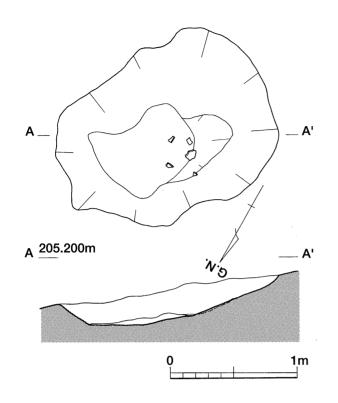
第69図 B 2 地区出土土師器実測図(S=1/3)



第70図 B 2 地区出土土師器 (S=1/3)・土製紡鍾車 (S=1/2) 実測図



第71図 B 2 地区 1 ~ 7 号掘立柱建物跡 (S B 1 ~ 7) 実測図 (S = 1 / 120)



## 。 3 号掘立柱建物跡(SB3)

2号掘立柱建物跡の南南西に位置する。主軸 梁2.8m、桁行5.8~5.9mを測る。柱穴径は20~ 40cmで、底レベルは一様でない。

## 。 4 号掘立柱建物跡(SB4)

調査区の北東側に位置する。主軸をN-70° -Wにとる2間×3間の建物である。梁3.6m、 桁行3.5~3.7mを測る。柱穴径は15~30cmで、 深さは30~70cmである。

#### 。 5 号掘立柱建物跡(SB5)

4号掘立柱建物跡の南隣に位置する。主軸を N-5°30'-Wにとる2間×3間の建物であ る。梁3.1~3.3m、桁行4.4~4.5mを測る。柱

第72図 B 2地区 3号土壙(S C 3)実測図(S = 1/30) 穴径は $20\sim30$ cmで、深さは $30\sim50$ cmである。

### 6号掘立柱建物跡(SB6)

調査区の西側に位置する。主軸をN-75°-Wにとる1間×2間の建物である。梁2.3~2.4m、桁行 3.5~3.9mを測る。梁南側には、1.8mのところに柱穴が見られる。柱穴径は15~30㎝で、深さは40㎝前 後と一定している。

## 7号掘立柱建物跡(SB7)

調査区の南側に位置する。主軸をN-60°-Wにとる2間×3間、西側に廂を持つ建物である。梁3. 2~3.3m、桁行4.8~5 mを測る。南壁際に炉(6号炉)を持つ。柱穴径は15~30cmで、深さは20~50 cmと一様でない。廂の柱穴径は15cm、深さ20~40cmである。

#### 土壙

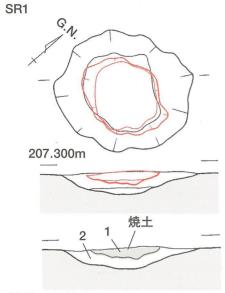
## 3号土壙(SC3、第72図)

調査区の東側壁際、第IV層上で検出した。長軸1.85m、短軸1.28m、検出面からの深さ約0.24mの不 定円形プランを呈する。埋土は黒褐色土である。古墳時代や古代の土師器が数点出土しているが、流れ 込みと思われる。時期は不明である。

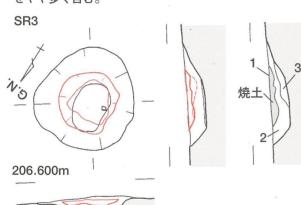
#### 竪穴状遺構

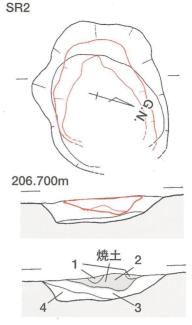
# 1号竪穴状遺構(SZ1)

直径約4m程の不定プランを呈する。この遺構は他の地区で確認されている竪穴状遺構と同じで、黒 色土と焼土が覆土である。溝状遺構とのつながりは確認されていない。埋土状況から畝状遺構と同時期 に存在したと推測するが、性格不明の遺構である。



- 1 赤灰色土…焼土。
- 2 暗褐色土…焼土ブロックを若干含む。ボラ、炭化物 をやや多く含む。



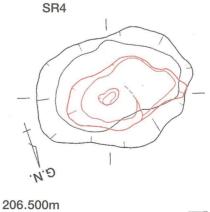


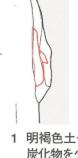
- 1 暗褐色土…焼土ブロックを含む。黄色ボラ 粒、白色粒、炭化物を少量含む。
- 2 明褐色土…焼土。白色粒、炭化物粒を少量 含む。
- 3 暗褐色土…灰層。白色粒、炭化物を多く含 み、黄色ボラを含む。
- 4 暗褐色土…炭化物を少量含む。

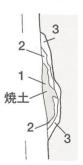




- 1 明褐色土…焼土。
- 2 暗褐色土…炭化物粒を少量含 む。
- 3 暗褐色土…2層と同じ。色調 がやや明るい。



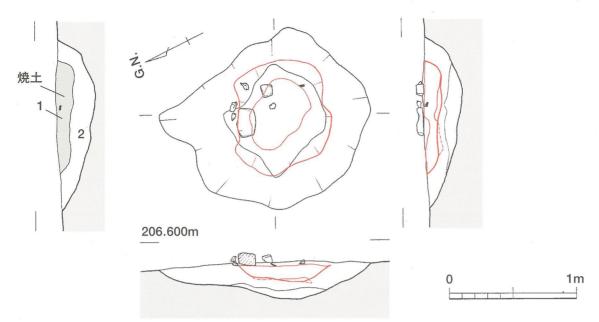




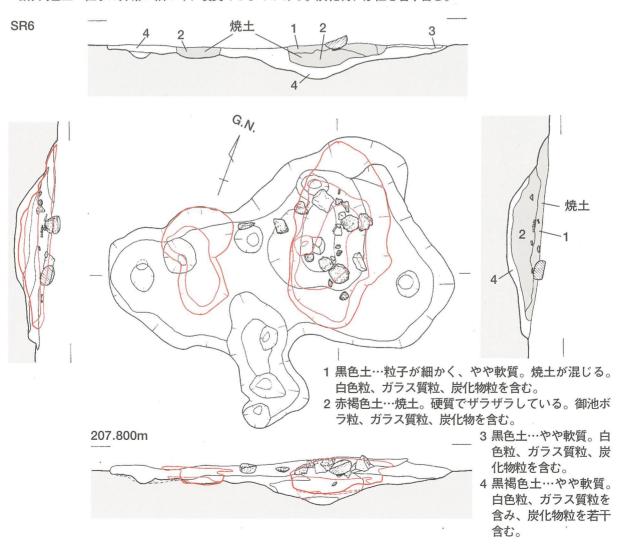
- 焼土
- 1 明褐色土…焼土。白色粒、 炭化物を少量含む。粘土が ブロック状に含まれる。
- 2 黒褐色土…灰層。白色粒、 炭化物を多く含み、黄色ボ ラを含む。硬化した炭化灰 がブロック状に含まれる。
- 3 暗褐色土…炭化物を少量含 む。

第73図 B2地区1・2・3・4号炉跡 (SR1・2・3・4) 実測図 (S=1/30)

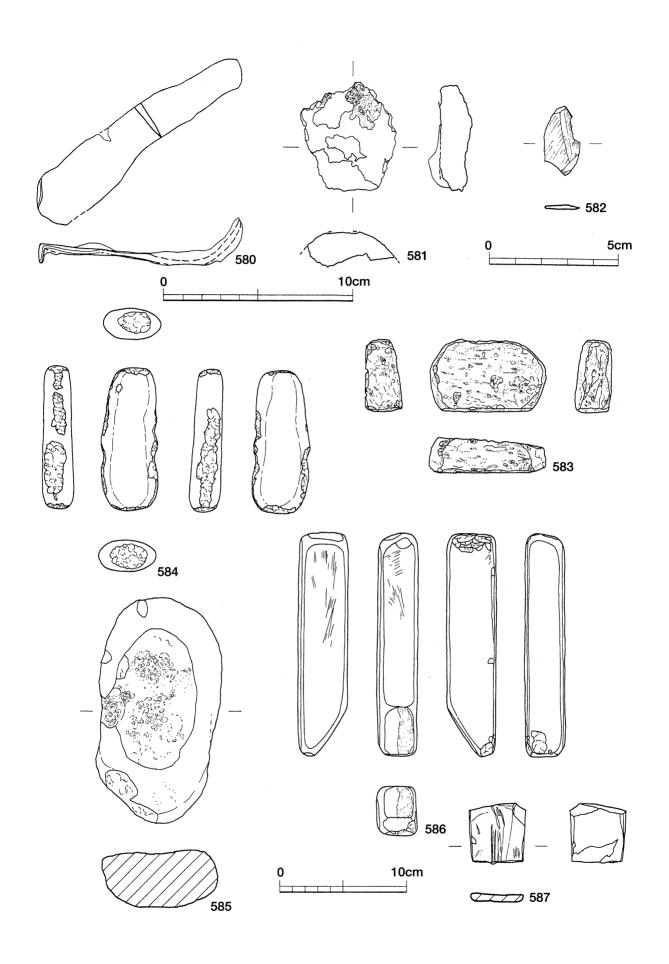
## SR5



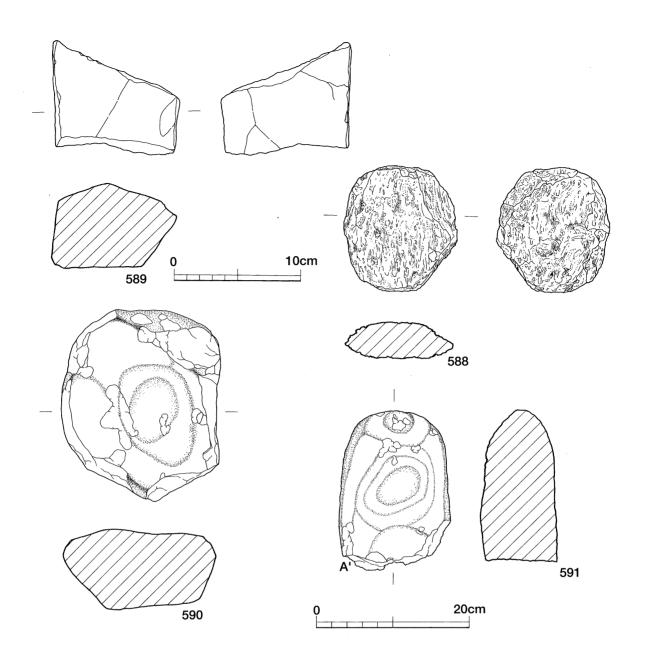
- 1 明赤褐色土…軟質でしまりがある。サラサラしている。炭化物、小石等を含む。
- 2 暗赤褐色土…粒子は非常に細かく、硬質でしまりがある。炭化物、砂粒を若干含む。



第74図 B2地区5・6号炉跡(SR5·6) 実測図(S=1/30)



第75図 B 2 地区出土鉄器・鞴の羽口(S = 1 / 2)・石器(582、S = 2 / 3,583~587、S = 1 / 3)



第76図 B 2 地区出土石器実測図 (589、S = 1 / 3,588 • 590 • 591、S = 2 / 5)

## 炉跡

検出された炉跡は6基である。B-I地区で確認された炉跡と構造は同じであるが、単体で建物に伴うものと、屋外炉的なものが一所に複数で作られていることが確認される。

## 。 1 号炉跡 (SR1、第73図)

1号掘立柱建物跡に伴うものである。掘り型は、長軸1.1m、短軸1m、検出面からの深さ約0.2mの不定楕円形プランを呈する。中央には長軸0.75m、短軸0.55m、深さ約0.1mの楕円形プランに焼土が堆積している。上面では赤変した安山岩や軽石が土器などと共に散乱した状態で確認された。

## 。 2 号炉跡 (SR2、第73図)

調査区の中央北側に検出された。東側は撹乱で壊されているが、掘り型は、長軸約1.2m、短軸約0.9 m、検出面からの深さ約0.2mの楕円形プランを呈する。中央には、焼土が径0.7m、深さ0.15mの範囲

に堆積している。

## 。 3 号炉跡~ 5 号炉跡(SR3 • 4、第73図 SR5、第74図)

2号炉の北側に3基が集中して検出された。3号炉は掘り型径が0.8m、深さ0.18mの円形プランを呈し、中央には径が0.5m、深さ0.1mの焼土が堆積し、他と比べて小型のものである。4号炉は掘り型は長軸1.28m、短軸0.9m、深さ0.16mの楕円形プランを呈する。中央の焼土も、長軸1m、短軸0.5m楕円形プランを呈している。4号炉は、焼土と掘り型に埋めた土との間に火を受けて硬化したような層が底付近に一部に見られた。5号炉は掘り型の長軸が1.68m、短軸1.4m、検出面からの深さ約0.3mの不定円形プランを呈する。中央の焼土は径が0.9m、深さ約0.14mの範囲に堆積し、上面には赤変した軽石や土師器片などが散乱している。

## 。 6 号炉跡 (SR6、第74図)

7号掘立柱建物跡に伴う炉址である。長軸2.8m、短軸1.5mの不定型なにじみに2箇所焼土が堆積している。小さい方は0.1m程の焼土の堆積で、大きい方は長軸1.5m、短軸0.8m、深さ約0.25mの焼土が堆積している。上面には赤変した軽石や安山岩が散乱している。

## 包含層の遺物 (第75・76図)

580は先端部が曲がり、僅かに欠けた鎌である。現存長13㎝前後、刃元幅2.9㎝、棟厚4㎝を測る。基部には着柄のための折り返しを持つ。581は鞴の羽口である。端部にガラス質の付着がみられる。582は 頁岩製の磨製石鏃である。583は面取りされた軽石製品である。584は安山岩製の敲石である。585は凝灰岩製の石皿である。586は砂岩製、587は頁岩製の砥石である。588は軽石製品。589凝灰岩製の砥石か。590は安山岩、591は凝灰岩製の台石である。

#### (5) 小結

遺構、遺物の内容については他の地区と同じである。特記されることは、時期が比較的確定できる竪穴住居と土壙墓と思われる遺構が確認されていることである。遺物については、地形的にも、距離的にも自然作用による遺物の移動は考えにくいが、B1・4地区出土の須恵器との接合が確認されている。

# 第18表 B 2 地区出土遺物観察表(1)

	5102				量(cn		宗 <b>父</b> ( ) / 	<ul><li>・ 女様 けか</li></ul>	色	調			
遺物	種別	器種 部位	出土地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	備	考
	縄文	鉢 口 縁	B2地区 Ⅲ層	(20.2)			口唇部キザミ、ナデ、指頭痕、スス付着	ナデ、指頭痕、貝殻条痕	灰黄褐	橙	1.5㎜の淡黄・暗褐・黒色光沢粒		
378	縄文	深鉢口線	B2地区				ナデ、口唇部斜方 向の沈線	ナデ、貝殻条痕、 粘土のかえり	にぶい褐	にぶい褐	きめ細か		
379	縄文	<b>鉢</b> □ 縁	B2地区 IV層				貝殻刺突文、ナデ	ナデ	明赤褐	灰黄褐	きめ細か		
380	縄文	深鉢胴部	B2地区 IV層				貝殻刺突文、ナデ、 斜方向の沈線	ナデ	橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐灰・灰白光沢粒、黒色 光沢粒		
381	縄文	浅 鉢 胴 部	B2地区 IV層		i		ナデ	ナデ、貝殻条痕	にぶい黄褐	灰黄褐	1㎜以下の光沢粒		
382	縄文	深鉢胴部	B2地区 IV層				ナデ、横方向の沈 線	ナデ、横方向の沈 線	明褐	明褐	2㎜以下の赤褐・灰白・黒色光沢粒		
383	縄文	深鉢胴部	B2地区 IV層				横方向の沈線、貝 殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい褐	2mm以下の明褐・乳白色、透明光沢 粒		
384	縄文	深鉢胴部	B2地区 IV層				ナデ、貝殻条痕	ナデ、貝殻条痕、 黒斑	褐	黒褐	1.5㎜以下の半透明光沢粒		
385	縄文	深鉢 底部付近	B2地区				工具ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	5.5mm以下の褐色粒、 3.0mm以下の半透明光沢粒、 1.0mm以下の黒色光沢粒		
386	縄文	深 鉢底 部	B2地区 IV層		(10)		ナデ、網代底	ナデ	にぶい黄橙	灰黄	3.0mm以下の黒色光沢粒、 2.0mm以下の透明光沢粒		
387	縄文	深鉢底部	B2地区 IV層		(6.65)		ナデ	ナデ、貝殻条痕	にぶい黄褐	明赤褐	2.0mm以下の黒色光沢粒、透明光沢 粒		
394	土師器	高坏完形	B2地区 SA1	(20.6)	(14.0)	16.9	ナデ、斜ハケメ、 風化気味	ナデ、指頭痕、黒 変	橙、にぶい 黄橙	にぶい黄橙、 灰黄	1.5mm以下の褐・灰・乳白色の粒、 黒色・透明光沢粒		
395	土師器	整、□縁付 近~胴部	B2地区 SA1				貼付刻み目突帯、 ナデ、斜・横ハケ メ、黒変	丁寧なナデ、粘土 の継ぎ目、黒斑	にぶい褐、 黒褐	にぶい赤褐、 褐灰	3mm以下の淡黄・灰白色の粒、微細な光沢粒		
396	土師器	度 部	B2地区 SA1		(5.6)		縦・斜ハケメ、工 具痕、ナデ、黒変	斜ハケメ	浅黄、暗灰 黄	にぶい <b>黄橙、</b> 灰オリーブ	3mm以下の褐・灰白色の粒、 1mm以下の黒色光沢粒		
397	土師器	壺 口縁~胴部	B2地区 SC1	(15)			縦ミガキ、ナデ、 黒斑	ナデ、指頭痕、粘 土のつなぎ目、ス ス付着、黒斑	橙	にぶい黄橙	2mm以下の白・透明光沢粒、黒色光 沢粒		
398	土師器	壺 口線~胴部	B2地区 IV層	(10.8)			ナデ、斜ハケメ、 粘土の返り	ナデ、斜ハケメ、 粘土の継ぎ目、風 化気味	橙	にぶい黄、 灰	2.5mm以下の白・橙色の粒、 1mm以下の黒色・透明光沢粒		
399	土師器		B2地区 IV層				斜ハケメ、スス付 着	斜ハケメ、風化気 味	にぶい橙、 灰褐	灰	2.5mm以下の橙色の粒、1mm以下の黒色・透明光沢粒		
400	土師器	壺 口 縁	B2地区 IV層				ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	2㎜以下の透明粒		
401	土師器	壺 口縁~頸部	B2地区 Ⅲ層IV層	(14.0)			ナデ、黒変、風化 気味、櫛描波状文、 貼付刻み目突帯	ナデ、指頭痕	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の褐色の粒、黒色光沢粒、 透明粒		
402	土師器	壺 口縁~頸部	B2地区 IV層	(14.3)			ナデ、斜ハケメ、 指頭痕	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	2㎜以下の透明粒、黒色光沢粒		
403	土師器	壶 頸部~胴部	B2地区 IV層				ナデ、ミガキ、風 化気味、スス付着	ナデ、指頭痕、風 化気味	明黄褐、灰	灰	5mm以下の褐・灰白色の粒、2mm以下の黒色光沢粒		
404	土師器	壺 胴部~底部			(3.1)		ナデ、風化気味、スス付着	ナデ、風化著しい	橙	灰	9mm以下の乳白色の粒、2mm以下の透明粒、黒色光沢粒		
405	土師器	□縁~胴部		(9.1)			斜ハケメ、ナデ、 ミガキ	斜ハケメ、指頭痕、 粘土の継ぎ目 丁寧なナデ、斜ハ	にぶい黄橙、 暗灰黄	黄灰	2mm以下の透明粒、浅黄・灰色の粒		
406	土師器	壺 頸部~胴部	-				ナデ、工具痕	ケメ、ナデ、粘土 の継ぎ目、指頭痕	橙	橙	精良		
407	土師器	量□縁~胴部	+	(16.1)			縦・斜のミガキ、 スス付着	ナデ、炭化物付着	黄褐、橙	浅黄橙、浅黄	2mm以下の褐・灰・黒色の粒		
408	土師器	□ 線	B2地区 IV層	(10.0)		-	ナデ、工具痕	横ハケメ	橙	橙土儿一种	0.5㎜以下の透明光沢粒		
409	土師器	3與的~例的	-	_			縦・斜ハケメ、縦・斜ミガキ	ナデ、指頭痕、黒 変	橙、にぶい橙	オリーブ褐、暗灰黄	2mm以下の灰白色の粒、0.5mm以下の 灰白光沢粒		
410	土師器	Me ob	B2地区 IV層	-			横・斜ハケメ、縦・斜ミガキ	斜ハケメ	橙、オリーブ黒	橙、にぶい   黄橙 	2mm以下の褐灰色の粒 ※照・里・		
411	土師器	成市	B2地区 IV層	-	(3.8)		ナデ、スス付着	ナデ	にぶい橙	にぶい黄	2㎜以下の白・褐色の粒、透明・黒・白色光沢粒		
412	土師器	底部	B2地区 IV層		(1.5)		縦ミガキ、ナデ	風化著しく調整不   明 	橙	灰	2.5mm以下の橙色の粒、黒色光沢粒、   1.5mm以下の透明・半透明光沢粒		

第19表 B 2 地区出土遺物観察表 (2)

سننطد	<u> </u>	器種			<b>量(c</b>		无 <b>父</b> ( 2 )	<ul><li>文様ほか</li></ul>	色	調		
遺物番号	種別	部位	出土地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内面	胎土の特徴	備考
413	土師器	虚 部	B2地区 IV層		(4.4)		ナデ、工具痕	ナデ	明赤褐	明赤褐	2mm以下の乳白・褐色の粒、0.5mm以   下の透明光沢粒	
414	土師器	壺 胴 部	B2地区				重弧文	ナデ	橙	にぶい黄	1㎜以下の乳白色の粒	
415	土師器	整 □縁~胴部	B2地区 IV層	(27.2)			ナデ、縦ハケ目、 スス付着	ナデ、横ハケ目、 指頭痕	橙	橙、にぶい 黄橙	6mm以下の赤褐色の粒、5mm以下の橙色の粒、2mm以下の灰白色の粒、微細な光沢粒	
416	土師器	獲 口録~胴部	B2地区 IV層	(27)			斜ハケ目、スス付 着	横・斜ハケ目、指 頭痕	明黄褐	灰黄	3mm以下のにぶい黄橙色の粒、1mm以 下の黒色の粒	_
417	土師器	變 □縁~胴部	B2地区	(27.6)			工具ナデ	ナデ、工具痕、炭 化物付着	灰黄褐	にぶい黄	3mmの暗褐・灰褐色の粒	
418	土師器	型 口縁~頸部	B2地区 IV層				ナデ、工具痕、黒変	ナデ、縦ハケ目	浅黄橙、暗 灰黄	浅黄橙	1~4㎜の褐灰色の粒	
419	土師器	型 □縁~頸部	B2地区 IV層				斜ハケ目、工具痕、 黒変	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙、 にぶい黄褐	にぶい黄橙	2mm以下の赤灰・灰赤色の粒、2mmの 灰白光沢粒	
420	土師器	型 日 緑	B2地区 IV層				ナデ、スス付着	ナデ	にぶい黄橙 <b>、</b> にぶい褐	橙、にぶい 黄橙	0.5㎜以下の褐色の粒	
421	土師器	型 口縁~胴部	B2地区 IV層				ナデ、工具ナデ	ナデ	橙	浅黄橙	4mm以下の茶色の粒、2.5mm以下の黒 色光沢・透明粒	
422	土師器	型 日 緑	B2地区 IV層	(26.4)			ナデ、斜ハケ目	ナデ、縦ハケ目、 黒変	にぶい黄橙	にぶい黄橙、 オリーブ黒	1mm以下の灰褐・灰白色の粒、1mm以 下の透明光沢粒	
423	土師器	題 服 部	B2地区 IV層				ナデ、工具痕 縦ハケ目、ナデ、	斜ハケ目、指頭痕	にぶい黄橙、 灰黄褐	にぶい黄橙、 オリーブ黒	1mm以下の灰褐・灰白・黒色の粒、 1mm以下の透明光沢粒	
424	土師器	完 形	B2地区 IV層	23.8	6.7	31.2	スス付着、瓜痕、 黒変 ナデ、縦・斜ハケ目、	斜ハケ目、工具痕、 指頭痕、黒変 ナデ、横ハケ目、	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の赤茶・乳白・黒・灰色の 粒、4mm以下の黒色光沢粒	
425	土師器	型級~胴部	B2地区 IV層	(29.4)			指頭痕、粘土のつなぎ 目、スス付着 ナデ、横・斜ハケ	指頭痕、粘土のつ なぎ目 ナデ、横・斜ハケ	にぶい黄橙、 褐灰	にぶい褐、 灰褐	2mm以下の浅黄・灰白色の粒、2mm以 下の無色透明光沢粒	
426	土師器	整 □縁~頸部	B2地区 Ⅲ層IV層	(21.5)	-		日、指頭痕、粘土のつなぎ目	目、指頭痕、粘土 だまり	黒褐	にぶい黄橙	3mm以下の黄灰・灰・黒色の粒、3mm 以下の透明光沢粒	
427	土師器	型 頸部~胴部	B2地区 IV層				ナデ	ナデ、指頭痕、ス ス付着	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2.5mmの乳白・茶色の粒、2.5mmの透明・黒色光沢粒	
428	土師器	型 □緑~胴部	B2地区 IV層	(23.2)	-		口唇部刻み目、斜 ハケ目、黒変、指 頭痕	横ハケ目	にぶい褐	赤褐	2㎜以下の灰・褐色の粒	
429	土師器	整 □縁~胴部	B2地区 IV層	(20.1)	-		ナデ、丁寧なナデ、 スス付着 ——————————	斜ハケ目、黒変	褐灰	にぶい褐、 黒	2mm以下の白・褐・透明光沢粒	•
430	土師器	型 日 緑	B2地区 Ⅲ層IV層	(18.0)			工具ナデ、工具痕 	ナデ	橙	橙	2㎜以下の透明光沢粒	
431	土師器	小型甕、口緑 ~底部付近	B2地区 IV層	(15.5)			縦ハケ目、ナデ、 スス付着	斜ハケ目、ナデ、 指頭痕	黄褐	にぶい黄褐	2mm以下の灰・黒色光沢粒、透明光 沢粒	同一個体
432	土師器		B2地区 IV層		(4.1)		縦ハケ目、スス付 着、指頭痕	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	1~3mmの灰・透明光沢粒、黒色光沢 粒	J
433	土師器	小型甕、 頸部~胴部	B2地区 IV層		_		丁寧なナデ、黒変、 スス付着	丁寧なナデ、指頭 痕、粘土のかえり	にぶい橙、 褐灰	にぶい赤褐	2.5㎜以下の浅黄・透明光沢粒	
434	土師器	小型甕、 胴部~底部	B2地区 IV層		(4.2)		工具ナデ、スス付着	ナデ、工具痕	にぶい赤褐、 灰褐	赤褐、褐灰	2㎜以下の半透明光沢粒	
435	土師器	整 □緑~胴部	B2地区 II層IV層	(31.3)			ナデ、貼付刻み目 突帯 斜ハケ目、ナデ、	ナデ、粘土のつなぎ目	にぶい赤褐	赤褐	2㎜以下の半透明光沢粒	
436	土師器	要 □録~頸部	B2地区 IV層	(31.3)			貼付刻み目突帯、 スス付着、指頭痕	斜ハケ目、ナデ、 指頭痕	黒褐	明褐	2㎜以下の乳白・褐色の粒	
437	土師器	要 □縁~頸部	B2地区 IV層	(27.9)			ナデ、貼付刻み目 突帯、スス付着 ハケ目、工具ナデ、	斜ハケ目、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2㎜以下の橙色の粒、透明・黒色光 沢粒	
438	土師器	要部	B2地区 IV層				貼付刻み目突帯、 スス付着	横ハケ目、ナデ、 粘土のつなぎ目	にぶい赤褐、 灰黄褐	黒、褐、明赤褐	3㎜以下の褐色の粒	
439		小型甕、 頸部~胴部	B2地区 IV層		-	_	ハケ目、貼付刻み 目突帯、黒変	ナデ	にぶい赤褐、 黒褐	にぶい赤褐	1.5㎜以下の灰白・透明粒	
440		小型甕、	B2地区 II層				ナデ、貼付刻み目 突帯、スス付着 工具ナデ、粗なナ	粗なナデ	にぶい黄橙	浅黄	1.5㎜以下の黒・褐・灰色粒	
441	土師器	題 網 部	B2地区				デ、貼付刻み目突 帯	ナデ、指頭痕	明黄褐	浅黄	2.5mm以下の乳白・暗褐・透明光沢 粒	-
442	土師器	蹇 胴 部	B2地区 IV層				ナデ、貼付刻み目 突帯	ナデ	にぶい黄	暗灰黄	1.5㎜以下の赤褐・黒・透明粒	

第20表 B 2 地区出土遺物観察表 (3)

7		UD 705		3.1	量 (ci	-)	五 从 如 ***	. · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	tt.	##I		
遺物	種別	器種 部位	出土地点	口径	重(ci 底経	器高	手法・調整 外 面	<ul><li>・ 文様 ほか</li><li>内 面</li></ul>	色 外面	内面	胎土の特徴	備考
443	土師器	型 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	B2地区 IV層	27.1	5.2	(27.3)	外 <u>国</u> 刷毛目、工具ナデ、 指頭痕、スス付着、 貼付刻み目突帯	ナデ、指頭痕	橙	にぶい黄橙	2mm以下の透明及び黒色光沢粒、 3mm以下の白色粒	
444	土師器	變 □縁~胴部	B2地区 Ⅲ層IV層	(23.75)			横ナデ、ナデ、刷 毛目の後ナデ、指 頭痕	刷毛目の後丁寧な	にぶい赤褐	にぶい赤褐、黒褐	3mm程の浅黄・灰褐色の粒、2mm以下の灰白の粒、1mm以下の透明の光沢	
445	土師器	整 □縁~胴部	B2地区 IV層	(25.6)			ナデ、貼付刻み目 突帯	ナデ、黒斑	赤褐、にぶい黄褐	灰黄褐、黒褐	粒 5mm以下の赤褐色粒、微細な光沢粒	
446	土師器	整 □縁~胴部	B2地区 IV層				ナデ、スス付着、 貼付刻み目突帯	工具ナデ	橙	にぶい黄褐	2㎜以下の白色及び透明粒	
447	土師器	雅 口縁~胴部	B2地区 IV層				ナデ、貼付刻み目 突帯	工具ナデ(?)	黄褐	黄褐	3.5㎜以下の白色・黒色の粒	
448	土師器	整 □緑~胴部	B2地区 IV層				刷毛目の後ナデ、 ナデ、指頭痕、貼 付刻み目突帯	刷毛目の後ナデ、 ナデ、指頭痕	にぶい橙	灰褐	2mm以下の浅黄色・灰白色の粒、 1mm以下の透明の光沢粒	
449	土師器	甕 □縁~胴部	B2地区 亚層IV層	36.8			口唇部に刻み、ナデ、 刷毛状工具によるナデ、 貼付刻み目突帯	ナデ、黒変	明赤褐	橙	6mmから2mmの黄灰色の粒、2mm以下の黒・灰・黄灰の粒	
450	土師器	整□ 緑	B2地区				口唇部に浅い刻み、 ナデ、工具ナデ、 貼付刻み目突帯	工具ナデ、黒変	にぶい赤褐、 にぶい黄褐	褐	1.5mmの淡黄・茶・黒色光沢粒、 半透明光沢粒	
451	土師器	<b>甕</b> □ 縁	B2地区 IV層				口唇部に刻み目、 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.5~1.5㎜以下の褐色の粒	
452	土師器	豊 □ 縁	B2地区 IV層				口唇部に刻み目、 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.5~1.0mmの褐色・黒色・乳白色の 粒	
453	土師器	型 2 禄	B2地区 IV層				口唇部に刻み目、 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.5~1.0mmの褐色・乳白色の粒、 0.5mm暗いの黒色光沢粒	
454	土師器	製脂 部	B2地区 IV層				ナデ、黒斑、貼付 刻み目突帯	ナデ、指頭痕	にぶい褐	橙	5mm以下の白色の粒、2mm以下の透明・ 乳白色・黒色光沢粒	
455	土師器	班 胴 部	B2地区 IV層				ナデ、貼付刻み目 突帯	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	2.0mm以下の半透明光沢粒、1.0mm以 下の黒色光沢粒	
456	土師器	要期 部	B2地区 Ⅲ層IV層				ナデ、貼付刻み目 突帯	丁寧なナデ	にぶい褐	にぶい赤褐、 褐灰	1.0m以下の褐・灰・にぶい赤橙の 粒	
457	土師器	題 胴 部	B2地区 IV層				ナデ、貼付刻み目 突帯	ナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	2.0mm以下の半透明光沢粒、1.0mm以 下の黒色光沢粒	
458	土師器	夏期 部	B2地区 Ⅲ層IV層				丁寧なナデ、貼付 刻み目突帯	丁寧なナデ	にぶい赤褐	明赤褐	1.0㎜以下のにぶい黄橙・灰色の粒	
459	土師器	整 胴部~底部	B2地区 IV層				ナデ、指頭痕	斜ハケ目、指頭痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mmの透明光沢粒、1mmの茶褐・灰・ 乳白色の粒	
460	土師器	変 底部	B2地区 IV層		5.85		縦ハケ目、指頭痕	ナデ、炭化物付着	にぶい黄橙	にぶい黄橙	6㎜以下の黒・灰・茶色の粒	
461	土師器	蹇 底 部	B2地区 IV層		(6.4)		ナデ、ハケ目、指 頭痕	ナデ	灰黄	にぶい黄橙	4.5mmの褐色の粒、3mm以下の灰・褐 色の粒	
462	土師器	要 胴部~底部	B2地区 Ⅲ層IV層		6.0		ナデ、縦・横・斜 ハケ目、粘土のつ なぎ目、スス付着	ナデ、指頭痕、炭 化物付着	明赤褐	明赤褐	0.5~3mm以下の乳白・灰白色の粒、 0.5mmの透明光沢粒	
463	土師器	整底 部	B2地区 IV層		(6.5)		ハケ目、ナデ、指 頭痕	ナデ、指頭痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	3mm以下の浅黄色の粒、1mmの灰白色の粒、1mm以下の無色透明光沢粒	
464	土師器	盛底 部	B2地区 IV層		5.65		縦ハケ目	縦・斜ハケ目	にぶい黄橙	橙	2㎜以下の黄灰・乳白・灰色の粒	
465	土師器	整底 部	B2地区 IV層		(6.4)		工具ナデ、指頭痕	斜ハケ目、指頭痕	にぶい褐	にぶい赤褐、 黒褐	2mm以下の浅橙・浅黄・灰白色の粒、 1mm以下の無色透明光沢粒	
466	土師器	蹇 底 部	B2地区 IV層		5.8		ナデ、工具痕	ナデ、工具痕	明赤褐	にぶい黄橙	0.5~2mm以下の乳白・灰白色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
467	土師器	蹇 底 部	B2地区		6.5		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	黄灰	3㎜以下の黒・灰・褐色の粒	
468	土師器	<b>變</b> 胴部~底部	B2地区 IV層		6.1		斜ハケ目、工具ナ デ、指頭痕	斜ハケ目、ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1mm以下の浅黄・灰白色の粒、1mm以 下の無色透明光沢粒	
469	土師器	甕底 部	B2地区 IV層		6.1		ハケ目、スス付着	斜ハケ目、黒変	明褐	明赤褐	2mm以下の灰白・明褐・灰色の粒、 2mm以下の灰白光沢粒	
470	土師器	麼 部	B2地区 IV層		(4.3)		縦ハケ目、ナデ、 黒変	ナデ、黒変	黄褐	黒褐	4mmの灰白色の粒、2mm以下の灰白色 の粒、2mm以下の灰白光沢粒	
471	上師器	<b>發</b> 胴部~底部	B2地区 IV層		4.1		工具ナデ、スス付 着	ナデ	褐、褐灰	黒褐、赤褐	3mm以下の黒色光沢粒、2mm以下の半 透明光沢粒	
472	土師器	整底 部	B2地区 IV層		(5.4)		斜ハケ目、指頭痕、 黒変	斜ハケ目、炭化物 付着	にぶい赤褐	明赤褐	1~2㎜の茶・乳白色の粒、1~2㎜の 黒色・透明光沢粒	

第21表 B 2 地区出土遺物観察表 (4)

番号 473 = 474 = 475 = 476 = 477 =	種別土師器土師器土師器土師器土師器	器種 部位 整底 寒部 整底	出土点 地点 B2地区 IV層 B2地区 IV層	口径	量 (cn 底経 (6.3)	器高	手法 · 調整	<ul><li>・ 文様 ほか</li><li>内 面</li></ul>	外 面	内 面	胎土の特徴	備	考
473 = 474 = 475 = 476 = 477 = 477	土師器土師器土師器土師器	整 底 整 底 整	B2地区 IV層 B2地区 IV層	口径		器高		内 面	外面	内 面			
474 = 475 = 476 = 477 =	土師器土師器土師器土師器	底部 整底部	IV層 B2地区 IV層	:	(6.3)								
475 = 476 = 477 =	土師器土師器土師器	底部	IV層				ナデ、指頭痕、粘 土のかえり	斜ハケ目	にぶい黄褐	にぶい赤褐	1.5㎜の黒色・半透明光沢粒		
476 =	土師器				(5.8)		ナデ	ナデ、工具痕	にぶい褐	にぶい赤褐	1.5mmの淡黄・乳白色の粒 1.5mmの透明光沢粒		
477	土師器		B2地区 Ⅲ層		8.0		ナデ、指頭痕	ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	4mmの乳白・灰色の粒、1.5mmの暗褐・ 淡黄・乳白色の粒、1.5mmの黒色光 沢粒		
		麼 部	B2地区 IV層		6.7		ナデ、工具痕	ナデ、工具痕、 黒 変	明褐、黄褐	にぶい <b>黄橙、</b> 灰オリーブ	1mm以下の黄灰色の粒、2mm以下の灰 白色の粒、2mm以下の灰白光沢粒		
478		蹇 底 部	B2地区 IV層		5.7		工具ナデ、黒変、 粘土のかえり	ナデ、指頭痕	にぶい黄褐 <b>、</b> 黒	にぶい <b>黄褐、</b> オリーブ黒	2㎜の灰白色の粒		
	土師器	夏底 部	B2地区 IV層		6.2		ナデ、指頭痕、粘 土のかえり	ナデ	にぶい橙	暗灰黄	1~2mmの淡黄・暗褐色の粒、1~2mm の透明光沢粒		
479	土師器	甕底 部	B2地区 IV層		5.8		ナデ、粘土のかえ り、木の葉底	ナデ	褐	にぶい黄褐	1.5㎜以下の透明光沢粒		
480 =	土師器	整底 部	B2地区 IV層		(7.0)		ナデ、工具痕	ナデ、指頭痕	にぶい褐	灰黄、暗灰 黄	1㎜の白・灰白・黒色の粒、1㎜の黒 色・透明光沢粒		
481	土師器	甕底 部	B2地区 IV層		2.7		ナデ	横・斜ハケ目	明赤褐	明赤褐	0.5~3mm以下の褐・乳白色の粒、 0.5mm以下の黒色・透明光沢粒		
482	土師器	高 坏口 縁	B2地区 Ⅲ層				ナデ <b>、横・</b> 斜ミガ キ	黒斑、斜ミガキ	褐	暗赤褐	0.5㎜以下の黒色粒		
483	土師器	高 坏坏 部	B2地区 シクツ				ナデ、ミガキ	黒斑、ミガキ	橙	明黄褐	0.5㎜位の褐色粒		
484	土師器	高 坏坏 部	B2地区 IV層				ナデ、風化してい る	ナデ、スス付着	黄橙	橙	2㎜以下の乳白色・黒色の粒		
485	土師器	高 坏 部	B2地区 IV層	(17.6)			ナデ、工具痕	ナデ、工具痕	にぶい褐	にぶい褐	透明光沢粒		
486	土師器	高坏纸部	B2地区 IV層	(18.6)			ナデ	ミガキ、風化気味	にぶい褐	にぶい赤褐	0.1㎜乳白色・透明の粒		
487	土師器	高 坏坏 部	B2地区 IV層	(21.4)			ナデ	ミガキ	にぶい褐	にぶい赤褐	0.1㎜以下乳白色・透明の粒		
488	土師器	高坏杯部	B2地区 IV層	(22.5)			ナデ、粘土のつな ぎ目、斜ハケ目	ナデ、ハケ目	明褐	明褐	2mm以下の灰白・明褐・灰白光沢・ 灰白の粒		
489	土師器	高坏部	B2地区 IV層IV層上	(22.8)			ナデ、横・縦ミガ キ	ミガキ	褐	赤褐	精良		
490 =	土師器	高 坏坏 部	B2地区 IV層				ナデ、粘土のつな ぎ目、粘土のかえ り	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	2㎜以下の浅黄・黒・灰の粒		
491	土師器	高坏纸部	B2地区 IV層IV層上				ナデ、ミガキ、風 化気味	ミガキ、風化気味、 スス付着	明赤褐	にぶい赤褐	2mm以下の透明に光る粒、黒・灰・ 乳白の粒		
492	土師器	高坏坏部	B2地区 II層II層上				横ミガキ、風化気 味、丹塗り	ミガキ、風化気味、 黒変	赤	橙	1.5mm以下の透明光沢・黒光沢の粒		
493	土師器	高坏部	B2地区 IV層					ナデ	にぶい黄橙	黄灰	1㎜以下の浅黄・無色透明の粒		
494	土師器	高 坏坏 部	B2地区 IV層				ミガキ	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	1㎜以下の無色透明・灰白の粒		
495	土師器	高坏、坏底 部~脚柱部	B2地区				ナデ、ハケ目、ス ス付着	ナデ	橙	橙	2㎜以下の黒・透明光沢の粒		
496	土師器	高坏 脚柱部	B2地区				ナデ、ミガキ	ナデ	明赤褐	黒褐	光沢粒		
497	土師器	高坏 城路~翻	B2地区 IV層		11.4		ナデ	工具ナデ、横ケズリ	橙	橙	2mm以下の乳白・灰・黒の粒		
498	土師器	高坏 腱部~翻	B2地区 IV層		13.5		ミガキ	ナデ	明赤褐	赤褐	2mm以下の透明金に光る粒、黒・灰・ 乳白の粒		
499	土師器	高坏、城 多~離都	B2地区 Ⅲ層IV層				ナデ、横・縦ミガ キ、黒変	ミガキ、黒変	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒・茶・灰・乳白の粒		
500	土師器	高坏化部	B2地区 SZ1		(10.3)		ナデ、黒斑	ナデ	黄灰、橙	にぶい黄橙	7mmのにぶい黄橙粒、1mm以下の黒・ 灰・褐色の粒		
501	土師器	高坏器部	B2地区 IV層				ミガキ、ナデ	ナデ	橙	黒	精良		
502	土師器	椀 □緑~底部	B2地区 Ⅲ層IV層		(6.3)		縦ミガキ、ナデ、 スス付着	ナデ、黒斑	橙	橙	2mm以下の透明粒		

第22表 B 2 地区出土遺物観察表(5)

遺物		器種	出土		量 (cn	120 年元:	手法・調整	<ul><li>文様ほか</li></ul>	色	調		
番号	種別	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	備考
503	土師器	坏 完 形	B2地区	29	1.05	6.15	ナデ、ハケ目後 ミ ガキ、黒変	ナデ、ナデ後ミガキ、指頭痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	精良	
504	土師器	坏 □縁~底部	B2地区 IV層	(9)		6.7	ナデ、黒斑、指頭 痕	ナデ	灰黄、黄灰	黄灰	1.5mmの黒光沢・浅黄の粒、3mmの灰 色粒	
505	土師器	浅鉢 口縁~底部	B2地区 II層IV層	(25.2)	5.6	(10.1)	ナデ、縦ハケ目、 指頭痕、黒斑	ナデ、斜ハケ目、 指頭痕、黒斑	橙	橙、黒	2~3㎜の赤褐・淡黄・透明光沢の粒	
506	上師器	浅鉢 口線~体部	B2地区 IV層	(26.6)			ナデ、工具ナデ、 指頭痕、スス付着	ナデ、指頭痕、斜・ 縦ハケ目、黒斑	にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.5~2㎜の褐・乳白・黒色の粒	
507	土師器	脚台?裾 部	B2地区 IV層		(11.0)		ナデ	ナデ、風化著しい	にぶい褐	にぶい橙	1mm以下の赤褐・透明・黒色光沢の 粒	
508	土師器	高 坏 裾部	B2地区 IV層		(13.4)		縦ハケ目、ナデ、 粘土のつなぎ目	ナデ <b>、粘</b> 土のつな ぎ目	浅黄	にぶい黄	2mm以下の白・透明光沢粒、黒色光 沢粒	
509	土師器	脚台/b体? 体部~裾部	B2地区 II層IV層		12.8		工具ナデ、ナデ、 指頭痕	ナデ、指頭痕	橙	橙、にぶい 黄橙	2mm以下の褐灰白の粒	
510	土師器	小型丸底壺、 口縁付近~ 底部付近	B2地区 II層IV層				ナデ、黒斑	ナデ、ハケ目、工 具ナデ	橙	明赤褐	1mm以下の透明粒	
511	土師器	小型丸底壺 底 部	B2地区 IV層				ナデ	ナデ	明黄褐	橙	1㎜以下の茶・灰・透明光沢粒	
512	土師器	壺 胴 部	B2地区 IV層				ナデ、ミガキ、風 化気味、黒変	ナデ	浅黄、暗灰 黄	浅黄	0.5mm以下の褐灰・光沢灰白粒	
513	土師器	小型 <b>獲</b> 類部~底部	B2地区 IV層		(4.7)		縦ハケ目、指頭痕、 黒斑	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙、 黒	にぶい橙	3mm以下の浅黄粒、1.5mm以下の黒光 沢粒、1mm程の無色透明粒	
514	土師器	境 □縁~底部	B2地区 SC2	13.75	(7.1)	5.7	ナデ、粘土のつな ぎ目、墨書	ナデ	浅黄橙、淡 黄	黄橙	1~3mmの茶色の粒、1mm以下の白・透明光沢粒	
515	土師器	坩 完 形	B2地区 SC2	9.9		8	ナデ、スス付着	指頭痕、風化気味	にぶい褐	橙	4mm以下の白・透明光沢粒、黒色光 沢粒	* .
516	土師器	高台付城 完 形	B2地区 SC2	16.85	8.7	9	回転ナデの後ミガ キ、ナデ、ヘラ切 り、ヘラ記号	ミガキの後ナデ、 粘土のつなぎ目	橙	橙	4㎜以下の茶・褐・白・黒色の粒	
518	土師器	型。	B2地区 Ⅲ層IV層	(21.2)			ナデ、スス付着	斜ケズリの後ナデ	にぶい褐、 にぶい黄	にぶい黄橙	1.5mm以下の褐色の粒	
519	土師器	<b>费</b> □ 禄	B2地区 Ⅲ層	(21.9)	-		ナデ	斜ケズリの後ナデ	橙、にぶい 黄橙	にぶい褐	2㎜以下の褐色の粒	
520	土師器	型線	B2地区 IV層	(22.3)			ナデ	斜ケズリの後ナデ	<b>橙、</b> にぶい 褐	にぶい褐	6mmの褐色の粒、2.5mm以下の黒・褐 色の粒	
521	土師器	整 □緑~胴部	B2地区 II層IV層	22.5			ナデ、粘土のつな ぎ目	斜ケズリの後ナデ	明赤褐	にぶい橙	0.5~2mmの褐・乳白色の粒	
522	土師器	型 口 緑	B2地区 II層IV層				ナデ	斜ケズリ、横ハケ 目	にぶい橙	橙	2㎜以下の灰・黒・透明光沢粒	
523	土師器	整 □縁~胴部	B2地区 II層IV層	(24.3)			工具ナデ、スス付 着	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄褐、 明赤褐	にぶい褐	1.5mm以下の茶・灰・淡黄・透明光 沢粒、黒色光沢粒	
524	土師器	型 日 緑	B2地区	(29.2)			ナデ、黒変	横ケズリの後ナデ	橙	橙	2mm以下の黒・灰色の粒、1mm以下の 黒色光沢粒	
525	土師器	整 □縁~胴部	B2地区 Ⅲ層	(22)			工具ナデ	斜ケズリの後ナデ	明褐	橙	3mm以下の黒・灰・灰白・黒色光沢 粒 6mmの茶・褐色の粒、0.5~3mm以下	
526	土師器	甕、口緑 ~底部付近	B2地区 II層IV層	(25.7)			ナデ、スス付着	縦・斜ケズリの後 ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	の茶・褐・乳白色の粒、0.5~1mmの 透明光沢粒	
527	土師器	数 □録~胴部	B2地区 Ⅲ層	(26.9)			工具ナデ、黒変	斜ケズリの後ナデ	橙、にぶい褐	橙、にぶい 黄橙	5mmの浅黄色の粒、2mm以上の灰白・ 黄灰の粒、1mm以下の黒色光沢粒	
528	土師器	型 □縁~胴部	B2地区 IV層	22.2			丁寧なナデ、指頭痕	斜ケズリの後ナデ、 粘土のつなぎ目	にぶい橙	灰黄	4mmの褐・浅黄色の粒、2mm以下の黒 色・透明光沢粒	
529	土師器	型線	B2地区	(29.75)			工具ナデ、ナデ、 黒変	斜ケズリの後ナデ	橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒・灰・褐色の粒	
530	土師器	型□線	B2地区 II層IV層	(26)			ナデ	斜ケズリの後ナデ、 黒変	にぶい褐	にぶい褐	2mmの黒色の粒、1mm以下の乳白色、 透明光沢粒	
531	土師器	要 口縁~胴部	B2地区 II層IV層	(25.25)			工具ナデ、ナデ、 指頭痕、黒変	斜ケズリの後ナデ、 黒変 	褐、灰褐	灰黄、にぶ   い橙	1mm以下の光沢粒	
532	土師器	要 □縁~胴部	B2地区 II層	(26.8)			ナデ、粘土のたまり	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄褐	浅黄橙	3㎜以下の灰・褐色の粒	
533	土師器	型 口線~胴部	B2地区 Ⅲ層	(26.9)			ナデ、黒変	縦ケズリの後ナデ	にぶい褐、 褐灰	明赤褐、に ぶい褐	1㎜の黒・灰白・暗褐・透明光沢粒	

第23表 B 2 地区出土遺物観察表 (6)

遺物		器種	出土	泔	· 量 (cr		手法・調整	<ul><li>・ 文様 ほか</li></ul>	色	調		
番号	種別	部位	地点	口径	底経	器高	外面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	備考
534	土師器	<b>整</b> □ 縁	B2地区	(28.6)			ナデ	横ケズリの後ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	7mm以下の茶色の粒、2mm以下の透明 光沢粒、黒色光沢粒	
535	土師器	整 □縁~胴部	B2地区 IV層	(27.3)			格子目タタキの後 ナデ	縦ケズリの後ナデ	浅黄	浅黄	3mm以下の茶褐・灰褐・灰白・透明 光沢粒	
536	土師器	ஆ □ 緑	B2地区	(26.35)			ナデ	縦ケズリの後ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の茶色の粒、2mm以下の黒色・ 透明光沢粒	
537	土師器	型日禄	B2地区 Ⅲ層	(25.8)			ナデ	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄橙	灰黄、浅黄 橙	1.5~2.5mmの茶・淡黄・灰・乳白色・ 透明光沢粒、黒色光沢粒	
538	土師器	甕 □縁~胴部	B2地区	(27.2)			ナデ	斜ケズリの後ナデ	にぶい橙	浅黄橙、浅黄	1.5~2.5㎜の灰・茶・乳白色・透明 光沢粒、黒色光沢粒	
539	土師器	<b>登</b> □録~胴部	B2地区 IV層	(23.6)			ナデ	斜・横ケズリの後 ナデ	橙、にぶい 黄橙	にぶい橙	1~2mmの灰・褐・乳白色・透明光沢 粒、黒色光沢粒	
540	土師器	整 口縁~胴部	B2地区 II層IV層	(23.6)			回転ナデ	ナデ	赤褐•灰黄 褐	赤褐	2.5mm以下の黒色光沢粒、2mm以下の 淡黄・黒色光沢粒	
541	土師器	甕 □緑~胴部	B2地区 IV層	(14.5)			ナデ、スス付着	ナデ、指頭痕	にぶい赤褐	にぶい橙、 にぶい黄	1~2mmの灰・淡黄・黒色光沢粒、透明光沢粒	
542	須恵器	豊口 緑	B2地区 Ⅲ層				ナデ	ナデ	灰黄	灰黄	2㎜以下の乳白色の粒	
543	須恵器	夏 胴 部	B2地区 Ⅲ層IV層				格子目タタキ、 黒斑	平行当て具痕、黒 斑	灰黄	灰黄	2㎜以下の乳白色の粒	
544	土師器	坏 口縁~底部	B2地区 II層IV層	(11.95)	(6)	4.45	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	橙	橙	3mm以下の白色の粒、2mm以下の茶・ 黒色光沢粒	
545	土師器	坏 □縁~底部	B2地区 Ⅲ層IV層	(12.9)	(6.4)	4.65	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	精良	
546	土師器	坏 口縁~底部	B2地区 IV層	(12.45)	5.8	5.25	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ、板目有 り	回転ナデ、黒変	浅黄	浅黄	1mm以下の黒・灰・茶・黄灰、透明 光沢粒・黒色光沢粒	
547	土師器	坏 口縁~底部	B2地区 III層	(13.3)	(4.9)	5.4	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ、指頭痕、 風化気味	橙	<b>橙、</b> にぶい 黄	2mm以下の褐灰・灰黄褐・赤褐色の 粒、1mm以下の黒色光沢粒	
548	土師器	坏 口縁~底部	B2地区 IV層	12.1	5.4	4.7	回転ナデ、ヘラケ ズリ、ヘラ切り後 ナデ、板目有り	回転ナデ	橙	橙	3㎜以下の茶色の粒	
549	土師器	坏 □縁~体部	B2地区 IV層	(11.9)			回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙	精良	
550	土師器	坏 口縁~底部	B2地区 IV層	(12.3)	5.35	4.8	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ、黒変、 高師小僧	回転ナデ	明黄褐	橙	4mmの黄灰色の粒、2mm以下の灰・茶 色の粒	
551	土師器	坏 口縁~底部	B2地区 Ⅲ層	(12.7)	(5.9)	5	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ	回転ナデ	浅黄	浅黄	1mm以下の黒褐・褐灰・灰白光沢粒、 黒色光沢粒	
552	土師器	坏 口縁~底部	B2地区 Ⅲ層	13.2	5.3	5.65	回転ナデ、ヘラ切り、黒斑	回転ナデ	明黄褐	明黄褐	4mm以下の茶色の粒、2mm以下の黒色 光沢粒	
553	土師器	坏 底 部	B2地区 Ⅲ層		(6.2)		ナデ、ヘラ切り	ナデ	橙、にぶい 黄橙	にぶい黄	3mm以下の赤褐・褐灰色の粒、2mm以 下の灰白光沢粒、0.5mm以下の黒色 光沢粒	
554	土師器	坏 底 部	B2地区 IV層		5.9		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1~1.5㎜の茶・黒色光沢粒	
555	土師器	坂 底 部	B2地区 Ⅲ層		5.5		ナデ	ナデ	にぶい橙、 にぶい褐	にぶい橙、 灰黄褐	2㎜以下の灰白色の粒	
556	土師器	坏 底 部	B2地区 Ⅲ層IV層		8.8		ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	2㎜以下の灰白・浅黄色の粒	
557	土師器	坏 体部~底部	B2地区 Ⅲ層		6		ナデ、ヘラ切り後 ナデ、工具痕、線 刻、円盤状高台	ナデ、粘土のつな ぎ目	浅黄	灰白	精良	
558	土師器	高台付坏、 口縁~底部	B2地区 Ⅲ層	(12.45)	7	6.65	回転ナデ	回転ナデ、風化気 味	橙	橙	0.5㎜以下の褐色の粒	
559	工品和	高台付坏、 口線~底部	B2地区	(12.1)	(6)		回転ナデ	回転ナデ	橙	橙	精良	
560		高台付坏、 口縁~底部	B2地区 II層IV層	(13.5)	6.4	5.65	回転ナデ、ヘラ切り	斜ミガキ、スス付 着	橙、明黄褐	にぶい黄	0.5mm以下の黒色・明赤褐・灰白光 沢粒	
561	工品中	高台付坏、口縁~底部	B2地区 IV層	(14.9)			回転ナデ、ヘラ切 り、「大」の刻書	ミガキ	橙	にぶい黄橙	0.5㎜以下の褐色の粒	
562	一一山中	高台付坏、 口縁~底部	B2地区 Ⅲ層IV層	(13.2)	6.6	5.65	回転ナデ、ヘラ切り	丁寧なナデ、ミガキ	橙	にぶい黄橙	0.5㎜以下の褐・黒色の粒	
563		高台付坏、 口縁~底部	B2地区 II層IV層	(14.8)	6.1	6.95	回転ナデ	回転ナデ	橙	黄橙	精良	

# 第24表 B 2 地区出土遺物観察表(7)

遺物	795 Hul	器種	出土	法	量 (cr	n)	手法・調整	• 文様ほか	色	調	胎土の特徴	備考
番号	種別	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	加工の特級	7F 45
564	土師器	高台付坏 完 形	B2地区 IV層	13.9	6.05	6.6	回転ナデ、ナデ、 粘土のかえり、 指 圧痕	回転ナデ	浅黄橙	にぶい橙 <b>、</b> にぶい黄橙	精良	
565	土師器	高台付坏 体部~底部	B2地区 II層IV層	(6.8)			回転ナデ、ナデ、 スス 付着、風化気味、 粘土 のつなぎ目、黒変	ナデ	浅黄、灰黄	浅黄、 浅黄橙	精良	
566	黒色土器	高台付坏 口縁~底部	B2地区 II層IV層	16.5	(8.7)	8.68	工具による回転ナデ・ 縦方向のナデ、ヘラ切 り後ナデ、黒斑	内黒、ミガキ	浅黄、黄灰	黒	1㎜以下の黒、褐色の粒	
567	黒色土器	高台付坏口禄~底部	B2地区 Ⅲ層	14.6	7.7	7.25	回転ナデ、ヘラ切り	内黒、横・縦ミガキ	にぶい黄橙	灰	精良	
568	黒色土器	高台付坏口禄~底部	B2地区 IV層	(12.8)	6.6	6.3	ナデ、粘土のつな ぎ目、黒変	内黒、ミガキ、風 化気味	にぶい黄橙、 黒	黒	精良	··
569	黒色土器	高台付坏口最~底部	B2地区 Ⅲ層	12.95	(5.8)	5.3	ナデ <b>、</b> 粘土のつな ぎ目	内黒、丁寧なナデ	にぶい黄橙、 褐灰	黒	1㎜以下の透明光沢粒	
570	黒色土器	高台付坏口最~底部	B2地区 Ⅲ層IV層	(14)	(7.55)	6.75	ナデ、風化気味	内黒、横ミガキ、 粘土のつなぎ目	にぶい橙 <b>、</b> 黒	黒、褐灰	3.5㎜以下の褐色の粒	
571	黒色土器	坏 口縁~体部	B2地区 Ⅲ層	15.6			ナデ、黒変	内黒、横・縦ミガキ	にぶい黄橙、 黒	黒	精良	
572	黒色土器	坏 口縁~体部	B2地区 II層IV層	(14.7)			ナデ、黒変	内黒、横ミガキ	にぶい黄橙、 黒	黒	精良	
573	黒色土器	坏 口縁~体部	B2地区 SA1				回転ナデ	内黒、丁寧なナデ	にぶい黄、 灰オリーブ	オリーブ褐 <b>、</b> 黒	1㎜以下の灰色の粒	
574	黒色土器	高台付坏 体 部	B2地区 II層IV層				ナデ、指圧痕	内黒、縦ミガキ	にぶい橙	黒	精良	
575	土師器	高台付坏 底 部	B2地区 IV層				ナデ	ミガキ	にぶい褐	黄灰	2㎜以下の透明光沢粒、黒色光沢粒	
576	布痕土器	鉢口 緑	B2地区				ナデ	布痕	橙	橙	精良	
577	布痕土器	鉢 胴 部	B2地区				ナデ	布痕	にぶい橙	橙	精良	
578	土 師	紡錘車	B2地区 Ⅲ層Ⅳ層	5.95	その径 最大 0.8 0.8	35	ナデ	ナデ	<b>浅</b> 黄		精良	
579	土 師	紡錘車	B2地区 Ⅲ層	直径 7	孔の径 最大 0.9 0	厚 重さ(g) .9	ナデ	ナデ		い黄橙 い黄褐	1㎜以下の淡黄・茶の粒	

# 第25表 B 2 地区出土石器計測表

レイアウト 番号	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	石 材	備考
388	B2地区IV層	石 鏃	2.4	1.4	0.4	0.7	チャート	
389	B2地区IV層	石 鏃	1.8	1.6	0.2	0.7	チャート	
390	B2地区IV層	石 鏃	2.5	1.46	0.35	0.9	チャート	
391	B2地区IV層	石 鏃	1.45	1.15	0.35	0.3	チャート	
392	B2地区IV層	石 鏃	2.15	1.55	0.5	1.4	チャート	
393	B2地区IV層	石 鏃	2.0	1.45	0.3	0.9	頁 岩	
582	B2地区IV層	磨製石鏃	2.75	1.5	0.18	1.2	頁 岩	
583	B2地区IV層	軽石製品	9.1	5.75	2.8	65.4	軽 石	
584	B2地区IV層	敲 石	11.3	4.45	2.45	193.8	安山岩	
585	B2地区IV層	石 皿	17.9	9.9	4.5	1170	凝灰岩	
586	B2地区IV層	砥 石	17.7	3.2	3.9	454.2	砂岩	
587	B2地区IV層	砥 石	4.65	4.4	0.77	23.6	頁 岩	
588	B2地区	軽 石	16.6	14.7	4.9	460	軽 石	
589	B2地区	砥 石	9	10.15	6.75	780	凝灰岩	
590	B2地区	台 石	25.45	20.6	9.95	9000	安山岩	
591	B2地区	台 石.	21.2	14.8	10.2	3500	凝灰岩	

## 5. B 3地区

B 3 地区は、B 1 地区の北側、南から北に向かって傾斜する斜面地に位置する。調査面積約5,270㎡である。B 3 地区は第IV層が薄くなっていたため、これまでB 1 • 2 地区で第V層上で検出されていた柱穴などが第IV層上で確認できた。検出された遺構は、古代の畠跡と思われる畝状遺構、竪穴状遺構 4 基、溝状遺構 4 条、古墳時代と思われる土壙 1 基、時期不明の土壙 1 基、掘立柱建物跡 5 棟、柱穴群である。遺物は古墳時代の土師器が中心に出土している。縄文時代の石器や古代の土器はわずかの出土である。

## (1)縄文時代の遺構と遺物

遺構は確認されなかった。遺物も他の地区より出土数が少なく、石器が2点確認されただけである。 出土遺物は第78図に示している。592はチャート製の打製石鏃である。593はチャート製の石匙か。

## (2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物

## 土壙

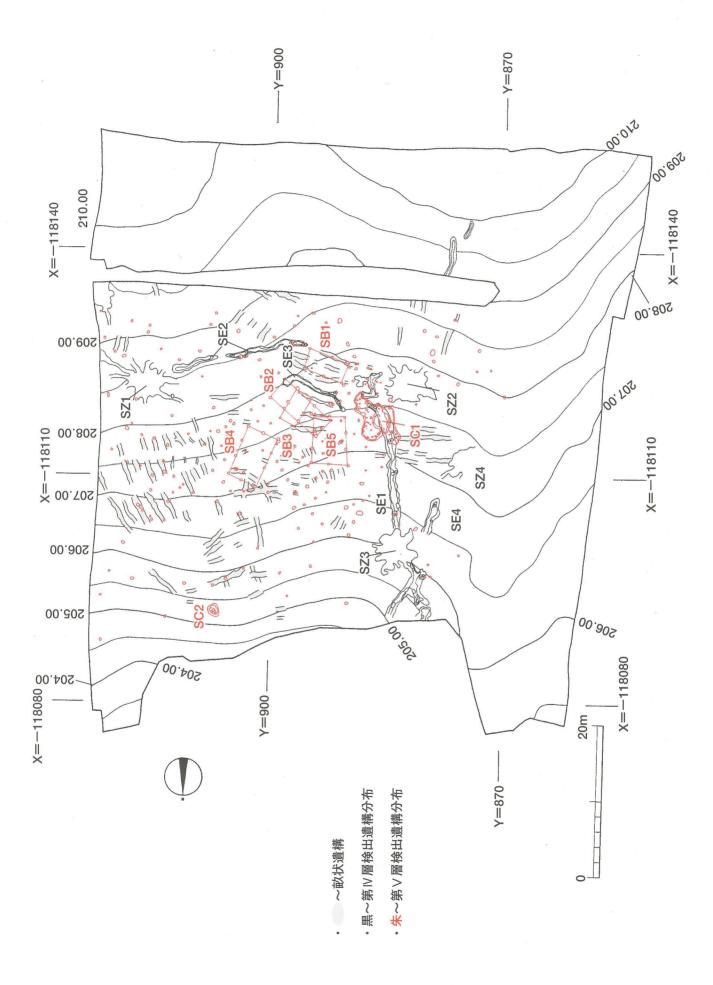
## 1号土壙(SC1、第79図)

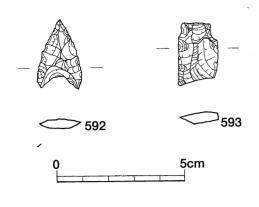
調査区の中央、やや東寄りの第IV層上で検出された。長軸約4.25m、短軸約2.4m、検出面からの深さ約0.65mの長楕円形を基本とした不定型プランを呈する。畝状遺構と同じ埋土の1号溝状遺構が土壙上部を通っていたため、土層断面トレンチから遺構が確認された。性格不明の遺構であるが、特徴を記述する。土壙は、中央の長楕円形部とその両側の一段高いテラス部で構成される。中央部の長楕円形落ち込み部の埋土中には焼土と炭化材が多量に含まれ、そこから古墳時代の土師器が多く出土している。埋土を除去すると、東側の壁面が熱を受けたように赤化して、かなり硬化していた。また、両側のテラス部からも土器片が出土しているが、特に東側に集中している。出土遺物は第80図に示している。

594~597は小型丸底壺である。外器面に丹塗りが施され、いずれの底部にも黒変もしくは黒斑がみられる。598・599は壺の底部である。598は平底で、球形の胴部を呈する。内外器面底部、底部付近に黒斑がある。599は丸底になると思われる。600~603は刻み目を持つ貼り付け突帯を有する甕である。600は頸部のくびれ部に刻み目突帯を有する。601~603は胴部から口縁にかけてくびれを持たずに内湾しながら延びる器形を呈し、口縁部に刻み目突帯を有する。601は口唇部に刻み目を持つ。604は貼り付け刻み目突帯を持たない甕の口縁部と思われる。605~608は甕の底部である。609は外器面に丹塗りが施された坏と思われる。

#### 遺構外出土の遺物 (第81・82図)

610は長胴形の胴部を持つ壺と思われる。611は丸底で、長胴形の胴部を呈する壺になると思われる。612は平底の壺の底部である。613~626は刻み目を持つ貼り付け突帯を有する甕である。613~617はくびれのある頸部に刻み目突帯を持つ。618・619は体部から口縁にかけて外反、もしくはわずかにくびれを持って口縁が外反する器形の甕で、刻み目突帯を有する。620~624はくびれを持たずに、体部から口縁に内湾しながら延びる器形の甕で、口縁に刻み目突帯を有する。623は胴部下位から底部にかけての内外器面に縦方向に粘土の貼り付けが施されている。粘土貼り付けの上限がどこまでかは胴部欠損のた





第78図 B 3 地区出土石器実測図 (S = 2 / 3)

め不明である。627~631は甕の底部である。629は外器面に 平行タタキがみられる。632・633は外器面に丹塗りが施され た椀か。634は安山岩製の砥石か。

## (3) 古代の遺構と遺物

## 畝状遺構(第77図)

第IV層土が薄くなっていたため、畝状遺構はほとんど残存していなかった。確認できたものは次の通りである。①調査区の東側中央に、北北西-南南東方向に平行して走る9条前後。②調査区中央部に、東-西方向に平行して走る7条前後。

畝状遺構の溝の長さは約7~12m前後、溝幅0.6m前後を測る。①の畝状遺構は等高線に直交しているが、②の畝状遺構は斜方向に交わっている。栽培作物は不明である。

# 竪穴状遺構

## 1~4号竪穴状遺構(SZ1~4)

ここで確認された竪穴状遺構も他の地区のものと同じ特徴を持つ。黒色土と焼土を覆土とし、覆土を除去すると木根状に外方に穴が広がる。また、それぞれ溝状遺構と連結している。出土遺物は無く、性格不明の遺構である。埋土からみると、畝状遺構と同時期に存在したと思われる。

#### 溝状遺構

## 1~4号溝状遺構(SE1~4)

第IV層上で検出しているが、遺存状況が悪く、検出面からの深さ約5~20cm程の浅い溝である。2号 溝状遺構は、等高線と平行して東西方向に流れている。1号溝状遺構は南北方向に等高線と直行して流れている。3号と4号溝状遺構は異なるが、1号、2号は竪穴状遺構と連結する特徴を持つ。埋土から 畝状遺構と同時期の遺構と考えられるが、畝状遺構の区画としての人為的な溝か、もしくは自然流路なのか、性格は不明である。

#### 遺構外出土の遺物

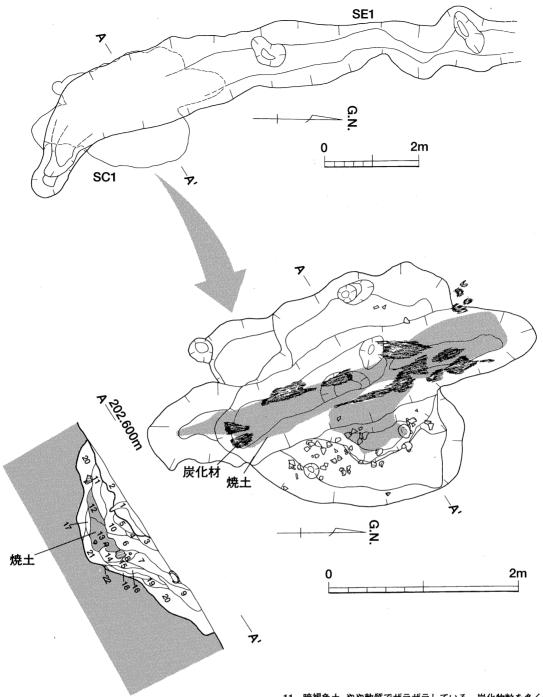
遺物については図示していないが、内器面にヘラケズリを持つ甕や、高台付坏などがわずかに出土している。

### (4) その他の遺構と遺物

#### 掘立柱建物跡(SB1~5、第83図)

検出された建物は5棟である。確認された建物は、調査区の中央に位置し、1間×2間、1間×3間、2間×3間がある。主軸と切り合いから見て、1 • 2号と3 ~ 5号の二時期に分かれると思われる。柱穴間の距離については図に示した。

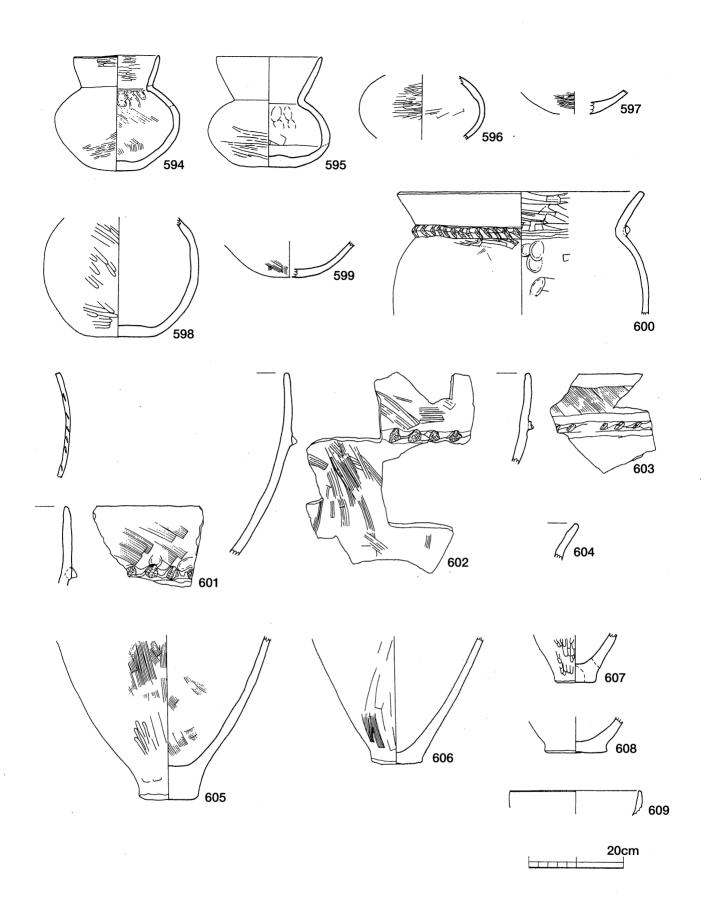
1号掘立柱建物跡(SB1)



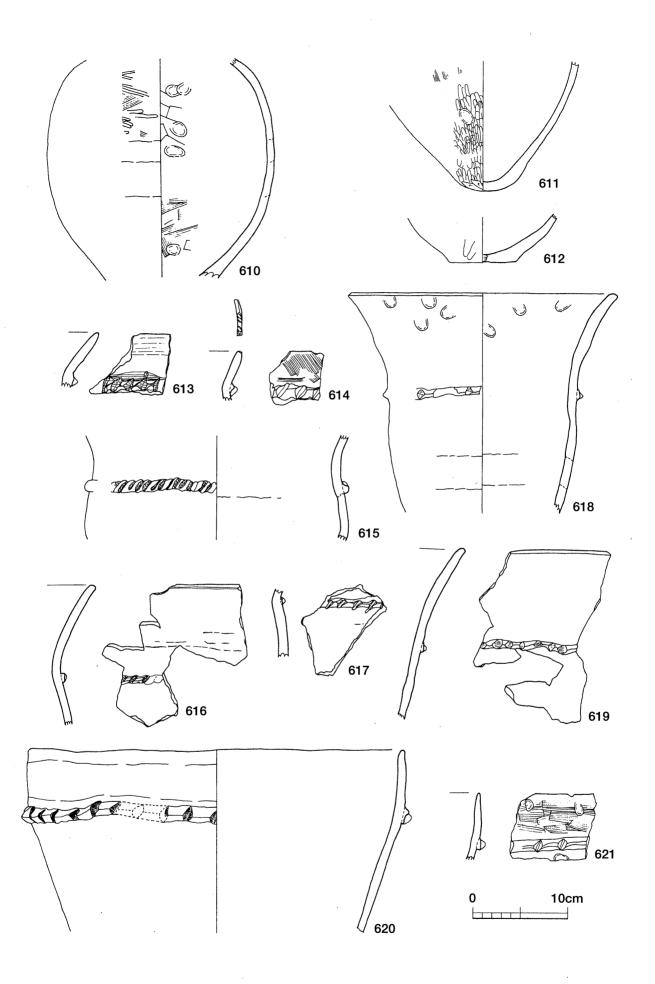
- 1 黒色土 細粒子でサラサラしている。しまりがある。暗褐色粒を含む。 御池ボラを若干含む。SE1の埋土。
- 2 黒色土 やや硬質。白色砂粒、黄褐色粒を多く含み、炭化物を若干含 む。SE1の埋土。
- 3 黒色土 細粒子で、ややしまりがある。御池ボラ、白色砂粒、炭化物 粒を若干含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりがある。若干粘性がある。炭化物を若干含む。
- 5 黒褐色土 やや軟質。黄褐色土粒、白色砂粒、炭化物粒を含む。土器片 15 暗褐色土 やや硬質で粘性がある。炭化物粒を多量に含み、御池ボラ、 を含む。
- 6 黒褐色土 やや軟質。ザラザラしている。白色砂粒、炭化物粒を多量に 17 黒褐色土 しまりがある。御池ボラ粒、白色砂粒、炭化物粒を若干含む。 含み、焼土粒を含む。御池ボラ粒を若干含む。
- 7 黒褐色土 硬質。御池ボラ粒、白色砂粒、ガラス質粒を含み、炭化物粒 を若干含む。
- 8 黒褐色土 ややしまりがある。御池ボラ、白色砂粒を若干多く含む。
- 砂粒、ガラス質粒、土器片を含み、炭化物粒を若干含む。
- に含む。御池ボラ粒、白色砂粒を少し含む。

- 11 暗褐色土 やや軟質でザラザラしている。炭化物粒を多く含む。御池ボ ラ粒、白色砂粒を若干含む。
- 12 暗褐色土 焼土層。やや軟質。御池ボラ、白色砂粒、炭化物粒を若干含 む。
- 13 暗褐色土 焼土層。若干しまりがある。御池ボラ、小石、白色砂粒、炭 化材および炭化物粒を含む。
- 14 黒色土砂質でしまりがある。白色砂粒、炭化材および炭化物粒、焼
- 土を含む。
- 白色砂粒を含む。
  - 黒 色 土 焼けて黒変している。御池ボラ粒、白色砂粒、炭化物粒を若 18 干含む。
- 19 暗褐色土 10層と同じ。色調はやや暗い。
- 20 暗褐色土 しまりがある。御池ボラ、白色砂粒を若干含む。
- 9 暗褐色土 硬質。粒子が細かく、サラサラしている。御池ボラ粒、白色 21 灰黄褐色土 硬質。若干粘性あり。御池ボラを若干多く含み、白色砂粒、 炭化物粒を若干含む。
- 10 黒褐色土 ややしまりがある。粘性あり。炭化物粒、黄褐色土粒を多量 22 暗褐色土 若干硬質でサラサラしている。御池ボラ粒、白色砂粒、ガラ ス質粒を含み、炭化物粒を若干含む。土器片を含む。

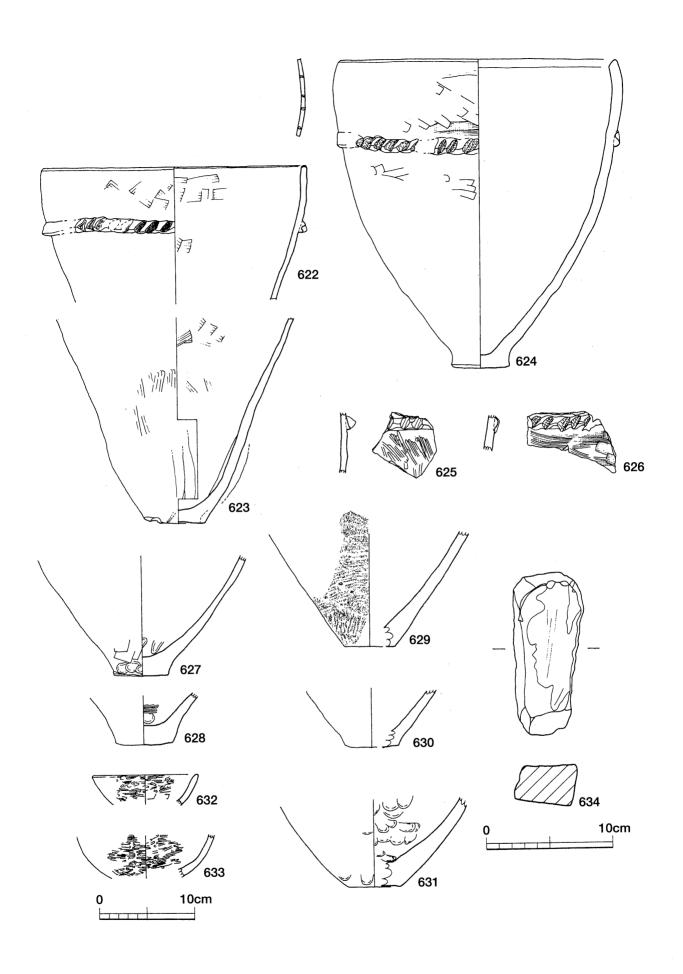
第79図 B 3 地区 1 号土壙 (S C 1)・土層実測図 (上: S = 1 / 80、下: S = 1 / 40)



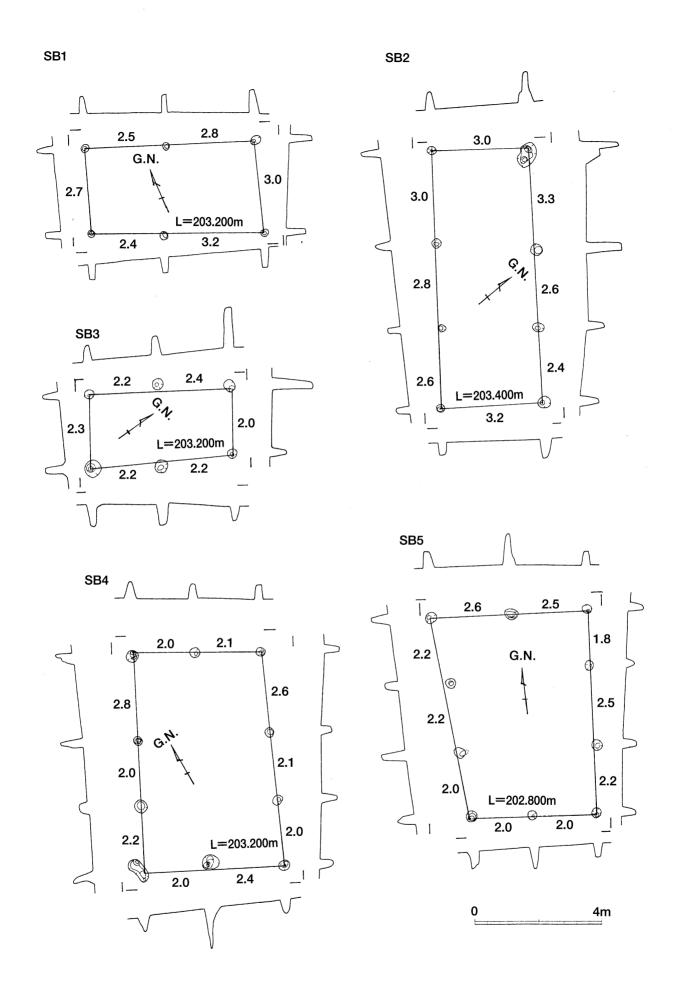
第80図 B 3 地区 1 号土壙出土遺物土師器実測図(S = 1 / 4)



第81図 B 3 地区出土土師器実測図(S = 1 / 4)



第82図 B 3 地区出土土師器 (S = 1 / 4) · 石器 (S = 1 / 3) 実測図



第83図 B 3 地区 1 • 2 • 3 • 5 号掘立柱建物跡 (S B 1 • 2 • 3 • 4 • 5) 実測図 (S = 1 / 120)

主軸を $N-69^{\circ}$  30′ -Wにとる 1 間× 2 間の建物である。梁2.7~ 3 m、桁行5.3~5.6mを測る。柱穴径は20~30cm、深さは60cm前後と一定である。

## 。2号掘立柱建物跡(SB2)

主軸を $N-51^\circ$  30′ -Wにとる 1 間× 3 間の建物である。梁 3  $\sim$  3.2m、桁行8.3 $\sim$ 8.4mを測る。柱穴径は20 $\sim$ 40cm、深さは40 $\sim$ 120cmと-様でない。 3 号・5 号と切り合っている。

## 。 3 号掘立柱建物跡(SB3)

主軸を $N-25^{\circ}$  - Eにとる 1 間× 2 間の建物である。梁  $2\sim2.3$ m、桁行 $4.4\sim4.6$ mを測る。柱穴径は  $30\sim40$ cm、深さは $50\sim120$ cmと一様でない。

## 。 4 号掘立柱建物跡(SB4)

主軸を $N-28^{\circ}-E$ にとる 2 間 $\times$  3 間の建物である。梁 $4.1\sim4.4$ m、桁行 $6.7\sim7$  mを測る。柱穴径は  $30\sim40$ cm、深さは50cm前後である。

## 。 5 号掘立柱建物跡(SB5)

主軸をN-9° 30′ -Wにとる 2 間 $\times$  3 間の建物である。梁 4  $\sim$  5.1 m、桁行6.4  $\sim$  6.5 m を測る。柱穴径は30 cm 前後、深さは-様でない。

#### 土塘

#### 2号土壙(SC2)

調査区北側の西寄り、第IV層上で検出された。長軸1.6m、短軸1.2m, 検出面からの深さ約0.97mの不定円形プランを呈する。埋土は暗褐色土で、遺物は出土していない。

#### (5) 小結

斜面地であるためB1地区からの流れこみの遺物が多くみられる。出土遺物は弥生から古墳時代のものがほとんどで、古代の遺物はわずかである。確認された掘立柱建物跡はその立地からみて、住居的なものではなく、簡易小屋的なものと思われる。特記すべきことは1号土壙であるが、古墳時代の土器焼成遺構の可能性が考えられる。

# 第26表 B 3 地区出土遺物観察表 (1)

7th #4.		98.36	.1. 1	社	量(cr	n)	手法 • 調整	• 文様 ほか	色	調		
遺物番号	種別	器種部位	出土地点	口径	底経	器高	外 面	内 面		内 面	胎土の特徴	備考
594	土師器	壺 完 形	B3地区 SC1	8.8	A. 1	12.25	丹塗り、ミガキ、 黒変、ナデ、風化 気味	ミガキ、粘土のか えり、指頭痕、ハ ケ目、ナデ	赤	明赤褐、 にぶい褐	2mm以下の黄白・灰白・褐色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
595	土師器	臺 完 形	B3地区 SC1	10.4	6.0	11.65	丹塗り、ミガキ、 黒変	丁寧なナデ、指頭痕、工具痕、風化気味	にぶい赤	橙	6mm以下の灰白・赤褐色の粒、 2mm以下の黄白・灰白・灰黒色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
596	土師器	壺 胴 部	B3地区 SC1				黒斑、ミガキ、丹 塗り	ナデ、工具ナデ、 工具痕	赤、にぶい 赤褐	橙、灰黄褐、 黒褐	4.5mm以下の灰色粒、 2mm以下の褐色・灰色・赤褐色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
597	土師器	壺 底部付近	B3地区 SC1				ミガキ、丹塗り、 ナデ	丁寧なナデ	赤橙	にぶい黄褐、 灰黄褐	2mm以下の淡黄、乳白、黒色光沢粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
598	土師器	<b>整</b> 頸部~底部	B3地区 SC1		7.2		ミガキ、ナデ	工具痕、工具ナデ、 ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	2.5mm以下の白灰・乳白・灰褐の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
599	土師器	変 底 部	B3地区 SC1	14	(2.9)		ハケ目、ナデ	ナデ、風化気味	にぶい黄褐	にぶい黄橙	2mm以下の透明・黒色光沢粒、白色 の粒	
600	土師器	要 □縁~胴部	B3地区 SC1	(25.2)			ナデ、貼付刻み目 突帯、ハケ目の後 ナデ、スス付着	ハケ目、指頭痕、 黒変	褐、にぶい 赤褐	にぶい黄橙、 黄灰	2mm以下の白・灰黄色の粒、透明光 沢粒	
601	土師器	甕 □縁~頸部	B3地区 SC1				口唇部に刻み目、ハケ 目、指頭痕、貼付刻み 目突帯、ナデ	指頭痕、ハケ目の 後ナデ	にぶい赤褐、 黒褐	黒褐	2mm以下の乳白・灰色の粒、 1mm以下の透明光沢粒	
602	土師器	整 □縁~胴部	B3地区 SC1				ナデ、ハケ目、貼付刻 み目突帯、工具痕、粘 土のつなぎ目	ナデ	赤褐、にぶ い赤褐	黒褐、灰黄 褐	4㎜以下の灰白色の粒	
603	土師器	整 □縁~胴部	B3地区 SC1				ナデ、ハケ目、粘土のかえ り、貼付刻み目突帯、ハケ 目の後ナデ、風化気味	ナデ	にぶい黄褐、 灰黄褐	灰黄褐	1.5㎜以下の灰黄・黒透明光沢粒	
604	土師器	翌 □ 縁	B3地区 SC1				丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒・灰・乳白色の粒	
605	土師器	整 胴部~底部	B3地区 SC1		6.2		ハケ目、ハケ目の 後ナデ・ミガキ、 工具後、風化気味	ナデ、ハケ目、風化気味	明赤褐	褐	3mm以下の白・黒色の粒、透明光沢 粒	
606	土師器	雅 胴部~底部	B3地区 SC1		5.2		ハケ目の後ナデ、 粘土のつなぎ目	ナデ、工具痕	にぶい褐、 にぶい赤褐、 にぶい黄褐	灰黄褐	2mm以下の白灰・黒褐・灰褐色の粒	
607	土師器	<b>整</b> 胴部~底部	B3地区 SC1		4.3		ミガキ、接合痕、 丁寧なナデ	指頭痕、ナデ	褐	黒 にぶい黄橙、	5mm以下の茶色の粒、3mm以下の乳白・ 白色の粒、透明光沢粒	
608	土師器	度 部	B3地区 SC1		(6.6)		工具ナデ、ナデ	ナデ、風化気味	灰黄褐、に ぶい黄橙	にぶい機気にぶい機気にが、	3mm以下の褐・茶褐・黒褐の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
609	土師器	口 緑	B3地区 SC1	(13.5)			丹塗、丁寧なナデ	ミガキ	赤褐	にぶい黄橙	1㎜以下の黒色の粒、透明光沢粒	
610	土師器	壺、肩部~ 底部付近	B3地区				ハケ目の後ナデ、 ミガキ、黒斑	ナデ、指頭痕、ハ ケ目	橙	暗灰黄	2mm以下の白色の粒、3mm以下の茶色 の粒、2mm以下の透明光沢粒	
611	土師器	虚 部	B3地区				ハケ目、ミガキ、 指頭痕、ヘラ削り	ナデ、黒斑	にぶい褐	にぶい黄褐	3.5mm以下の乳白・茶色の粒、透明 光沢粒	14
612	土師器	虚 部	B3地区				ナデ、指頭痕	ナデ	橙	灰黄褐	8mm以下の淡黄色の粒、3mm以下の灰 白色の粒	
613	土師器	夏 □ 緑	B3地区				ナデ、貼付刻み目 突帯	ナデ、黒変	明赤褐	にぶい黄、 暗灰黄	2mm以下の灰白、褐灰色の粒、0.5mm 以下の灰白色の粒、黒色光沢粒	
614	土師器	豊 □ 緑	B3地区				ハケ目、貼付刻み 目突帯、口唇部に 刻み	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙、 明赤褐	2㎜以下の白・黄灰・褐・黒色の粒、透明光沢粒	
615	土師器	養 類部~胴部	B3地区				ナデ、貼付刻み目 突帯	ナデ、工具痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒・灰褐・茶褐・褐色の 粒	
616	土師器		B1地区、 B3地区				ナデ、暗文、貼付 刻み目突帯	ナデ、黒変	にぶい黄橙	灰黄、黄灰	2mm以下の灰褐・橙色の粒、透明光 沢粒	
617	土師器	頸 部	B3地区				ナデ、貼付刻み目 突帯、スス付着	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰・黒色の粒、透明光沢 粒 3mm以下の白灰・灰白・褐・黒褐色	
618	土師器	獲 口線~胴部	B3地区	27.4			ナデ、指頭痕、貼 付刻み目突帯	指頭痕、ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐、にぶい橙	の粒、2mm以下の黒色の粒、透明光 沢粒	
619	土師器	型日報	B3地区				ナデ、貼付刻み目 突帯	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙	暗灰黄、に ぶい黄	3㎜以下の白灰・茶褐・褐・黒褐色の粒、透明光沢粒	
620	土師器	型 口級~胴部	B3地区	(39.1)			ナデ、貼付刻み目 突帯 ナデ、ハケ目、貼	ナデ、工具痕	橙、オリーブ黒	赤褐、黄褐	2㎜以下の灰白・褐灰・白色の粒、透明光沢粒	,
621	土師器	型日報	B3地区				付刻み目突帯、指 頭痕 横ナデ、ハケ目の	ナデ、黒変	橙、にぶい 黄橙	にぶい黄橙、 黄灰	1.5㎜以下の灰白・褐色の粒、透明光沢粒	
622	土師器	型 口禄~胴部	B3地区	(27.2)		1	後ナデ、貼付刻み目突帯	横ナデの後ハケ目、黒変	にぶい褐	明褐	3mm以下の灰黒・褐・乳白色の粒、 1mm以下の透明光沢粒	
623	土師器	類 胴部~底部	B3地区		6.2		デ、粘土の継ぎ目、 一部黒変	ハケ目の後ナデ、 黒変	にぶい赤褐	にぶい赤褐	5㎜以下の褐・灰・黒・乳白色の粒	

# 第27表 B3地区出土遺物観察表(2)

						1-5						
遺物	種別	器種	出土	注	量 (c	m)	手法・調整	<ul><li>文様ほか</li></ul>	色	調	胎土の特徴	備考
番号	1至 7月	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	后工の特徴	備考
624	土師器	<b>變</b> □縁~底部	B3地区	(28.7)	(6.1)	32.6	工具ナデ、貼付刻 み目突帯	刷毛目、ナデ	赤褐、黒	赤褐、黒	1mm以下の灰白・乳白色の粒	
625	土師器	夏 胴 部	B3地区				工具ナデ、貼付刻 み目突帯	ナデ	明赤褐	橙	3mm以下の淡黄色の粒、透明光沢粒	
626	土師器	夏 胴 部	B3地区				ハケ目、貼付刻み 目突帯	ハケ目、黒変	黄褐、オリー ブ黒	褐、明褐	3mm以下の黄灰・灰白・黒色の粒	
627	土師器	<b>獲</b> 胴部~底部	B3地区		5.65		ナデ、指頭痕	丁寧なナデ、黒変	橙	橙、明赤褐	4mm以下のにぶい褐色の粒、 2mm以下の灰白・にぶい黄橙・褐色 の粒、透明光沢粒	
628	土師器	度 部	B3地区		6.0		ナデ	ハケ目、指押え	にぶい褐	赤褐、灰黄褐	3mm以下の灰白・黒褐色の粒	-
629	土師器	<b>蹇</b> 底 部	B3地区		(5.3)		平行タタキ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄、暗灰 黄	3mm程の赤茶・灰・淡黄色の粒、 1mm以下の茶・乳白色の粒、透明光 沢粒	
630	土師器	夏底 部	B3地区		(5.7)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい赤褐	1.5㎜以下の灰白色の粒	
631	土師器	<b>甕</b> 底 部	B3地区		(5.5)		斜ナデ、指頭痕	斜ナデ、指頭痕、 黒変	にぶい黄橙	灰黄	3mm以下の黒・白・茶褐・乳白色の 粒、黒色・透明光沢粒	
632	土師器	境 口 縁	B3地区	(10.8)			ミガキ、丹塗り	ミガキ	明赤褐	明赤褐	0.5㎜以下の黒色・透明光沢粒	
633	土師器	境 体 部	B3地区				ミガキ、丹塗り	ミガキ、丹塗り	明赤褐	にぶい褐	1.5㎜以下の透明光沢粒	

# 第28表 B 3 地区出土石器計測表

レイアウト 番号	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石	材	備	考
592	B3地区IV層	石 鏃	2.75	1.8	0.55	1.5	チャート			
593	B3地区	石 匙	2.5	1.55	0.6	2.6	チャート		·	
634	B3地区	砥 石	22.5	5.5	3.3	365	安山岩			

### 6. B 4 地区

B4地区はB1地区の南西側に位置する。調査面積約3,000㎡である。東西方向に長い調査区で、北側中央が微高地となり、西と南は谷に向かって緩傾斜している。遺構は、第IV層上で、古代の畠と思われる畝状遺構、竪穴状遺構1基、溝状遺構1条、時期不明の炉跡2基、土壙3基、第V層上で掘立柱建物跡3棟が確認されている。遺物は、縄文時代後期の土器数点、弥生から古墳時代の壺、甕、高杯、須恵器、古代の甕、土師器坏、高台付坏、黒色土器、須恵器、布痕土器、石器、鉄鏃などが出土している。

## (1)縄文時代の遺構と遺物

遺構は確認されていない。遺物もわずかに出土しているだけである。出土遺物は第85図に示している。  $635\sim637$ は鉢か。 635は外器面口縁部に縦方向と横方向の沈線、  $636\cdot637$  は横方向の沈線が施されている。  $638\sim640$ はチャート製の打製石鏃である。

## (2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物

遺構は確認されていない。出土遺物は第86・87図に示している。641・642は複合口縁壺である。643 は胴部下位に膨らみを持つ長胴の壺と思われる。644は丸底を呈する壺の底部か。645・646は壺の底部である。647~649は口縁が「く」の字状に屈曲する甕である。650は口縁部に最大径を持ち、頸部から口縁部にかけて外反する甕である。651~653は口唇部に刻み目を持つ甕の口縁部で、刻み目突帯を持つ甕の口縁になると思われる。654・655は体部から口縁にかけてくびれを持たずに内湾しながら延びる甕で、口縁部に刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。657~659は高杯である。659は高坏の脚部で、外方に延びて裾が広がる。裾の端部には沈線がみられる。660・661は脚台付きの甕や鉢などの脚台部と思われる。661は穿孔を持つ。662~670は須恵器である。662~665は横瓶か。662と663は同一個体を実測したもので、662は肩の張った側面部である。664はその側面に続く部位にあたると思われる。665は底部付近である。662・663は外器面に平行タタキ、内器面に同心円の当て具痕、664・665は内器面に当て具痕がみられる。668・667は同一個体で甕か。外器面に格子目タタキ、内器面に同心円当て具痕がみられる。668~670は甕の胴部である。668・669は外器面に格子目タタキ、内器面に同心円当て具痕、670外器面に格子目タタキ、内器面に放射状の当て具痕がみられる。

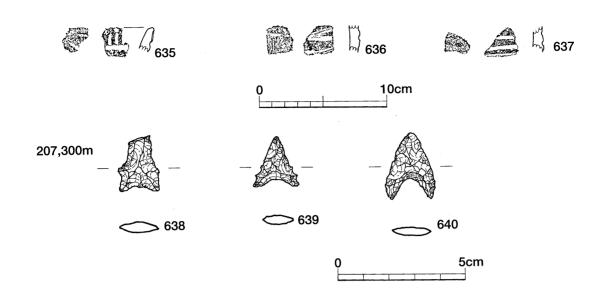
## (3) 古代の遺構と遺物

#### 畝状遺構(第84図)

畝状遺構は第IV層上で検出し、調査区の全体に分布している。他の地区同様、平面的に平行して走る 溝として捉えている。区画は5つ程に分けられる。①調査区西側に、北東-南西方向に平行して走る16 条前後。②①の区画の東側に、北北西-南南東方向に平行して走る13条前後。③②の区画の南東側に、 北東-南西方向に平行して走る10条前後。④調査区の北東側に、北西-南東方向に平行して走る13条前 後。⑤④の区画の南側に北東-南西方向に平行して走る20条前後。

畝状遺構の溝は、基本的に等高線に直交しているが、一部斜方向に交わるものもある。曲線を描く溝もあり、地形の変化に伴って、溝の走行方向が変化している。溝の長さは15m前後、溝幅は0.5~0.6mを測る。この区では畝状遺構の重なりが多くみられる。栽培作物は不明である。

第84図 B4地区遺溝分布図 (S=1/500)



第85図 B 4 地区出土縄文土器 (S=1/3)・石器 (S=2/3) 実測図

## 溝状遺構

## 1号溝状遺構(SE1、第88図)

調査区の南側第 $\mathbb{N}$ 層上で、東西方向に流れる約30mの溝を検出した。地形からみると、東側から西に向かって流れていたと思われる。上層部に高原スコリアが自然堆積することから、古代の遺構と推測される。西側の最大溝幅は約2.4m、検出面からの深さ約0.52mを測る。東側は2条に分かれており、南側の最大溝幅約1.24m、検出面からの深さ約0.44m、北側の最大溝幅約1.26m、検出面からの深さ約0.44m、北側の最大溝幅約1.26m、検出面からの深さ約0.35mである。遺物は出土していない。

## 遺構外出土の遺物

出土遺物は、甕、鉢、坏、高台付坏、黒色土器、墨書土器、布痕土器、土製紡錘車などである。 1 • 2 号炉跡周辺の第IV層土中から多く出土している。第6表の古代の土器分類基準表に従って分類する。

#### 甕 (第89図)

A類-1:671~673 D類-1:677、678 E類-1:690

A類-2:675、676 D類-2:683 E類-2:687、691

A類-3:674 D類-3:679、680 E類-3:686

 C類-2:689
 D類-6:681
 E類-4:685

C類-3:688 E類-6:684

692は内器面ナデ、外器面格子目タタキのある甕の胴部である。693・694は鉢である。

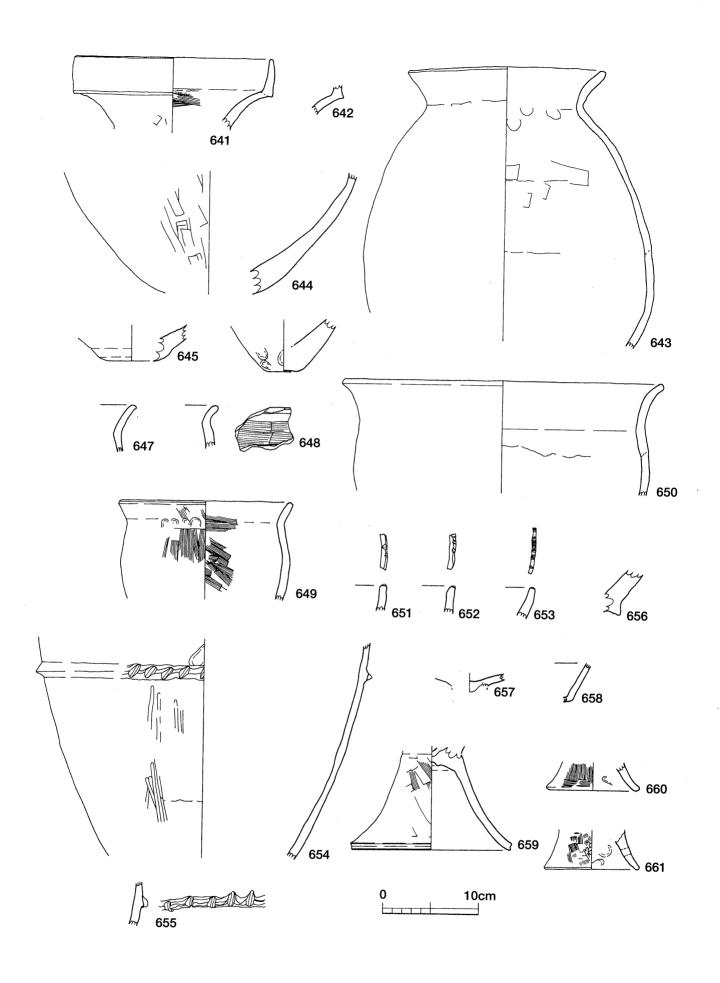
#### 坏 (第90図)

A類-1:695 B類-1:699、704、706

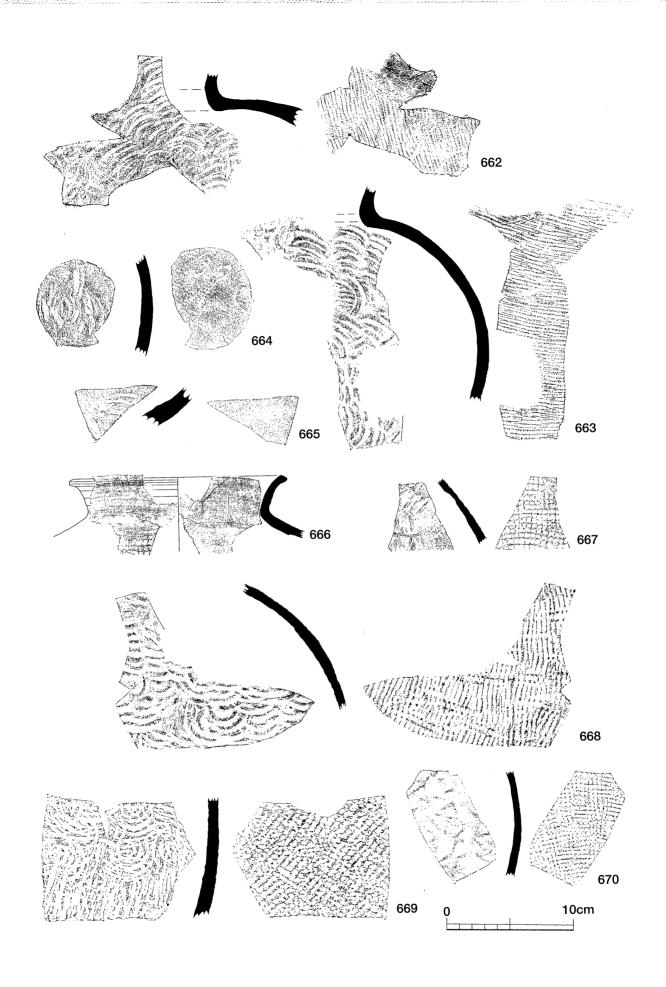
A類-2:696 C類:702、708、709

A類-3:697、698、700、703、705、707

705は体部外面の正位方向に墨書が記されている。文字については不明である。



第86図 B4地区出土土師器実測図(S=1/4)



第87図 B4地区出土須恵器実測図(S=1/3)

## 高台付坏(第90図)

B類-1:721

B類-5:719、720

B類-4:722、723

B類-8:724

725は高台内と坏底部にヘラ記号がみられる。「+」か。

## 黒色土器 (第91図)

坏部A類-1:728~732

底部 A 類:724

坏部A類-2:726、727

底部B類-1:743、744

坏部A類−3:735~739

底部 B 類 - 2:745

坏部B類:733、734

730・733・734・738・739・741は墨書土器である。730は坏外面正位方向に「大人」か。他の文字については判読できない。740は朱書である。

### その他の遺物 (第91図)

746は黒色土器の鉢か。747は布痕土器である。748~750は土製紡錘車である。

## (4) その他の遺構と遺物

# 掘立柱建物跡(SB1~3、第92図)

検出された建物は 3 棟である。 2 間× 3 間、 3 間× 3 間、 2 間× 2 間に廂を持つものがある。 3 棟の内 2 棟は炉を伴うものである。柱穴間の距離については図に示した。

### 。1号掘立柱建物跡(SB1)

調査区の東側に検出された。主軸を $N-63^\circ$  -Wにとる 2 間 $\times$  3 間の建物である。梁 $4.2\sim4.5$  m、桁 行6.3 m、柱穴径 $15\sim30$  cm、深さ $15\sim60$  cmを測る。南側中央に炉を持つ。SC1 と切り合っている。

#### 。2号掘立柱建物跡(SB2)

3 棟並ぶ建物の、一番西に位置する。主軸を $N-53^\circ$  30'-Wにとる 2 間× 2 間の建物に、南側と東側の 2 面に廂を持つ。梁 $2.9\sim3.2$ m、桁行 $3.4\sim3.5$ m、柱穴径 $15\sim30$ cm、深さ $30\sim70$ cmを測る。廂の柱穴径は $20\sim30$ cm、深さ30cm前後と比較的しっかりとした柱穴である。

#### 。 3 号掘立柱建物跡(SB3)

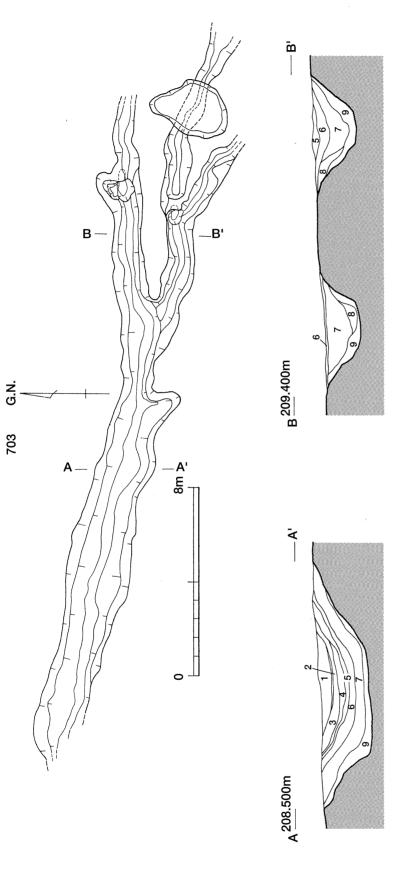
2 号掘立柱建物跡の東側に位置する。主軸を $N-65^\circ$  30'-Wにとる 3 間 $\times$  3 間の建物である。梁4. 5 m、桁行5.1~5.3mを測る。柱穴径20 cm前後、深さも30 cm前後と揃っている。建物の南西側にはろを持つ。

#### 土壙(SC1~3、第94図)

第IV層上で3基の土壙が確認されている。埋土は黒褐色土で炭化物を若干多く含む。時期は不明である。

### 。 1 号土壙 (SC1)

調査区東側の1号炉跡の南側に隣接する。長軸0.73m、短軸0.58m、検出面からの深さ約0.16mの不



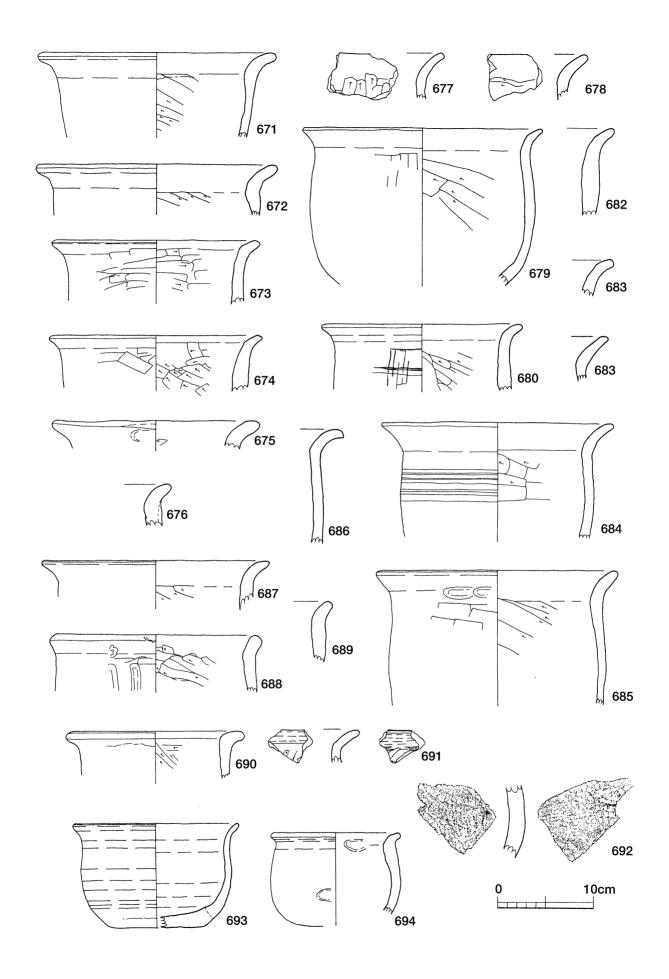
2m

(基本層序・Ⅲ-a)層

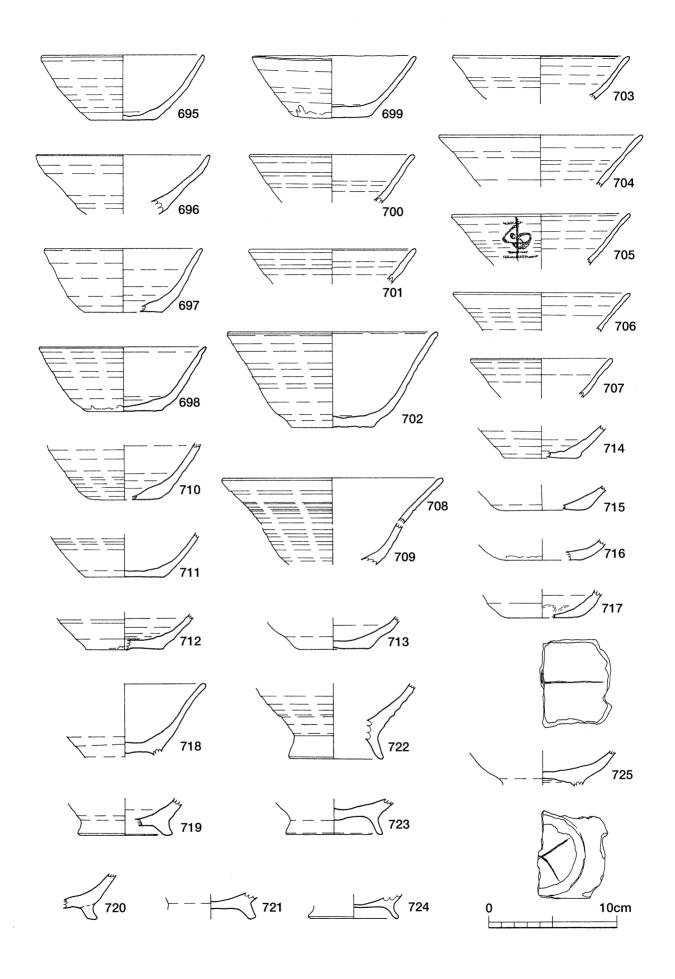
基本層序・Ⅲ-c)層 (基本層序・Ⅲ-b)層

5。明黄褐色ボラ粒、白色粒、炭化材を若干含む。 粒子が細かくさらさらしている。褐色砂粒を多く含み、炭化物粒を少量含む。 炭化物をやや多く含む。明黄褐色ボラ粒、白色砂粒を少量含む。 …やや硬質でしまりがある。 ユー・硬質でしまりがある。粒 ユー・硬質でしまりがある。炭 高原スコリア (基本層序・ 高原スコリア (基本層序・ 高原スコリア (基本層序・ スコリア混じりの黒色土 親色土 (基本層序・皿-b)層 火山灰 (基本層序・皿-c)層 黒色土…やや硬質でしまりが 暗褐色土…硬質でしまりが **-** 2 8 4 5 9 **-** 8 6

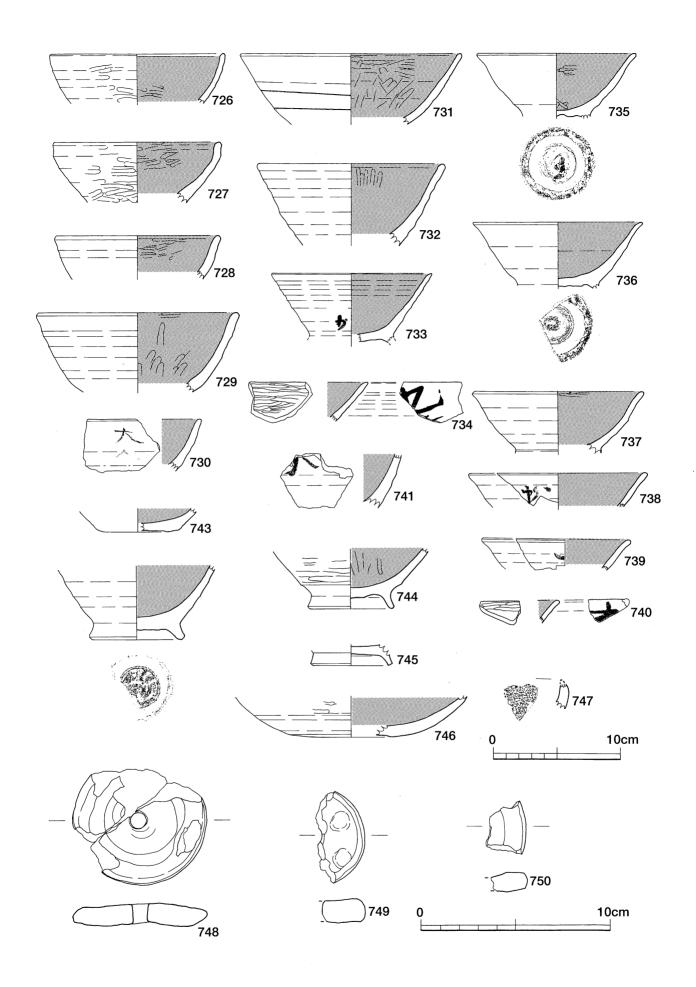
B4地区1号溝状遺構(SE1)・土層実測図(S=1/160、土層:S=1/40) 第88図



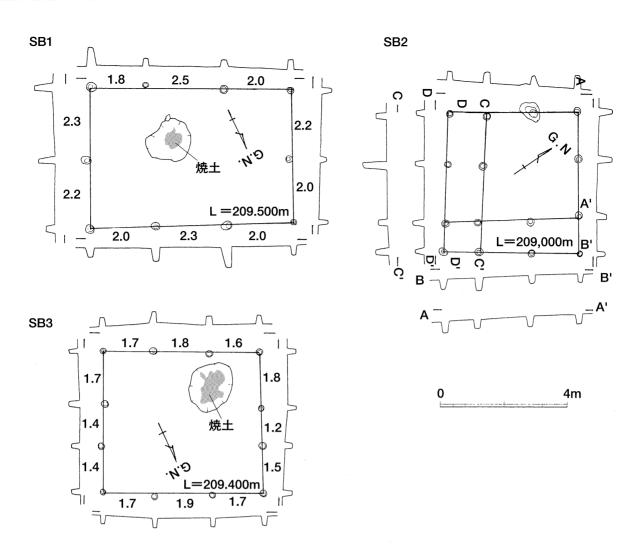
第89図 B4地区出土土師器実測図(S=1/4)



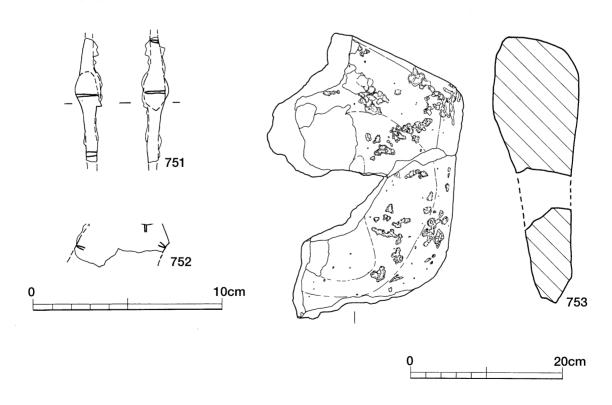
第90図 B4地区出土土師器実測図(S=1/3)



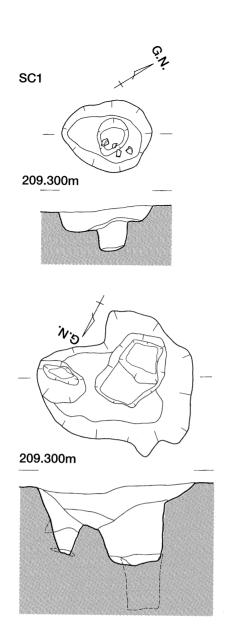
第91図 B 4 地区出土土師器 (S = 1 / 3)・土製紡錘車実測図 (S = 1 / 2)

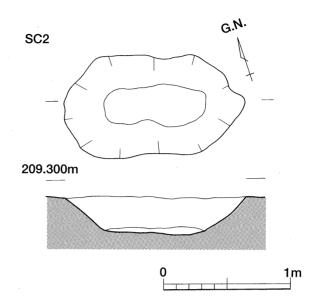


第92図 B 4 地区 1 • 2 • 3 号掘立柱建物跡 (S B 1 • 2 • 3) 実測図 (S = 1 / 120)



第93図 B 4 地区出土鉄器 (S = 1 / 2) · 石器 (S = 2 / 5) 実測図





第94図 B 4 地区 1 · 2 · 3 号土壙実測図 (S = 1 / 30)

定円形プランを呈する。中央に深さ0.22mのピットを持つ。1号掘立柱建物跡と切り合っているが時期差は確認出来ない。上層から古代の土器片が出土している。

# 。 2 号土壙 (SC2)

調査区の南側中央に位置する。長軸1.44m、短軸0.78 m、検出面からの深さ0.29mの楕円形プランを呈する。

## 。 3 号土壙 (SC3)

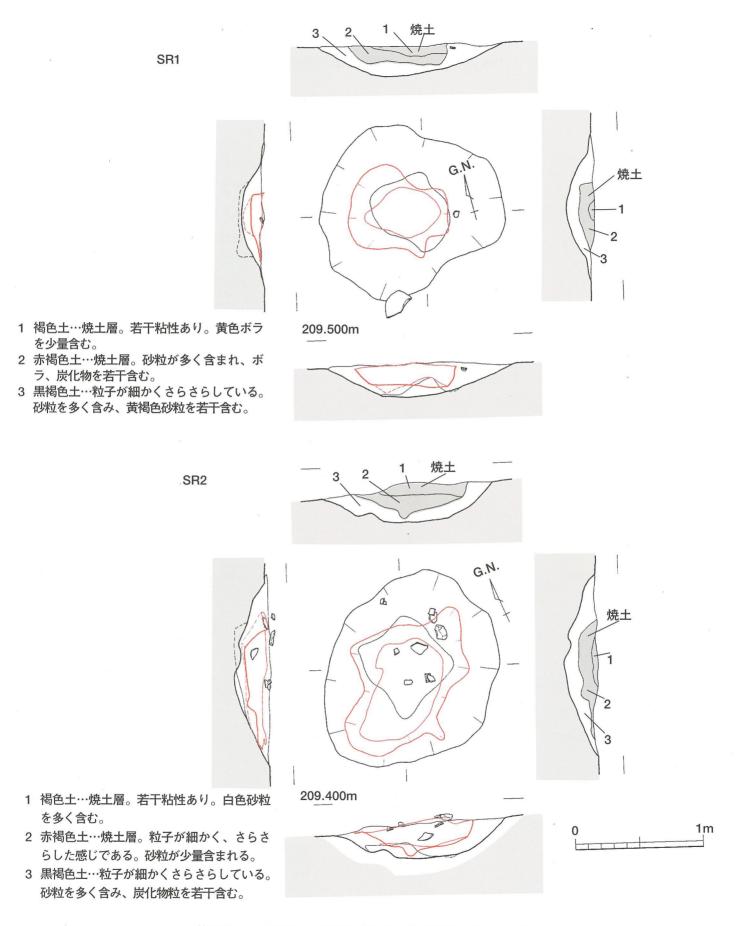
2号土壙の北西側に位置する。長軸1.24m、短軸1.05m、検出面からの深さ0.26mの不定形プランを呈する。長軸両端に約0.25mと約0.6mのピットを持つ。

#### 炉跡

検出された炉跡は 2 基である。炉跡の形態は他の地区のものと同じである。 2 基とも建物に伴うものである。

#### ○ 1 • 2 号炉跡(SR1 • 2、第95図)

1号炉跡は、掘り型の径が1.5m、検出面からの深さ約0.3mの不定円形を呈する。中央部の焼土は、径が0.8m、深さ0.22mの範囲に堆積している。焼土の周辺には赤変した礫(安山岩)が散乱していた。その礫付近に器種不明の鉄製品(銀銅製?図版P238①)が出土している。2号炉址は掘り型の長軸1.7m、短軸1.3m、検出面からの深さ0.3mの楕円形プランを呈する。中央部の焼土は、長軸1.25m、短軸0.85m、深さ0.25mの不定楕円形の範囲に堆積している。焼土上部には礫片や土器片が散乱している。



第95図 B4地区1・2号炉跡 (SR1・2) 実測図 (S=1/30)

# 包含層の遺物 (第93図)

751・752は鉄器である。751は鉄鏃の基部で、現存長6.6cmを測る。752は小札か。753は安山岩製の石皿である。

# (5) 小結

B4地区では、弥生、古墳時代の遺物の出土が少なく、古代の遺物を中心に出土している。畝状遺構については、畠の畝としての盛土は確認できないが、畝状遺構の切り合いや重なり合いが確認でき、畠のつくりかえが行なわれたことが推測できる。炉を伴う掘立柱建物跡も確認されていることから、畝状遺構が作られる前の生活区であったことも考えられる。遺物についての詳細は第Ⅲ章に記述する。

# 第29表 B 4 地区出土遺物観察表(1)

_		1						1. 106				
遺物 番号	種別	器種 部位	出土地点	口径	量(cr 底経	器高	手法・調整 外 面	・文様ほか	色 	内面	胎土の特徴	備考
	縄文	鉢 □ 縁	B4地区 II層	- 4	AND THE	им 11-4	口縁部、縦方向沈線、横方向沈線	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	1mm以下の透明光沢粒	
636	縄文	鉢 □ 縁	B4地区 IV層				横方向沈線	ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	1.5㎜以下の乳白・暗褐色粒	
637	縄文	<b>鉢</b> 口 緑	B4地区 IV層				横方向沈線	ナデ	橙	にぶい橙	1.5mm以下の黒色光沢・透明光沢粒、 2mm以下の茶色粒	
641	土師器	壺口 縁	B4地区	(20.3)			ナデ・	ナデ、横・斜ハケ 目、粘土のつなぎ	浅黄橙	淡黄	0.5~3mm以下の赤・黒色の粒、 0.5~1mmの透明光沢粒	
642	土師器	壺 口縁付近	B4地区				ナデ	ナデ	灰黄	灰黄	0.5mm以下の黒色光沢粒、白色光沢 粒	
643	土師器	壺 □緑~胴部	B4地区	19.9			ナデ	工具ナデ、指頭痕、 粘土のつなぎ	明赤褐	にぶい <b>橙、</b> オリーブ黒	1㎜の灰白・灰褐・黒・乳白色の粒	
644	土師器	壺 底部付近	B4地区				斜ハケ目	丁寧なナデ	浅黄、橙	橙	2mm以下の灰、にぶい黄橙・黒・褐 色の粒	
645	土師器	変 底 部	B4地区		(7)		ナデ	ハケ目	浅黄橙	淡黄	2.5mmの暗褐・灰・乳白色の粒、透 明光沢粒	
646	土師器	変 底 部	B4地区 IV層		3.1		ナデ	ナデ、黒変	にぶい橙	にぶい赤褐	2㎜の淡黄・灰色の粒、黒色光沢粒	
647	土師器	<b>整</b> 口 縁	B4地区				ナデ	ナデ、黒変	淡黄	浅黄橙	2㎜の褐・灰黄色の粒、透明光沢粒	
648	土師器	豊 □ 縁	B4地区				工具ナデ、スス付着	工具ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐、 褐灰	2㎜以下のにぶい黄褐色の粒	
649	土師器	變 □椽~胴部	B4地区	(17.6)			縦ハケ目、ハケ目 後ナデ、スス付着、 指頭痕	ナデ、斜ハケ目	灰黄、黒	灰黄	1mm以下の黒・浅黄色の粒、透明光 沢粒	
650	土師器	要 □級~胴部	B4地区	(33.1)			ナデ、スス付着	ナデ、粘土のかえ り	黒褐、明褐灰	灰黄、黄灰	3mmの褐・浅黄・黒色光沢粒、透明 光沢粒	
651	土師器	翌 □ 緑	B4地区				ナデ、 口唇部刻み目	ナデ	にぶい褐	橙	1㎜以下の灰・黄橙色の粒	
652	土師器	夏□ 緑	B4地区				工具ナデ	横・斜ナデ	にぶい赤褐	黒褐	1mm以下の褐・灰色の粒	
653	土師器	<b>要</b> □ 縁	B4地区				丁寧なナデ、 口唇部刻み目	ナデ、指頭痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1㎜以下のにぶい黄橙、灰色・黒い 光沢粒	
654	土師器	夏酮 部	B4地区				ミガキ、ナデ、粘 土のつなぎ目	ナデ、スス付着	橙	橙	2mm以下の黄灰・黒・灰色、透明光 沢粒	
655	土師器	要 朋 部	B4地区				ナデ、貼付刻み目 突帯	斜ナデ、黒斑	にぶい赤褐	にぶい赤褐、 黒褐	3㎜以下の淡黄、透明光沢粒	
656	土師器	度 部	B4地区				ナデ	ナデ	浅黄	暗灰	1.5~3mmの乳白色・暗褐・淡黄灰・ 透明光沢粒	
657	土師器	高坏坏部	B4地区				ナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい褐	2mm以下の灰白・褐灰・黒・透明光 沢粒	
658	土師器	高坏杯部	B4地区				ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の灰白・褐灰・黒透明光沢 粒	J
659	土師器	高坏器部	B4地区		(16.5)		斜ハケ目、ナデ	ナデ	にぶい黄橙、 明黄褐	明黄褐	2㎜以下の灰白・褐灰・黒色光沢粒	
660	土師器	B4地区 II層IV層	B4地区		9.2		ナデ、縦ハケ目	ナデ、指頭痕	明褐	明赤褐	3㎜以下の灰白・褐灰・黒光沢粒	
661	土師器	B4地区 II層IV層	B4地区		(9.6)		斜ハケ目	ナデ、指頭痕	橙	明赤褐	3㎜以下の灰白・褐灰の粒	
662	須恵器	横瓶頸部	B4地区 II層IV層				ナデ、平行叩き、 自然釉	ナデ、同心円当て 具	灰	灰	精良	
663	須恵器	横瓶 類部~胴部	B4地区 Ⅲ層IV層				ナデ	ナデ、同心円当て具	灰	灰	灰	同一個体
664	須恵器	横瓶胴部	B4地区 IV層				ナデ	ナデ、同心円当て 具	灰白	黄灰	灰	
665	須恵器	横瓶 底部付近	B4地区 IV層				ナデ	ナデ、工具痕	灰	灰	灰	J
666	須恵器	整 □縁~類部	B4地区 IV層	(16.3)			ナデ、格子目叩き	ナデ、自然釉	灰	灰、灰白	灰	
667	須恵器	夏服 部	B4地区 IV層				格子目叩き	平行当て具	灰	灰	灰	

第30表 B 4 地区出土遺物観察表 (2)

遺物	130 A	器種	出土		量 (c		テスペ (2) 手法・調整	<ul><li>文様ほか</li></ul>	色	調		
番号	種別	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	備考
668	須恵器	夏 胴 部	B4地区 IV層			-	冊状タタキ	同心円当て具	にぶい黄褐、 灰黄褐	暗灰黄	精良	
669	須恵器	夏 胴 部	B4地区 IV層				格子目叩き	同心円当て具、平 行当て具	灰	灰	精良	
670	須恵器	夏 胴 部	B4地区 IV層				格子目叩き	放射状当て具	灰白	灰白	精良	·
671	土師器	<b>變</b> □縁~胴部	B4地区	(24.0)			ナデ	斜ケズリの後ナデ	明褐、にぶ い黄褐	にぶい褐、 橙	1mm以下の灰白、褐灰色の粒、0.5mm 以下の黒色光沢粒	
672	土師器	<b>變</b> 口 縁	B4地区 II層IV層	(24.3)			格子目叩き	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄橙	灰黄、 にぶい黄橙	5㎜以下の灰黒色の粒	
673	土師器	夏禄	B4地区 IV層	(20.8)			ナデ、スス付着	横ケズリの後ナデ	にぶい褐	灰黄褐	1.5mm以下の淡黄・乳白色の粒、透明光沢粒、黒色光沢粒	
674	土師器	<b>變</b> □縁~胴部	B4地区	(21.2)			工具ナデ、スス付 着	横斜ケズリの後ナ デ	橙	にぶい黄褐	5mm以下の黒灰・黒・乳白・黄灰色の粒、2mm以下の透明光沢粒、黒色 光沢粒	
675	土師器	整 □ 縁	B4地区 IV層	(20.8)			ナデ	斜ケズリ、指頭痕	明赤褐	明赤褐	2mm以下の透明光沢粒	
676	土師器	<b>変</b> 口 緑	B4地区 SC1				ナデ、黒変、粘土 の付着	横ケズリの後ナデ、 黒変、粘土の付着	にぶい黄褐	にぶい橙、 灰黄褐	1.5mm以下の灰白・褐灰色の粒、 1mm以下の黒色光沢粒	
677	土師器	<b>要</b> □ 縁	B4地区 IV層				ナデ	縦ケズリの後ナデ	橙	橙	3.5mm、6.5mmの黄土・茶色の粒、 2mmの黒・茶色・透明光沢粒	
678	土師器	整 □ 縁	B4地区 II層				ナデ	横ケズリの後ナデ	灰黄	にぶい黄橙	0.5~3㎜以下の褐・黒色の粒	
679	土師器	養 □縁~底部	B4地区 Ⅲ層IV層	(24.6)			工具ナデ、黒変	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	5㎜以下の灰・茶・黒色の粒	
680	土師器	變 □最~胴部	B4地区 IV層	(20.3)			工具ナデ、スス付 着	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	3~4㎜の黒色の粒、1~2㎜の透明光 沢粒、黒色光沢粒	
681	土師器	變 □縁~胴部	B4地区 IV層				工具ナデ、格子目 タタキ	斜ケズリの後ナデ	明赤褐	橙	2㎜以下の灰・黒・乳白色の粒	
682	土師器	型 □ 縁	B4地区 SR2				ナデ	斜ケズリの後ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐色の粒	
683	土師器	優 □ 縁	B4地区 II層IV層				ナデ	横ケズリの後ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の茶褐色・灰褐色の粒	
684	土師器	<b>變</b> □縁~胴部	B4地区 IV層	(24)			工具ナデ、ナデ	斜ケズリの後ナデ	浅黄、灰黄	灰黄	1mmの透明光沢粒、3mm以下の赤褐・ 灰褐色の粒	
685	土師器	甕 □緑~胴部	B4地区 IV層	(24.6)			工具ナデ、ナデ	斜ケズリの後ナデ、 炭化物付着	灰黄、 暗灰黄	浅黄、 暗灰黄	2㎜以下の灰・褐色の粒	
686	土師器	<b>甕</b> □椽~胴部	B4地区 IV層				板状工具ナデ、 ナデ	横ケズリの後ナデ	にぶい黄橙	橙	1㎜以下の褐色の粒、透明光沢粒	
687	土師器	<b>変</b> □ 縁	B4地区 Ⅲ層	(23)			ナデ、風化気味	斜ケズリの後ナデ、 風化気味	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の灰・褐・黒色の粒、0.5mm 以下の透明光沢粒、黒色光沢粒	
688	土師器	<b>変</b> □ 縁	B4地区 IV層	(21)			ナデ、粘土のかえ り、粘土のたまり、 スス付着	縦・斜ケズリの後 ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の暗褐色・透明光沢粒、黒 色光沢粒	
689	土師器	変 □ 縁	B4地区 IV層				ナデ、工具痕	横・斜ケズリの後 ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	2㎜以下の茶・褐・灰・乳白色の粒	
690	土師器	夏口 緑	B4地区 IV層	(17.4)			ナデ、粘土のつな ぎ	横・斜ケズリの後 ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	2mm以下の褐・黒・乳白色の粒、0.5~1mmの黒色光沢粒、5mmの灰色の粒	
691	土師器	甕□ 緑	B4地区 SC1				ナデ、工具痕、黒 変	斜ケズリの後ナデ、 黒変	にぶい橙、 暗灰黄	橙、にぶい 黄褐	1mm以下の灰白・褐灰色の粒、1mm以 下の灰白色の粒、黒色光沢粒	
692	土師器	夏 胴 部	B4地区 IV層				格子目タタキの後 ナデ、スス付着	ナデ	橙	にぶい褐	3mm以下の灰・黒・褐色の粒、7mmの 黒色の粒	
693	土師器	鉢 □縁~底部	B4地区 Ⅲ層IV層	(17.0)	(10.1)	10.95	ナデ、工具痕、ス ス付着、黒斑、粘 土の継ぎ目	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、 浅黄	精良	
694	土師器	鉢 □縁~底部	B4地区 IV層	(13.0)			ナデ、指頭痕	ナデ、指頭痕	にぶい黄褐	赤褐	5mm以下の褐色の粒、3mm以下の半透明光沢粒、2.5mm以下の黒色光沢粒	
695	土師器	坏 口縁~底部	B4地区 IV層	(12.6)	(5.2)	5.15	回転ナデ	回転ナデ	<b>橙、</b> にぶい褐	橙、 にぶい褐	精良	
696	土師器	坏 □縁~体部	B4地区 Ⅲ層IV層	(13.4)			回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	精良	
697	上師器	坏 □縁~底部	B4地区 Ⅲ層IV層	(12.2)	(6.1)	5	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ	回転ナデ	にぶい橙	にぶい橙	精良	

第31表 B 4 地区出土遺物観察表 (3)

18	胎土の特徴 備考の黒・褐色の粒
1988   土師器   1988	
日本	· ·
100   土師器   1/8   日地版   12.7   12.7   12.9   12	
1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	下の褐・茶色の粒
702   土飾器   以地区   16.3   17.5   回転ナデ、ヘラ切   回転ナデ、朱施   権   権   2mm以下の   2mmu以下の   2mmuux	下の褐色の粒
To   日前器	の灰・褐・黄色の粒
704   土師器   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	
10   10   10   10   10   10   10   1	
Too   土師器   以	の黒・灰色の粒
10   10   10   10   10   10   10   1	
708   土師器   「环	下の褐色の粒
Tun	の赤褐色の粒
710   工師器 体部 成部   国顧V層   (5.8)   り後ナデ   四転ナデ   にぶい真信   にぶい真信   れた   1   1   1   1   1   1   1   1   1	の赤褐色の粒
TI	
712   土師器   本部   大田   大田   大田   大田   大田   大田   大田   大	
T13   土師器   「	の透明光沢粒、2mm以下の黒・
714 山麻里 坏 BH地区 (5.9) ナデ、粘土のかえ ナデ 機 増 禁白	2
1	
715   土師器	2
716     土師器 広 部 N層     BM地区 N層     (6.8)     ナデ     ナデ     にぶい橙 にぶい黄橙 2mm以下(	の透明光沢粒
717     土師器 広 部 財産	の茶色の粒
718   土師器   高的以   B4地区   回転ナデ   回転ナデ   浅黄橙   にぶい黄橙   粒   粒	の黒色粒、2mm以下の茶色の
719     土師器 高台付环 底 部 N層     日地区 N層     (7.0)     ナデ     ナデ     にぶい黄橙 にぶい黄橙 精良	
720   土師器   高台はX   日地区   カデ   回転ナデ   浅黄   暗灰黄   2mm以下	の透明光沢粒
721   土師器   高台付本   底 部   R4地区   ア層   アラス   大デス   高台端部に   ナデス   市台端部に   ナデス   市台端部に   ナデス   市台端部に   大デス   市田以下   日本   大デス   市田以下   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	の灰・茶・黒色の粒
722     土師器 高柏水 底線     B4地区 面層 M     (7.2)     回転ナデ、黒変 ぎ目     ナデ、粘土のつな ぎ目     橙     橙     2mm以下	の灰・黒色の粒
723     土師器     高台付本 底 部     B4地区 IV層     (7.4)     ナデ、風化気味     ナデ     明褐灰     浅黄橙     精良	
724     土師器 高台は	の茶色の粒
725   土師器   高台t	の茶・赤褐色の粒
726     黒色土器          ばい	
T27   黒色土器   「环	

第32表 B 4 地区出土遺物観察表 (4)

遺物		器種	出土	泔	生 量 (	m)	手法・調整	<ul><li>文様ほか</li></ul>	色	調		
番号	種別	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	備考
728	黒色土器	坏 □縁~体部	B4地区 IV層	(12.7)			ナデ	内黒、ミガキ	灰黄	黒	精良	
729	黒色土器	坏 □縁~体部	B4地区 Ⅲ層IV層	(15.6)			ナデ、黒変	内黒、ミガキ	にぶい黄橙	黒	2㎜以下の灰白・褐色の粒	
730	黒色土器	坏 口縁~体部	B4地区 IV層				ナデ、ヘラ切り後 ナデ、墨書「大人」	内黒、ミガキ	浅黄橙	黒	1mm以下の白・灰色の粒、透明光沢 粒	
731	黒色土器	坏 □縁~体部	B4地区 IV層	17.3			ナデ	内黒、ミガキ	橙	黒	1㎜以下の褐色の粒、4㎜の灰色の粒	
732	黒色土器	坏 □級~体部	B4地区 IV層	(14.6)			ミガキ、黒変	内黒、ミガキ	橙、黒	黒	5mm、8mmの灰白色の粒、1mm以下の 灰白・赤褐色の粒	
733	黒色土器	高台付坏 口椽~底部	B4地区 IV層	(12.6)			回転ナデ、黒変 <b>、</b> 墨書	内黒、ミガキ	胴黄褐	にぶい黄橙	精良	
734	黒色土器	坏 口録~体部	B4地区 IV層				ナデ、墨書	内黒、ミガキ	にぶい橙 <b>、</b> 橙	黒	精良	
735	黒色土器	高台付坏 □縁~底部	B4地区 IV層	(12.4)	-		ナデ、赤変	内黒、ミガキ	にぶい黄橙	黒	2㎜以下の透明・黒色光沢粒	
736	黒色土器	高台付坏 口縁~底部	B4地区 IV層	(13.3)			ナデ	内黒、ミガキ	浅黄橙	黒	2mm以下の透明光沢粒	
737	黒色土器	坏 口縁~底部	B4地区 Ⅲ層IV層	(13.1)	-		ナデ、黒変	内黒、ミガキ	浅黄	黒	精良	
738	黒色土器	坏 □線~体部	B4地区 II層IV層	(13.9)			ナデ、墨書	内黒、ミガキ	にぶい黄橙	黒	精良	
739	黒色土器	坏 口縁~体部	B4地区 Ⅲ層	(11.4)			ナデ、墨書	内黒、ミガキ	にぶい黄橙	黒	精良	
740	黒色土器	坏 □縁~体部	B4地区 IV層				ナデ、朱書	内黒、ミガキ	灰黄、黒	黒	精良	
741	黒色土器	坏体 部	B4地区 IV層				ナデ	内黒、ミガキ	にぶい橙 <b>、</b> にぶい黄橙	緑黒	1㎜以下の黒色の粒、透明光沢粒	
742	黒色土器	坏底 部	B4地区 IV層		(6.4)		ナデ、ヘラ切り後ナデ	内黒、ミガキ、風 化気味	にぶい橙	黒、灰	精良	
743	黒色土器	高台付坏、 体部~底部	B4地区 II層IV層		(7.0)		ナデ	内黒、ミガキ	橙	黒	5mm、8mmの灰白色の粒、1mm以下の 灰白・赤褐色の粒	
744	黒色土器	高台付坏、 体部~底部	B4地区 IV層		(6.5)		ミガキ	内黒、ミガキ	にぶい黄橙	黒	3㎜の浅黄の粒、1㎜の褐色の粒	
745	黒色土器	高台付坏 底 部	B4地区 IV層		(5.9)		ナデ	内黒、ミガキ	灰黄	黒	3㎜の灰褐・灰白色の粒	
746	黒色土器	鉢 体部~底部	B4地区 IV層		(7.0)		ミガキ、風化著しい	内黒、ミガキ	にぶい黄橙	黒、灰黄	1mm以下の透明光沢粒	
747	布痕土器	鉢 □縁部	B4地区 IV層				ナデ	布痕	明黄褐	にぶい黄橙	2~8mmの褐・灰色の粒、2mm以下の 褐・灰色の粒	
748	土 師	紡錘車	B4地区 IV層	直径 孔7.1	Lの径 最大 0.8 1.	厚 重さ(g) 25 44.6	ナデ	ナデ	浅黄橙にぶい	黄橙	2mm以下の乳白色の粒、透明・黒色 光沢粒	
749	土 師	紡錘車	B4地区 IV層	(5.5)	1.	25 14.2	ナデ <b>、</b> 指頭痕	ナデ	にぶい	黄褐	6.5mm以下の乳白色の粒、 3mm以下の透明・黒色光沢粒	
750	土 師	紡錘車	B4地区 IV層		1.	5.1	ナデ	ナデ	橙	i	精良	

# 第33表 B 4 地区出土石器計測表

レイアウト 番号	出土地点	器	種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	石	材	備	考
638	B4地区IV層	石 鏃		2.25	1.6	0.4	1.4	チャート			
639	B4地区IV層	石 鏃		2.0	1.8	0.35	0.8	チャート			
640	B4地区IV層	石 鏃		2.65	1.95	0.35	1.5	チャート	-		
753	B4地区	石 皿		38.2	26.3	12.2	7500	安山岩			

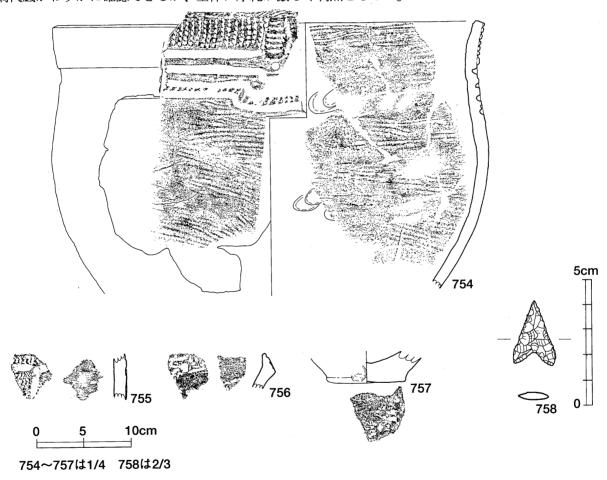
## 7. B 5地区の調査の概要

B5地区では、他の地区と同様に古代の畠跡が調査区のほぼ全面に検出できたほか、竪穴住居址が1棟、堀立柱建物が18棟、土壙が19基、溝状遺構5条、時期・性格ともに不明のピット群が多数検出できた。

## (1)縄文時代の遺物

縄文時代の遺構はB5地区では検出できていないが、若干の遺物が出土している。

754は市来式の深鉢である。口縁部から体部にかけて比較的良好な状態で出土している。口縁部に貝殻文、沈線文を巡らし、体部は貝殻擦痕が施される。755は市来式土器の細片である。口縁部近くと思われるが細片のため詳細は不明である。756は縄文土器の口縁部である。沈線らしきものが確認できるが器表の摩耗が激しく細片であるため、文様帯の詳細はよくわからない。757は鉢の底部と思われる。網代底がわずかに確認できるが、全体に摩耗が激しく判然としない。



第96図 B 5 地区IV層出土縄文時代遺物実測図

#### (2) 弥生時代から古墳時代にかけての遺構

## 1号住居址(SA1•第98図)

調査区の南端で検出できた 5.8m× 5.8mのほぼ正方形の竪穴式住居である。主柱穴は二本で、径約 20cm、深さは住居址床面より約60~80cm、柱間は約3.8mを測る。検出面から床面までの深さは20cm強である。炉跡や壁帯溝、貼床等の施設は確認できていない。

#### 堀立柱建物群

B5地区では堀立柱建物が18棟検出できている。堀立柱建物は、B5地区のほぼ中央の高台を中心に大きく4群に分けることが可能である。北から第1堀立柱建物群(7号から11号堀立柱建物)、第2堀立柱建物群(1号から4号堀立柱建物)、第3堀立柱建物群(5・6号堀立柱建物)、第4堀立柱建物群(12から18号堀立柱建物)とする。遺構からは時期を決定づけるような遺物は出土していないが柱穴埋土の状況から弥生時代から古墳時代にかけてのものと思われる。

## ①第1堀立柱建物群(SB7~11•第99図•第100図)

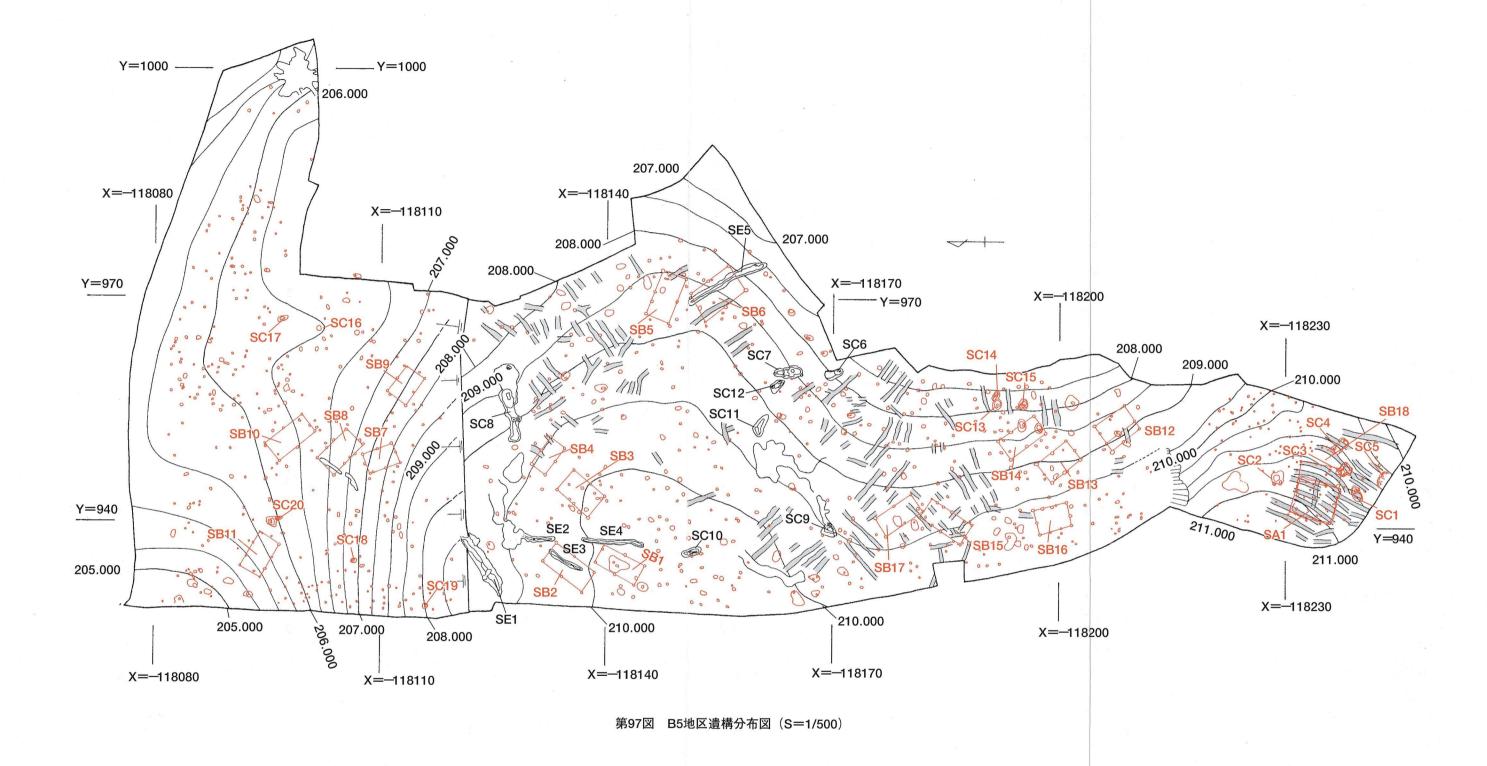
調査区の北側の緩斜面に分布する 5 棟で構成される堀立柱建物群である。建物の主軸方向は 7 号堀立柱建物が座標北より N25°Wである他は N60°Wの前後である。第 1 堀立柱建物群は全て側柱で二間二間のもの(7 号堀立柱建物)が 1 棟、一間二間のもの(9 号および10号堀立柱建物)が 2 棟、一間三間のもの(8 号および11号堀立柱建物)が 2 棟存在する。 7 号堀立柱建物は梁側の柱間が約1.2mから1.35m、桁側の柱間が約2 mで、深さは検出面から30cmから80cmとまちまちである。 8 号は梁側の柱間は1.68mから2.16mで、桁側の柱間は約2.93mから 3 mである。 9 号は梁側の柱間が約 3 mから2.8mで桁側の柱間が約2.04mから2.40mである。 10号は梁側、桁側ともに 3 m前後を測るが、南東に向けて柱筋が狭まっており、南東の梁側の柱間は約2.64mと狭い。11号は梁側の柱間は約 3 mで桁側は約1.2mから2.04mである。

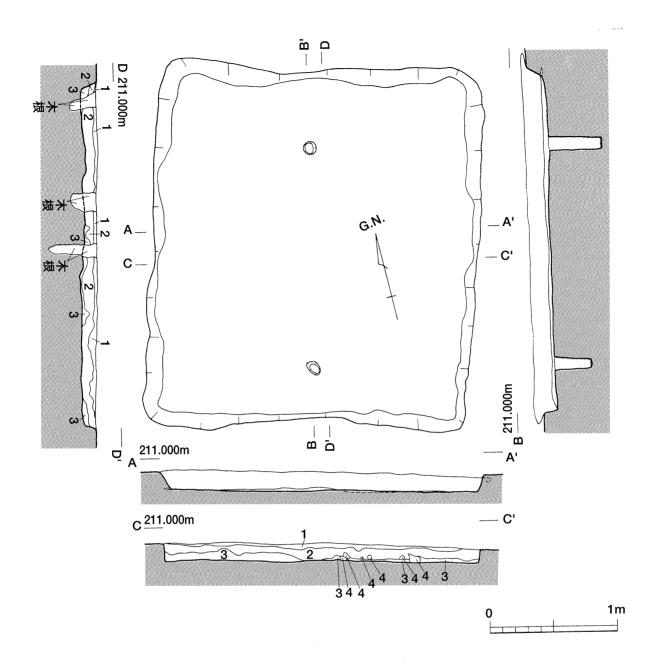
第1堀立柱建物群は7号が大きく北に振れている以外は、おおよそ同じ方位をとる。コンターライン等からみると、地形的な制約より、方位に規制されている可能性が高い。。方向、遺物その他から明確な時期差は確認できないが、少なくとも7号の建てられた時期と他の4棟が建てられた時期の2時期以上が考えられる。また、柱穴の径が $40\,\mathrm{cm}$ を大きく上回るものが無く、柱間、柱筋、柱穴の深さ等が一定していないことから考えると、恒常的建物とは考えにくい。現時点では短期間に使用された作業小屋程度のものを想定しておきたい。

#### ②第2堀立柱建物群(SB1~4 · 第99図)

調査区ほぼ中央の高台から北東にわずかに下る斜面上に分布する4棟で構成される堀立柱建物群である。建物の主軸方向は、4号以外はN27°EからN39°Eの間におさまる。4号の主軸はN35°Wと他の3棟にほぼ直交する。第2堀立柱建物群は全て側柱の一間二間である。1号堀立柱建物は梁側で柱間約2.52mから2.88m、桁側で3m前後である。2号堀立柱建物は、梁側で柱間3m、桁側で3mから3.24mである。3号堀立柱建物は梁側で柱間約3.36mから3.54m、桁側で柱間約2.58mから2.94mとなる。4号堀立柱建物は梁・桁側ともに柱間2.16mから2.28mと他の堀立柱建物と比較して規格性が高い。

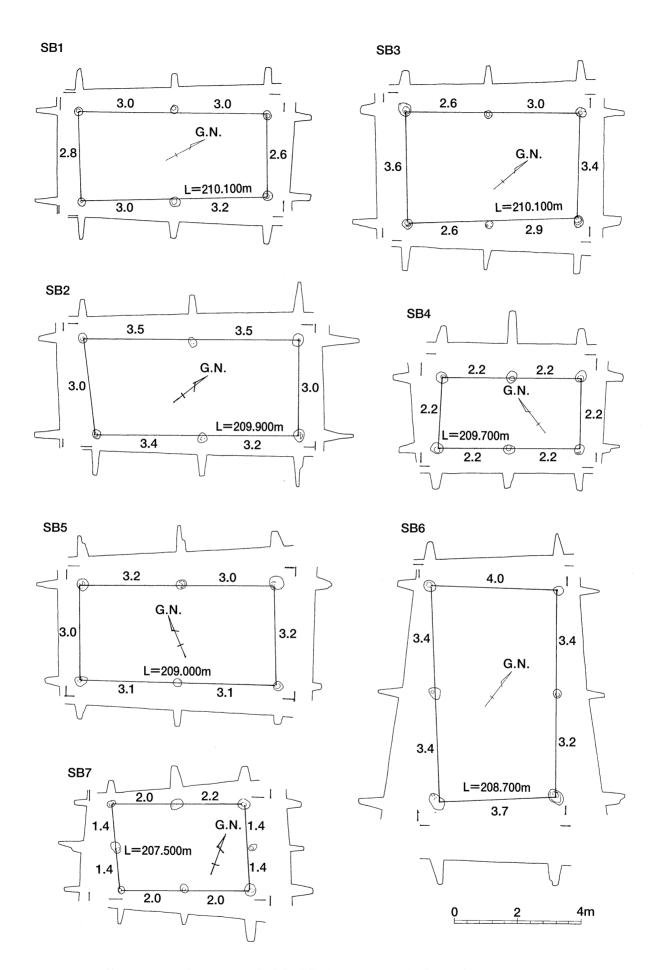
第1堀立柱建物群同様に柱穴の径は小さいが、比較的柱筋の通りはよく、柱穴の深さも60cmから80cm の間におさまるものが多く規格性が高い。また方位による規制が大きく働いているようで建物の主軸方 向もほぼ一定である。高所の比較的平坦な場所に築かれていることと合わせて考えると、第1堀立柱建 物群とは違った性格を想定する必要があるかもしれない。なお、建物相互の時期差を検証するデータに 乏しく同時存在をした建物をとらえることはできなかった。



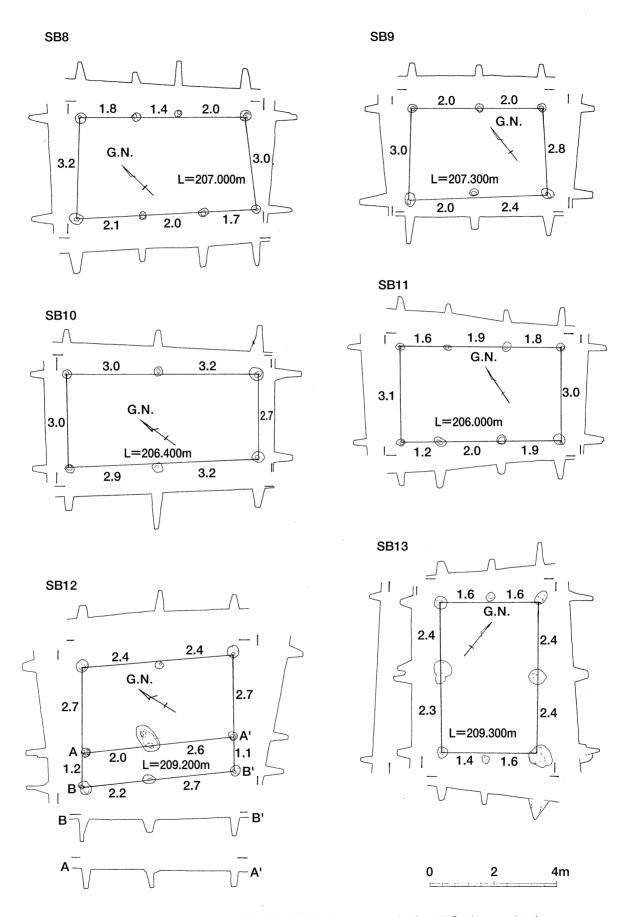


- 1……黒褐色土。しまりがあり、2~3mmの炭化物を多く含む。1~2mm程度の赤褐色パミスを若干含む。
- 2……褐色土。1よりもややしまりあり。2~3mmの炭化物と5mm程度の御池ボラを若干含む。
- 3……暗褐色土。かなりしまりが強い。炭化物を含まず、2~3mm程度の御池ボラ、2~5mm程度の赤褐色パミスを含む。
- 4……牛ノ脛上層ブロック。赤褐色パミスを若干含む。

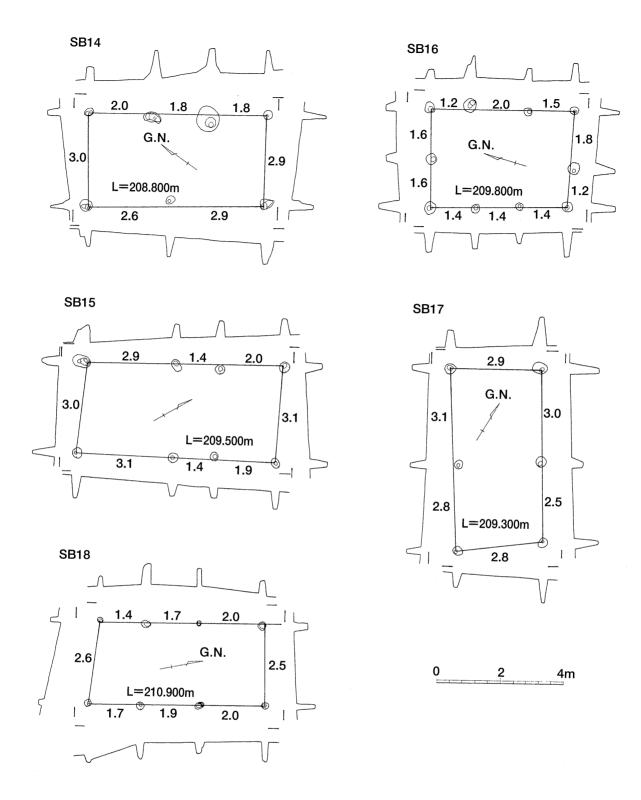
第98図 B 5 地区 1 号住居址実測図 (S=1/60)



第99図 B 5 地区 1 ~ 7 号堀立柱建物跡 (S B 1 ~ 7) 実測図① (S=1/120)



第100図 B 5 地区 8 ~13号堀立柱建物跡(S B 8 ~13)実測図②(S = 1/120)



第101図 B 5 地区14~18号堀立柱建物跡 (S B 14~18) 実測図③ (S=1/120)

## ③第3堀立柱建物群(SB5~6 · 第101図)

調査区の中央東側の斜面で検出できた 2 棟で構成される堀立柱建物群である。 2 棟とも一間二間で柱間は 3 mを下回るものがない。 5 号堀立柱建物は柱間が3.0mから3.24mと比較的規格性が高い。主軸方向は座標北からN67° Wである。 6 号堀立柱建物は梁側で3.72mから4.08mで桁側で3.24mから3.6mである。主軸方向はN32° Wとなる。

第3堀立柱建物群は2棟のみしか検出できておらず、調査区外に建物群が広がる可能性も考えられ、 検討材料に乏しい。また、柱間が柱穴の径に対し異常に広く、堀立柱建物ではなく柱列など別の性格の 遺構を想定した方が妥当かもしれない。

## ④第4堀立柱建物群(SB12~18•第100•第101図)

調査区の南側で検出できた 7 棟の堀立柱建物で構成される堀立柱建物群である。建物の主軸はN35° W前後のもの(12・13・14号)、N14° Wのもの(16号)、N33° Wのも(15号)、ほぼ南北を向くもの(18号)がある。 6 棟の内訳は、一間三間のものが15・18号の 2 棟、二間二間のものが13号の 1 棟、二間三間のものが16号の 1 棟、一間二間のものが17号の 1 棟、一間二間の一面庇のものが12号の 1 棟である。なお14号は桁側が三間と二間の変則的な規格である。

第4堀立柱建物群は柱間、柱筋の通り、柱穴の深さなど全てまちまちで、規格性が非常に乏しい。また、柱間が3m以上のものがかなりあり、特に桁側で3mを越えているものは柱穴の深さと合わせて考えると建物が建っていたとは考えにくい。また、18号は調査区の南端に他のものとはずれて存在することから別の群を構成する可能性が高い。これらの点から、15号と17号・18号を堀立柱建物群から除外すると群のまとまりがとらえやすい。主軸方向から、12・13・14号の3棟と16号の2時期以上に分けられると考えられる。

## (3) 弥生時代から古墳時代にかけての遺物

# 1号住居址出土遺物

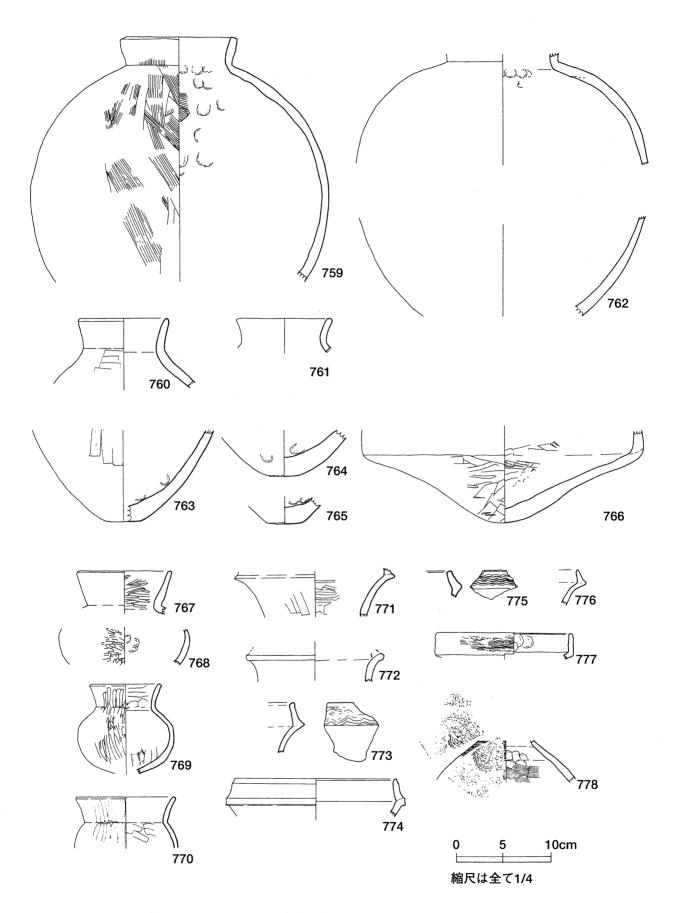
1号住居址からは庄内から布留式土器併行期と思われる土器片が数点出土しているが、他の遺構や包含層出土のものと接合するものをのぞくと壺の口縁部から体部にかけての破片が一点出土しているのみであり、出土状況からこの壺も流れ込みの可能性が高いため全て包含層一括資料として扱う。

#### Ⅳ層包含層出土の土器(第102図から第106図)

759から762は短頸の直口壺である。口縁部から頸部までの長さ・頸部から体部の形態により、幾つかに分類が可能であるようであるが、個体数や出土状況の良好なものが少ないためここでは分類は行わない。

763から766は壺の底部である。763から765は若干の平底を有するものである。766は尖底気味の丸底をケズリにより造り出しており、体部に向かって大きく開くラインを描く。

767から770は小型壺である。外面は丁寧にミガキが施され、内面はナデてある。頸部から口縁部への開き具合、および体部の張りにより分類が可能であると思われるが、個体数が少ないのでここでは分類は行わない。

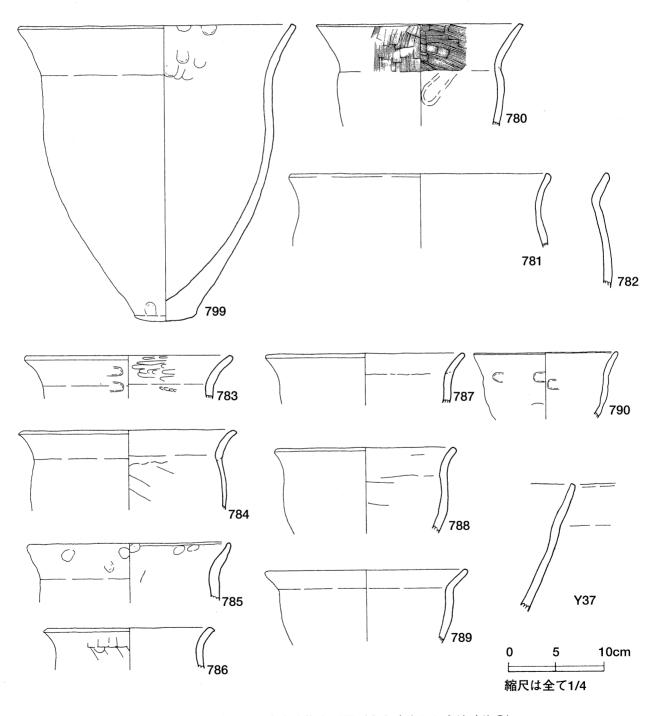


第102図 B 5 地区IV層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代①)

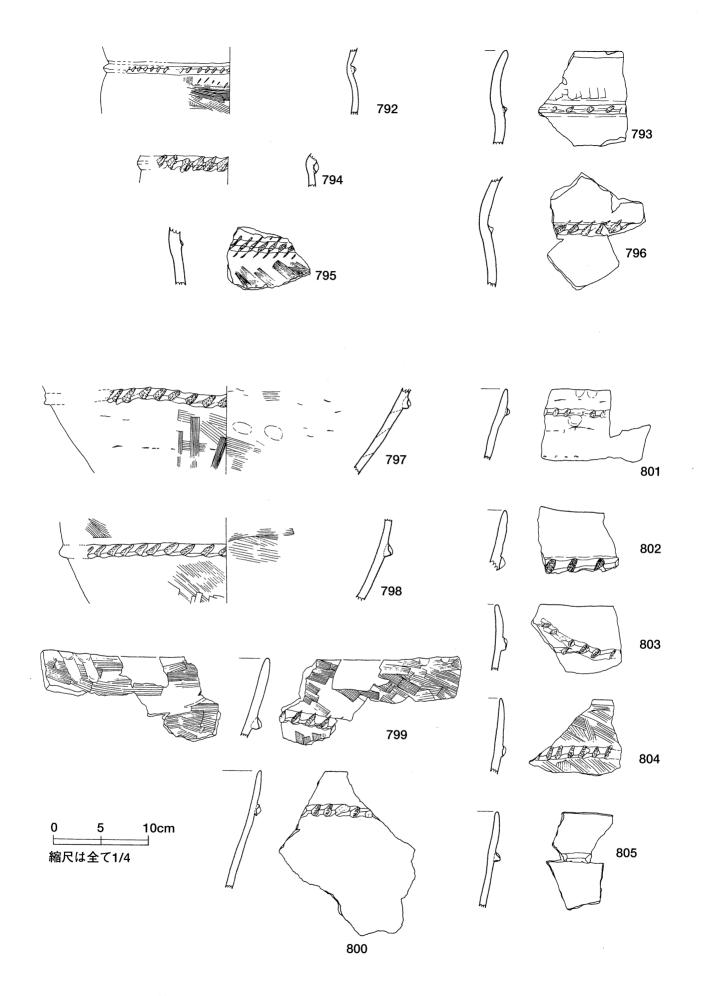
771から777は複合口縁壺である。771と772は第二次口縁を欠いており判然としないが、第一次口縁に第二次口縁が内傾して接続すると思われる。773から776は第一次口縁に第二次口縁がやや内傾して接続する。773と775の第二次口縁には櫛描波状文が巡る。777は第一次口縁にほぼ垂直に第二次口縁が接続する。第二次口縁には櫛描波状文が巡る。

778は重弧文土器である。横位の沈線と下向きの重弧文が一段ずつ施文されており、西分類(西健一郎「重弧文長頸壺」『弥生文化の研究 弥生土器 II 』1987)の第2型式にあたる。

779から825は甕である。刻目突帯の有無により大きく2群に分かれる。突帯のないもの(779から791)は口縁部から体部の形態に着目して、大きくラッパ状に開く口縁部を持つもの(779・780)、口縁部が

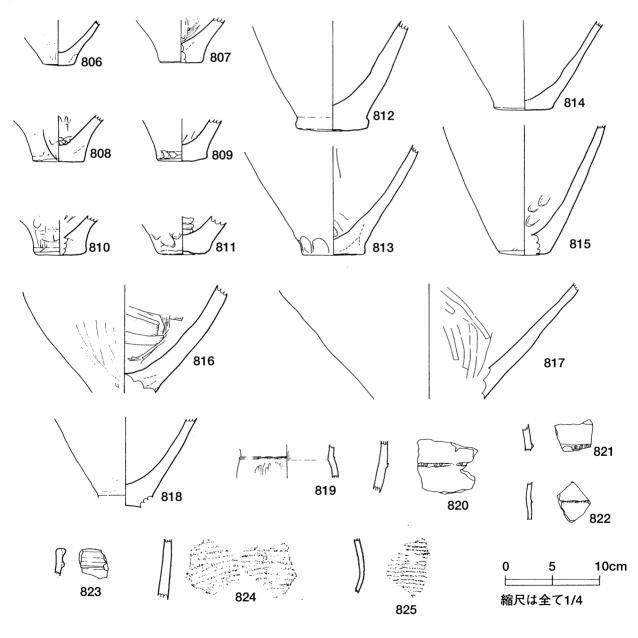


第103図 B5地区IV層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代②)



第104図 B 5 地区IV層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代③)

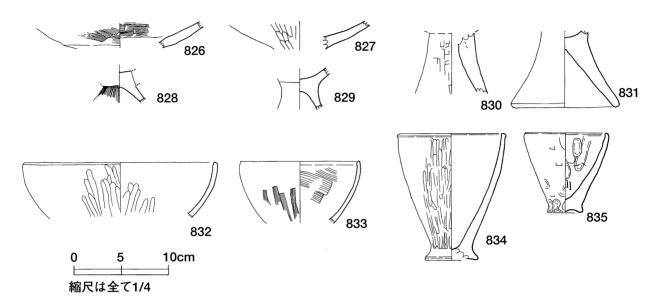
短く直線的に立ち上がるもの(781・782)、口縁部が短くかつ大きく屈曲し体部の張りが小さいもの(783から787)口縁部が外に屈曲しボウル状の体部を持つもの(788から790)、口縁部の屈曲が無く、体部はほぼ直線的なラインを描き、頸部に屈曲部の痕跡程度の沈線が巡るもの(791)の5形態に分類できる。突帯のあるものは、突帯部で「く」の字に屈曲するもの(792から796)と、体部から口縁部までやや内湾しながら直線的なラインを描くもの(797から805)に分かれる。「く」の字に屈曲するものは、細く繊細な刻目突帯をもつもの(792から793)と、太くやや荒いもの(794から796)とに分類できる。刻目突帯を持つものは、全体的に「く」の字に屈曲する口縁を持つものが直線的なものよりも丁寧な作りである。806から815は甕の底部である。806から811は小さな高台状の平底を持つものである。812から813は高台状の底部がやや大型のもので814と815は平底のものである。816から818は甕の体部である。大きく開く体部を持ち、脚を持つと思われるが判然としない。819から823はミニチュアの甕である。824と825は外面に叩きを持つ甕の体部片である。布留式土器併行期のものか古代のものか判然としないが、



第105図 B 5 地区Ⅳ層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代④)

胎土の状況から布留式土器併行のものと考えておきたい。

826から831は高坏である。個体数、出土状況が良好なものともに少なく、ここでは分類は行わない。832から835は鉢である。832と833は口縁部から体部にかけてが出土しており、832は内外面ともにミガキが施されている。834と835はやや上げ底の脚台状の底部を持つもので、やや大型の834は外面にミガキ、内面にナデが施され、薄手で繊細な作りをしている。835はやや小型で内外面ともに荒いナデと指ナデが施され厚手で無骨な印象を受ける。



第106図 B5地区Ⅳ層出土遺物実測図(弥生時代から古墳時代⑤)

## (4) 古代の遺構

# 畝状遺構 (第97図)

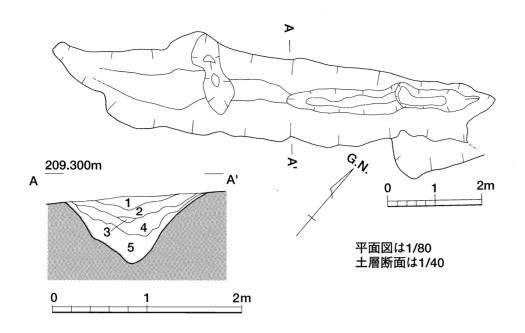
他の地区と同様に調査区のほぼ全面に畝状遺構が検出できているが、遺存状況は良好ではない。調査区中央の平坦な高所、北側の比較的急な斜面には畝状遺構は検出できておらず、調査区の南端に密集して検出できている。畝の方向は多くは中央の高所に向かってコンターラインに直交してのびているが、調査区南端とその他若干の部分でコンターラインと並行して走る。他の地区と同様に栽培作物は確定できていない。遺構の重複が顕著でないことから長期間の耕作は考えにくい。埋土の状況から他の地区で検出できた畝状遺構とほぼ同時期のものと考えられる。

## 1号溝状遺構 (SE1 • 第107図)

調査区中央の高所の西端に検出できた溝状遺構である。黒褐色の埋土が主であり、埋土中には白色火山灰(Ⅲ-b層)の堆積もみられた。畝状遺構と大差ない時期のものと思われる。溝はほぼ東北東から西南西に走り、約9.6mの長さを測る。溝の幅は最大で2m、深さは80cm前後となる。

## 2から5号溝状遺構(SE2~5・第97図参照)

1号同様、黒褐色の埋土が主体の溝である。古代のものと考えられる。畝状遺構との重複が認められないことから畠の区画などの機能が考えられる。



- 1 ·····・黒色土。しまりがなく、砂質が強い。灰白色火山灰 (Ⅲ-b層) がブロック状に混入。
- 2……黒褐色土。1より多く灰白色火山灰が混入する。
- 3……黒褐色土。2よりややしまりがない。灰白色火山灰が混入する。
- 4……黒色土。1~3よりややしまりが強い。0.1~0.2mm程度の御池ボラ粒、白色砂粒を若干含む。
- 5……黒褐色土。しまりが強い。1~5mm程度の御池ボラを若干含む。1~3mm程度の炭化物粒を多く含む。

#### 第107図 B 5 地区 1 号溝状遺構実測図

#### (5) 古代の遺物(第108図)

836は甕である。出土状況からは時期は確定できなかったが胎土の状況・器形から古代のものであると判断した。内外面ともに丁寧なナデが施してある。

837は鉢である。外面はナデが、内面にはミガキ施されている。

838から840は黒色土器である。838と840は口縁端部が外反する。839は底部でヘラ切り離しで高台がつく。

841から843は土師器の坏である。841は口縁端部が直線的なラインである。842は円盤状高台を持つもので板状圧痕が確認できる。843は高台付の坏である。内面は丁寧なナデが施されている。底部はヘラ切り離しで刻書で押と書いてあるのが確認できる。九字の変形と考えられる。

古代の遺物は全体に出土数が少なく、形態の検討等はできなかった。

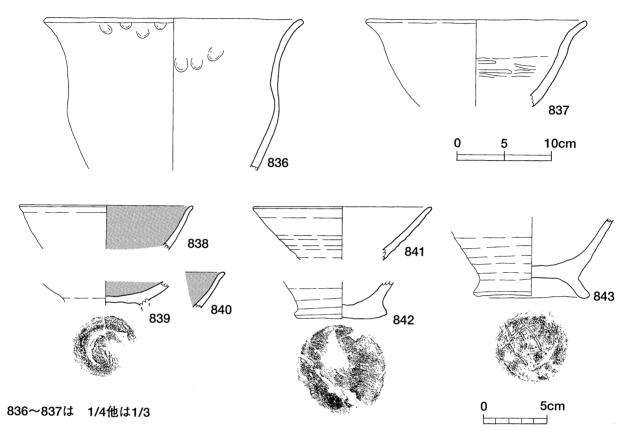
## (6) その他の遺構

#### ピット群(第97図参照)

調査区のかなり広い範囲で時期、性格とも不明のピット群が検出できている。埋土は弥生時代から古墳時代にかけての遺構とほぼ同様のものであり、この時代前後のものと考えられるが決め手はない。

# 土壙(SC1~20·第97図参照)

B5地区では土壙が20基検出できている。土壙の埋土は黒褐色のものが主で、古代のものが殆どであると思われる。性格を確定できるようなデータは取れなかった。土壙の詳しい計測値等は後述の表(第38表)に譲ることとしたい。



第108図 B 5 地区IV層出土古代遺物実測図

#### (7) その他の遺物

844は砥石である。背面に擦痕が確認できる。全体に熱を受け赤変している。時期を決定するデータに乏しく、時期不明の遺物として扱った。

# (8) 小結

B5地区は調査区の面積に比べ、非常に遺物に乏しい。また畝 状遺構の検出状態も悪く遺跡の性格付けを行うことも困難な状況 である。堀立柱建物群柱建物群は方位にかなり規制されて建てら れていることは見て取れるが、その変遷を見るためのデータは取 れていない。この地区の検討は他地区との総合的な検討にゆだね たい。

5cm 844 0

縮尺は1/3

第109図 B 5 地区IV層出土砥石実測図

第34表 B 5 地区出土土器観察表(1)

遺物	SEE THE	器種	出土	法	量(cr	n)	手法 · 調整	<ul><li>文様ほか</li></ul>	色	調	DA L o Mt WA	備考
番号	種別	部位	地 点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	胎土の特徴	佣布
754	縄文土器 (市来式 土器)	口縁部 ~胴部	IV層中	33.0 (推定)			貝殻腹縁による押 圧文・沈線文・貝 殻条痕	ナデ	浅黄(2.5Y 7/4)	明 赤 褐 色 (5YR5/6)	5mm程度の橙色、灰褐色の砂粒、 3mm以下の灰黄色、赤褐色、灰白色、 透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /12程度残 存
755	縄文土器 (市来式 土器)		Ⅳ層中				貝殻腹縁による押 圧文・沈線文	ナデ	にぶい赤褐 色 (5YR5 /4)	にぶい赤褐 色 (5YR5 /4)	0.1mm以下の乳白色の砂粒、0.3mm程 度の半透明の砂粒を含む。	細片
756	縄文土器		Ⅳ層中				棒状工具による刺 突文、凹線文	ナデ	黄灰色(2. 5Y5/1)	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	0.1mm以下の乳白色、半透明の砂粒 を含む。	
757	縄文土器	底部	Ⅳ層中		6.25 (推定)		網代底	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR5 /3)	にぶい橙色 (7.5YR6/ 4)	2.0mm程度の灰白色、透明光沢の砂粒、1.0mm以下の透明光沢、浅黄色の砂粒を含む。	底部の1/4 程度残存
759	弥生(?) 土 器	壺・口縁部 ~体部	IV層中	11.15 (推定)			刷毛目	刷毛目・ナデ	明赤褐色 (5YR5/6)	橙色 (5YR 6/6)	2.0mm以下の黒色光沢、浅黄色の砂粒、1.0mm以下の透明光沢、灰白色の砂粒を含む。	760
760	弥生(?) 土 器	壺・ 口縁部	Ⅳ層中	9.3 (推定)			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR7 /4)	淡黄色 (2. 5Y8/4)	4.0mm以下の黒色光沢、黒色、灰色、 乳白色の砂粒を含む。	
761	弥生(?) 土 器	壺・□縁部	Ⅳ層中	9.65 (推定)			ナデ	ナデ	浅黄色(7. 5YR8/4)	浅黄色(7. 5YR8/4)	3.0mm以下の黒色の砂粒、0.5mm以下 の透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /4程度残 存
762		壺・口縁 部~体部	IV層中				ナデ	ナデ	にぶい橙色 (5YR7/4)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	5.0mm以下の褐色、茶褐色、灰褐色、 灰白色の砂粒、2.0mm程度の透明光 沢粒を含む。	
763	弥生(?) 土 器	壺・ 底部	IV層中		3.8 (推定)		刷毛目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰 (5Y6/ 1)	3.0mm以下の茶色、黄橙色、茶褐色、 黒色の砂粒、1.0mm以下の透明光沢 の砂粒を含む。	
764	弥生(?) 土 器	壺・ 底部	IV層中		2.6		ナデ	ナデ	にぶい赤褐 色 (5YR5 /4)	にぶい褐色 (7.5YR5/ 4)	3.5mm以下の茶色、黒色、茶褐色の砂粒、0.5mm以下の透明光沢の砂粒を含む。	3.6cm
765	弥生(?) 土 器	壺・ 底部	IV層中	& atola	3.6		ナデ	ナデ	にぶい黄褐 色 (10YR5 /3)	にぶい褐色 (7.5YR5/ 3)	0.1㎜程度の透明光沢の砂粒を含む。	
766	<b>弥生</b> (?) 土 器	壺・ 底部	IV層中				ケズリ	ナデ	にぶい黄褐 色 (10YR5 /3)	灰黄色(10 YR5/2)	3.0mm以下の灰白色、褐灰色の砂粒、 1.0mm以下の灰白光沢、 黒色の砂粒 を含む。	
767	土師器	小型壺 ・口縁部	IV層中	9.6 (推定)			ミガキ	ミガキ	赤褐色(10 R4/4)	明 赤 褐 色 (5YR5/6)	1.5mm以下の黒色、白色、乳白色、 透明光沢の砂粒を含む。	
768	土師器	小型壺 • 体部	IV層中		-		ミガキ	ミガキ	赤褐色(10 R4/4)	明赤褐色 (5YR5/6)	3.0mm以下の灰白色、乳白色、茶褐 色の砂粒、0.5mm以下の透明光沢の 砂粒を含む。	767と同一 個体か
769	土師器	小型壺	IV層中	7.6 (推定)			ミガキ	刷毛目・ナデ	橙色 (5YR 6/6)	橙色 (5YR 7/6)	きわめて緻密。	口縁部の1 /4程度残 存
770	土師器	小型壺	IV層中	10.3 (推定)			ミガキ	ナデ	橙色 (5YR 6/8)	浅黄色(7. 5YR8/4)	1.5mm以下の淡黄色、暗褐色の砂粒 を含む。	口縁部の1 /4程度残 存
771	弥生(?) 土 器	複合口縁壺	IV層中				ナデ	ナデ	にぶい橙色 (5YR6/4)	にぶい黄橙 色(10YR6 /4)	1.0mm~2.0mm程度の黒色光沢、淡黄 色、乳白色、灰色の砂粒を含む。	1/5程度残 存
772	弥生(?) 土 器	複合口縁壺	IV層中				ナデ	ナデ	橙色(7.5Y R7/6)	黄橙色(10 YR8/6)	3.0mm以下の黒色、透明光沢の砂粒、 3.0mm以下の黒色、灰色、乳白色の 砂粒を含む。	
773	<u>弥生(?)</u> 土 器	複合口縁壺 ・口縁部	Ⅳ層中				ナデ・櫛描波状文	ナデ	橙色 (5YR 6/6)	浅黄色(7. 5YR8/6)	2.0mm程度の灰白色、褐色の砂粒、3. 5mm程度の赤褐色の砂粒を含む。	
774	弥生(?) 土 器	複合口縁壺 ・口縁部	IV層中	16.8 (推定)			ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	黄灰(2.5Y 4/1)	徽細な透明光沢の砂粒、1.0㎜程度 の黒色、乳白色の砂粒を含む。	
775	<b>弥生</b> (?) 土 器	複合□縁壺 •□縁部	IV層中				櫛描波状文	ヨコナデ	橙色(7.5Y R6/6)	橙色 (7.5Y R6/6)	微細な透明光沢の砂粒、1.0㎜程度 の黒色、乳白色の砂粒を含む。	
776	弥生(?) 土 器	複合□縁壺 •□縁部	IV層中				ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙 色 (10YR7 /4)	にぶい黄橙 色(10YR6 /4)	1.5mm以下の透明光沢、黒色光沢の 砂粒を含む。	
777	出紙(?) 器	複合口縁壺 ・口縁部	Ⅳ層中	14.4 (推定)			<b>櫛描波状文</b>	ナデ	浅黄色(7. 5YR8/4)	浅黄色(7. 5YR8/4)	2.0mm以下の赤褐色、灰白色、灰褐 色の砂粒を含む。	
778	弥生土 器	重弧文土 器・頸部 ~体部	Ⅳ層中				ミガキ、重圏文、 重弧文	刷毛目	橙色 (7/5 YR6/6)	橙色 (7.5Y R7/6)	0.5mm以下の灰色、黒色の砂粒を含む。	
779	弥生(?) 土 器	甕	Ⅳ層中	28.25 (推定)	6.5 (推定)	31.2 (推定)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR7 /3)	黄灰色 (2. 5Y5/1)	1.0mm以下の透明光沢、灰白色、浅 黄色、赤褐色、黒色光沢の砂粒を含む。	完形の1/2 程度残存
780	弥生(?) 土 器	選・ 口縁部	Ⅳ層中	21.2 (推定)			刷毛目	刷毛目・ナデ	灰黄色 (2. 5Y5/2)	灰白色 (2. 5Y8/2)	5.0mm程度の灰褐色の砂粒、3.0mm以 下の灰褐色、灰白色、灰黄色、にぶ い橙色、透明光沢の砂粒を含む。	- 1-
781	弥生(?) 土 器	要• 口縁部	Ⅳ層中	27.0 (推定)			ナデ	ナデ	浅黄色(10 YR8/4)	浅黄色(10 YR8/4)	0.2mm以下の灰白色、黒色、褐灰色、 透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /5程度残 存
782	<u>弥生(?)</u> 土 器	要•□縁部	Ⅳ層中				ナデ	ナデ	淡黄色 (2. 5Y8/4)	浅黄色(10 YR8/4)	4.0mm以下の灰色、褐色の砂粒を含む。	
783	弥生(?) 土 器	選・ 口縁部	IV層中	21.3 (推定)			ナデ	ミガキ	浅黄色 (2. 5Y7/3)	浅黄色 (2. 5Y7/3)	3.0mm以下の黄橙色、茶褐色、黒色の砂粒、0.5mm以下の透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /4程度残 存
784	弥生(?) 土 器	<b>甕・</b> □縁部	Ⅳ層中	23.0 (推定)			ナデ	ナデ	浅黄色(2. 5Y7/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	0.1mm程度の黒色、褐灰色の砂粒を 含む。	口縁部の1 /6程度残 存

第35表 B 5 地区出土土器観察表(2)

遺物	種別	器種	出土	法	量(cr	n)	手法 • 調整	• 文様ほか	色	調	胎土の特徴	備考
番号	الان سا	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外面	内 面	WH T ≈ 1A, 18	
785	弥生(?) 土 器	養・ □縁部	IV層中	20.7 (推定)			ナデ	ナデ	にぶい黄褐 色(10YR4 /8)	橙色(7.5Y R6/6)	3.0mm以下の橙色、浅黄色、灰白色、 透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /6程度残 存
786	弥生(?) 土 器	蹇• □縁部	IV層中	18.0 (推定)			ナデ	ナデ	灰黄色 (2. 5Y6/2)	灰黄色 (2. 5Y6/2)	0.2mm以下の黒色、黒褐色、赤褐色 の砂粒を含む。	口縁部の1 /6程度残 存
787	弥生(?) 土 器	豊・□縁部	Ⅳ層中	21.0 (推定)			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色(10YR7 /3)	にぶい黄橙 色 (10YR5 /4)	5.0mm程度のにぶい赤褐色の砂粒、3. 0mm以下の灰褐色、黒色、灰白色、 透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /4程度残 存
788	弥生(?) 土 器	<b>費・</b> □縁部	Ⅳ層中	19.2 (推定)			ナデ	ナデ	灰黄色 (2. 5Y6/2)	浅黄色 (2. 5Y7/3)	0.2mm以下の赤褐色、灰褐色、黒色 の砂粒を含む。	口縁部の1 /8程度残 存
789	弥生(?) 土 器	甕・ □縁部	Ⅳ層中	20.4 (推定)			ナデ	ナデ	黄灰色 (2. 5Y4/1)	浅黄色 (2. 5Y7/4)	5.0mm程度の灰白色の砂粒、4.0mm以 下の茶色、灰白色、黒色、黒褐色の 砂粒を含む。	口縁部の1 /5程度残 存
790	弥生(?) 土 器	<b>甕・</b> □縁部	Ⅳ層中	15.0 (推定)			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR7 /3)	浅黄色 (2. 5Y7/3)	2.0mm以下の黒色、灰色の砂粒を含む。	口縁部の1 /3程度残 存
791	土賦?) 器	<b>甕・</b> □縁部	IV層中				ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR7 /4)	にぶい黄橙 色(10YR6 /4)	3.0mm以下の灰色、褐色の砂粒を含む。	
792	弥生(?) 土 器	甕・ 体部	Ⅳ層中				刷毛目•刻目突帯	ナデ	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	1.0mm~1.5mm程度の淡黄色、透明光沢、黒色光沢の砂粒を含む。	
793	弥生(?) 土 器	<b>獲・</b> □縁部	IV層中				ナデ・刻目突帯	ナデ	浅黄色(2. 5Y7/3)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	2.0mm以下の黒色、灰色、乳白色の 砂粒を含む。	
794	弥生(?) 土 器	<b>甕・</b> 体部	IV層中				ナデ・刻目突帯	ナデ	明赤褐色 (2.5YR5/ 6)	橙色 (5YR 6/6)	3.0mm程度の暗褐色の砂粒、1.0mmの 淡黄色、乳白色、黒色光沢の砂粒を 含む。	
795	弥生(?) 土 器	<b>甕・</b> 体部	IV層中		-		刷毛目•刻目突帯	ナデ	にぶい灰黄 色(10YR5 /3)	灰黄褐色 (10YR5/2)	1.0mm~2.0mm程度の黒色、淡黄色、 乳白色、透明光沢の砂粒を含む。	
796	弥生(?) 土 器	甕• 体部	Ⅳ層中				ナデ・刻目突帯	ナデ	にぶい橙色 (2.5YR6/ 4)	にぶい黄橙 色(10YR6 /3)	2.5mm以下の黒色、白色、茶褐色、 灰白色の砂粒、1.0mm以下の透明光 沢の砂粒を含む。	
797	出献?) 器	甕• 体部	IV層中				刷毛目•刻目突帯	刷毛目	明 赤 褐 色 (5YR5/6)	明 赤 褐 色 (5YR5/6)	2.5mm以下の白色、透明光沢の砂粒 を含む。	
798	出献?) 器	甕・ 体部	IV層中		- 2000		刷毛目•刻目突帯	刷毛目	明 赤 褐 色 (5YR5/6)	明 赤 褐 色 (5YR5/6)	1.0mm以下の灰白色、浅黄色、褐色 の砂粒、0.5mm以下の透明光沢の砂 粒を含む。	
799	土師(?) 器	<b>甕・</b> □縁部	IV層中				刷毛目・刻目突帯	刷毛目	にぶい橙色 (2.5YR6/ 4)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	1.0mm以下の灰色、乳白色、透明光 沢の砂粒を含む。	
800	土賦?) 器	型・□縁部	IV層中				ナデ・刻目突帯	ナデ	にぶい黄褐 色(10YR5 /4)	褐色(10Y R4/6)	2.0mm以下の褐色、灰白色、黒色、 透明光沢の砂粒を含む。	
801	土師(?) 器	費・□縁部	IV層中				ナデ・刻目突帯	ナデ	にぶい橙色 (7.5YR7/ 4)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	1.0mm以下の黒色、灰色、褐色、透明光沢の砂粒を含む。	
802	土師(?) 器	<b>甕・</b> 口縁部	Ⅳ層中				ナデ・刻目突帯	ナデ	にぶい赤褐 色 (5YR5 /4)	赤褐色 (5 YR5/2)	1.0mm以下の黒色、灰色、透明光沢 の砂粒を含む。	
803	出賦?) 器	要・□縁部	Ⅳ層中				ナデ・刻目突帯	ナデ	明 赤 褐 色 (5YR5/6)	にぶい黄褐 色 (10YR5 /4)	1.0mm以下の白色、乳白色、透明光 沢の砂粒を含む。	
804	出賦(?) 器	蹇• □縁部	IV層中				刷毛目・刻目突帯	刷毛目	にぶい灰黄 色(10YR5 /3)	/3)	0.1mm程度の乳白色、透明光沢の砂 粒を含む。	
805	±鍼?) 器	豊・□縁部	Ⅳ層中				ナデ・刻目突帯	ナデ	赤褐色 (5 YR4/6)	にぶい赤褐 色 (5YR4 /4)	2.0mm以下の黒色、茶色、淡黄色の砂粒、1.0mm以下の透明光沢の砂粒を含む。	
806	弥生(?) 土 器	<b>甕・</b> 底部	Ⅳ層中		3.25		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR7 /4)	淡黄色 (2. 5Y8/3)	2.0mm以下の灰白色、灰色、褐色、 茶褐色、黒褐色、黒色の砂粒、0.5 mm以下の透明光沢の砂粒を含む。	ا جوز پیلس
807	弥生(?) 土 器	甕• 底部	Ⅳ層中		4.6 (推定)		ナデ	刷毛目	にぶい赤褐 色 (5YR5 /3)	灰褐色 (5 YR5/2)	2.0mm以下の浅黄色、にぶい橙色、 灰白色の砂粒、1.0mm以下の灰白色、 黒色光沢、透明光沢の砂粒を含む。	底部の1/2 程度残存
808	弥生(?) 土 器	甕・ 底部	Ⅳ層中		5.5 (推定)		ナデ	ナデ	にぶい赤褐 色 (5YR5 /4)	にぶい橙色 (7.5YR6/ 4)	3.0mm程度の灰白色の砂粒、1.0mm程度の淡黄色、乳白色、黒色光沢、透明光沢の砂粒を含む。	
809	弥生(?) 土 器	甕• 底部	Ⅳ層中		5.2 (推定)		ナデ	ナデ	灰黄色 (2. 5Y6/2)	浅黄色 (2. 5Y7/4)	2.0㎜以下の灰黄色、灰白色、灰褐色、透明光沢の砂粒を含む。	
810	弥生(?) 土 器	<b>甕・</b> 底部	Ⅳ層中		5.6 (推定)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR6 /3)	にぶい橙色 (7.5YR6/ 4)	1.0mm以下の浅黄色、灰白色、灰褐 色、透明光沢の砂粒を含む。	底部の1/4 程度残存
811	弥生(?) 土 器	<b>獥・</b> 底部	Ⅳ層中		4.7 (推定)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	0.2mm以下の灰褐色、赤褐色、灰白色、透明光沢の砂粒を含む。	
812	弥生(?) 土 器	<b>甕・</b> 底部	Ⅳ層中		7.0 (推定)		ナデ	ナデ	灰黄色 (2. 5Y6/2)	浅黄色(2. 5Y7/3)	2.0mm程度の透明光沢の砂粒、1.0mm 以下の灰色、褐色、黒色光沢の砂粒 を含む。	
813	弥生(?) 土 器	<b>甕</b> • 底部	Ⅳ層中		6.6 (推定)		ナデ	ナデ	灰白色 (2. 5Y7/1)	灰黄色 (2. 5Y7/2)	4.5mm以下の赤褐色、灰色の砂粒、2. 0mm以下の浅黄色、黒色、透明光沢 の砂粒を含む。	
814	<b>弥生</b> (?) 土 器	<b>甕・</b> 底部	IV層中		6.1 (推定)		ナデ	ナデ	浅黄色(2. 5Y7/3)	にぶい黄橙 色(10YR7 /2)	1.0mm以下の浅黄色、灰白色、透明 光沢、黒色光沢の砂粒を含む。	

第36表 B 5 地区出土土器観察表(3)

'ate dida		器種	di I	注	量(cr	n)	手法・調整	<ul><li>・ 文様 ほ か</li></ul>	色	調		
遺物 番号	種別	部位	出土地点	口径	底経	器高	外 面	内面	外面	内面	胎土の特徴	備考
815	弥生(?) 土 器	甕・底部	IV層中		5.1 (推定)		ナデ	ナデ	にぶい褐色 (7.5YR5/ 4)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	0.1mmの白色、灰白色、透明光沢の 砂粒を含む。	底部の1/2 程度残存
816	弥生(?) 土 器	甕・体部	Ⅳ層中				ナデ	刷毛目	にぶい褐色 (7.5YR5/ 4)	にぶい黄橙 色(10YR6 /4)	1.0mm~3.0mmの乳白色、黒色光沢を含む。	
817	弥生(?) 土 器	甕・体部	IV層中				ナデ	ナデ	灰黄色 (2. 5Y7/2)	褐灰色(10 YR4/1)	1.0mm程度の淡黄色、灰色、透明光 沢、黒色光沢の砂粒を含む。	
818	弥生(?) 土 器	蹇•体部	Ⅳ層中				ナデ	ナデ	灰黄褐色 (10YR4/2)	褐色(7.5Y R4/3)	0.1mm程度の灰白色の砂粒を含む。	
819	弥生(?) 土 器	甕・ミニ チュア	IV層中				ミガキ・刻目突帯	ナデ	にぶい橙色 (5YR6/4)	にぶい黄橙 色 (10YR6 /3)	0.5mm以下の透明光沢、黒色光沢の 砂粒を含む。	
820	弥生(?) 土 器	甕・ミニ チュア	IV層中				ナデ・刻目突帯	ナデ	灰黄褐色 (10YR5/2)	浅黄色(2. 5Y8/4)	2.0㎜以下の透明光沢の砂粒を含む。	
821	弥生(?) 土 器	甕・ミニ チュア	IV層中				ナデ・刻目突帯	ナデ	にぶい黄橙 色(10YR6 /4)	にぶい橙色 (7.5YR6/ 4)	2.0㎜程度の灰白色の砂粒を含む。	
822	弥生(?) 土 器	甕・ミニ チュア	IV層中				ミガキ・刻目突帯	ナデ	橙 (2.5YR 6/6)	橙(7.5YR 7/6)	0.5mm以下の透明光沢の砂粒を含む。	
823	弥生(?) 土 器	甕・ミニ チュア	IV層中				ナデ・突帯	ナデ	にぶい褐色 (7.5YR5/ 3)	明赤褐色 (2.5YR5/ 6)	0.1mm程度の透明光沢の砂粒を含む。	
824	弥生(?) 土 器	甕•体部	IV層中				ナデ・タタキ	刷毛目	灰黄色 (2. 5Y6/2)	黄灰色(2. 5Y4/1)	1.0mm~1.5mm程度の浅黄色、透明光 沢、黒色光沢の砂粒を含む。	
825	弥生(?) 土 器	蹇•体部	IV層中				ナデ・タタキ	刷毛目	にぶい黄橙 色 (10YR6 /3)	灰黄褐色 (10YR4/2)	1.0mm以下の白色、赤褐色、黒色、透明光沢の砂粒を含む。	
826	弥生(?) 土 器	高坏•坏 部	IV層中				刷毛目	刷毛目	明 黄 褐 色 (10YR6/6)	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	0.1㎜の白色、透明光沢の砂粒を含む。	
827	弥生(?) 土 器	高坏・脚 部	IV層中				刷毛目	ナデ	橙 (5YR7 /6)	にぶい黄橙 色(10YR7 /6)	1.0mm以下の黄白色、褐色、透明光 沢の砂粒を含む。	
828	弥生(?) 土 器	高坏•坏 部	Ⅳ層中				ミガキ	ナデ	明黄褐色 (10YR6/6)	灰黄褐色 (10YR4/2)	2.0mm以下の黒褐色、灰褐色、灰白 色、透明光沢の砂粒を含む。	
829	弥生(?) 土 器	高坏・脚 部	Ⅳ層中				ナデ	ナデ	灰白色 (2. 5Y8/2)	黄灰色(2. 5Y6/1)	5.0mm程度の浅橙色の砂粒、2.0mm以下の灰白色、透明光沢の砂粒を含む。	
830	弥生(?) 土 器	高坏・脚 部	IV層中				ナデ	ナデ	橙(7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 6/6)	2.0mm以下の灰白色の砂粒、0.5mm以下の黒色光沢、透明光沢の砂粒を含しむ。	
831	弥生(?) 土 器	高坏・脚 部	IV層中		10.75		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR7 /2)	にぶい黄橙 色 (10YR7 /3)	1.0mm以下の透明光沢の砂粒、2.5mm 以下の赤褐色、浅黄色の砂粒を含む。	
832	弥生(?) 土 器	鉢・口縁 部	IV層中	19.9 (推定)			ミガキ	ミガキ	にぶい橙色 (7.5YR4/ 6)	にぶい橙色 (7.5YR4/ 6)	1.5mm以下の灰白色の砂粒を含む。	口縁部の1 /4程度残 存
833	弥生(?) 土 器	鉢・口縁 部	IV層中	12.45 (推定)			刷毛目	刷毛目	橙(7.5YR 6/6)	にぶい黄橙 色(10YR7 /4)	1.0mm以下の黒色、灰色、赤色、透明光沢の砂粒を含む。	
834	弥生(?) 土 器	鉢	Ⅳ層中	10.7 (推定)	5.4 (推定)	13.35 (推定)	ミガキ	ナデ	にぶい橙色 (7.5YR6/ 4)	橙色(7.5Y R7/6)	1.0mm~1.5mm程度の淡黄色、透明光 沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /2程度残 存
835	弥生(?) 土 器	鉢	Ⅳ層中	8.6	3.6 ~3.9	8.45	ナデ	ナデ	黄橙色(10 YR8/6)	浅黄色(2. 5Y7/3)	1.0mm~2.0mm程度の淡黄色、茶色、 黒色光沢の砂粒を含む。	ほぼ完形
836	土師器	養・口縁 部~体部	IV層上面	27.0 (推定)			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 色 (5YR6 /6)	灰黄褐色 (10YR6/2)	2.0mm以下の灰褐色、白灰色、黒褐色、茶褐色の砂粒、1mm程度の透明 光沢、黒色光沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /4程度残 存
837	土師器	鉢・口縁 部~体部	IV層上面	23.0 (推定)			ナデ	ミガキ	にぶい橙色 (7.5YR6/ 4)	にぶい橙色 (7.5YR6/ 4)	2.0mm以下の褐色、茶褐色、黒褐色、 乳白色、透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /4程度残 存
838	黒色土 器	坏•口縁 部	IV層上面	13.7 (推定)			ナデ	ミガキ	明 黄 褐 色 (10YR7/6)	黒色 (N1.5 /)	1.5mm以下の黒色光沢の砂粒を含む。	口縁部の1 /6程度残 存
839	黒色土 器	坏•底部	IV層上面		6.8		ナデ	ミガキ	浅黄橙色 (7.5YR8/ 6)	黒色 (N1.5 /)	2.0mm以下の茶褐色の砂粒を含む。	底部の1/2 程度残存
840	黒色土 器	坏•口縁 部	IV層上面				ナデ	ミガキ	浅黄橙色 (10YR8/4)	黒色(N1.5 /)	徽細な透明光沢の砂粒を含む。	
841	土師器	坏•口縁 部	IV層上面	14.1 (推定)			ナデ・ヘラケズリ	ナデ	橙色 (7.5Y R7/6)	橙色(7.5Y R7/6)	2.0mm以下の茶褐色、黒色の粒子を含む。	口縁部の1 /6程度残 存
842	土師器	坏・底部	IV層上面		7.3		ナデ・ヘラケズリ	ナデ	にぶい黄橙 色 (10YR6 /3)	橙色(7.5Y R7/6)	2.5mm以下の茶褐色、黒色、灰褐色 の砂粒、0.5mm以下の透明光沢の砂 粒を含む。	
843	土師器	坏•体部 ~底部	IV層上面		9.1		ナデ	ナデ	浅黄橙色 (7.5YR8/ 4)	浅黄橙色 (7.5YR8/ 4)	3.0mm以下の赤褐色、灰白色の砂粒 を含む。	底部に刻書 を記す

# 第37表 B 5 地区出土石器計測表

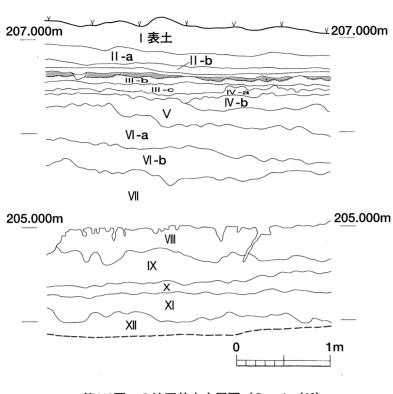
レイアウト 番 号	出土地点	品種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	石 材	備考
758	IV 層中	石鏃	2.6	1.7	0.3	1.2	砂岩	
844	IV層上面	砥 石	6.8	2.8	1.9	158	砂岩	

# 第38表 B 5 地区土壙計測表

土 壙 番 号	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	備考
SC1	楕 円 形	2.20	1.09	0.25		中央に深さ0.12mの 落ち込み有
2	不定円形	2.10	1.84	0.28	炭化材:クスノキ出土	
3	不 定 形	1.82	1.31	0.52		
4	隅丸長方形	2.50	1.02	0.21		
5	楕 円 形	2.37		0.21		両端に深さ0.31mの ピット
6	不定楕円形	2.14	1.25	0.38		南端に深さ0.31mの
7	不定楕円形	3.62	1.62	0.35	流れ込みの 土器片が若干有り	中央に深さ0.27mの 落ち込み有り
8	長楕円形	2.50	1.34	0.6		
9	不定楕円形	2.47	1.68	0.33		東端に深さ0.27mの 落ち込み有り
10	長楕円形	3.14	1.35	0.39		
11	不 定 形	2.70	1.70	0.33		
12	不 定 形	2.23	1.50	0.26		東端に深さ0.83mの ピット
13	不定楕円形	1.80	0.85	0.38		中央に深さ0.22mの ピット
13'	不 定 形	1.79	1.00	0.25		中央に深さ0.26mのピッ トSC13•13′は切り合う
14	円 形	1.50	1.30	0.61		中央に深さ0.85mの
15	楕 円 形	1.51	1.20	0.46		
16	楕 円 形	0.90	0.68	0.19		
17	楕 円 形	1.60	0.95	0.238		
18	楕 円 形	1.30	0.80	0.62		北端に深さ0.14mの ピット
19	楕 円 形	1.15	0.85	0.414		
20	不 定 形	2.25	1.55	0.41		

# 第3節 C地区の調査

## 1. 基本層序



第110図 C地区基本土層図(S=1/40)

第Ⅰ層~第Ⅲ層までの層位、堆積 状況に関してはB地区と同じである。 C地区では、更に下層の確認を行な ったので記述する。第IX層は、第VII 層よりも暗い暗褐色粘質土である。 牛の脛の粒子、白色粒(3~5 mm程)、 黄褐色のボラ粒(1~2㎝角)を若 干含む硬質土である。第X層は暗褐 色シルト層である。第IX層より白色 粒(1~3 m程)、黄褐色ボラ粒 (1cm角)を若干多く含む。第XI層 は暗褐色粘質土で、白色粒(1~3 mm程) と黄褐色ボラ粒 (0.5~1.5cm 程)を多く含む。第XII層は暗灰色粘 質土で、白色粒(2 m程)を若干含 む。やや軟質土である。

# 2. 調査の概要

C地区は、B地区の北側、標高約202~206mの丘陵地に位置する。調査面積は約11,620㎡である。調査対象地は丘陵地全体で、3区画の平坦面と西と南向きの斜面地からなる。C地区を大きく3地区(C1・2・3)に分け、まず数箇所にトレンチを設置して確認調査を行なった。トレンチ確認の結果、C2地区は畑地としてかなり掘削され、遺物包含層の第Ⅳ層が残っておらず、C3地区は、遺構・遺物は確認されなかった。C1地区はB地区と同様、畝状遺構と遺物が確認されたため、第Ⅰ層と第Ⅱ層(高原スコリア)を重機で除去し、全面調査を行なった。

C1地区は中央に平坦面をもち、北側に緩斜面、南側に急斜面をもつ地形を有する。第III-c層面で 畝状遺構が確認できたが、木根などの撹乱で全容を捉えることが困難であったため、人力で薄く土を除 去しながら精査を行ない、第IV-a層面で畝状遺構を検出した。また、第IV層の遺物包含層中からは、縄文後期、古墳時代、古代の遺物が少量出土した。第V層上で精査を行ない、掘立柱建物跡 3 棟、土壙 4 基、柱穴群が確認された。

# (1)縄文時代の遺構と遺物

遺構は確認されなかったが、南向き斜面の第IV層中から土器片が僅かに出土している。遺物は第112 図に示している。845は平口縁で口縁部が外反する深鉢である。外器面文様は沈線文と沈線文間に貝殻 腹縁刺突がみられる。内器面はナデであある。846は波状口縁を呈する鉢である。肥厚する口縁上面に



・朱~第∨層検出遺構分布

2条の沈線と沈線間に貝殻復縁刺突、沈線外側に刺突が施文されている。器面調整は内外器面とも貝殻 条痕である。847は深鉢の胴部である。内外器面ともナデ調整で、外器面に幅広の凹線が施されている。 848・849はチャート製の石鏃である。

## (2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物

遺構は確認されなかったが、遺物が第IV層から出土している。出土遺物は第112図に示している。850~852は土師器である。850は刻み目を持つ突帯が頸部に貼り付けられた甕である。胴部上位に最大径を持ち、頸部がくびれて口縁部に向かって緩やかに外反する。器面調整は内外器面ともハケ目である。851・852は壺の底部である。851は小さい平底、852は尖底を呈する。

## (3) 古代の遺構と遺物

#### 畝状遺構(第111図)

B地区の畝状遺構と同じように、平面で、第IV層の褐色土の地山に平行して走る黒褐色土の溝として確認している。畝状遺構は遺存状況が良好でないため区画を捉えることは難しい。長さ20m前後、幅約0.7~0.8mの溝が走っている。溝の走行方向から5区画程に分かれると考える。

- ①調査区の北東側に、北北西-南南東方向に平行して走る約22条。
- ②調査区の中央部に、北北東-南南西方向に平行して走る約13条。①の区画に切られる。
- ③調査区の西側中央平坦地、南北約20mに東西方向に平行して走る約14条。
- ④調査区の北西側隅に、北西-南東方向に平行して走る4条。
- ⑤調査区南側の斜面地に南北方向に平行して走る8条。

溝はすべて等高線に直交する。畝状遺構に伴う遺物は出土していないが、B地区の畝状遺構と同じ層 位検出、遺構形態からみて古代の畠跡と推測する。栽培作物は断定できなかった。

#### 包含層の遺物

出土遺物は第 図に示している。853・854は平安時代の土師器坏である。853は底部ヘラ切りで、底部から口縁にかけてやや内湾しながら延びている。口唇部は丸く仕上げている。

#### (4) その他の遺構と遺物

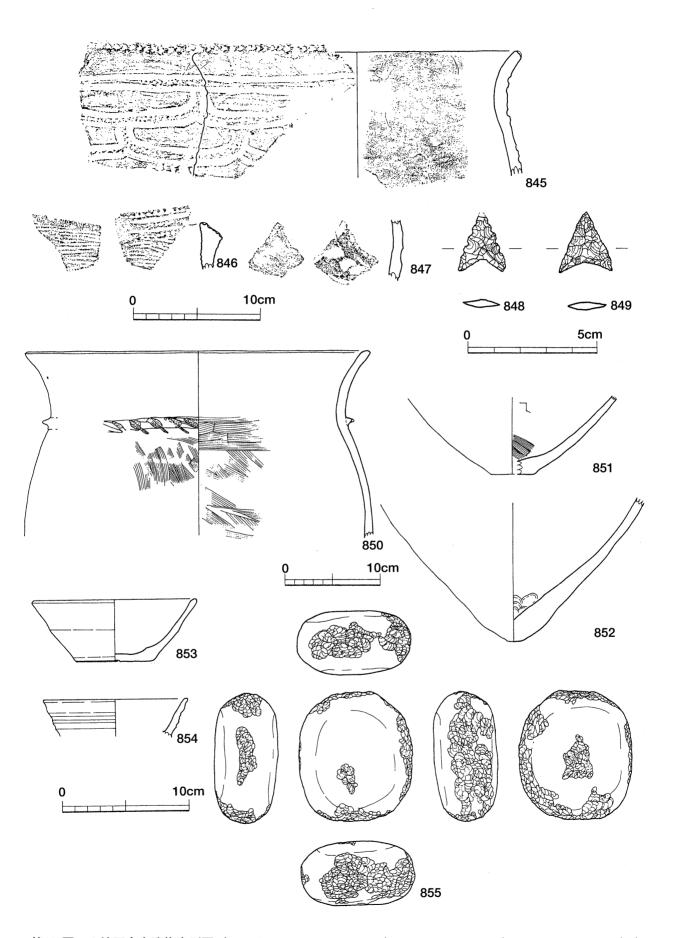
#### 掘立柱建物跡(SB1~3、第113図)

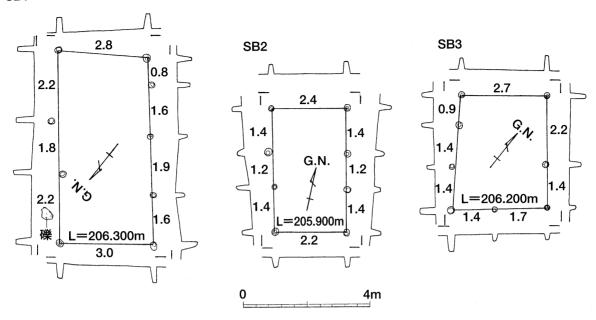
検出された建物は3棟で、すべて1間×3間の建物である。柱穴群および掘立柱建物跡は、第V層上で検出した。出土遺物が無いため時期決定は出来ないが、柱穴の埋土状況からみると第IV層土混じりの暗オリーブ色軟質土で畝状遺構がつくられる以前のものと考えられる。柱穴間の距離は図に示してある。・1号掘立柱建物跡(SB1)

主軸を $N-40^\circ-W$ にとる 1 間 $\times$  3 間の建物である。梁 $2.8\sim3$  m、桁行 $5.9\sim6.2$ mを測る。柱穴径20 cm前後で、深さ $30\sim60$  cmである。

# 。 2 号掘立柱建物跡

主軸を $N-14^\circ$  -Wにとる1 間 $\times$  3 間の建物である。梁 $2.2\sim2.4$ m、桁行4 mを測る。柱穴径は20 cm 前後で、深さ30 cm 前後と一様である。





第113図 C地区1・2・3号掘立柱建物跡(SB1・2・3)実測図(S=1/120)

## 3号掘立柱建物跡

主軸を $N-35^\circ-W$ にとる 2 間 $\times$  3 間の建物である。梁 $2.7\sim3.1$ m、桁行 $3.6\sim3.7$ mを測る。柱穴径は15cm前後で、深さ $20\sim50$  cmである。

#### 土壙(SC1~4、第114図)

第V層上で4基検出された。出土遺物が無いため時期決定はできないが、土壙の埋土状況からみると全て黒色軟質土で、畝状遺構と同時期の存在が考えられる。

#### 。 1 号土壙 (SC1)

調査区の北側中央に位置する。長軸約2.5m、短軸約2.1m、検出面からの深さ約0.25mの楕円形プランを呈する。遺物は出土していない。

## 。 2 号土壙 (SC2)

調査区の南側斜面に位置する。長軸約3.5m、短軸約2.1m、検出面からの深さ約0.35mの不定楕円形プランを呈する。長軸の東側に柱穴状の落ち込みがあり、炭化材や炭化物粒が埋土中に確認できる。

# 。3号土壙(SC3)

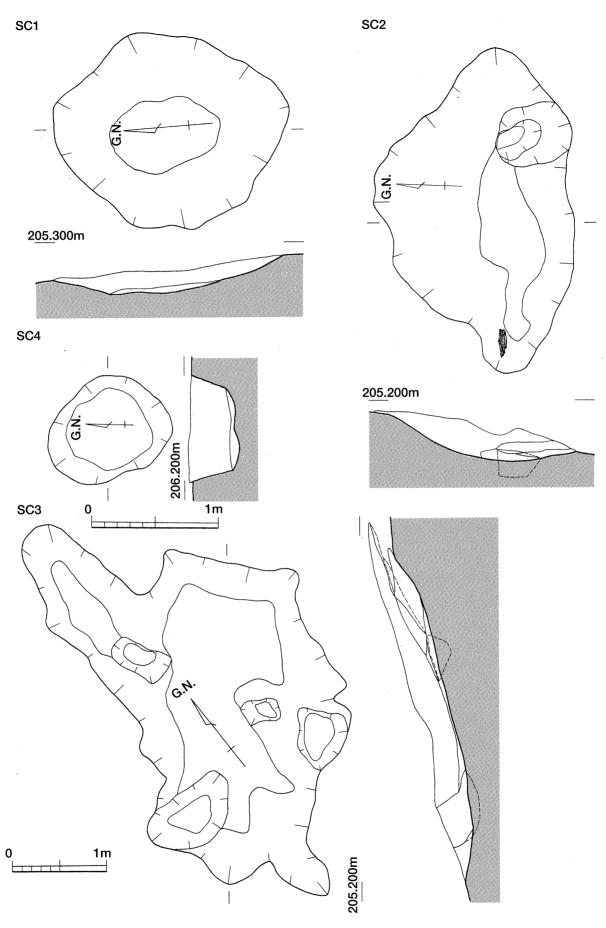
2号土壙の南西側に位置する。長軸約 $5\,\mathrm{m}$ 、短軸約 $2.3\mathrm{m}$ 、検出面からの深さ約 $0.3\mathrm{m}$ の不定型プランを呈する。

#### 4号土壙(SC4)

調査区の中央平坦面やや南寄りに位置する。長軸約1 m、短軸約0.75m、検出面からの深さ約0.4mの不定円形プランを呈する。

#### 包含層の遺物

第112 図に示している。855は凝灰岩製の敲石である。南側斜面地の第Ⅳ層内から出土している。



第114図 C地区1・2・3・4号土壙(SC1・2・3・4) 実測図(SC1・2・3、S=1/3, SC4、S=1/30)

# (7) 小結

C 1 地区は遺構・遺物の出土は希少ながらも、縄文から古代までの幅広い遺物が出土している。C 2 地区は削平されていたが、耕作土に多くの遺物が含まれていることから、遺構の中心はC 1 地区から東側にあったと推測する。掘立柱建物跡は炉を伴うものはなく、規模からみても簡易小屋的なものであったと思われる。

畝状遺構は、更に東側に向かって広がる可能性がある。東から西に延びる丘陵の平坦地と南向きの急 斜面地に畝状遺構が確認され、西に向かって傾斜するC3地区に確認されなかったことは、日当たりを 慮して作っていることが考えられる。

# 第39表 C地区出土遺物観察表(1)

遺物	種別	器種	出土	法	量 (cn	1)	手法 · 調整	• 文様ほか	色	調	胎土の特徴	備考
番号	性が	部位	地点	口径	底経	器高	外 面	内 面	外 面	内 面	加工与村政	VH ~5
845	縄文	深鉢口線	C地区 IV層	(25)			口唇部連続刺突文 ナデ、凹絲文、黒 変、スス付着	ナデ、黒変	褐、黒褐	にぶい褐	2.5mm以下の褐色の粒 2.0mm以下の乳白色の粒 1.0mm以下の黒色・透明光沢粒	
846	縄文	深鉢口縁	C地区 IV層				口唇部竹管文、貝 殼文、貝殼条痕	貝殼条痕	橙、にぶい 褐	明褐	1.5mm以下の淡黄・灰の粒、透明光 沢粒	波状口縁
847	縄文	深鉢胴部	C地区 IV層				太形凹線、ナデ スス付着	指頭痕	褐	にぶい黄褐	0.5~1.0㎜の黒・白・透明光沢粒	
850	土師器	選 □縁~胴部	C地区 IV層	(35.6)			貼付刻み目突帯、 ナデ、斜ハケ目	ナデ、横・斜ハケ 目	にぶい黄橙	浅黄 暗灰黄	1.0㎜以下の黒・浅黄橙・灰色の粒	
851	土師器	壺 底 部	C地区 IV層		(4.8)		工具ナデ	斜・横ハケ目	にぶい黄橙	灰黄	0.5~1.0mmの褐、白、乳白色の粒、 3.0mmの透明光沢粒	
852	土師器	壺 底 部	C地区 IV層				工具ナデ、黒斑	工具ナデ、指頭痕	浅黄橙	淡黄	5.0㎜以下の黒、茶、褐、灰色の粒	
853	土師器	坏 □縁~底部	C地区 IV層	(13)	(6)	4.9	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.5~1.0㎜黒、茶色の粒	
854	土師器	坏 口縁~体部	C地区 IV層	(11.3)			回転ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.5㎜以下の黒色の粒、透明光沢粒	

# 第40表 C地区出土石器計測表

レイアウト 番 号	出土地点	器	種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	石	材	備	考
848	C地区IV層	石 鏃		2.15	1.85	0,3	0.8	チャート	· ·		
849	C地区IV層	石 鏃		2.45	2.1	0.3	0.9	チャート			
855	C地区IV層	敲 石		10.3	8.8	4.9	589.1	凝灰岩			

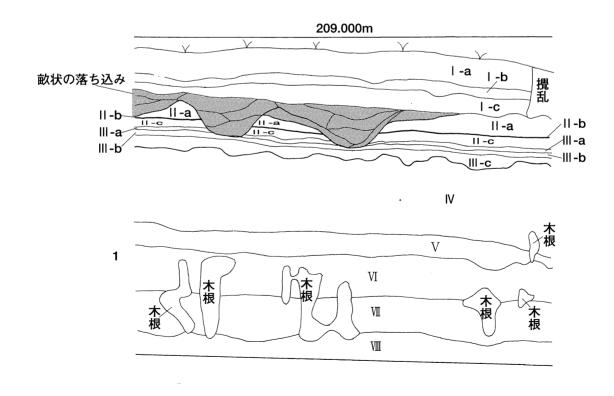
# 第4節 D地区の調査

# 1. 基本層序(第115図)

D地区はA地区同様、以前畑地として開墾されていたが後に杉の植林が行われ調査直前まで林地を形成していたため、表面には腐棄土が10から15cm程堆積していた。腐棄土を除去すると以前の畑地の耕作土(I-a層)が現れる。耕作土の下約25cmから30cmには1717年に降下した新燃岳スコリアの層(I-b層)が確認できた。I-b層の下には高原スコリアを多少含む漸移層の黒褐色土(I-c層)が存在する。以下はA地区と同様の層序が確認でき、高原スコリアの層(II層)が25cmから30cmの厚さで、その下には灰白色火山灰層(II-b層)を含んだ30cmから40cmの黒褐色土層(II-a,c層)、黄褐色土層(IV層)、鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰(VI層)、牛ノ脛上層(VI層)、下層(VII層)が堆積する。遺物の出土もA地区と同様であり、III層最下部からIV層にかけて出土し、III層最下部では古代の土器が、IV層中では縄文後期から古墳時代初頭までの土器が混在していた。また、下層確認のために掘削したトレンチのうち一つでは、牛ノ脛下層の下、パミスを含む褐色ローム層(VIII層)中に塞ノ神式と思われる土器片が確認できた。

## 2. 調査の概要

D地区においてはⅢ-c層上面まで重機により掘削を行い、IV層上面まで人力による掘削を行った。その結果、IV層上面で調査区のほぼ全面に畝状の遺構が検出できたほか、溝状遺構や屋外竈と思われる遺構が確認できた。また、IV層中で土壙、ピット群などが確認できている。なお、新燃岳スコリアの下に畝状の落ち込みがあるのが土層で確認できた。



第115図 D地区基本土層図(S=1/40)



## (1)縄文時代の遺物(第B・C図)

856は玦状耳飾りである。第 $\mathbb{N}$ 層中から出土した玦状耳飾りである。穿孔に一度失敗しているらしく、 貫通していない孔が貫通しているものに切られる形で確認できる。個体の半分ほどを欠損しており、現 存で全長 1.3cm、最大幅 1.8cm、重量6.1gである。石材は淡緑色の鉱物で、暗褐色の不純物を若干含む。 硬度は 2.0前後で色調は淡い緑色を成す。硬度から考えると石膏の可能性が高いが、緑色の石膏が自然 界に大きな固まりで存在することが少ない。色合いとのかねあいから滑石と考えられる。<sup>®</sup>

857は黒曜石製のスクレーパーである。幅 3.7cm、厚さ 0.9cmで刃部には細かい使用痕が確認できる。 858は黒曜石の剥片である。長さ2.45cm、幅 1.3cmで重さは1.2gである。

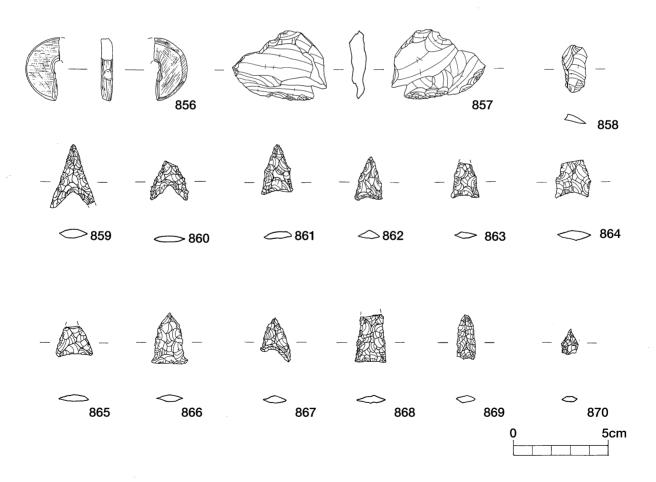
859から870は石鏃である。859から867まではチャート製で868から870までは黒曜石製である。重さは0.3gから1.9gで、抉りのあるものとないものに分かれる。

871は牛ノ脛火山灰層の下から出土した塞ノ神式土器の口縁部である。器表には貝殻押し引き文が確認でき、口唇部には刺突文がめぐる。

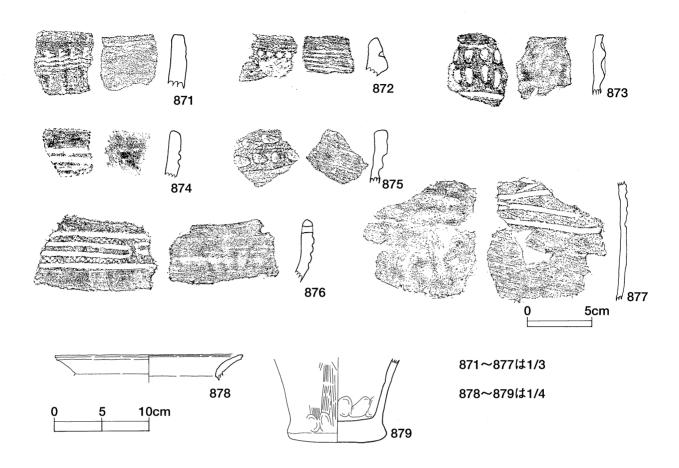
872から879は縄文中期以降の土器群である。阿高式や、擦消縄文系のもの等が確認できる。小片のため器形等ははっきりしないものが多い。878は磨研土器の鉢、879は深鉢の底部である。

# (2) 弥生時代および古墳時代の遺構

当概期の遺構は土壙が5基検出できている他、ピット群が確認できている。



第117図 D地区IV層出土縄文時代石器実測図(S=1/2)



第118図 D地区出土縄文土器実測図(S=1/3)

#### 土壙

# 。 1 号土壙 (第118図)

調査区の西側で検出できた土壙である。埋土中に多量の炭化物と、焼土が確認できた。長軸約610㎝、短軸約540㎝で深さは検出面より110㎝である。平面形態は大小二つの土壙を溝でつなげたような形をしている。遺物は確認できていないが埋土から弥生時代から古墳時代のものであると予想される。

# 。 2 号土壙 (第119図)

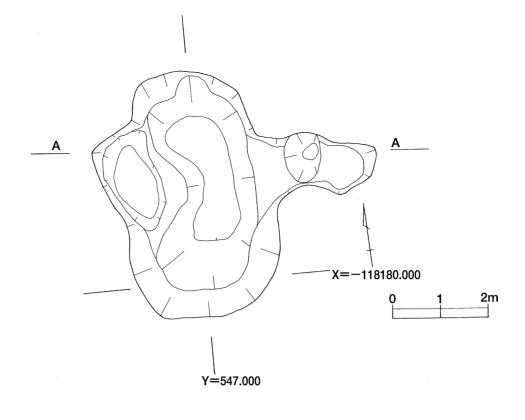
調査区のほぼ中央で確認できた土壙である。長軸約460cm、短軸約360cmで、深さは検出面から約30cmである。土壙中からは甕(第123図の880)が出土している。

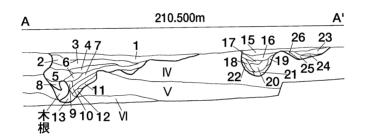
# 。 3 号土壙 (第F図)

2号土壙の北方約3mで検出できた土壙である。長軸約240cm、短軸約128cm、深さは検出面より約28cmで平面形は不正型である。遺物は弥生土器片が数点出土しているが、流れ込みの可能性が高く時期決定の決め手とはならない。埋土から弥生時代から古墳時代の間のものであると思われる。

# 。 4号土壙 (第G図)

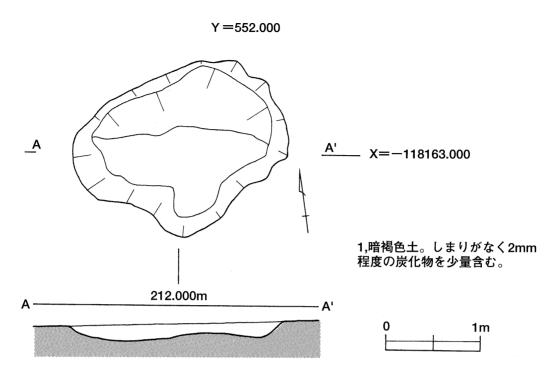
調査区の東側で確認できた不正型の土壙である。南北約440cm、東西約272cmで深さは検出面より56cm



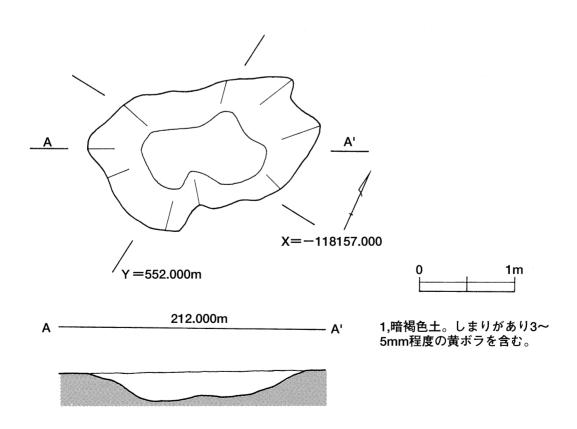


- 1 暗灰色土硬質。よくしまっていてさらさらしている。砂粒を含む。
- 2 黄褐色土軟質。炭化物を少量含む。やや粘性あり。
- 3 暗褐色土軟質。2よりややしまりがあるが、粘性は2より強い。小 ボラを少量含む。
- 4 暗褐色土軟質。2よりやや大きめの炭化物を少量含む。粘性はほぼ3と同じ。しまっている。砂粒が少量。
- 5 暗褐色土軟質。2、4より炭化物の含有量が高い。粘性は強いが3、 4ほどしまっていない。
- 6 黄褐色土軟質。5ほど粘性はないが、5よりもしまっている。ごく 少量の炭化物を含む。
- 7 暗褐色土軟質。粘性は6とほぼ同じ。しまっている。炭化物、焼 土を少量含む。砂粒が目立つ。
- 8 暗褐色土軟質。土が非常に柔らかく粘性が強い。炭化物を多量含む。焼土も少々混じっている。
- 9 黄暗褐色土硬質。よくしまっていて粘性はあまりない。小ボラを 少量含み、焼土が少し入っている。炭化物を少量含む。
- 10 暗褐色土軟質。よくしまっていて粘性あり、小さい炭化物と多量 の焼土が全体に広がっている。砂粒が目立つ。
- 11 暗褐色土軟質。よくしまっていて粘性あり。10よりもやや硬め、 炭化物を含む。焼土が少々混ざる。
- 12 黒褐色土軟質。しまりがなく粘性でもない。目の細かい炭化物と 焼土を含む。
- 13 黒褐色土軟質。12よりしまりがあって、粘性も多少ある。10、12 に比べ炭化物は目立たない。腐しょくした黒土の粒が混ざる。
- 14 暗灰色土硬質。よくしまっていて粘性あり。炭化物をごく少量含む。

- 15 暗灰色土硬質。しまりがあって粘性はない。黄褐色の土の小ブロックを少量含む。
- 16 褐色土軟質。さらさらしていてよくしまっている。炭化物を含み、砂粒が混ざっている。粘性はない。
- 17 暗褐色土軟質。粘性は多少あるが、あまりしまっていない。炭化物を少量含む。焼土が全体に広がる。
- 18 暗褐色土軟質。ややしまりがあって、17よりも粘性がある。少量の炭化物と焼土の小さい塊を含む。
- 19 黄褐色土軟質。やや粘性があり16よりも柔らかい。炭化物の混入はみられない。
- 20 暗褐色土軟質。土はあまりしまっていないが粘性がある。小粒の 炭化物を含み、焼土が全体に混ざっている。
- 21 黄暗褐色土軟質。しまりがわるくて粘性も強くない。ごく少量の 炭化物を含む。
- 22 黄暗褐色土軟質。21よりも粘性はあるがあまりしまっていない。 砂粒を含み炭化物はほとんどみられない。
- 23 黄褐色土硬質。よくしまっている。やや粘性あり。炭化物をごく 少量含む。
- 24 暗黄褐色土硬質。よくしまっていて23より粘性はない。炭化物の 混入はみられない。小ボラをごく少量含む。
- 25 褐色土硬質。よくしまっている。粘性は顕著でない。ごく少量の 炭化物を含み、砂粒を含む。
- 26 褐色土硬質。よくしまっている。25より多少粘性がある。小ボラ を少量含む。砂粒もわずかに見られる。



第120図 D地区 3 号土壙実測図(S=1/40)



第121図 D地区 3 号土壙実測図 (S=1/40)